○債權者ト主タル債務者トノ間ニ仲裁判斷契約ノ存在スルトキ債權者ヨリ保證人ニ對シ其支拂ヲ訴求シタル場合ト裁判所ノ判斷　債權者ト主タル債務者トノ間ニ仲裁判斷契約ノ存在スルトキト雖債權者ヨリ該債務ノ保證人ニ對シ其支拂ヲ訴求シタル場合ニ於テ事實裁判所ハ當事者ノ主張事實竝證據方法ニ依據シ自由ニ主タル債務ノ存在竝其數額ヲ確定シ以テ保證人ニ對スル請求ノ當否ヲ判斷スルコトヲ得ヘク仲裁判斷アリタル後ニ非サレハ主タル債務ノ存在竝其數額ヲ確定シ得サルモノニ非ス　（大正一一・八・二一）　九三〇

○一定ノ申立中ノ物件表記ニ關シ顯著ナル誤謬ノ存スル場合之ヲ訂正シテ言渡スコトノ要否　當事者ノ一定ノ申立中ト雖モ物件表記ニ關シ顯著ナル誤謬ノ存スル場合ニ於テハ裁判所ハ之ヲ訂正シテ言渡スヘキモノトス　（大正一一・八・二九）　九三七

○當事者ノ一方カ證據トシテ提出シ相手方ハ其成立ヲ認メ要件欠缺ノ抗辯ヲ提出セサリシ拒絕證書ヲ採ツテ證據ト爲スノ適否　拒絕證書カ商法第五百十五條所定ノ要件ヲ具備スルヤ否ヤハ裁判所ノ職權上調査スヘキ事項ニ非サレハ當事者ニ於テ其要件ニ缺クル所アル旨ヲ主張セサル以上ハ裁判所ハ必スシモ自ラ進ンテ之カ調査ヲ爲シ其無效ヲ判定セサルヘカラサルモノニアラス從テ當事者ノ一方カ拒絕證書ヲ證據トシテ提出シタル場合ニ於テ相手方ハ其成立ヲ認メ毫モ其要件欠缺ノ抗辯ヲ提出セサリシトキハ裁判所ハ輒ク之ヲ採ツテ以テ證據ト爲スモ必スシモ不法ナリト謂フヲ得ス　（大正一一・九・一九）　九三七

○變更シタル判決言渡期日ノ呼出ニ關スル手續ノ違背ト判決ノ效力　判決言渡期日ヲ決定ヲ以テ變更シタルニ拘ハラス之ヲ當事者ニ送達シ以テ期日ヲ通知スルノ手續ヲ爲サス變方不出頭ノ儘判決ノ言渡ヲ爲シタルハ不當ナリト雖モ此期日呼出ニ關スル手續ノ違背ハ判決ノ不法ヲ來タスモノニアラス　（大正一一・一〇・二〇）　九三五

○第一審ニ於テ一方ノ提出シタル抗辯カ第二審ニ至リ相手方ノ主張事實ノ變更ニ依リ維持ノ必要ナク撤回シタルモノト認メ得ヘキ場合ト裁判所ノ訴訟手續　抗辯カ第二審ニ至リ相手方ノ主張事實ノ變更ニ依リ之ヲ維持スルノ必要ナク當然撤回シタルモノト認メ得ヘキ場合ハ特ニ撤回スル旨ノ表示ナキモ裁判所ハ撤回シタルモノト看做シ何等判斷ヲ與ヘサルモ違法ニ非ス　（大正一三・二・一三）　一〇三

○雙務契約ノ當事者カ互ニ相手方ノ債務履行ヲ俟ツテ自己ノ債務ヲ履行スヘキ特約アリト主張シ其ノ何レノ主張特約ヲモ認メ得サルトキノ判定方　雙務契約ノ當事者カ互ニ相手方ノ債務履行ヲ俟ツテ自己ノ債務ヲ履行スヘキ特約アリト主張シタル場合ニ裁判所カ其ノ何レノ主張特約ヲモ認メ得サルトキハ雙務契約上債務履行ノ原則ニ依リ各當事者ノ債務ハ之ヲ引換ニ履行スヘキモノト判定スヘキモノトス　（大正一二・五・四）　一〇一三

○被告ヨリ抗辯ヲ提出セサルモ原告ノ主張事實ニシテ商法第百四十九條但書ノ規定ニ違背スル無效ノ株式讓渡ニ係ルコト明カナル場合ト裁判所ノ判定　株式ノ讓渡又ハ其讓渡ノ豫約ハ會社カ本店ノ所在地ニ於テ設立登記ヲ爲シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スヲ得サルコトハ商法第百四十九條但書ノ規定ニ徵シ明ニシテ該禁止規定ハ强行法規ニ屬スルヲ以テ被告ヨリ之カ抗辯ヲ提出セサルモ以上ハ裁判所ハ之ニ依リテ其ノ無效タルヲ判定スルコトヲ得ヘキモノトス　（大正一二・五・二五）　一〇一四二

○契約成立ノ時期ヲ當事者ノ主張ト異ナリタル日時ニ認メタル判決ノ適否　契約成立ノ日時カ重要ナラスシテ裁判所カ契約成立ノ時期ヲ當事者ノ主張ト異ナリタル日時ニ認ムルモ之カ爲其契約ノ同一性ヲ失ハサル限リ裁判所ノ認定セル契約ハ正ニ當事者ノ主張セル契約自體ヲ認定セルモノニ外ナラサルヲ以テ其ノ成立ノ日時カ當事者ノ主張セル日時ト異ナル一事ニ依リ當事者ノ主張セサル事實ヲ認定セルモノト爲スヲ得ス　（大正一二・六・一）　一〇一六四

○當事者ノ申立ニ依リ證人訊問ノ決定ヲ爲シタルニ拘ラス判決ニ之ヲ摘示セス且其ノ證據ニ對スル判斷ヲ示ササル判決ノ適否　裁判所當事者ノ申立ニ依リ證人訊問ノ決定ヲ爲シ其ノ證據調ヲ爲

シタルニ拘ラス判決ニ之ヲ摘示セス且其ノ證據ニ對スル判斷ヲ示ササル場合ニ於テハ裁判所ハ當事者ノ提出シタル證據ヲ遺脫シ之ニ對スル判斷ヲ爲サスシテ事實ヲ確定シタル違法アルモノト爲スヘキモノトス　（大正一二・一二・二一）

○永小作權設定登記手續ヲ命スル判決ノ理由及主文ト小作料ノ額　登記義務者ニ對スル登記手續ヲ命スル判決ハ登記手續ヲ爲スヘキ意思表示ニ代ハルヘキ判決ナルカ故ニ永小作權設定ノ登記手續ヲ命スル判決ハ理由ニ於テ小作料ノ額ヲ確定シ是ヲ主文ニ明示スルコトヲ要ス　（大正一三・四・一一）

○事實認定ノ說示ノ程度　事實ノ認定ヲ爲スニハ如何ナル證據又ハ辯論ノ如何ナル部分ニ依リ之ヲ認メタルヤヲ說示スヘク而シテ其ノ認定ノ資料ト爲シタル證據若ハ辯論ノ內容ハ必スシモ具體的ニ之ヲ明示スルノ要ナシト雖少クトモ認定シタル事實ト相俟チテ其ノ資料トナシタル證據若ハ辯論ノ趣旨ノ內容ヲ推知シ得ヘキ程度ニ之ヲ說明シ其ノ推理判斷ノ由來ヲ明ニスヘキモノナリ　（大正一三・五・一三）

○當事者ノ各立證及當事者ノ辯論ノ全趣旨ヲ綜合考覈シテ係爭事實ヲ認定スルニ足ルト說明シタルノミノ判決ノ適否　當事者ノ各立證及當事者ノ辯論ノ全趣旨ヲ綜合考覈シテ係爭事實ヲ認定スルニ足ルト說明シタルノミニテハ推理判斷ノ由來ヲ明ニセサルモノニシテ理由不備タルヲ免レス　（大正一三・五・一三）

○土地所有權ニ關スル確定判決ト査定又ハ裁決　土地所有權ノ確定ニ付土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ト司法裁判所ノ確定判決トカ互ニ牴觸シ相容レサル結果ヲ生シタル場合ニ於テ査定名義人又ハ裁決名義人及確定判決ノ勝訴者ハ各其ノ權利ヲ主張スルコトヲ得ヘシト雖其ノ兩者ノ間ニ在リテハ兩々對立シタル當時ノ狀態ヲ維持シ互ニ他方ノ權利ヲ侵害スルコトヲ得サルモノナルヲ以テ査定名義人又ハ裁決名義人カ其ノ權利ヲ第三者ニ讓渡シ其ノ者ヲシテ當該土地ニ付完全ナル所有權ヲ取得セシメ確定判決ノ勝訴者ヲシテ全然其ノ權利ヲ喪失セシメタルトキハ査定名義人又ハ裁決名義人ハ確定判決ノ勝訴者ニ對シテ不法行爲ノ責ニ任スヘキモノトス

卷	頁
一〇	三七六
一一	六〇
一一	一〇〇
一一	一〇〇

前項ノ不法行爲ニ因ル損害賠償額ハ確定判決ノ勝訴者カ査定名義人又ハ裁決名義人トノ關係ニ於テ有セシ權利狀態ヲ基本トシ目的タル土地ノ上ニ現實ニ及ホセシ支配關係ノ範圍態樣ヲ參酌シテ之ヲ判定スヘキモノトス　（大正一四・一二・二六）

○判決ニ於ケル事實認定ノ說示ノ程度　民事判決ニ於ケル事實認定ノ說示ハ其ノ資料ト爲リタル證據其ノ他ノ事情ヲ明示シテ爲スヘク尠クトモ其ノ認定シタル事實ト相俟チテ之ヲ推知シ得ヘキ程度ニ之ヲ揭記シ且其ノ推理ノ作用ヲモ明示スヘキモノトス　（大正一五・三・五）

○事實認定ノ資料ト爲ルヘカラサルモノヲ綜合證據ノ一トシテ援用シ爲シタル事實認定ノ適否　裁判所カ諸般ノ證據ヲ綜合シテ或事實ヲ認定シタル場合ニ援用シタル證據ノ一ニシテ事實認定ノ資料ト爲ルヘキモノニ非サルトキハ該認定ハ違法タルヲ免レサルモノトス　（大正一五・三・五）

○判決理由ノ說示方　民事判決ハ其ノ理由ニ於テ證據ニ依リ確定シタル事實ヲ明示シ之ニ法律ヲ適用シテ其ノ歸結ヲ說示スルヲ要シ就中原告ノ請求ヲ認容シタル判決ニ在リテハ其ノ請求ノ因テ生スル基礎タル事實ヲ具體的ニ確定シテ判文ニ明示スルヲ要スルモノトス　（大正一五・五・二五）

○登記手續ヲ命スル判決主文ニ登記原因明記ノ要否　不動產ニ關スル登記義務者ニ登記手續ヲ命スル判決ハ登記手續上登記原因ヲ證明スル書面ニ該當スルモノナレハ其主文ニ登記原因ヲ明記スルコトヲ要ス（昭和三・一一・一七）

第二百四十一條

○當事者ノ申立ト符合スル判決更正ノ許否　判決カ當事者ノ申立ト符合スルトキハ其申立ニ誤謬アルモ判決ヲ更正スルコトヲ得サルモノトス　（大正五・五・二〇）

○同　旨　判決カ當事者ノ申立ト符合スルトキハ其申立ニ誤謬アルモ判決ヲ更正スヘキモノニ非ス（大正五・九・二六）

卷	頁
一二	五一五
一三	二五
一三	二五
一三	一二七
一五	三二六
三	五八九
三	七一八

○當事者氏名ノ誤記ト判決破毀ノ理由　當事者氏名ノ表示上ノ誤記ハ民事訴訟法第二百四十一條ニ依リ何時ニテモ其更正ヲ求ムルコトヲ得ヘキモノナレハ其誤記ハ原判決破毀ノ理由トナラス（大正六・二・二〇）

○判決原本ト相違アル判決正本ノ效力　判決正本カ原本ト相違スル場合ニ正本ノ受領者ニ於テ之カ爲上訴期間ヲ懈怠スル等不利益ナル結果ヲ蒙ムルニ至リタルトキハ正本ノ受領者ハ其不利益ナル結果ヲ免レ得ヘキモノナリト雖勝訴者タル共同訴訟人ノ氏名ノ一部カ判決正本ニ脫落シ原本ト相違セリトスルモ該事件カ共同訴訟人ノ爲權利關係合一ニノミ確定スヘキモノナルニ於テハ判決正本ニ其勝訴者ノ氏名一部脫落セルコトハ敗訴者ニ何等前記ノ如キ不利益ヲ來スコトナク從テ該正本ハ判決正本タル效力ヲ有スルモノトス（大正七・六・三）

第二百四十二條

○判決理由中ノ爾餘ノ請求ヲ不當トスル旨說明シアリテ之カ判決主文ナキ場合之ニ對シ爲シタル附帶上告ノ適否　判決理由中ニ爾餘ノ請求ヲ不當トスル旨說明シアルモ之カ判決主文ナキトキハ判決脫漏アルモノニ屬シ未タ判決ナキモノトス斯ル場合ニハ民事訴訟法第二百四十二條ノ規定ニ從ヒ追加裁判ヲ申立其裁判ニ對シ不服アラハ上告ヲ爲シ得ヘク判決主文ナキモノニ對シテ附帶上告ヲ爲スハ不適法ナリ（大正五・一二・六）

第二百四十四條

○主文ニ包含セサル理由ト確定力　判決ハ主文ニ包含スルモノニ限リ確定力ヲ有ス從テ主文ニ包含セサル理由ハ確定力ヲ有セス（明治四四・五・一六）

○訴ヲ却下シタル闕席判決ノ確定力　訴ヲ却下シタル闕席判決ニシテ確定シタルトキハ其訴ニ於ケル請求ノ理由ナキコトハ實質的ニ確定スルモノトス（大正二・三・七）

○共有權確認判決ノ確定力ト所有權ノ確認　共有權確認ノ訴ニ於テ共有權ナシトシテ請求ヲ棄却セラレタル後更ニ同一物件ニ付所有權ヲ主張シテ其確認ヲ請求スルハ一事再理ニ該當スルモノトス（大正三・五・一九）

○欺罔ニ因ル再度ノ闕席判決ト確定力　再度ノ闕席ニ依リ故障ヲ棄却セラレタル判決ハ縱令相手方ニ欺カレテ其判決ヲ受ケタルモノト雖取消又ハ原狀回復ノ訴ニ因テ取消サレサル以上ハ其效力ヲ失フモノニ非スシテ實質的ニ確定スヘキモノトス（大正六・一二・二七）

○一事再理判定ノ標準　一ノ訴訟カ前訴訟ト同一ニシテ一事再理ナリヤ否ヤハ其前後ノ訴訟カ當事者ノ目的物及請求原因ヲ同フスルヤ否ヤニ依リ決セラルヘキモノトス（大正七・七・九）

○一事不再理ト訴訟ノ同一性　一事不再理ノ事由タルヘキ訴訟關係ノ同一トハ本訴ト前訴トカ其訴ノ目的ヲ同シクシ且其請求原因タル事實上ノ法律關係ノ同一ナル場合ヲ指稱シ該法律關係ノ態樣ノ差違ノ如キハ訴訟ノ同一性ヲ阻却スルニ足ラサルモノトス（大正一一・一〇・二〇）

○連帶保證債務及保證債務ト一事不再理ノ原則　同一當事者間ニ於テ同一事實ニ基因シテ前訴ニ於テ連帶保證債務トシテ請求シ後訴ニ於テハ保證債務トシテ請求スルニ於テハ一事不再理ノ原則ニ觸ルルモノトス（大正一一・一〇・二〇）

○前訴訟ノ前提事實ト後訴ノ確定力　前訴訟ニ於テ甲カ乙ノ妻子タリシ事實ハ或土地カ甲ノ子丙ノ所有ナリヤ否ヤヲ決スル前提事實トシテ確定セルモノニ過キスシテ人事訴訟ニ依リ其身分關係ヲ確定セルモノニアラサルトキハ當事者ヲ異ニセル全然別個ノ訴訟ニ於テ裁判所カ之ニ反スル事實ヲ認ムルモ違法ニアラス（大正六・一二・一八）

○所有權ニ基ク勝訴判決ト確定力ノ範圍　所有權ニ基ク訴訟ニ於テ其確認ノ請求ナルトヲ問ハス原告カ勝訴ノ判決ヲ受ケ該判決確定シタルトキハ其判決主文ニ包含セルモノトシ當事者間該訴訟ノ目的物ニ付原告ニ所有權アルコト確定スヘキヲ以テ爾後前訴訟ノ被告タリシモノカ前判決ノ基本トナリタル口頭辯論期日以前ニ生

卷	頁
四	一〇八
五	四九七
三	一〇一八
一	二六三
三	一三九
二	四三九
四	一二〇七
五	五八九
九	四二一
九	四二一
四	一四二

シタル事由ニ依リ所有權ヲ取得シタリト稱シ前判決確定前ニ於テ自己ニ所有權アリト主張スルハ明ニ前判決ニ牴觸スルモノナルヲ以テ同口頭辯論以後ニ生シタル事由ニヨリ所有權ヲ取得シタリトシ前訴ノ當事者ニ對シ所有權ヲ有スト主張スルハ格別其以前ニ於ケル事由ニヨリ所有權ヲ取得シタルコトヲ原因トシテ訴ヲ提起シタルトキハ裁判所ハ既判力ヲ理由トシテ其請求ヲ排斥シ得ヘキモノトス　（大正六・一二・二七）

○確定力ト判決ノ基礎タル理由　判決ノ理由全部ハ固ヨリ確定スヘキモノニ非スト雖モ判決主文ノ因テ生シタル理由即チ判決ノ基礎タル理由ハ自カラ主文ニ包含セラルルモノナルヲ以テ主文ト共ニ確定スヘキモノトス　（大正六・一二・二七）

○既判力ト被告ノ權利ノ有無ニ關スル理由　確定判決ノ既判力ハ主文及主文ニ包含スル理由即主文ノ由テ生スル直接ノ理由ニ止マルヘキモノトス從テ被告ノ權利ノ有無ニ關スル理由ノ如キハ原告ノ請求ヲ却下シタル場合ニ於テ既判力ヲ有スルコトナシ　（大正八・三・一四）

○現ニ訴訟ニ關與セサル者ト確定判決ノ效力　民事訴訟ニ於ケル當事者トシテ確定判決ノ效力ニ服スルニハ其判決ニ於テ當事者トシテ表示セラレタルヲ以テ足レリトセス現ニ當事者トシテ其訴訟ニ干與シタルモノナルヲ要ス故ニ判決ニ於テ當事者トシテ表示スルモ現ニ其訴訟ニ干與シタルモノニアラサルトキハ其判決ハ之ニ對シ何等ノ效力ヲ生スルモノニアラス　（大正八・四・二九）

○小作料請求判決ノ確定力ト小作契約成立ノ有無ヲ決スル理由　小作料請求ノ訴ニ付小作契約ノ不存在ヲ理由トシテ請求ヲ棄却スル判決中小作契約ニ非サル或文書ノ僞造ナルコト及小作地ノ所有權カ當事者一方ノ所有ナル旨ノ判示アルモ小作契約成立ノ有無ヲ決スル理由タルニ止マリ判決主文ヲ維持スル直接ノ理由タラサル場合ニ於テハ其理由ハ確定力ヲ有スルモノニ非ス　（大正九・三・九）

卷	頁
四	一二〇七
四	一二〇七
六	九六
六	二七八
七	八〇

○相續開始後妻ノ爲シタル相續財產ニ關スル訴訟ノ判決ト死後養子ニ對スル既判力　妻カ夫ノ相續財產ニ付他人ト訴訟ヲ爲シ該訴訟ノ權利拘束消滅セサル中夫ノ死後養子ヲ爲シタルトキハ死亡ノ場合ニ準シ該訴訟手續ハ中斷スルモノト爲スヲ相當トシ妻カ夫ノ死後養子ヲ爲シ其相續開始シタル以後ニ於テ自ラ夫ノ相續財產ニ付訴訟ヲ提起シ敗訴ノ判決ヲ受ケ確定スルモ該判決ノ既判力ハ其以前ニ妻ノ一般承繼人トナレル養子ニ及フヘキモノニ非ス　（大正九・一二・二四）

○攻擊防禦ノ方法ト既判力ノ牴觸　既判力ナル制度ハ同一訴訟物ニ付審理ヲ反覆シ紛爭ノ永續スルヲ防止スル趣旨ニ出テタルモノト解スヘキモノナレハ同一當事者間ニ前訴訟ト同一訴訟提起セラレタル場合ニ前訴訟ノ既判力ヲ主張シ得ヘキハ勿論縱令前後ノ訴訟カ其請求原因若クハ目的物ヲ異ニスル別異ノ訴訟ナリトスルモ前訴ノ訴訟物カ後訴ト牽聯シ後ノ訴訟ニ於テ攻擊防禦ノ方法トシテ其存在若クハ不存在カ主張セラルヘキ場合ニ於テモ當事者ハ前訴訟ノ確定判決ニ反スル主張ヲ爲スヲ得サルモノニシテ若シ當事者ノ一方カ之ニ反スル主張ヲ爲シタルトキハ相手方ハ既判力ノ抗辯ヲ提出シ得ヘキノミナラス裁判所ハ亦其確定判決ニ反シテ判斷ヲ爲スヲ得サルモノトス　（大正一一・五・一三）

○主文ニ包含スルモノノ意義　判決ノ確定力ハ其主文ニ包含スルモノニ限リ確定力ヲ有スルコトハ民事訴訟法第二百四十四條ノ明定スル所ニシテ右ニ所謂主文ニ包含スルモノトハ判決ニ記載セル原因事實及申立ニ依リ特定セラレタル請求ヲ是認シ若クハ否定セラレタル裁判ヲ指稱シ其請求ヲ是認シ若クハ否定スルニ至リタル理由殊ニ抗辯ノ如キハ主文ニ包含スルモノニ非サルカ故ニ斯カル理由ハ確定力ヲ有スルモノニ非ス　（大正一一・六・一六）

○既判力ト第三者　確定判決ノ既判力ハ特段ノ場合ヲ除キ之ヲ訴訟當事者又ハ其一般承繼人ノ間ニ限リ其他ノ第三者ニ及ホササルヲ原則トス　（大正一一・一〇・一三）

○既判力ト特定承繼人　判決ハ當事者ノ一方ノ利益ノ爲ニ他ノ一方ニ對シ負擔ヲ命スルモノナルカ故ニ其ノ性質

卷	頁
七	五〇一
九	一七四
九	二〇四
九	四一一

上第三者ニ對シ既判力ヲ有スヘキニ非サルノミナラス第三者ハ訴訟ニ關與スルモノニ非サルニ依リ判決ヲシテ之ニ既判力ヲ及ホサシムルハ其ノ當ヲ得タルモノニ非ス左レハ確定判決ハ法律ニ特別ノ規定アル場合ノ外訴訟ノ當事者及一般承繼人ノ間ニ限リ既判力ヲ有シ第三者トノ間ニ於テハ縱令當事者ノ特定承繼人ナル場合ト雖既判力ヲ有スルモノニ非ス　（大正一三・五・一六）

○確定判決ト當事者ニ對スル羈束力　判決確定シタルトキハ既判力ヲ生シ訴訟ノ目的タル實體上ノ權利關係ハ確定シ後日再ヒ同一訴訟物ニ付同一當事者間ニ訴訟ノ起リタル場合ニ於テ當事者ヲ羈束スルニ至ルモノトス　（大正一四・七・二八）

○既判力ノ抗辯ト第二請求ニ對スル裁判ノ理由　一ノ訴訟事件ニ付請求棄却ノ確定判決ヲ受ケタル原告カ同一訴訟物ニ付再ヒ訴訟ヲ提起シタルトキハ被告ハ既判力ノ抗辯ヲ提出シテ請求ノ利益ナキコトヲ主張スルヲ得ヘク裁判所ハ第二ノ請求ハ權利保護ノ必要ヲ缺ク利益ナキ請求ナリトシテ請求棄却ノ判決ヲ爲スヘキモノトス　（大正一四・七・二八）

○既判力ト職權斟酌　既判力ハ私法生活ノ安固ヲ目的トシ判決ノ牴觸ヲ防クニ在リテ專ラ公益上ノ理由ニ基クモノナルカ故ニ既判力カ記錄上明白ナルトキハ裁判所ハ相手方ノ抗辯ヲ待ツコトナク職權ヲ以テ斟酌スヘキモノトス　（大正一四・七・二八）

○船長ノ救助料請求ノ判決ト海員ニ及ホス效力　商法第六百五十二條ノ九第三項ニハ船長ハ異議ノ落著前ニハ救助料ノ支拂ヲ爲スコトヲ得サル旨規定セルニ徵スレハ其ノ反面解釋トシテ海員ニ屬スル救助料ハ海員ニ直接請求權アルモ尙船長ハ海員ヲ代表シ請求スルコトヲ得ヘク因テ得タル救助料ヲ海員ニ支拂フヘキ趣旨ナルコトヲ窺知スルニ足ル而シテ船長カ海員ヲ代表シテ訴訟ヲ提起シタル場合ニハ其判決ノ效力ハ當然海員ニ及フモノトス　（昭和二・八・一九）

卷	頁
一一	一一一
一二	二七五
一二	二七五
一二	二七五
一四	二六一

○既判力ノ內容　請求又ハ法律關係ノ存否ニ付爲シタル判決ノ確定スルトキハ所謂既判力ヲ生シ當事者又ハ一般承繼人間ニ在リテハ再ヒ同一ノ請求又ハ法律關係ニ付口頭辯論終結前ニ生シタル事由ニ基キテ確定判決ノ主文ニ現レタルモノ及其ノ理由中主文ヲ維持スル理由ト爲リタルモノニ反スル主張ヲ爲スコトヲ得サルモノトス　（昭和三・一二・四）

○判決確定後ノ取消ノ意思表示ト既判力　賣買ヲ原因トスル不動產所有權移轉登記義務ノ履行ヲ命シタル判決ノ確定後ニ至リ其ノ賣買契約ニ瑕疵アリトテ之カ取消ノ意思表示ヲ爲シ判決ニ因ル登記義務ノ履行ヲ拒否シ若ハ判決ニ因ル登記ノ抹消ヲ請求スルハ確定判決ノ趣旨ニ牴觸スル主張ニ基クモノニシテ許スヘカラサルモノトス　（昭和三・一二・四）

○上告審ニ於テ併合審理シ同時ニ言渡ヲ爲スヘキ判決ニ於ケル相互ノ拘束力　上告審ニ於テハ訴ノ一カ他ノ訴ノ判斷ノ基本タル關係ニ在ツテ而モ前者ニ付テノ判決カ後者ノ判斷ニ對シ既判力ヲ有スヘキモノナルトキハ兩訴ヲ併合シ同時ニ判決スルニ當リテハ前者ニ付テ言渡サントスル判決ハ後者ニ付テ言渡サントスル判決ヲ言渡前ニ於テ既ニ拘束スルモノト謂ハサルヘカラス　（昭和三・一二・二一）

○身分關係ノ確定ト既判力ノ範圍　確認訴訟ニ於テ法律上ノ身分關係ノ存在ヲ確定シタル判決ハ之カ基本トナリタル最終ノ口頭辯論ノ行ハレタル當時ニ於テ當該身分關係ノ存在セシコトニ付既判力ヲ有スルニ過キスシテ其ノ身分關係ノ發生原因タル事實ニ關スル判斷ハ既判力ヲ有スルコトナキモノトス　（昭和四・一一・五）

○査定又ハ裁決ト判決トノ關係　土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ト司法裁判所ノ裁判トハ各自獨立シテ私權關係ヲ確定スルモノトス　（大正四・七・六）

○土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ノ效力ト判決ノ效力トノ差異　土地調査令ニ基キ爲シタル査定ノ確定又

卷	頁
一五	三四一
一五	三四一
一五	三五二
一六	二五三
三	二四七

ハ裁決モ司法裁判所ノ爲シタル判決モ共ニ土地所有者ノ權利ヲ確定スルモノナリ唯其效力範圍ニ廣狹ノ差アリ前者ハ一般的ニ羈束力ヲ生シ後者ハ當事者間ニ羈束力ヲ生ス　（大正六・三・二三）

○互ニ牴觸セル査定ト判決トノ效力ノ優劣　確定セル査定ト判決ト其結果ニ於テ互ニ牴觸シ相容レサルトキト雖二者其系統ヲ異ニスル國家機關ノ行爲ナルヲ以テ之ヲ調和スヘキ法規ノ存セサル現行法制ノ下ニ於テハ兩々相對シテ互ニ相侵スコトヲ得ス單ニ其行爲ノ前後ノミニ依リ二者ノ間其效力ニ優劣ヲ附スヘキモノニ非ス（大正六・三・二三）

○同　旨　査定又ハ裁決カ判決ト其結果ニ於テ相牴觸スルコトアルモ此兩者ハ全然其系統ヲ異ニセル國家機關ノ行爲ニ依リ各自獨立シテ其所有權ヲ確定シ兩々相對立シ互ニ相侵スコトヲ許ササルモノナレハ査定又ハ裁決ノ效力ハ確定判決ニ對シ何等影響ナキト同時ニ確定判決ノ效力モ亦査定又ハ裁決ニ對シ何等影響ヲ及ホスモノニ非ス　（大正七・七・九）

○判決ニ基ク所有權登記ト査定名義人ノ抹消請求　甲カ嚮ニ土地申告ヲ爲シ其後同一土地ニ付乙ト所有權ヲ爭ヒ訴訟ノ結果甲ノ所有ニアラスシテ乙ノ所有ナリトスル判決確定シ爾後更ニ甲ノ申告ニ基キ甲ヲ同土地ノ所有者ナリトスル査定又ハ裁決アリタルトキハ乙ハ甲ニ對シ確定判決ニ基キ所有權ヲ主張スルコトヲ得ルト同時ニ甲モ亦其査定又ハ裁決ニ基キ所有權ヲ主張スルコトヲ得ヘク而シテ其間優劣ヲ付スヘカラサルモノナレハ乙カ同土地ニ所有權保存登記ヲ爲スモ其ハ其所有權ニ基ク正當ノ行爲ニシテ甲ハ之カ爲其所有權ヲ侵害セラルヘキモ自己ノ權利ヲ主張シ其抹消ヲ求ムルヲ得ス　（大正七・七・九）

○査定ト判決トノ牴觸ニ因リ權利ヲ害セラレタル場合ノ救濟方　同一土地ノ所有權ニ關シ土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ト司法裁判所ノ確定判決トノ間ニ互ニ牴觸シテ相容ルルコト能ハサル結果ヲ生シタルトキト雖二者全然其系統ヲ異ニスル國家機關ノ行爲ニシテ各獨立シテ其效力ヲ有スルモノナルヲ以テ斯ル場合ニハ一方ヲシテ査定又

卷	頁
四	二〇二
四	二〇二
五	五八九
五	五八九

ハ裁決ニ因リテ確定シタル權利ヲ主張スルヲ得セシムルト共ニ又他ノ一方ヲシテ判決ニ因リテ確定シタル權利ヲ主張スルヲ得セシメ其當事者間ニ在リテハ兩々相對立シタル當時ノ現在ノ狀態ヲ維持シ互ニ他ノ一方ノ權利ヲ侵害スルコトナクシテ其權利ヲ行使スルコトヲ得ヘキモノト爲スヲ妥當トス從テ若シ他ノ一方ノ現狀ニ變更ヲ加ヘ其權利ヲ侵害シテ目的物件ヲ奪取スルカ如キ行爲ヲ爲スニ於テハ侵奪セラレタル者ハ侵奪者ヲ相手取リ之カ回復ヲ請求スルヲ得ヘキモノトス　（大正八・三・一四）

聯

○互ニ牴觸セル査定又ハ裁決ト確定判決トノ效力ノ優劣　土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ニ因リ土地所有者ノ權利確定シタルトキハ再審ノ申立ニ依リ變更セラレサル限リハ絕對的效力ヲ生スルヲ以テ査定名義人又ハ裁決名義人ハ何人ニ對シテモ其權利ヲ主張スルコトヲ得ヘク又司法裁判所カ土地所有權ノ有無ニ關シテ判決ヲ爲シ其判決確定シタルトキハ其當事者間ニ在リテハ羈束力ヲ生スルニ依リ其一方ハ他ノ一方ニ對シ判決ニ因リテ定マリタル所有權ノ有無ニ付之ヲ主張スルヲ得ヘシ從テ若シ同一土地ノ所有權ニ關シ査定又ハ裁決ト確定判決トノ間ニ互ニ牴觸シテ相容ルルコト能ハサル結果ヲ生シタルトキト雖二者全然其系統ヲ異ニスル國家機關ノ行爲ニシテ各獨立シテ其效力ヲ有スルモノナレハ其行爲ノ前後ニ依リテ其效力ニ優劣ヲ付スヘカラサルハ勿論斯ル場合ニ於テ之ヲ調和スヘキ法規ノ存セサル現行法制ノ下ニ在リテハ兩々相對立シテ其效力ヲ有スルモノト認メサルヘカラス故ニ斯ル場合ニ於テハ一方ヲシテ査定又ハ裁決ニ因リテ確定シタル權利ヲ主張スルヲ得セシムルト同時ニ又他ノ一方ヲシテ確定判決ニ因リテ確定シタル權利ヲ主張スルヲ得セシメ當事者間ニ在リテハ兩々相對立シタル當時ノ現在ノ狀態ヲ維持シ互ニ他ニ他ノ一方ノ權利ヲ侵害スルコトナクシテ其權利ヲ行使スルヲ得ヘキモノトナスヲ妥當トスルコトハ當院ノ判例トスル所ニシテ之ヲ變更スルノ理由アルヲ認メス　（大正一〇・一二・二三）

卷	頁
六	九六
八	五六三

聯

○査定又ハ裁決名義人ヨリ權利ヲ讓受ケタル第三者ト之ニ對スル既判力ノ主張　確定判決ノ勝訴者ハ査定名義人又ハ裁決名義人ヨリ其權利ヲ讓受ケタル第三者ニ對シテ既判力ヲ主張スルヲ得ス之ニ反シテ第三者ハ其讓受ニ因リ何人ニ對シテモ査定又ハ裁決ノ效力ヲ主張シ得ヘキヲ以テ第三者ハ右ノ確定判決ニ依リテハ何等ノ制限ヲ受クルコトナク其所有權ヲ主張スルヲ得ルモノト謂ハサルヲ得ス之ト同シク査定名義人又ハ裁決名義人カ確定判決ノ勝訴者ヨリ權利ノ讓渡ヲ受ケタル特定承繼人ト所有權ヲ爭フ場合ニ於テモ該特定承繼人ハ既判力ヲ主張スルヲ得サルヲ以テ査定名義人又ハ裁決名義人ハ完全ニ其所有權ヲ主張シ得ヘシ（大正一一・一〇・一三）

聯

○査定又ハ裁決ト判決ノ既判力相互ノ關係　甲乙間ニ於テ同一土地ノ所有權ニ付爭ヲ生シ一方ニハ訴訟ノ結果甲ノ所有ト認ムル旨ノ確定判決アリ他方ニハ土地調査令ニ依ル審査ノ結果乙ノ所有ト確定スル旨ノ査定又ハ裁決アリタルトキハ判決ト査定又ハ裁決トハ兩々相對立シ其效力ニ優劣ナキモノニシテ互ニ他ノ一方ノ權利ヲ侵害スルコトナクシテ其權利ヲ行使シ得ヘキモノナリトスルコトハ當院ノ判例トスル所ナリ是卽査定又ハ裁決ハ其效力トシテ廣ク第三者ヲ羈束スルト同時ニ勝訴ノ確定判決ヲ得タル者ハ敗訴者ニ對シ既判力ヲ以テ對抗シ得ルカ爲メナリ然レトモ確定判決ノ既判力ハ訴訟當事者及其一般承繼人ノ間ニ限リ其效力ヲ及ホスヘキモノニシテ其以外ノ第三者ニ對シテハ縱令同一土地ヲ讓受ケ其權利ヲ承繼シタルモノト雖其效力ヲ及ホスヘキモノニ非サルヲ以テ確定判決ノ勝訴者タル甲ハ査定名義人又ハ裁決名義人タル乙ヨリ土地所有權ノ讓渡ヲ受ケタル丙ニ對シ確定判決ニ基ク所有權ヲ主張シ丙ヲシテ其所有權ヲ認メシムルコトヲ得サルモノニシテ之ニ反シ丙ハ乙ノ所有權ヲ讓受ケタルコトヲ理由トシテ甲ニ對シ其所有權取得ヲ主張スルコトヲ得ルモノトス之ト同シク甲ヨリ所有權ノ讓渡ヲ受ケタル丁ハ既判力ヲ理由トシテ乙ニ對シ其所有權ヲ主張スルコトヲ得サルモノニシテ寧ロ乙ヨリ丁ニ對シ其所有權ヲ主張スルコトヲ得ルモノトス　（大正一一・一一・一七）

卷	頁
九	四一一
九	四七四

聯

○友對　甲カ嚮ニ土地申告ヲ爲シ其後同一土地ニ付乙ト所有權ヲ爭ヒ訴訟ノ結果甲ノ所有ニアラスシテ乙ノ所有ナリトスル判決確定シ爾後更ニ甲ノ申告ニ基キ甲ヲ同土地ノ所有者ナリトスル査定又ハ裁決アタリルトキハ乙ハ甲ニ對シ確定判決ニ基キ所有權ヲ主張スルコトヲ得ルト同時ニ甲モ亦其査定又ハ裁決ニ基キ所有權保存登記ヲ爲スモ其ハ其所有權ニ基ク正當ノ行爲而シテ其間優劣ヲ付スヘカラサルモノナレハ乙カ同土地ニ所有權保存登記ヲ爲シタル後ニシテ甲ハ之カ爲其所有權ヲ侵害セラルヘキモ自己ノ權利ヲ主張シ其抹消ヲ求ムルヲ得ス此ノ場合乙ハ土地ノ所有者ナルヲ以テ任意之ヲ處分スルコトヲ得ヘク故ニ乙カ之ヲ丙ニ讓渡シタルトキハ丙ハ之ニ依リ完全ニ其所有權ヲ取得スルモノニシテ甲カ乙ノ特定承繼人タル丙ト所有權ヲ爭フ場合ニ於テモ甲ハ査定又ハ裁決アリタル事由ノミヲ以テ確定判決ヲ受ケタル乙ノ權利ヲ否定スルコトヲ得ス（大正七・七・九）

聯

○査定名義人ノ權利ノ讓渡ト確定判決ノ勝訴者ニ對スル不法行爲ノ責任　土地所有權ノ確定ニ付土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ト司法裁判所ノ確定判決トカ互ニ牴觸シ相容レサル結果ヲ生シタル場合ニ於テ査定名義人又ハ裁決名義人及確定判決ノ勝訴者ハ各其ノ權利ヲ主張スルコトヲ得ヘシト雖其ノ兩者ノ間ニ在リテハ兩々對立シタル當時ノ狀態ヲ維持シ互ニ他方ノ權利ヲ侵害スルコトヲ得サルモノナルヲ以テ査定名義人又ハ裁決名義人カ其ノ權利ヲ第三者ニ讓渡シ其ノ者シテ當該土地ニ付完全ナル所有權ヲ取得セシメ確定判決ノ勝訴者ヲシテ全然其ノ權利ヲ喪失セシメタルトキハ査定名義人又ハ裁決名義人ハ確定判決ノ勝訴者ニ對シテ不法行爲ノ責ニ任スヘキモノトス（大正一四・一二・二六）

卷	頁
五	五八九
一三	五二五

○判決ニ基キ爲シタル移轉證明ノ不法抹消ト査定名義人ノ承繼人ニ對スル主張　大正三年制令第十六號ニ依リ抹消セラルヘキ登記又ハ證明中ニハ確定判決ニ依リ爲サレタル所有權ノ登記又ハ證明ハ之ヲ包含セサルニ依リ甲カ乙トノ間ノ確定判決ニ基キ所有權移轉ノ證明ヲ受ケタル後土地調査令ニ依リ乙ノ所有ナリトノ査定又ハ裁決アリタ

リトスルモ其査定又ハ裁決ニ基キ前ニ甲ノ爲シタル移轉證明ヲ目シテ査定又ハ裁決ニ抵觸スル證明ナリトシテ之カ抹消ヲ申請スルコトヲ得ス從テ乙ノ申請ニ基キ登記官吏カ右抹消ヲ爲シ更ニ乙名義ノ所有權保存登記ヲ爲シタルトキハ該抹消及保存登記ハ不法ナリト雖該土地ノ所有權カ乙ヨリ丙ニ讓渡セラレ所有權移轉登記ヲ經由シタルトキハ甲ハ最早既判力ヲ理由トシテ其所有權ヲ丙ニ對シ主張スルコトヲ得サルニ依リ丙ニ對シ其所有權移轉登記ノ抹消ヲ請求スルコトヲ得ス敍上ノ如ク丙ノ爲シタル所有權移轉登記ノ抹消ヲ求ムヘカラサル以上ハ其前ニ乙ノ爲シタル所有權保存登記ノミヲ分離シテ抹消スルコトヲ得サルニ依リ此抹消モ亦之ヲ求ムルコトヲ得サルモノトス（大正一一・一一・一七）

第二百四十五條

○在廷セサル者ニ對スル出頭命令ノ效力　在廷シタル者ニ期日ヲ定メ出頭ヲ命シタルトキハ期日ノ呼出狀ヲ送付スルコトヲ要セサルコトハ民事訴訟法第百六十一條但書ノ規定スル所ニシテ其ノ出頭命令ハ在廷セサル一方ノ當事者ニ對シテモ效力ヲ有スルコトハ同法第二百四十五條ニ依リ準用セラルル同法第二百三十五條ノ規定ニ照シ明瞭ナルニ依リ出頭セサル一方ニ對シテモ呼出狀ヲ送達スルコトヲ要セサルモノトス（大正一四・九・一八）

第三節　闕席判決

第二百四十七條

○訴ヲ却下シタル闕席判決ノ確定力　訴ヲ却下シタル闕席判決ニシテ確定シタルトキハ其訴ニ於ケル請求ノ理由ナキコトハ實質的ニ確定スルモノトス（大正二・三・七）

第二百五十條

○從前ノ期日ニ於テ辯論ヲ爲シタル場合ト闕席判決　續行期日ニ當事者ノ一方カ出頭シナカラ辯論ヲ爲ササルトキ又ハ辯論ヲ爲サスシテ任意退廷シタルトキハ該當事者ハ其期日ニ出頭セサリシモノト看做サルヘキモノナレハ

縱令從前ノ期日ニ於テ辯論ヲ爲シタルコトアリトスルモ相手方ノ申立ニ依リ闕席判決ヲ爲スヘキモノニアラス（大正七・一一・五）

第二百五十一條

○延期申請ヲ爲シタルニ止マル場合ト所謂本案ノ辯論　當事者カ延期ノ申請ヲ爲シタルニ止マルトキハ民事訴訟法第二百五十一條ニ所謂本案ノ辯論ヲ爲シタルモノト謂フヲ得ス（大正七・一一・五）

第二百五十六條

○故障申立ト闕席判決ノ表示方法　民事訴訟法第二百五十六條第二項第一號ニ所謂故障ヲ申立テラレタル闕席判決ノ表示トアルハ故障ヲ申立テラレタル闕席判決カ如何ナル闕席判決ナルヤヲ他ノ判決ト識別シ得ル程度ニ於テ表示スルヲ要スル趣旨ニシテ其程度ハ個々ノ場合ニ應シテ之ヲ決スヘク必スシモ判決主文ヲ揭記セサルヘカラサルモノニ非ス判決主文ノ揭記ナキモ判決言渡年月日當事者ノ氏名及事件番號等ノ記載アルトキハ尙如何ナル闕席判決ナルヤヲ識別シ得ル程度ノ表示ナリト謂フヲ妨ケス（大正一〇・一二・一三）

○反對　民事訴訟法第二百五十六條第二項第一號ニ故障ヲ申立テラレタル闕席判決ノ表示トアルハ少クモ其判決ノ主文、判決言渡ノ年月日、當事者ノ氏名、事件ノ番號等ヲ揭ケ以テ故障ヲ申立テラレタル闕席判決ヲ明ナラシムルコトヲ要スルノ趣旨ナリ（大正四・二・一二）

聯

○民事訴訟法第二百五十六條第二項第一號ニ故障ヲ申立テラレタル闕席判決ノ表示トアルハ闕席判決ヲ表示スルニ當リテ其判決全文ヲ揭クルヲ要スルノ意義ニ非サルモ少クモ其ノ判決ノ主文、判決言渡ノ年月日、當事者ノ氏名、事件ノ番號等ヲ揭ケ以テ故障ヲ申立テラレタル闕席判決ヲ明カナラシムルヲ要ス（大正六・六・八）

○民事訴訟法第二百五十六條第二項第一號ニ故障ヲ申立テラレタル闕席判決ノ表示トアルハ故障ヲ申立テラレタル闕席判決ヲ明カナラシムルヲ要ス（大正六・六・八）

席判決カ如何ナル闕席判決ナルヤヲ知リ得ル程度ニ於テ之ヲ表示スルヲ以テ足レリトスルモ少クトモ其判決主文、判決言渡年月日、當事者氏名、事件番號等ヲ揭ケ以テ故障ヲ申立テラレタル闕席判決ヲ明ナラシムルコトヲ要スル趣旨ノ規定ニシテ故障申立書ニ闕席判決ノ主文ヲ揭ケサルトキハ縱令其判決言渡年月日、當事者氏名、事件番號及訴名等ノ記載アリトスルモ未タ以テ故障ヲ申立テラレタル闕席判決カ如何ナル闕席判決ナルヤヲ知リ得ル程度ニ於テ之ヲ表示シタルモノト爲スニ足ラス　（大正六・一〇・二六）

○民事訴訟法第二百五十六條第二項第一號ニ故障ヲ申立テラレタル闕席判決カ如何ナル闕席判決ナルヤヲ知リ得ル程度ニ於テ之ヲ表示シ少クトモ其判決主文、判決言渡年月日、當事者氏名、事件番號等ヲ揭ケ以テ故障ヲ申立テラレタル闕席判決ヲ明ナラシムルコトヲ要スル趣旨ナリトス從テ闕席判決ノ主文トシテ揭ケタルモノニシテ故障ヲ申立テラレタル闕席判決ノ主文ト符合セスシテ其主文ヲ揭ケサルト均シキニ歸スルトキハ其故障申立ハ不適法ナルヲ免レス　（大正八・一二・五）

第二百五十九條

○欺罔ニ因ル再度ノ闕席判決ト確定力　再度ノ闕席ニ依リ故障ヲ棄却セラレタル判決ハ縱令相手方ニ欺カレテ其判決ヲ受ケタルモノト雖モ取消又ハ原狀回復ノ訴ニ因テ取消サレサル以上ハ其效力ヲ失フモノニ非スシテ實質的ニ確定スヘキモノトス　（大正六・一二・二七）

○代理權ナキ者ノ爲シタル故障ノ棄却ト訴訟費用ノ負擔　乙カ甲ノ法定代理人トシテ故障ヲ申立テタル場合ニ於テ裁判所カ法定代理人タル權限ナキコトヲ理由トシ其故障ヲ不適法トシテ棄却シタルトキハ假令其判決ニハ甲ヲ被告トシテ表示スルモ其實甲ハ其故障申立ニ干與セス現ニ其訴訟行爲ヲ爲シタル者ハ乙ナルヲ以テ右表示セラレタル被告ハ結局乙其者ヲ指稱スルモノト謂フヘク從テ該判決ニ於テ故障申立後ノ訴訟費用ヲ被告ノ負擔トスル旨判示シタル

巻　頁
四　八九七
六　六二一
四　二〇七

トキハ現ニ法定代理人ト自稱シテ故障申立ヲ爲シタル乙ヲ被告ト指稱シ之ニ其訴訟費用ヲ負擔セシメタル旨趣ナリト解スヘキモノトス　（大正八・四・二五）

第二百六十一條

○闕席判決廢棄ノ言渡ヲ爲ササリシ違法ト上告理由　新判決カ闕席判決ト符合セサル場合ニ於テハ新判決ニ於テ闕席判決ヲ廢棄スヘキモノナルニ其言渡ヲ爲ササルハ失當ナルモ新判決ニヨリ闕席判決カ自ラ廢棄セラレタルト同一ノ結果ヲ來タスモノナレハ原判決ヲ破毀スルノ理由トナラス　（大正六・二・一三）

○闕席判決ノ廢棄ヲ言渡ササル失當ト當事者ノ利害　新辯論ニ基キ爲ス判決カ闕席判決ト符合セサル場合ニ於テ闕席判決ヲ廢棄セサルハ失當ナレトモ新判決ニ於テ闕席判決ト符合セサル判決ヲ爲シタル以上ハ闕席判決ハ維持セラレタルモノニ非スシテ廢棄セラレタルコト自ラ明白ナレハ其廢棄ノ宣言ナキカ爲ニ當事者ノ利害ニ何等影響ナキモノトス　（大正八・四・一五）

第二百六十三條

○合式ノ呼出ヲ爲ササル故障期日ノ懈怠ト新闕席判決　闕席判決ニ對スル故障ノ口頭辯論期日ニ合式ノ呼出ヲ爲ササルニ拘ラス出頭セサルコトヲ理由トシテ爲シタル故障棄却ノ新闕席判決ハ不法ナリ　（大正一二・七・一三）

○同　旨　闕席判決ニ對スル故障ノ口頭辯論期日ニ合式ノ呼出ヲ爲ササルニ拘ラス出頭セサルコトヲ理由トシテ爲シタル故障棄却ノ新闕席判決及其訴訟手續ハ不法ニシテ破毀ヲ免レサルモノトス　（大正一一・三・三一）

第五節　證據調ノ總則

立證責任

○森林法ノ地籍申告ノ有無ト立證事項　森林法所定ノ期間内ニ地籍申告ヲ爲シタリヤ否ヤノ事實ハ裁判所カ職

五　二七五
四　九五
一〇　二四
六　三九
九　一四

權ヲ以テ調査スヘキ事項ニ屬セス（大正二・一一・二一）

○立證責任ノ一般法則　立證責任ハ先ツ主働的ニ事實ノ存在若クハ不存在ヲ主張スルニ於テ利益ヲ有スルモノニ存スト爲スヲ一般ノ法則トス（明治四四・二・二七）

○爭ナキ金品ノ授受ト消費貸借ナリヤ贈與ナリヤノ立證責任　當事者間ニ金員ノ授受アリタルコトニ付爭ナカリシトスルモ原告ニ於テ之ヲ授受シタル原因ハ消費貸借ナリト主張シ被告ニ於テ其授受ノ原因ハ贈與ニシテ消費貸借ニアラスト爭フトキハ其消費貸借ニ因リ授受セラレタルコトハ之ヲ主張スル原告ニ於テ立證スヘキ責任アルモノトス（大正七・二・一九）

○代理人ノ申請ニ依ル證明ト代理權ニ爭アル場合ノ立證責任　朝鮮不動產證明令ニ依リ證明官署カ代理人ニ依レル申請ニ對シテ證明ヲ與ヘタル事實アルトキハ一應其代理人ノ適法ナルコトヲ調査シテ證明ヲ與ヘタルモノト推定スルヲ當然トス從テ其委任關係ヲ否認セントスル者ハ代理ノ適法ナラサリシ事實即委任ナカリシ事實ヲ擧證スヘキ責任アリ（大正八・一・二八）

○債務ノ履行請求ト目的物不存在ヲ理由トスル免責事由ノ立證責任　債權ニ基キ物ノ引渡又ハ所有權移轉登記手續ノ履行ヲ求ムル場合ニ於テハ物權ニ基ク請求ト異リ目的物ノ不存在カ履行不能ノ原因トシテ債務者ニ免責ノ事由ト爲リ得ル場合ト雖債權者ハ其基本タル契約ノ存在ニ付立證ヲ爲セハ足リ此等免責事由ノ存在ニ付テハ却テ債務者ニ於テ之カ立證ノ責ニ任スルヲ要スルモノトス（大正八・三・一四）

○一部辨濟ヲ請求權存在ノ證左トスル主張ト之カ立證責任　當事者ノ一方カ原告トシテ其請求權ニ對シ一部ノ辨濟ヲ受ケタリトノ主張ハ其請求權ノ存在カ當事者間ニ確定セル場合ニ於テハ原告ニ不利益ナル事實ナルヲ以テ之ヲ肯定スルニ付何等ノ立證ヲ要スルモノニ非スト雖一部辨濟ノ事實ヲ以テ其請求權ノ存在ヲ證スルノ資料ト爲サントス

卷	頁
二	三五九
一	二一一
五	九二
六	二一
六	一〇五

ル場合ニ於テハ其主張ハ原告ニ利益ナル事實ナルヲ以テ原告ニ於テ之ヲ立證スル責任アリ（大正八・三・二五）

○能力ニ付テノ爭ト立證責任　朝鮮人ニシテ年齡滿十九歲三月ノ者ト雖モ其能力ニ爭アル場合ニハ能力アリト主張スル者ニ於テ其者カ法律行爲ヲ爲スニ付テノ利害得失ヲ判斷スヘキ智能ヲ具備スル事實ヲ立證スル責任アリ（大正九・二・一七）

○相場ニ依リ算定シタル金額ノ爭ト立證責任　請求金額カ一定日ノ米穀相場ニ依リ算定セラルヘキ契約ノ下ニ於テ原告ハ甲日ノ相場ニ依リ算定シタル一定金額ヲ請求シ被告ハ其請求金額中乙日ノ相場ニ依リ算定シタル金額ノ範圍ニ於テ其請求ヲ是認シタル場合ニ於テハ原告ノ提出シタル立證方法カ適切ナラサルトキト雖裁判所ハ當然被告ノ是認シタル一定金額ノ範圍ニ於テ原告ノ請求ヲ認容セサルヘカラサルモノニシテ其金額算定ノ基本タル乙日ノ相場カ適正ナルコトニ付敢テ被告ノ立證ヲ竣ツヲ要スルモノニ非ス却テ原告ニ於テ被告ノ主張シタル乙日ノ相場ヲ以テ不當ナリト爲シ自己ニ有利ナル判斷ヲ得ント欲セハ寧ロ原告ニ於テ其不當ナルコトヲ爭ヒ且此點ニ付テモ更ニ適當ナル立證ヲ爲ササルヘカラサルモノトス（大正九・七・二三）

○抗辯權附著ノ債權ノ相殺ト相殺適狀ノ立證責任　保證人ハ諸種ノ抗辯權ヲ有スルモノニシテ相殺ヲ爲ス債權者ノ債權カ保證人ニ對スル債權タル場合ニ單ニ期限ノ到來セル一事ニ依リ之ヲ以テ相殺ニ供シ得ヘキモノトスルトキハ一方ノ意思表示ニ依リ保證人ハ此等ノ抗辯權ヲ不當ニ喪失スル結果トナルモノナレハ保證債務ハ抗辯權ノ附着セル間ハ性質上相殺ニ適セサルモノトス從テ其債權者ハ此等抗辯權カ保證人ノ拋棄若クハ其他ノ事由ニ依リ消滅シ相殺ヲ爲スニ適スルニ至リタル上ニアラサレハ之ヲ以テ相殺ノ用ニ供スルヲ得サルモノニシテ其相殺適狀ニアルコトハ相殺ヲ爲ス債權者ニ於テ之ヲ主張シ立證スヘキモノトス（大正一〇・六・三）

○債務引受ニ因ル免責ト立證責任　債務引受ニ付テハ民法ニ何等ノ規定ナキヲ以テ第三者ト債權者トノ間ニ債務引

卷	頁
六	一三二
七	五六
七	三三八
八	一九四

受契約ヲ爲シタル場合ニ於テ原債務者カ其地位ヨリ脫退シテ引受人之ニ代ハリタル所謂免責的引受アリタルモノト解スヘキヤ將又引受人新ニ債務者トナリ原債務者ト共ニ同一債務ヲ負擔シタル所謂附加的引受アリタルモノト解スヘキヤハ專ラ其引受契約ノ內容如何ニ依リテ定マルヘキ事實問題ニ屬シ法律上其效果ヲ推定シタルモノナキモノトス敍上ノ場合ニ於テ原債務ニ於ケル主債務者又ハ保證債務者カ從來負擔シタル債務ノ履行ヲ請求セラレタルニ當リ免責的引受アリタリト主張シテ其債務ヲ免レントセハ一般擧證ノ原則ニ基キ其免責ノ事實ヲ主張スルニ於テ利益ヲ有スル原債務者ニ於テ之カ擧證ヲ爲スヘキ責任アリトス（大正一一・三・一〇）

○慣習上認メラレタル毋ノ管理權制限ト惡意ノ立證責任　朝鮮ニ於テ寡婦タル母カ子ノ財產ヲ管理スル場合ニ於テ著シキ不行跡ヲ爲シ子ノ財產ヲ危クスル處アルトキハ親族會ハ其管理權ヲ制限シ他ノ管理者ヲ選定スルコトヲ得タルハ大正九年頃ニ於テモ慣習ノ存スル所ナリ

如上管理權ノ制限ヲ主張セントスル者ハ第三者カ意思表示ヲ爲シタル當時該制限ノ事實ヲ知リタルコト若クハ第三者カ之ヲ知ラサリシコトニ付過失アルコトヲ主張シテ之ヲ立證スルノ責任アルモノトス（大正一一・四・四）

○手形所持人ニ對スル惡意ノ抗辯ト立證責任　手形債務者カ前主ニ對抗シ得ヘキ事由ヲ以テ讓受人ニ對抗スルニハ讓受人ノ惡意ナリシコトヲ立證セサルヘカラス而シテ裁判所ニ於テ手形債務者カ前主ニ對抗シ得ヘキ事由ノ存在ヲ認定シタリトスルモ之カ爲ニ直ニ讓受人ノ惡意ヲ推定シ得ヘキモノニ非サルヲ以テ手形債務者ハ尙進ンテ讓受人ノ惡意ナリシコトヲ立證セサルヘカラサルモノトス（大正一一・一〇・三）

○地價昂騰ニ因ル利益ノ獲得ト賣主ノ立證責任　土地ノ買主カ價格昂騰ノ機會ヲ利用シ利益ヲ獲得スヘキモノナルコトハ取引上ノ常態ナルカ故ニ買主ハ何等ノ證據ヲ提出スルコトナクシテ一應價格昂騰ノ機會ヲ利用シ利益ヲ獲得スヘカリシモノト推定スルヲ相當トス從テ賣主カ其事實ヲ爭ハントスルトキハ其昂騰シタル時期ニ於テモ尙買主カ其機會ヲ利用セサルヘカリシ事情ノ存在スルコトヲ立證スルコトヲ要ス若シ價格昂騰ノ一事ヲ以テ直ニ損害アリト爲ストキハ買主カ其機會ヲ利用シテ利益ヲ獲得セサルヘカリシニ拘ラス賠償責任ヲ認ムルコトトナリ公平ノ觀念ニ反スル不法アリト謂ハサルヘカラス（大正一一・一〇・二四）

○履行ノ提供ト立證責任　辨濟ノ提供ハ債務ノ本旨ニ從ヒテ之ヲ爲スコトヲ要シ不完全ナル履行ノ提供ハ未タ履行ノ提供アリタルモノト謂フコトヲ得サルニ依リ一方カ登記義務履行ノ提供ヲ爲シタリト主張シ他方カ登記申請書ニ目的物一部ノ記載ヲ缺如セル不完全ノ履行提供ナリト抗爭シタルトキハ履行ノ提供ヲ爲シタリト主張スル者ニ於テ完全ナル履行ノ提供ナルコトヲ立證スヘキ責任アリ（大正一二・二・一三）

○株式ノ相場昂騰ニ因ル利益ノ取得ト受託者ノ立證責任　株式ノ性質上其ノ所有者ハ相場昂騰ノ機會ヲ利用シテ利益ヲ獲得セムトスルハ取引上ノ常態ナルヲ以テ所有者ハ自ラ其ノ旨ノ主張ヲ爲スコトヲ要セスシテ一應斯ル機會ヲ利用シテ通常其ノ昂騰價格ニ相當スル利益ヲ取得スヘカリシモノトノ推定ヲ受クヘキモノトス從テ若シ所有者ヨリ返還義務不履行ノ遲滯ニ付セラレタル受託者ニ於テ所有者カ假リニ株式ノ占有ヲ回復シタリトスルモ尙且其ノ相場昂騰ノ機會ヲ利用スルヲ得サリシカ或ハ利用セサルヘカリシカヲ抗爭シテ遲滯責任ヲ免レムトスル場合ニ於テハ受託者ニ於テ自ラ其ノ主張立證ヲ爲ササルヘカラサルモノトス（大正一二・三・二七）

證據判斷

○證據共通ノ原則　當事者ノ一方ノ援用シタル證據ハ雙方ニ共通ナルヘキモノナレハ相手方ノ利益ニ採用スルモ違法ニアラス（大正元・一〇・八）

○當事者ノ援用セサル證據ト之ニ對スル採否ノ判斷　裁判所ハ當事者ノ一方ヨリ提出シタル證據ヲ相手方タル他ノ一方カ援用スト否トニ拘ラス採テ以テ相手方タル他ノ一方ノ利益ノ資料ト爲スコトヲ妨ケスト雖モ是唯タ證據ハ

頁	卷
九四三七	一〇 三三
九四〇三	一〇 七九
九二七	一二 三三
九七九	一二 七九

共通ナルヲ以テ裁判所ハ當事者雙方ノ證據ニ對シ自由ニ之ヲ判斷ノ資料ト爲スヲ得ヘシト謂フニ過キスシテ當事者ノ援用セサル證據ニ付テモ裁判所ハ當事者自ラ提出シタル證據ト同樣ニ之カ採否ノ判斷ヲ爲ササルヘカラサルモノニ非ス（大正六・二・一三）

○證據ノ不援用ト判決ノ說示　相手方ニ於テ當事者ノ一方ヨリ提出シタル證據ヲ自己ノ利益ニ援用セサル場合ニ裁判所ハ該證據ヲ右相手方ノ利益トシテ之ヲ採用セサルコトヲ判決ニ說示スルノ要ナシ（大正六・二・一三）

○提出者ニ不利益ナル認定ト證據共通　證據ハ當事者雙方ニ共通ノモノナレハ其一方ノ提出シタル證據ヲ相手方ニ於テ自己ノ利益ニ引用セサルトキト雖裁判所ハ之ニ依リテ提出者ニ不利益ナル事實ヲ認定スルモ違法ニアラス（大正六・九・二八）

○證據ノ共通性ト援用セサル所以ノ理由說示　證據ハ共通ナルニ依リ裁判所ハ當事者ノ一方カ提出シタル證據ヲ採リテ他ノ一方ノ利益ニ援用スルヲ得ヘシト雖之ヲ其利益トナルヘキモノト判斷セサルトキハ只援用セサルニ止マリ別ニ其援用セサル所以ノ理由ヲ說示スルノ責務ナシ（大正六・一一・一三）

○相手方ノ引用セサル證據ト事實認定ノ資料　證據ハ當事者雙方ニ共通ノモノナレハ縱令相手方カ之ヲ引用セサルトキト雖モ其一方ヨリ提出シタル證據ニ依リ相手方ノ主張事實ヲ認定スル資料ニ供スルコトヲ妨ケサルモノトス（大正一〇・一・二八）

○證據共通ノ法則　證據ハ當事者雙方ニ共通ノモノナレハ當事者一方ノ提出シタル證據ヲ相手方ノ利益ニ供用スルコトヲ妨ケス（大正一四・一一・二七）

○却下シタル證據調ノ實施ト證據力　裁判所カ證人訊問ノ申請ヲ却下シタルニ拘ラス誤テ其證據調ヲ囑託シ受

卷	頁
四	九五
四	九五
四	九五
四	七九六
四	九六八
八	七
一二	四三九

託廳ニ於テ訊問ヲ爲スニ當リ當事者ヨリ異議ヲ申立テスシテ訊問ヲ了リタル以上ハ其證人ノ證言ハ證據力ヲ有スルヲ以テ當事者カ之ヲ援用シタルトキハ判斷ノ資料ニ供スルコトヲ得ヘキモノトス（大正四・二・一五）

○判決ノ資料ト爲ササル證據ノ一部ト理由ノ說示　當事者ノ一方ヨリ數多ノ證據ヲ提出シタル場合ニ其一部ノ證據ヲ資料トシテ提出者タル當事者ノ主張事實ヲ認ムルニ足ルト判示シタル場合ニ他ノ一部ノ證據ヲ資料ト爲ササリシ理由ヲ說示スルノ要ナシ（大正六・二・一三）

○排斥シタル證據ト其ノ理由ノ說示　排斥シタル證據ニ對シテハ逐一排斥ノ理由ヲ說明スルヲ要セス（大正六・三〇）

○證言ノ排斥ト其ノ理由ノ說示　裁判所カ證人ノ證言ヲ信用スルニ足ラスト爲シ之ヲ排斥スルニ當リテハ單ニ其證言ノ信用スルニ足ラサル旨ヲ說示スレハ足リ更ニ進ンテ何カ故ニ信用スルニ足ラサルカノ理由ヲ說示スルノ要ナシ（大正七・一・三一）

○證據ノ取捨ト之カ採否ノ理由說示　事實裁判所カ其心證判斷ニ基キ證據ノ取捨ヲ爲スニ當リテハ唯之ヲ採用シ若クハ之ヲ排斥シタル旨ヲ說示スレハ足リ何カ故ニ之ヲ採用シ若クハ之レヲ排斥シタルカニ付心證ノ因テ生シタル理由ヲ說示スルノ要ナシ（大正七・六・二八）

○證據ノ取捨ト心證ノ因テ生シタル理由ノ說示　互ニ相反スル數多ノ證據アル場合ニ於テ其何レヲ信用シ何レヲ信用セサルカハ一ニ事實裁判所ノ心證ニ依リ之ヲ決スヘキモノニシテ其心證ノ因テ生シタル理由ノ如キハ判文ニ表示スルノ要ナキモノトス（大正八・五・一六）

○立證趣旨ノ主張ト裁判所ノ判斷　證據ハ之ヲ提供スルニ因リテ裁判所ノ判斷ヲ受クルニ足リ必スシモ當事者ノ主張ニ制限セラルヘキモノニ非ス（大正二・三・一八）

卷	頁
三	三四
四	九五
四	六二八
五	二九
五	五四八
六	三六五
二	一六九

○證據ノ綜合ト認定ノ不當　凡ソ事實承審官カ數多ノ證據ヲ綜合シテ一定ノ事實ヲ認定シタル場合ニ於テ其證據ヲ綜合シ其事實ヲ認定シ得ルモノナルトキハ其認定ハ事實承審官ノ職權ニ屬スルモノナリト雖モ若其證據ヲ綜合シ其事實ヲ認定シ得ヘカラサルモノナルトキハ其認定ハ結局證據ニ基カサル不法ノ認定タルニ歸スルモノトス（大正六・二・六）　四　七六

○同　旨　凡ソ事實承審者官カ數多ノ證據ヲ綜合シテ一定ノ事實ヲ認定シタル場合ニ於テ其證據ヲ綜合シ其事實ヲ認定シ得ルモノナルトキハ其認定ハ事實承審官ノ職權ニ屬スルモノナリト雖モ若シ其證據ヲ綜合シ其事實ヲ認定シ得ヘカラサルモノナルトキハ其認定ハ結局證據ニ基カサル不法ノ認定タルニ歸スルモノトス（大正七・五・三）　四　七六

○資料トナラサル一證據ノ綜合ト認定ノ違法　裁判所カ諸般ノ證據ヲ綜合シテ或事實ヲ認定シタル場合ニ援用シタル證據ノ一ニシテ事實認定ノ資料トナルヘキモノニ非サルトキハ該認定ハ違法タルヲ免レス（大正七・三・八）　五　一五八

○證據判斷ノ遺脫ト違法　當事者ノ提出シタル證據ニ對スル判斷ヲ遺脫シ抗辯事實ヲ排斥シタルハ違法ナリ（大正六・三・一三）　四　一七八

○立證趣旨ノ否認ト其ノ範圍　證據ノ認否ニ於テ成立ヲ認メ立證ノ趣旨ヲ否認シタル場合ハ辯論ノ全趣旨ニ徴シ其否認ノ範圍ヲ定ムヘキモノトス（大正六・一一・一六）　四　九八〇

○綜合證據ニ依ル事實認定方　諸般ノ證據ヲ綜合シテ一定ノ事實ヲ認メ得ヘキモノアルコトヲ必要トセス個々ノ證據ノ一節ニ認定事實中ノ一節ヲ認メ得ヘキモノアリテ此等ヲ綜合シ認定事實ノ全部ヲ認メ得ルニ於テハ之ヲ以テ足レリトスヘク又證據ノ一節ニ認定事實中ノ一節ニ反對ナル或事實ヲ認メ得ヘキ記載部分アリトスルモ判文上特ニ其記載部分ヲ除外スルノ要ナク唯其記載部分ヲ採用シタルニ非サルコトヲ推知シ得ルヲ以テ足レリトス（大正七・一・二五）　五　四五

○證據ノ解釋ト當事者ノ主張以外ノ事實認定　證據ノ解釋ハ裁判所ノ職權ニ屬シ當事者ノ主張ニ羈束セラルルモノニ非サルヲ以テ裁判所ハ當事者ノ主張以外ノ事實ト雖之ヲ認定シ之ヲ以テ當事者ノ主張事實ノ眞否ヲ決スル資料ト爲スコトヲ得ルモノトス（大正七・九・一〇）　五　七一四

○證據判斷ト當事者ノ主張　裁判所カ爭點事實ヲ判定スルニ際リ當事者ヨリ提出セル數多ノ證據ヲ彼此對照シ若ハ之ヲ綜合シテ考覈スルハ證據判斷ノ方法トシテ當然是認セラルヘキモノニシテ之ニ付特ニ當事者ノ申出ヲ俟ツノ要ナキモノトス（大正一四・一一・二七）　一三　四三八

○他ノ訴訟事件ニ於ケル自白ト自由心證　本件ト同一ナル當事者間ノ他ノ訴訟事件ニ於テ其一方カ相手方ニ對シテ本件ノ山地ハ門中ノ共有ナリト自白シタル事實アリテ相手方カ之ヲ本件ノ證據トシテ援用シタルトキハ該自白ハ一個ノ裁判外ノ自白ニ過キサルヲ以テ事實審タル裁判所ハ其自白ノ眞實ニ符合スルヤ否ヤ從テ其自白ノ信憑スルニ足ルヤ否ヤヲ自由ナル心證ヲ以テ判斷スルノ外ナシ（大正九・一一・一九）　七　四三七

○鑑定書中鑑定事項以外ノ記事ト證據力　過去ニ於ケル事實ノ存否ハ當事者間爭ナキカ又ハ顯著ナル事實若クハ人證書證等適法ナル方法ニ依リ之ヲ判斷スヘキモノニシテ鑑定人カ鑑定書ニ記載シタル鑑定事項以外ノ一片ノ記事ニ依リ之ヲ判斷シ得ヘキモノニ非ス卽チ鑑定書ニ記載シタル鑑定事項以外ニ於ケル過去ノ事實存否ノ記事ハ鑑定證據ノ效力ナキモノナレハ採テ以テ判決資料ト爲スコトヲ得ス（大正一〇・七・一二）　八　二四〇

○期日前ニ於ケル證據調ノ申立ト決定スヘキ裁判所　民事訴訟法第二百七十七條ハ口頭辯論ニ於ケル證據調ノ速進ノ爲メ一種ノ準備手續ヲ規定シタルモノニシテ口頭辯論期日前ニ於ケル證據調申立ノ許否ハ裁判所訴訟記錄ノ調査ニ依リテ之ヲ爲シ得ヘキカ故ニ曾テ口頭辯論ニ關與シタルコトナキ判事ヲ以テ構成スル裁判所其ノ證據決定ヲ爲シ得ヘキハ論ヲ俟タス（昭和三・一・三一）　一五　八

第二百七十四條

○檢證ノ申請ト唯一ノ證據方法　當事者ヨリ檢證ヲ申請スルモ裁判所カ他ノ證據ニ依リ十分ナル考覈ヲ得更ニ檢證ノ必要ヲ認メサルトキハ此ノ立證方法カ當事者ノ爲メ唯一ノ證據タルニ拘ラス之ヲ許可セサルコトヲ得（大正二・一〇・一四）

○反證ト唯一ノ證據方法　當事者ヨリ申出テタル證據調ニ對シ唯一ノ證據方法トシテ證據調ヲ爲ササルヘカラサルハ該證據方法カ直接爭點事實ニ對スルモノナル場合ニ限リ相手方ヨリ提出シタル證據ニ對シ更ニ反證トシテ證據調ヲ申請スル場合ノ如キハ唯一ノ證據方法トシテ證據調ヲ爲ササルヘカラサルモノニ該當セサルヲ以テ之ヲ拒否スルハ事實審ノ職權ニ屬スルモノトス（大正六・一・二六）

○證書ノ成立ヲ否認セントシテ爲セル立證ト唯一ノ證據方法　當事者ノ一方カ其主張事實ヲ立證スル爲ニ數多ノ證據ヲ提出シ相手方ヨリ提出シタル證書ヲ否認シタルニ拘ハラス該證書ノ眞正ナラサルコトヲ立證セントシテ爲セル證據調ノ申請ハ唯一ノ證據方法ニ非ス（大正六・四・二〇）

○唯一ノ證據方法ニ關スル法則違背ト破毀ノ理由　爭點事實ニ對スル當事者ノ唯一ノ證據方法ヲ杜絶シ而カモ立證ナキノ故ヲ以テ其主張事實ヲ否定シタルハ不法ナレトモ他ノ理由ニ依リ判決主文ヲ支持スルニ足ル以上ハ原判決破毀ノ理由トナラス（大正六・七・六）

○證據申出ノ採否ト唯一ノ證據方法　當事者ヨリ申出テタル證據方法ニ對シ證據調ヲ爲ササルヘカラサルハ該證據方法カ直接爭點事實ニ對スル唯一ノ證據方法タル場合ニ限ルモノニシテ然ラサル場合ニ於テハ裁判所カ之ヲ必要ト認メサルトキハ之ヲ却下スルコトヲ得ヘシ（大正六・一・二五）

○否認セラレタル證書ノ成立ニ對スル立證ト唯一ノ證據方法　爭點事實ノ立證トシテ提出シタル書證カ相手方ノ否認ニ依リ其證據力ヲ失フモノニシテ相手方ヨリ否認セラレタルトキハ當事者ハ未タ爭點事實ニ對シ何等立證ヲ爲ササルト擇フ所ナキヲ以テ斯ル場合ニ其當事者ヨリ書證ノ成立カ眞正ナルコトヲ立證セントシテ申立テタル證據調ハ是又爭點事實ニ對スル唯一ノ證據方法ナリトス（大正七・三・一二）

○他ニ證據ノ提出アルトキノ文書成立ノ立證ト唯一ノ證據方法　爭點事實ノ立證トシテ提出シタル書證カ相手方ノ否認ニ依リ證據力ヲ失フモノニアラサルカ若クハ其否認ニ依リ證據力ヲ失フモノトスルモ其書證以外ニ爭點事實ヲ立證スヘキ證據ノ提出アルトキハ其否認セラレタル書證カ眞正ニ成立セルモノナルコトヲ立證セントスル證據調ノ申立ハ唯一ノ證據方法ナリト謂フヲ得ス（大正七・三・一二）

○却下シタル唯一ノ證據方法ト判決　當事者ノ申立テタル唯一ノ證據方法ヲ却下シ其不利益ニ事實ヲ確定シタル判決ハ不法ナリ（大正一〇・二・四）

○書證提出後ニ爲シタル證人訊問申請ト唯一ノ證據方法　書證提出後更ニ同一事實ヲ立證スル爲メ申請シタル證人訊問ハ唯一ノ證據方法ニ非サレハ之ヲ却下スルモ違法ニ非ス（大正一〇・三・二五）

○鑑定ト唯一ノ證據方法　鑑定ハ裁判所ノ考覈ヲ補助スルモノナルニ過キスシテ當事者ヨリ鑑定ノ申請ヲ爲スモ裁判所カ他ノ證據カ之ヲ必要ト認メサルトキハ其鑑定ノ申請カ當事者ノ爲唯一ノ證據方法タルニ拘ラス之ヲ採用セサルコトヲ得ルモノトス（大正六・一一・九）

○同旨　鑑定ハ裁判所ノ考覈ヲ補助スルモノナルニ過キスシテ當事者ヨリ鑑定ノ申請ヲ爲スモ裁判所カ他ノ證據ニ依リ十分ナル考覈ヲ得更ニ鑑定ノ必要ヲ認メサルトキハ其鑑定ノ申請カ當事者ノ爲唯一ノ證據方法タルニ拘ラス之ヲ却下スルヲ得ルモノトス（大正七・五・三）

○補充的證據方法ト唯一ノ證據方法　事實裁判所ニ於テ自由ニ取捨スルコトヲ得ヘキ證據ノ內容如何ヲ立證セ

卷	頁
二	三四一
四	三三
四	二八四
四	六五七
五	四
五	一七五
五	一七五
八	二〇
八	九九
四	九四九
五	三六〇

ンカ爲ニ申出タル證據方法ハ證據ニ對スル補充的證據方法ニ外ナラス直接爭點事實ニ對スル唯一ノ證據方法ニ非サルヲ以テ事實裁判所ハ自由ニ之カ許否ヲ決シ得ヘキモノトス（大正八・五・九）

○二個ノ抗辯中一ニ對スル證據申請ト唯一ノ證據方法　第一賣買ハ當事者間ノ合意ニ依リ解除セラレタリ第二假ニ然ラストスルモ當事者一方ノ留保シタル解除權ノ行使ニ依リ解除セラレタリトノ主張ノ存スル場合ニ於テ右第一第二ノ主張ノ基本タル事實關係カ同一ナルトキハ格別若シ彼此別個ノモノナルニ於テハ假令第一ノ事實ニ付立證ノ存スルトキト雖第二ノ事實ニ關シ爲シタル證據調ノ申請ハ尙同事實ニ付唯一ノ證據方法タルモノナルカ故ニ之ヲ採用セスシテ主張者ニ不利益ノ判斷ヲ爲スハ採證法則ノ違背タルヲ免レサルモノトス（大正八・一一・二二）

○唯一ノ證據方法ト審級トノ關係　第一審ニ於テ被告ノ申請シタル證人ノ證言ヲ第二審ニ於テ假令原告カ援用シタル場合ト雖第一審ノ續審ナルヲ以テ當然第二審ノ證據資料トナリ從テ被告ノ新ニ申請スル證據方法カ假リニ之ヲ第一審ニ於テ提出シタル場合ニ唯一ノ證據方法ニ非サルトキハ第二審ニ於テモ亦唯一ノモノト謂フコトヲ得ス（大正一四・一一・六）

○書證ノ成立ヲ證セムトスル證據申請ノ却下ト證據判斷　訴訟ノ相手方ヨリ不知ヲ以テ爭ハレタル書證ニ付其ノ成立ヲ證スル爲ノ證據申請ヲ却下シ置キナカラ其ノ書證ノ成立ヲ認ムヘキ證左ナシトシテ之カ實質的證據力ヲ否定スルハ違法ナリトス（大正一五・一一・二）

第二百七十七條

○證據決定ノ取消又ハ變更ノ時期　證據決定ハ訴訟指揮ニ關スル裁判ナルヲ以テ裁判所ハ何時ニテモ職權ヲ以テ之ヲ取消シ若クハ變更スルコトヲ得ヘキモノトス（大正一〇・六・一七）

○民事令第三十九條ト證據決定ノ取消　朝鮮民事令第三十九條ハ注意的規定ニ過キサルニ依リ之ニ依據シテ證

卷	頁
六	三四九
六	五七四
一三	三八九
一三	三八四
八	三三〇

據決定ヲ取消スヲ許ササル本則ノ存スルコトヲ推論セントスルハ其當ヲ得サルモノトス（大正一〇・六・一七）

○證據申請ニ對シ裁判ナカリシ場合ト該申請ノ暗默ノ拋棄　當事者カ法廷外ノ證據申請ヲ爲シタルニ裁判所カ之ニ關シテ何等ノ決定ヲ爲ササリシニ對シ申請人ハ其後口頭辯論期日ニ出頭シ乍ラ之ニ關シ何等申請スル所ナク却テ辯論ノ終結セラレタル期日ニ訴訟關係ヲ表明シ證據調ノ結果ニ付辯論ヲ爲シタルトキハ申請人ハ之ニ依リテ暗默ニ該證據申請ヲ拋棄シタルモノト認ムヘキモノトス（大正一一・一二・二六）

○證據方法ノ拋棄ト證據決定取消ノ要否　當事者カ有效ニ證據方法ヲ拋棄シタルトキハ之ニ關スル證據決定ハ當然其ノ施行ヲ爲スコトヲ要セサルニ至ルモノナレハ更ニ其ノ決定ヲ取消スノ要ナキモノトス（大正一四・一一・二七）

○相手方ノ意見ヲ附記シタル證據調ノ申立ト催告ノ要否　當事者ノ一方カ口頭辯論期日前書面ヲ以テ證據調ノ申立ヲ爲シタル場合ニ於テ相手方カ該書面ニ附記シテ之ニ對スル意見ヲ申立テタルトキハ裁判所ハ更ニ相手方ニ對シ民事訴訟法第二百七十七條第二項所定ノ催告ヲ爲スノ要ナク直ニ其ノ證據決定ヲ爲シ得ヘキモノトス（昭和三・一・三一）

卷	頁
八	三三〇
一三	四三八
九	五三二
一五	八
一	七七
二	二二

第六節　人　證

證人ノ證言ヲ排斥スルニ當リ利害關係ヲ有セリトノ理由ニ於テ排斥

○利害關係アル證人ノ證言ト排斥ノ理由　證人ノ證言ヲ排斥スルニ當リ利害關係ヲ有セリトノ理由ニ於テ排斥シタルハ違法ナリ（明治四三・四・四）

○取消前ノ證言ト證據力　證人カ後ノ供述ニ依リ其以前ニ爲シタル供述ヲ取消シタルトキト雖裁判所ニ於テ後ノ供述ヲ信セスシテ却テ前ノ供述眞實ナリト認ムルトキハ之ヲ採用スルヲ得（大正二・二・二五）

○傳聞事實ノ供述ト證據力　證人ノ傳聞事實ノ供述ト雖モ證言トシテ證據ニ採用スルヲ得（大正二・九・一二）

○世上稀ニ存スル事例ト排斥ノ理由　證人ノ證言事實カ世上稀ニ存スル事例ニ屬スルノ故ヲ以テ之ヲ採用セサルハ違法ナリ（大正四・六・一五）

○證人訊問調書ニ於ケル通譯ヲ爲シタルコトノ記載ノ要否　證人訊問調書ニ朝鮮總督府裁判所通譯生兼書記某ノ署名捺印アル以上ハ同人ノ立會通譯ニ依リ行ハレタルモノニシテ其通譯ヲ爲シタルコトハ之ヲ調書ニ記載セサルモ違法トナルコトナシ（大正五・一二・二六）

○證人ノ供述ト分割取捨　同一證人ノ供述ト雖モ之ヲ分割取捨スルコトハ事實裁判所ノ職權ニ屬シ必スシモ同一證人ノ供述ヲ採用スルニ當リテ其全部ヲ採用セサルヘカラサルモノニ非ス（大正六・一・三〇）

○證言ノ分割取捨ト職權　證人ノ供述カ分割シ得ヘキ場合ニ事實裁判所ニ於テ其一部ヲ採用シテ他ノ一部ヲ排斥スルハ其職權ニ屬ス（大正九・一二・二四）

○證人ノ資格欠缺ニ對スル異議ト上告理由　證人ノ資格ニ欠クル所アレハ證人訊問ノ際若クハ遲クトモ之ニ接續スル口頭辯論ニ於テ之ヲ主張シテ異議ヲ申立ツヘク其申立ヲ爲サスシテ上告審ニ至リ之ヲ理由トシテ同證人ノ證言ヲ採用セシ原判決ヲ非難スルヲ得ス（大正六・六・二二）

○僞證審理中ニ在ル場合ト證言ノ證據力　證人カ僞證ノ訴追ヲ受ケ審理中ニ在リトスルモ同證人ノ供述ハ證據トシテ採用シ得カラサルモノニアラス（大正六・九・二八）

○契約當事者ノ意思ニ關スル證言ト證據力　證人カ契約ニ干與シタル場合ニ於テ證人ハ斯ル意思ノ下ニ契約ヲ爲シタリトノ事實及ヒ當事者モ亦斯ル意思ノ下ニ契約ヲ爲シタリトノ事實即チ過去ニ屬スル契約當時ノ事情ニ關シ證人カ實驗シタル事項ニ付供述ヲ爲シタルモノニシテ契約ノ解釋ニ關シ單ニ證人ノ意見ヲ述ヘタルモノニ非サルトキハ

卷	頁
三	三一九
三	一九四
三	二〇三二
四	四四
七	五一三
四	五六四
四	七九六

證言トシテ採用スルモ違法ニ非ス（大正六・一二・一四）

○證人申請留保ノ儘ノ結審ト上告ノ理由　證人申請ヲ留保シタル儘結審ヲ告ケタルニ對シ異議ヲ留メサルハ責問權ヲ喪失シタルモノナレハ後ニ至リ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス（大正七・五・一四）

○認定事實ヲ覆スニ足ラストノ判示ト證據判斷　判決ニ於テ立證ノ爲メ提出セラレタル多數ノ證人ノ證言中證人何某ノ證言ハ措信セス其他ノ舉證ニ依リテハ認定事實ヲ覆スニ足ラスト判示セルトキハ裁判所ハ證人何某以外ノ證人ノ證言ハ之ヲ信用スルモ其證言事項ヲ以テハ認定事實ヲ覆スニ足ラスト爲ス趣旨ト解スヘク而シテ其證言中右認定事實ヲ覆スニ足ル事項アルトキハ其證據判斷ハ失當ナリトス（大正七・一二・一三）

○不合理ナル證言ノ採用ト證據法則違背　證言ノ取捨判斷ハ事實承審官ノ職權ニ屬スト雖一定ノ時期ニ於テ或ル事實ノ存在シタル旨ノ證言カ其供述ノ全趣旨ヨリ考察シテ特ニ於テ其特殊ノ事情ノ伴フニアラサレハ不合理ニ歸スル如キ場合ニ於テ其特殊ノ事情ノ存在ヲ俟タスシテ該證言ヲ採用シタル判決ハ前示職權ノ範圍ヲ超越シ證據法則ニ違背シタル不法アルヲ免レサルモノトス（大正八・六・二七）

○前後矛盾セル證言ト取捨ノ自由　證人カ前後相矛盾セル供述ヲ爲シタル場合ニ在リテハ之ヲ取捨シテ其一ヲ採用スルカ又ハ兩者共ニ之ヲ排斥スルカハ事實裁判所ニ於ケル證據判斷ノ職權內ニ屬シ裁判所ハ心證ニ因リ其何レヲ擇フモ自由ナリ（大正一一・六・三〇）

○傳聞事實ノ供述ト證據力　證人ノ傳聞事實ノ供述ト雖證言トシテ證據ニ採用シ得ヘキモノトス（大正一四・九・一五）

○當事者本人ヨリ聽取シタル事實ノ證言ト證據力　證人ノ供述ハ當事者本人ヨリ聽取シタル事實ニ關スルモノト雖固ヨリ證言タルノ效力ニ影響ヲ及ホスモノニ非サルカ故ニ單ニ證人カ當事者本人ヨリ聽取シタル事實ノ供述ナ

卷	頁
四	二一七
五	三九一
五	九七五
六	四五四
九	二四二
一三	三〇五

ルノ故ヲ以テ直ニ其ノ證據タルノ效力ヲ否定シ得サルハ勿論又單ニ右ノ理由ノミヲ以テ該供述ヲ信用スヘカラサルモノト爲スヲ得ス（大正一四・六・二三）

第二百八十九條

○當事者ノ法律上代理人ト證人資格　訴訟ニ於テ當事者ノ法律上代理人タル親權者ヲ訊問スルノ必要アルトキハ本人訊問ノ規定ヲ適用スヘキモノニシテ之ヲ證人トシテ訊問スルハ不適法ナリトス（昭和二・一二・九）

第二百九十七條

○證言拒絕ノ權利アルコトヲ告知セサル場合ト證據力　民事訴訟法第二百九十七條第二項ハ訓示的規定ニ過キサルカ故ニ訊問前證人ニ證言拒絕ノ權利アル旨ヲ告ケスシテ訊問シタルトキト雖其證言ヲ採用スルヲ妨ケス（大正二・二・二八）

○從參加人ト親族關係アル者ノ證言拒絕權　證人ト從參加人トノ間ニ於ケル親族關係ハ證人タル資格ヲ阻却スルモノニ非ス（大正六・六・二二）

○證言拒絕ノ權利アル者ノ爲シタル證言ノ證據力　證人ト當事者トノ間ニ民事訴訟法第二百九十七條ニ規定スル身分上ノ關係アル場合ト雖證人ニ宣誓ヲ爲サシメスシテ之ヲ訊問シ其證言ヲ證據ニ採用スルヲ得ヘシ（大正七・一・三一）

第三百七條

○證人ノ宣誓ト自署捺印　民事訴訟法第三百七條ニハ證人ハ訊問前ニ宣誓ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默秘セス又何事ヲモ附加セサル旨ノ誓ヲ宣フヘシトアルノミニテ特ニ其形式ヲ制限セス故ニ書面ヲ以テ宣誓ヲ爲スヘキ場合ニ在リテモ必スシモ證人ハ之ニ自署若ハ捺印ヲ爲スコトヲ要スルモノニ非ス唯其證人ノ宣誓書タルコトヲ知リ得ルヲ以テ足ル（大正九・一一・二七）

卷	頁
一三	二三四
一四	三六六
二	一二六
四	五八四
五	二九
七	二一
一一	一七三
二	一〇八
六	三七二
六	五二一
一二	四三八

○宣誓ヲ爲サシメタル旨ノ調書ト宣誓書ノ欠缺　證人訊問調書ニ宣誓セシメタル旨揭ケアル以上其ノ方式ヲ履行シタルコト明確ニシテ宣誓書ノ存在セサルノ一事ニ依リ宣誓セサリシモノト謂フヲ得ス（大正一三・九・二）

第三百十條

○訴訟ノ成績ニ利害ノ關係ヲ有スル證人ニ宣誓セシメテ爲シタル供述ノ證據力　訴訟ノ成績ニ直接利害ノ關係ヲ有スル者ト雖宣誓ヲ爲サシメスシテ之ヲ訊問シ其證言ヲ證據ニ採用スルヲ得ルノミナラス縱令宣誓ヲ爲サシメテ之ヲ訊問スルモ當事者ニ於テ異議ヲ申立サルトキハ其證言ヲ證據トスルヲ妨ケス（大正二・二・一四）

○宣誓ヲ爲サシムヘキモノニ非サル證人ノ訊問ト上告ノ理由　裁判所カ訴訟ノ成績ニ直接ノ利害關係ヲ有スル者ヲ證人トシテ訊問スルニ當リテハ宣誓ヲ爲サシムヘキモノニ非スト雖若シ之ニ宣誓ヲ爲サシメタル場合ニ於テ當事者カ何等異議ヲ申立テサルトキハ自ラ責問權ヲ拋棄シタルモノナルヲ以テ後日ニ至リ其手續ノ違背ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス（大正八・五・一六）

○事實參考ノ爲メノ訊問ト證言　民事訴訟法中參考人ナル名稱ナク事實參考ノ爲メニ宣誓ヲ爲サシメスシテ訊問セラレタル者モ固ヨリ證人ニシテ從テ其供述ヲ證言ト稱スヘキハ當然ナリ（大正八・一〇・一八）

第三百二十條

○受託判事ニ對スル人證拋棄ノ申出　人證ノ拋棄ハ受託判事ニ申出ツルニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得（大正一四・一一・二七）

第七節　鑑　定

○鑑定ノ申出ト採否ノ自由　鑑定ハ裁判所ノ考察ヲ補助スルニ過キサルヲ以テ之ヲ許容スルト否トハ裁判所ノ職權ニ屬スヘキモノトス（大正六・四・二〇）

○同　旨　鑑定ハ裁判所ノ考察ヲ補助スルモノタルニ過キスシテ鑑定ヲ命スルト否トハ裁判所ノ職權ニ專屬スルモノナレハ之ヲ命セサルモ審理粗漏ノ不法アリト謂フヲ得ス（大正六・九・二八）

○鑑定ノ申出ト唯一ノ證據方法　鑑定ハ裁判所ノ考察ヲ補助スルモノタルニ過キサレハ縱令當事者ノ申出アルモ裁判所カ之ヲ必要ト認メサルトキハ唯一ノ證據方法タルト否トニ拘ラス之ヲ採用セサルコトヲ得ルモノトス（大正六・一一・九）

○同　旨　鑑定ハ裁判所ノ考察ヲ補助スルモノナルニ過キスシテ當事者ヨリ鑑定ノ申請ヲ爲スモ裁判所カ他ノ證據ニ依リ十分ナル考察ヲ得更ニ鑑定ノ必要ヲ認メサルトキハ其鑑定ノ申請カ當事者ノ爲唯一ノ證據方法タルニ拘ラス之ヲ却下スルヲ得ルモノトス（大正七・五・三）

○理由ノ附記ナキ鑑定書ノ證據力　鑑定ノ結果ニ付理由ヲ附セサル鑑定書ト雖モ裁判所ハ判斷ノ資料ニ供スルコトヲ得ヘシ（大正七・四・一九）

○鑑定書ニ於ケル鑑定事項以外ノ記事ト證據力　過去ニ於ケル事實ノ存否ハ當事者間爭ナキカ又ハ顯著ナル事實若クハ人證書證等適法ナル方法ニ依リ之ヲ判斷スヘキモノニシテ鑑定人カ鑑定書ニ記載シタル鑑定事項以外ノ一片ノ記事ニ依リ之ヲ判斷シ得ヘキモノニアラス卽チ鑑定書ニ記載シタル鑑定事項以外ニ於ケル過去ノ事實存否ノ記事ハ鑑定證據ノ效力ナキモノナレハ採ツテ以テ判決資料ト爲スコトヲ得ス（大正一〇・七・一二）

卷	頁
四	二八四
四	七九六
四	九四九
五	三六〇
五	三〇〇
八	二四〇

○文書ノ內容ニ依リ筆者ノ年齡ヲ測定シタル鑑定ト證據力　特定人ノ筆蹟ニ關シ其ノ作成時ニ於ケル其ノ人ノ年齡ヲ判識スルコトハ其ノ特定人ノ筆蹟ニ付特殊ノ智識經驗ヲ有スル者ニ於テ能ク之ヲ爲シ得ヘク其ノ判識ハ理論上正鵠ヲ期スルニ足ルモノナルカ故ニ鑑定トシテ訴訟上判斷ノ材料タリ得ルモノナリト雖凡ソ文書ノ作成上構想ノ熟否措辭ノ巧拙運筆ノ美醜ハ專ラ其ノ人ノ教養習練ノ程度如何ニ依リ定マリ一般年齡ニ依リ其ノ標準ヲ定ムヘキニ非ス又人ノ教養習練ハ必スシモ年齡ニ比例スルモノニ非サルカ故ニ一般年齡ヲ以テ之カ判定ノ標準ト爲スヲ得サルハ吾人ノ實驗法則上洵ニ顯著ナル事實ニ屬ス故ニ一般文筆ノコトニ堪能ナル者ハ文書ニ表ハシタル構想、措辭、運筆等ニ依リ一般的ニ其ノ筆者ノ教養習練ノ程度ヲ鑑別シ得ヘシト爲スハ格別ナルモ筆者ノ特定セサル文書ニ付單ニ其ノ文書ノ內容ノミニ依リテ一般的ニ筆者ノ年齡ヲ測知スル如キハ事寧ロ不能ニ屬スト謂フモ敢テ過言ニ非ス縱シ偶々之カ鑑別ヲ爲スモノアリトスルモ幷ハ夫ノト占ト類ヲ均ウスルモノニシテ首肯スヘキ理論上ノ根據ヲ缺クモノナレハ法律上鑑定トシテ其ノ效力ヲ否定セサルヘカラス（大正一四・九・一五）

○裁判所ノ智識ト鑑定　鑑定ハ裁判所ノ考察ヲ補助スルニ過キサルモノニシテ裁判所自ラ或事項ヲ判斷スルニ必要ナル智識ヲ具備セリト信スル場合ニ於テハ鑑定ニ依ラスシテ自己ノ智識ニ依リ判斷スルヲ妨ケス（昭和四・六・一八）

卷	頁
一三	三〇五
一六	一四四
八	四五五

第三百三十三條

○過去ニ於ケル物ノ價格評定ト鑑定證人　過去ニ於ケル物ノ價格ヲ評定スル場合ニハ或ハ特別ノ智識ニ依リテ確定シタル一箇ノ意見ヲ述フルコトアルヘク或ハ其當時自己ノ實驗シテ得タル事實ヲ述フルニ過キサルコトアルヘシ前者ノ場合ニハ鑑定ニ關スル規定ニ從フヘク後者ノ場合ニハ縱令之カ實驗ニ關シ特別ノ智識ヲ要セシ場合ナリトスルモ民事訴訟法第三百三十三條ニ從ヒ證人ニ關スル規定ニ據ルヘキモノトス（大正一〇・一一・二三）

第八節　書　證

文書ノ成立

○私署證書ノ否認ト立證責任　私署證書ハ署名者ナリトシテ對抗セラレタル者ニ於テ否認スルトキハ之ヲ對抗シタル者ニ其眞正ニ成立シタルコトヲ立證スル責任アリ（明治四三・一〇・一五）

○作成者カ成立ヲ否認シタル文書ノ證據力　證據ハ其作成者ト稱セラルル者ニ於テ其成立ヲ否認シタルトキハ他ノ事實又ハ證據ニ依リ其者ノ作成ニ係ルコトヲ認定シタル上ニアラサレハ之ヲ以テ判決ノ資料ト爲スコトヲ得ス（大正五・一一・二一）

○印章カ意思ニ反シテ押捺セラレタリトノ主張ト立證責任　凡ソ印章ハ通例其所持人ニ於テ任意之ヲ押捺シ他人カ所持人ノ意思ニ反シテ之ヲ押捺スルカ如キハ異例ニ屬ス從テ所持人ノ意思ニ反シテ他人カ押捺シタリト主張スル者ハ之ヲ立證スルノ責アリ（大正五・一二・一五）

○典當證明濟契約書ノ成立ニ爭アル場合ト立證責任　證明官吏カ典當權設定ノ證明ヲ爲シ其設定ノ契約書ニ證明濟ノ旨ヲ記入シタルトキハ其記入ノ部分ハ官吏職務上ノ記載ニ係ルヲ以テ之ヲ公正ノ證書トシテ論スルヲ得ヘキモ此記入ノ爲メ其他ノ部分マテ公正ノ文書ニ變スルモノニ非ス從テ其契約書ノ成立ニ付爭ヒアルトキハ之ヲ提出シテ利益ヲ主張スル者ニ於テ其眞正ニ成立シタルコトヲ擧證スルノ責アルモノトス（大正七・二・二六）

○擧證者自ラノ作成文書ト其ノ成否ノ認定　擧證者カ相手方ノ作成シタルモノトシテ提出シタル私署證書ノ成立ヲ相手方ニ於テ否認シタル場合ニ於テハ裁判所ハ他ノ事實又ハ證據ニ依リ其者ノ作成ニ係ルコトヲ認定シタル上ニ非サレハ之ヲ以テ判決ノ資料ト爲スコトヲ得ス然レトモ擧證者自ラ作成シタルモノトシテ提出シタル私署證書ノ成立

卷	頁
一	一三三
三	八三八
三	九六一
五	一〇三

ヲ相手方カ爭ヒタル場合ニ於テハ裁判所ハ必スシモ他ノ事實又ハ證據ニ依ラサルモ自由心證ヲ以テ其證書自體ニ依リ其成立ヲ認メ以テ判決ノ資料ト爲スコトヲ妨ケス（大正九・一二・一七）

聯○第三者ノ作成ニ係ル私署證書ト成立ノ證書　第三者ノ作成ニ係ル私署證書ノ成立ノ眞正ナルコトヲ裁判所ハ證據調ノ結果ニ據ルカ又ハ辯論ノ旨趣其ノ他證書ノ形式ヲ斟酌シテ其ノ成立ノ眞正ナルコトヲ認定セサルヘカラス（大正一四・一二・一一）

○反對　第三者ノ作成ニ係ル證書ハ相手方ノ不知ノ陳述ニヨリ當然其證據力ヲ失フモノニアラス故ニ裁判所ハ其自由ナル心證ニヨリ之ヲ信用スルト否トヲ定メ得ヘキモノトス（大正六・三・一三）

○第三者ノ作成シタル證書ハ當事者ノ認否ニ因リテ其信憑力ニ消長ヲ來スヘキモノニ非ス（大正六・六・三〇）

○裁判所カ第三者ノ作成シタル書證ヲ採用スルハ卽チ其作成ノ眞實ナルコトヲ信シタルニ因ルモノナレハ特ニ其理由ヲ開示スルノ必要ナシ（大正六・六・三〇）

○訴訟當事者ノ一方カ第三者作成ノ證書ヲ否認シタル場合ト雖裁判所ハ自由ナル心證ヲ以テ其證書ノ眞正ナルコトヲ認定シ得ヘク又之ヲ認定スルニ當リ其理由ヲ說示スルノ要ナシ（大正六・九・二五）

○第三者ノ作成シタル書面ハ訴訟當事者ノ一方ノ不知ノ陳述ニ依リ直ニ證據力ヲ失フモノニアラス（大正六・一二・四）

○第三者ノ作成名義ニ係ル事實證明書ト雖事實ヲ見聞シタル旨ノ記載アル場合ニ於テ其成立ヲ認メ得ヘキトキハ之ヲ採リテ事實認定ノ資料ト爲スヲ妨ケス（大正六・一二・四）

○第三者ノ作成ニ係ル書面ハ相手方ノ不知ノ陳述ニ依リ當然其證據力ヲ失フモノニ非スシテ裁判所ノ自由心證ニ依リ其成立ヲ認メ得ヘキモノトス（大正九・一二・一七）

○被相續人ノ作成文書ノ性質　訴訟ニ係ル當事者ノ被相續人又ハ第三者ノ作成ニ係ル證書ナリトス（大正七・四・一九）

卷	頁
七	四七五
一三	四六八
四	一五八
四	六二八
四	六二八
四	七七六
四	一〇三五
四	一〇四七
七	四七五
五	二九四

○私署證書成立ノ認定ト檢眞手續ノ要否　擧證者カ相手方ノ作成シタルモノトシテ提出シタル私署證書ノ成立ヲ相手方ニ於テ否認シタル場合ニ於テハ裁判所ハ他ノ事實又ハ證據ニ依リテ其ノ者ノ作成ニ係ルコトヲ認定スルコトヲ得ルモノニシテ其ノ成立ノ眞否ヲ判斷スルニ付必シモ檢眞ノ手續ニ依ルコトヲ要スルモノニ非ス（大正一四・一二・二七）　一三　四三八

○印影ヲ是認シタル證書ト眞否ノ認定　印章ハ通例其所持人ニ於テ任意ニ之ヲ押捺スルモノナレハ證書ニ押捺シアル印影カ當事者自己ノ印章ナルコトヲ認メタルトキハ一應其印影ハ當事者ニ於テ任意ニ之ヲ押捺シ該證書ヲ作成シタルモノト認ムヘク之ヲ覆スニ足ルヘキ反證ナキ場合ニハ該證ハ其眞正ニ成立シタルモノナリト認定スルハ相當ナリ（大正七・四・一二）　一五　七八

○名義人カ印影ヲ認メタル文書ト成立ノ認定　凡ソ書證ノ名義人名下ノ印影ヲ其名義人ニ於テ認メタル以上ハ反證ナキ限リ該證書ノ成立ヲ認ムルヲ相當トス（大正七・四・一二）　五　二六九

○證書完成後ニ於ケル他人ノ記入ト其ノ立證責任　證書名義人ノ署名竝ニ名下ノ印影ニ爭ナキ證書ハ反證ナキ限リ全部眞正ニ成立シタルモノト推定スヘキハ勿論ナルモ證書中ノ記載事項カ證書名義人ノ署名捺印後ニ於ケル他人ノ記入ニ係ハルトキハ其記入カ權限ニ基キ記入セラレタルカ若ハ其記入ニ付名義人ノ承認ヲ得タルカノ如キ特別ノ事情ナキ限リハ其記入ノ眞正ヲ認ムヘキニ非ス而シテ斯ル事情ハ其記入ノ眞正ヲ主張スルニ付利益ヲ有スルモノニ立證責任アリトス（大正七・一二・一三）　五　九七五

○刑事判決ニ於テ成立ヲ是認シタル書證ト民事裁判所ノ判斷　民事裁判所ハ刑事ノ確定判決ニ羈束セラレサルヲ原則トス刑事ノ確定判決ニ於テ成立ヲ認メラレタル書證ト雖民事裁判所ハ必スシモ其成立ヲ認メサルヘカラサルモノニ非ス（大正八・二・二五）　六　四四九

○刑事判決ニ於テ沒收セル印影ト證據力　刑事判決ニ於テ一定ノ文書ヲ沒收スル旨ノ宣告ヲ爲シタル場合ト雖モ該文書中僞造印押捺ノ部分ハ僞造ニ付沒收スト記入シアルニ止マリ從前ノ形體ヲ存シ其記載印影等文書ノ內容ヲ調査スルニ缺クル所ナキトキハ民事裁判所ニ於テ證據トシテ採用スルヲ妨ケス（大正九・三・九）　七　八〇

○日附アル證書ト其ノ作成日ノ推定　證書ニ日附アル場合ニ於テハ特別ノ事由ノ認メラレサル限リ證書ハ其日附日ニ作成セラレタルモノト推定スヘキモノトス（大正一二・三・一三）　一〇　五五

○筆跡若ハ印影ノ對照ト私署證書眞否ノ判斷　相手方カ私署證書ノ成立ヲ否認セル場合ニ於テ擧證者カ其ノ成立ノ眞正ナルコトヲ確ムル爲同證書署名者ノ筆蹟若ハ印影カ眞正ニ成立セル他ノ證書ノ印影ト同一ナリトシ其ノ對照ヲ求メタルトキハ裁判所ハ其ノ異同ヲ鑑別シ其ノ私署證書ノ眞否ヲ判斷スヘキモノトス（大正一四・一一・二七）　一三　四三八

○先代作成名義ノ證書ニ對スル不知ノ陳述　訴訟ニ係ル權利關係ニ付相續人トシテ訴訟當事者ト爲リタル者ハ被相續人作成名義ノ證書ニ付不知ノ陳述ヲ以テ其ノ成立ヲ爭フコトヲ得ルモノトス（大正一五・一〇・二六）　一三　三四九

○書證ノ成立ヲ證セムトスル證據申請ノ却下ト證據判斷　訴訟ノ相手方ヨリ不知ヲ以テ爭ハレタル書證ニ付其ノ成立ヲ證スル爲ノ證據申請ヲ却下シ置キナカラ其ノ證據ノ成立ヲ認ムヘキ證左ナシトシテ之カ實質的證據力ヲ否定スルハ違法ナリトス（大正一五・一一・二）　一三　三八四

○執達吏職務取扱ノ證明書ト公正證書　證書ノ形式上執達吏職務取扱カ其ノ資格ニ於テ職務上取扱ヒタル事項ニ付其ノ權限內ニ於テ作成シタル證明書ハ公正證書ナリトス（昭和二・七・五）　一四　一八九

○公正證書ノ形式的證據力　公正證書ハ僞造又ハ變造ナリトノ裁判アルニ非サレハ其ノ眞正ニ成立シタルコトヲ否定スルコトヲ得サルモノトス（昭和二・七・五）　一四　一八九

文書ノ證據力

○闕席判決ト其ノ證據力　當事者カ確定シタル闕席判決ヲ以テ證據方法ト爲シタルトキト雖其內容ヲ調査シテ信

用スヘキヤ否ヤヲ判斷スヘク單ニ闕席判決ナルノ故ヲ以テ判斷ノ資料トナラスト論斷スルハ違法ナリ　（大正八・一・二八）

○樣式ニ適ハサル土地臺帳ノ證據力　土地臺帳カ規定ノ樣式ヲ具備セサルトキ之ヲ土地臺帳ト認ムヘカラサルモノト爲シタルカ如キ趣旨ノ法令存セサルヲ以テ樣式ニ適ハサル所アル土地臺帳ト雖裁判所カ之ヲ土地臺帳ト認ムルニ何等ノ妨ナク斯ル土地臺帳ノ謄本ヲ信用スルト否トハ事實承審官ノ心證判斷ニ屬スルモノトス　（大正六・三・二七）

○民籍簿ノ證據力　民籍簿ハ民籍法ノ規定ニ基キ作成セラルル公文書ナルヲ以テ其記載事項ハ一應事實ニ適合スルモノト認ムヘク他ニ反證アルニ非サレハ其記載事項ヲ以テ直チニ虛僞ナリト斷スルヲ得ス　（大正六・一二・二六）

○民籍簿中僧尼ノ師弟關係ノ記載ト證據力　民籍簿ハ民籍法ノ規定ニ基キ作成セラルル公文書ナルヲ以テ其記載事項ハ一應事實ニ適合スルモノト認ムヘク他ニ反證アルニアラサレハ其記載事項ヲ以テ虛僞ナリト斷スルヲ得サルモノナリト雖モ斯ハ民籍ノ取扱上適法ニ民籍簿ニ記載スヘキ事項ノ記載タル場合ニ限ルヘク僧尼ノ師弟關係ノ如キハ其取扱上適法ニ記載スヘキ事項ニアラサレハ斯ル記載ニ付テハ裁判所ハ自由ニ其判斷ヲ爲シ得ヘシ　（大正七・二・五）

○民籍簿ノ證據力　民籍法規ハ行政取締法規タルト同時ニ家及身分ノ發生變更消滅ノ公示竝證明ニ關スル法規ナルヲ以テ此等ノ事項ヲ民籍法所定ノ民籍簿ニ登錄スルトキハ該事項ハ一應事實ニ適合スルモノト推定ヲ受クヘキモノトス　（大正八・四・一五）

○民籍簿ノ記載ト異リタル事實ノ認定　民籍簿ハ民籍上ノ身分ニ關スル公正證書ナリト雖モ絕對的信憑力ヲ有スルモノニ非スシテ反證ノ存スルニ於テハ裁判所ハ之ト異リタル事實ノ認定ヲ爲スヲ妨クルモノニ非ス　（大正九・六・二五）

卷	頁
六	二
四	三〇七
四	二一七
五	六八
六	一九七
七	二九四

○官吏又ハ公吏ノ作成シタル文書ノ證據力　官吏又ハ公吏カ其職務上法令ノ規定ニ基キ作成シタル文書ハ所謂公正證書ニ屬シ反證アル迄其記載事項ニ付完全ノ證據力ヲ有ス　（大正七・五・一七）

○面長ノ作成ニ係ル證明書ト證據力　面長ノ作成シタル證明書ト雖モ面長カ其職務上法令ノ規定ニ基キ作成シタル文書ニアラサル以上ハ固ヨリ公正證書ヲ以テ論スヘキモノニ非ス從テ其記載ノ內容ヲ信用スルト否トハ事實裁判所ノ職權ニ屬ス　（大正七・五・一七）

○公正證書ノ證據力　公正證書ハ官吏又ハ公吏カ其職務上法令ノ規定ニ基キ一定ノ事實關係及法律關係ヲ公證スル目的ヲ以テ作成シタル文書ナルヲ以テ公正證書ノ記載事項ハ其公證ノ目的ノ範圍內ニ於テ完全ナル證據力ヲ有スルヤ勿論ナリ　（大正九・一・二七）

○不動產登記簿ノ登記事項ト公信力　登記簿ハ登記官吏カ法令ノ規定ニ基キ作成シタル公正證書ニ屬シ其目的ハ單ニ登記手續ニ關スル事實關係ノミナラス登記事項タル一定ノ法律關係ノ眞實ナルコトヲ公證スルニ在ルモノナレハ反證ナキ限リハ裁判所ハ輒ク其登記事項ニ對スル公信力ヲ否認スルコトヲ得サルモノトス　（大正九・一・二七）

○告訴調書ノ證據力　民事訴訟ノ原告カ當該係爭事實ニ關シ被告ニ對シ提起シタル告訴事件ニ於テ告訴人トシテ檢事ニ對シ爲シタル供述ヲ錄取セル調書ト雖モ之ヲ當該民事訴訟ノ證據ト爲スコトハ法律ノ禁止スル所ニ非サルカ故ニ裁判所ハ自由ナル心證ヲ以テ其供述ノ信憑スヘキヤ否ヤヲ判斷シ之ヲ信用シタルトキハ原告ノ利益ニ之ヲ採用スルヤ勿論ナリ　（大正九・二・六）

○不起訴處分トナリタル事件ノ調書ト證據力　民事裁判所ハ元ヨリ檢事ノ判斷ニ羈束セラルヘキモノニアラサルヲ以テ如上告訴事件カ假令證據不十分ノ理由ヲ以テ不起訴處分ト爲リタリトスルモ該調書ノ證據力ハ之ニ依リ何等消長ヲ來タスヘキモノニアラス　（大正九・二・六）

卷	頁
五	四二七
五	四二七
七	三三
七	三三
七	七
七	七

○大豆粕ノ賣買斡旋ニ關スル郡守ノ證明書ト證據力　金肥施用奬勵ノ爲ニ郡守カ商人ト郡内農民トノ間ニ立チテ大豆粕ノ賣買ヲ斡旋スルハ郡守ノ行政事務ノ一ニ屬シ之ニ關スル證明ハ職務上ノ事項ニ關スルモノナルカ故ニ賣買當時ノ郡守ト證明當時ノ郡守ト其ノ人ヲ異ニスルトキト雖郡守ノ名ヲ以テ證明ヲ與フルコトヲ得ヘク訴訟奬屬中ノ作成ニ係ル故ヲ以テ證據力ナシト謂フヲ得ス（大正一五・一一・二）　一三　三八九

○公證ノ目的ノ範圍外ニ屬スル記載事項ト證據力　公正證書ノ記載事項カ過去ニ成立セシ法律完全ナル證據力ヲ有スルモ其カ公證ノ目的ノ範圍外ノモノナルトキハ縱令其ノ成立ヲ認ムヘキ場合ニ於テモ之ヲ措信シテ事實認定ノ資料ニ供スルト否トハ事實承審官ノ自由ナル心證ニ基キテ決スルコトヲ得ヘキモノトス（大正一四・一二・一五）　一三　四八七

○過去ニ成立セシ法律行爲ノ錄取記載ト公正證書ノ證據力　公正證書ノ記載事項ハ其ノ公正ノ目的ノ範圍内ニ於テハ行爲ニ付當事者ヨリ聽取リタル陳述ヲ錄取セルニ過キサルモノナルトキハ當該法律行爲ノ成立ノ眞否ハ公證ノ目的ノ範圍ニ屬セサルモノトス（大正一四・一二・一五）　一三　四八七

○自家作成ノ日記帳ノ證據力　自家作成ノ日記帳ノ記載ト雖裁判所ハ採テ證據ト爲シ得ヘク相手方ノ否認ニ依リテ左右セラルヘキモノニアラス（大正元・一〇・一四）　二　一六

○商業帳簿ノ證據力　商業帳簿ト雖其記載ヲ信用スルト否トハ裁判所ノ自由ナル心證判斷ニ一任シタルモノトス（大正五・七・二一）　三　六六〇

○同　旨　商業帳簿ノ證據力ニ關シテハ法律上特ニ規定スル所ナキヲ以テ其記載ヲ信用スルト否トハ專ラ事實裁判所ノ自由ナル心證判斷ニ委スヘキモノナリ（大正七・三・一五）　五　一九三

○當事者ノ作成ニ係ル文書ノ證據力　當事者一方ノ作成シタル文書ト雖裁判所ハ之ヲ採テ以テ作成者ノ爲メ利益ナル事實ヲ認定スルノ資料ニ供スルヲ妨ケス（大正七・四・一九）　五　二〇四

○係爭事實證明ノ爲メニスル第三者作成ノ文書ト證據力　第三者カ作成シタル書證ナリト雖訴訟ニ關スル係爭事實ヲ證明スル爲特ニ作成セラレタル一私人ノ證明書ハ證據力ナキモノニシテ其書面ノ形式カ證明書體ナルト書翰文體ナルトヲ問ハス苟モ其内容ニ於テ簽上ノ如キ證明書タル以上ハ證據トシテ採用スルヲ得ス（大正九・四・二三）　七　一三一

○訴訟進行中作成セル一私人ノ證明書ト證據力　訴訟進行中其係爭事實ヲ證明スル爲特ニ作成セラレタル一私人ノ證明書ハ證據力ナキモノニシテ其書面ノ形式カ證明書體ナルト書翰文體ナルトヲ問ハス苟モ其内容ノ事實ヲ否認スル以上ハ書證トシテ其證據力ヲ有セス（大正七・九・六）　五　六九九

○係爭事實證明ノ爲メニスル第三者作成ノ文書ト證據力　第三者カ作成シタル書證ナリト雖訴訟ニ關スル係爭事實ヲ證明スル爲特ニ作成セラレタル一私人ノ證明書ハ證據力ナキモノニシテ其書面ノ形式カ證明書體ナルト書翰文體ナルトヲ問ハス苟モ其内容ニ於テ簽上ノ如キ證明書タル以上ハ證據トシテ採用スルヲ得ス（大正九・四・二三）　七　一三一

○係爭事實證明ノ目的ニ出テタル第三者ノ文書ト證據力　訴ノ提起ト同時又ハ其訴訟進行中第三者ノ作成シタル證明書ハ證據力ナキモノニシテ其書面ノ形式カ證明書體ナルト始末書體ナルトヲ問ハス苟モ其内容ニシテ特ニ該訴訟ニ關スル係爭事實ヲ證明スル目的ニ出テタル以上縱令其成立眞正ナルモ證據力ナキモノニシテ之ヲ證據トシテ採用スルヲ得サルモノトス（大正一一・六・六）　九　一九二

○同　旨　訴訟ノ進行中其ノ係爭事實ヲ證明スル爲特ニ作成セラレタル一私人ノ證明書ハ證據力ナシ（大正一四・二・一三）　一二　一

○作成名義人ノ否認シタル證書ト證據力　當事者ノ一方ヨリ提出シタル私署證書ハ縱令其作成名義人タル相手方ニ於テ其成立ヲ否認スルモ其眞正ニ成立シタルコトヲ認ムルニ足ルヘキ事實證據ノ存スルトキハ之ヲ證據トシテ採用スルコトヲ得ヘシ（大正六・六・八）　四　四九六

○文書ノ内容トスル法律行爲ト證據力　當事者間ニ成立シタル書證ノ内容トスル法律行爲ニ付テハ當事者間ニ有效ニ成立シタルモノト推定スヘキモノナルヲ以テ裁判所ニ於テモ反證ナキ限リ其内容ヲ措信スルヲ相當トス（大正

七・四・一二）

○内容證明郵便ト記載事項ノ證明力　郵便物ノ内容證明ハ其内容トスル文書カ書留ヲ以テ發送人ヨリ名宛人ニ發送セラレタルコトヲ證明スルモノナレトモ其内容トスル文書ノ記載カ果シテ眞實ノ事實ニ符合スルヤ否ヤニ付テハ公正ノ證明力ヲ有スルモノニ非ス（大正七・四・二三）

○同　旨　郵便物ノ内容證明ハ其内容トスル文書カ書留ヲ以テ發送人ヨリ名宛人ニ發送セラレタルコトヲ證明スルモノナレトモ其内容トスル文書ノ記載カ果シテ眞實ノ事實ニ符合スルヤ否ヤニ付テハ公正ノ證明力ヲ有スルモノニ非ス（大正一一・一一・二一）

○立證ノ趣旨ニ符合スル記載ト證據判斷　書證ニシテ一應立證趣旨ニ符合スル記載アリト解シ得ヘキ場合ニ於テ他ニ特別ノ理由ノ存スルコトヲ明示セスシテ爾カク解スルヲ得スト判斷スルハ採證ノ法則ニ違反スルモノトス（大正七・一〇・二五）

○無效ニ歸シタリトノ抗辯アル證書ノ採用ト判斷　當事者ノ一方ノ提出シタル書證ハ相手方カ解除其他ノ原因ニ依リ無效ニ歸シタルコトヲ以テ爭フトキト雖其成立ニ付爭ナキ以上ハ尚一定ノ事實認定ノ資料ニ供シ得ルモノニシテ之カ爲必ス先ツ該書證カ解除其他ノ原因ニ依リ無效ニ歸シタルモノニ非サルコトヲ確定スルヲ要スルモノニ非ス（大正八・二・二八）

○金錢貸借證書ト一部ノ貸借關係成立ノ認定　金錢貸借證書ノ成立ニツキ爭ナキトキハ該證書ハ其表示ノ貸借事實ニツキ證據力ヲ有スルコト勿論ナレハ何等適切ナル反證ナキ場合ニハ該證書ニ依リ其表示ノ時期ニ於テ表示全部ニツキ貸借ノ成立セシ事實ヲ認定シ得ヘク又其金額ノ一部ニツキ適切ナル反證アルモ他ノ一部ニツキ之カ反證ナキ場合ニハ其反證ナキ部分ニ限リ該證書ハ尚ホ證據力ヲ保有スルモノナレハ之ニ依リ其一部ノ金額ニ對スル貸借ノ事實ヲ認

卷	頁
五	二六九
五	三一一
九	四九七
五	七九〇
六	五四

定スルヲ妨ケサルモノトス（大正八・四・一八）

○係爭事件ニ關聯セル内容ヲ有スル告訴狀ト證據力　告訴狀及告訴補充書ハ刑事事件ノ爲メニ作成セラレタルモノナルヲ以テ假令訴訟當事者ノ一方ノ申告ニ出テ且其書類ノ内容カ係爭民事事件ニ關聯スルトキト雖之ヲ係爭民事事件ノ證據ニ採用シテ其訴訟當事者ノ一方ニ利益ナル判斷ノ資料ニ供スルヲ妨ケサルモノトス（大正一〇・四・八）

○從參加人作成ノ文書ト證據力　舉證者タル當事者一方ヲ補助スル爲メ之ニ附隨スル從參加人カ作成シタル文書ト雖モ又其文書カ訴訟提起後ノ作成ニ係ルモノト雖モ必スシモ判斷ノ資料ト爲スヘカラサルモノニ非スシテ之ヲ採用スルト否トハ事實承審官ノ自由裁量ニ屬スヘキモノトス（大正一〇・一一・一五）

第三百三十四條

○口頭辯論ニ現ハレサル證書ト判斷ノ資料　口頭辯論ノ際ニ現ハレサル書證ヲ採テ判斷ノ資料ニ供スルハ採證ノ法則ニ違反ス（明治四四・一〇・一六）

○書證ト印影筆蹟ノ對照　書證ニハ或證書ニ存スル筆蹟又ハ印影ヲ他ノ書面ニ存スル筆蹟又ハ印影ト對照シテ其異同ヲ甄別スルカ如キコトヲモ包含スルモノト解スルヲ相當トス（大正一四・一一・二七）

○私署證書ノ否認ト記錄中ノ印影ノ對照　相手方カ私署證書ノ成立ヲ否認セル場合ニ擧證者カ其成立ノ眞正ナルコトヲ確ムル爲メ同證書署名者ノ印影カ一件記錄中ノ同人ノ故障申立書ノ印影ト同一ナリトシ其對照ヲ求メタルトキハ裁判所ハ其異同ヲ鑑別シ其私署證書ノ眞否ヲ判斷スルヲ相當トス（大正九・六・二二）

○筆蹟若ハ印影ノ對照ト證書眞否ノ判斷　相手方カ私署證書ノ成立ヲ否認セル場合ニ於テ擧證者カ其ノ成立ノ眞正ナルコトヲ確ムル爲同證書署名者ノ筆蹟若ハ印影カ眞正ニ成立セル他ノ證書ノ印影ト同一ナリトシ其ノ對照ヲ求メタルトキハ裁判所ハ其ノ異同ヲ鑑別シ其ノ私署證書ノ眞否ヲ判斷スヘキモノトス（大正一四・一一・二七）

卷	頁
六	二六〇
八	一二三
一	二九一
八	四一八
一三	四三八
七	二八三
一三	四三八

第三百五十一條

○檢眞ヲ經タル私署證書ノ意義　民事訴訟法第三百五十一條ニ所謂檢査ヲ經タル私署證書トハ他ノ訴訟ニ於テ特ニ檢眞ノ裁判ヲ經又ハ判決ノ理由中ニ包含シテ檢眞裁判ヲ經タルモノニシテ其裁判又ハ判決ノ確定シタル場合ニ限リ之ヲ指稱スルモノトス從テ現ニ繫屬中ノ訴訟ニ於テ檢眞ノ裁判ヲ受ケタリトスルモ右法條ニ所謂檢眞ヲ經タルモノニ該當セス（大正七・二・二六）

第三百五十二條

○第三者作成ノ證書ト檢眞ノ申立　民事訴訟法第三百五十二條ニ依ル檢眞ハ當事者ノ作成ニ係ル私署證書ノ署名者カ其證書ノ眞否ヲ爭フ場合ニ於テ擧證者ノ申立ニ依リ之ヲ爲スヘキモノニ非ス（大正七・二・五）

○私署證書成立ノ認定ト檢眞手續ノ要否　擧證者カ相手方ノ作成シタルモノトシテ提出シタル私署證書ノ成立ヲ相手方ニ於テ否認シタル場合ニ於テハ裁判所ハ他ノ事實又ハ證據ニ依リテ其ノ者ノ作成ニ係ルコトヲ認定スルコトヲ得ルモノニシテ其ノ成立ノ眞否ヲ判斷スルニ付必シモ檢眞ノ手續ニ依ルコトヲ要スルモノニ非ス（大正一四・一二・三七）

第九節　檢　證

○印紙ノ貼用ナキ申請ニ基ク檢證ト證據力　相當印紙ノ貼用ナキ檢證申請書ハ無效ナルモ檢證處分ヲ無效ナラシムルコトナシ（大正元・一一・二二）

○檢證ニ關スル判事ノ意見ト證據力　檢證ニ關スル判事ノ意見ハ證據トシテ判斷ノ資料ニ供スルヲ得（大正二・一〇・一四）

○檢證ノ申請ト唯一ノ證據方法　當事者ヨリ檢證ヲ申請スルモ裁判所カ他ノ證據ニ依リ十分ナル考察ヲ得更ニ檢證ノ必要ヲ認メサルトキハ此ノ立證方法カ當事者ノ爲メ唯一ノ證據タルニ拘ラス之ヲ許可セサルコトヲ得（大正二・一〇・一四）

○任命ノ形跡ナキ受命判事ノ爲シタル檢證ト其ノ效力　口頭辯論調書其他ノ記錄ニ受命判事ヲ命シタル旨ノ記載ナキニ拘ハラス或判事カ受命判事トシテ檢證ヲ爲シタル場合ハ手續上ノ違背タルヲ免レスト雖モ檢證調書ニヨリ其判事カ受命判事ニ指定セラレタルコトヲ認メ得ヘク且當事者カ何等ノ異議ヲ留メスシテ判決ヲ受ケタルトキハ責問權ヲ拋棄シタルモノト看做スヘキモノトス（大正六・二・六）

○檢證調書ニ記載セラレタル當事者ノ事實上ノ主張ト裁判所ノ判斷　檢證ハ係爭事實判斷ノ資料ニ供スル爲申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ爲スヘキモノナレハ其事件ニ付作成セラレタル檢證調書ハ一ノ證據方法タルニ外ナラス又受訴裁判所ニ於ケル當事者ノ事實上ノ主張ハ受訴裁判所ノ口頭辯論ニ於テ之ヲ爲スヘク檢證ノ際受命判事ノ面前ニ於テ爲シタル當事者ノ事實上ノ主張ノ如キハ單ニ受命判事ノ檢證施行ニ資スル效力アルニ過キサルモノナレハ其主張カ檢證調書ニ記載セラレ其後受訴裁判所ノ口頭辯論ニ於テ當事者カ該調書ヲ證據トシテ採用シタルトキト雖之ヲ採用スルト否トハ他ノ證據方法ト等シク受訴裁判所ノ口頭辯論ニ於テ爲サレタルニアラスシテ單ニ檢證調書ニ記載セラレタル當事者ノ事實上ノ主張ノ如キハ受訴裁判所ヲ羈束スルコトナキモノトス（大正六・三・二七）

第十節　當事者本人ノ訊問

第三百六十條

○本人訊問ノ結果ト自由ナル心證　當事者本人ノ訊問ハ一種ノ證據方法ニシテ其訊問ノ結果ニ付テハ供述シタル當事者ノ利益ニ歸スルト否トニ拘ラス裁判所ハ自由ナル心證ヲ以テ判斷スルヲ得ヘキモノトス（大正三・三・二四）

○本人訴訟ト當事者本人訊問ノ規定ノ適用　民事訴訟法第三百六十條ノ法意ハ苟モ裁判所カ證據調ノ結果證スヘキ事實ノ眞否ニ付心證ヲ得ルニ足ラサルトキハ本人自ラ訴訟行爲ヲ爲ス場合ナルト或ハ訴訟代理人ニ委任シ訴訟行爲ヲ爲ス場合ナルトヲ問ハス申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ本人ノ訊問ヲ爲スコトヲ得ヘキモノト解スルヲ相當トス（大正一一・一〇・一三）

○本人訊問ト其ノ證據力　本人訊問ノ結果ハ他ノ證據原因ト相俟ッテ初メテ事實認定ノ資料ト爲スコトヲ得ルモ單獨ニテ事實認定ノ資料ト爲スコトヲ得サルモノトス（大正一四・一二・八）

第三百六十四條

○法律上代理人ト本人訊問　訴訟ニ於テ當事者ノ法律上代理人タル親權者ヲ訊問スルノ必要アルトキハ本人訊問ノ規定ヲ適用スヘキモノニシテ之ヲ證人トシテ訊問スルハ不適法ナリトス（昭和二・一二・九）

第二章　區裁判所ノ訴訟手續

第一節　通常ノ訴訟手續

第三百八十一條

○無效又ハ取消ノ原因アル和解ノ效力　民事訴訟法第三百八十一條ニ依レル和解ハ私法上不成立又ハ無效若ハ取消又ハ解除ノ原因アルトキハ特ニ和解無效又ハ取消等ノ形成判決ヲ受クル迄モ無ク此等ノ效果ヲ生スルモノトス（大正一三・五・二二）

第三編　上訴

第一章　控訴

第三百九十六條

○他人ノ代理人ト詐稱シテ申立テタル控訴ト本人ニ對スル效力　甲者カ乙者ノ訴訟代理人ト詐稱シ自ラ第一審判決ニ對シ控訴ヲ提起シタル場合ニ於テ乙者ニ對シ言渡サレタル判決ハ現ニ控訴ヲ提起セス從テ當事者ニアラサル乙者ニ對シ效力アルヘキ理由ナク乙者ハ該判決ニツキ何等ノ利害ヲ有スルモノニアラサルカ故ニ乙者カ其訴訟ノ繫屬中斯ノ如キ事實ヲ覺知スルコトアルモ自ラ當事者トシテ該訴訟ニ介入シ其進行ヲ阻止スルノ權能ヲ有セサルモノトス（大正八・四・二九）

○共同訴訟人中一部ノ控訴申立ト他ノ共同訴訟人ニ對スル效力　總テノ共同訴訟人ニ對シ訴訟ニ係ル權利關係カ合一ニノミ確定スヘキ事案ニツキ共同訴訟人中ノ或者カ第一審裁判所ノ判決ニ對シ控訴ヲ爲シタルトキハ總テノ共同訴訟人カ控訴ヲ爲シタルモノト看做スヘキモノナルモ右ハ第一審裁判所カ事案ニツキ民事訴訟法第五十條ノ規定ニ準據シテ總テノ共同訴訟人ニツキ合一ニ歸スヘキ判決ヲ爲シタル場合ニ限リ認ムヘキ法理ニ係ル（大正八・四・二九）

○訴訟物ノ表示ノミノ訂正ト控訴又ハ附帶控訴　控訴又ハ附帶控訴ハ原告若ハ被告カ第一審ニ於テ自己ニ不利益ナル判決ヲ受ケタル場合ニ於テ之ニ對シ不服ヲ申立ツル方法ナルカ故ニ第一審ニ於テ自己申立ノ如キ判決ヲ受ケタル原告カ第二審ニ於テ訴訟物自體ヲ變更セシテ單ニ訴訟物ノ表示ノミヲ訂正シ以テ第一審判決ヲ維持セントスルトキハ相手方カ控訴シタル場合ニ於テ單ニ申立ノ訂正ヲ爲スヲ以テ足リ自ラ控訴又ハ附帶控訴ヲ爲スヘキモノニ非ス（大正九・五・二八）

○必要的共同訴訟人中ノ一部ノ控訴申立ノ效力　必要的共同訴訟ニ於テ共同訴訟人中ノ或者カ第一審判決ニ對シ控訴ノ申立ヲ爲シタルトキハ假令之ヲ爲ササル者アルモ此ノ者亦控訴ノ申立ヲ爲シタルモノト同一ニ看做サレ控訴裁判所ノ審理判決ヲ受クヘキモノトス

斯ル場合ニ於テハ控訴裁判所ハ控訴ノ申立ヲ爲ササル共同訴訟人ニ對シテモ民事訴訟法第五十條第五項ノ規定ニ依リ總テノ送達及呼出ヲ爲スコトヲ要スルモノトス（昭和二・七・二二）

第三百九十八條

○本條ニ所謂懈怠ナカリシコトヲ理由トスルトキノ意　民事訴訟法第三百九十八條ニ所謂「懈怠ナカリシコトヲ理由トスルトキアルハ呼出狀ノ送達ナカリシトキ又ハ期日ニ於テ事件ノ呼上ヲ爲ササリシカ如キ裁判所カ闕席判決ヲ爲スヘカラサリシ場合ニ之ヲ爲シタルコトヲ理由トスルトキノ謂ニシテ當事者ノ代理人カ天災其他避クヘカラサル事變ノ爲メ指定ノ期日ニ出頭スルコトヲ得サリシ場合ノ如キヲ謂ハス（大正二・七・四）

○同　旨　民事訴訟法第三百九十八條但書ニ所謂懈怠ナカリシコトヲ理由トスルトキアルハ裁判所カ闕席判決ヲ爲スヘカラサル場合ナルニ爲スヘキ場合ナリト誤認シタルヲ理由トスルトキノ謂ニシテ例ヘハ闕席判決ノ申立ナキニ闕席判決ヲ爲シタルカ闕席判決ヲ受ケタル者カ現ニ出頭シテ辯論ヲ爲シタルニ拘ハラス之ニ對シテ闕席判決ヲ言渡シタルカ口頭辯論ノ爲ニ指定セサル期日ニ闕席判決ヲ爲シタルカ若クハ呼出ヲ爲サス又ハ呼出ヲ爲シタルモ適式ナラサリシニ闕席判決ヲ爲シタル場合ヲ指稱スルモノトス（大正七・二・一五）

○同　旨　民事訴訟法第三百九十八條ニ所謂「懈怠ナカリシコトヲ理由トスルトキ」トハ當事者カ指定ノ期日ニ出廷シテ辯論ヲ爲シタルニ拘ラス出頭セサルモノトシ又ハ辯論期日ニ適法ノ呼出ナキニ拘ラス之レアリタルモノトシ若クハ期日ニ於テ事件ノ呼上ヲ爲ササルニ拘ラス之ヲ爲シタルモノトシテ闕席判決ヲ爲シタルカ如キ場合ヲ指稱スルモノニシテ卽チ裁判所カ闕席判決ヲ爲スヘカラサリシ場合ニ之ヲ爲シタルコトヲ理由トスルノ謂ナリ（大正七・一二・一三）

○同　旨　民事訴訟法第三百九十八條ニ所謂「懈怠ナカリシコト」トハ當事者ノ責ニ歸スヘキ原因ナクシテ天災其ノ他避クヘカラサル事變ノ爲ニノミ出頭スルコト能ハサル事由ノ存スルトキノ意義ニ解スヘキモノトス（昭和三・四・一二）

○便船ヲ失シテ指定期日ニ出頭スルコトヲ得サリシ場合ト本條但書ニ所謂懈怠　民事訴訟法第三百九十八條ハ同法第四百五十四條ノ規定ニ依リ上告ニ準用スヘキモノナリ而シテ當事者カ船便ヲ失シテ指定ノ期日ニ出頭スルコトヲ得サリシ場合ノ如キハ右第三百九十八條但書ニ所謂懈怠ナカリシ場合ニ該當セサルヲ以テ之ヲ理由トシテ上告ヲ申立ツルモ許スヘカラサルモノトス（大正五・一・一四）

卷	頁
六	二七八
七	一九三
一四	三二九
二	二五九
五	八六
五	九八四
一五	九六
三	二七七

○本條但書ノ法意　民事訴訟法第三百九十八條但書ノ規定ハ同法第二百六十三條ニ依ル新闕席判決竝朝鮮民事令第三十五條ニ依ル再度ノ闕席判決ノ如キ故障ヲ許ササル闕席判決其モノカ當事者ノ懈怠ニ基カスシテ言渡サレタル場合ニ限リ之ヲ理由トシテ控訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ許シタル法意ナリト解スヘキモノトス（大正五・二・一五）

○洪水ニ因ル出頭ノ不能ト本條但書ニ所謂懈怠　當事者カ洪水ノ爲交通杜絶シ指定ノ期日ニ出頭シ能ハサリシ場合ノ如キハ民事訴訟法第三百九十八條但書ノ場合ニ該當セス（大正七・一二・一三）

○訴訟代理人ニ依ル訴訟ト懈怠ノ事由　右懈怠ノ有無ハ訴訟代理人ニ付之ヲ判定スヘキモノトス（昭和三・四・一二）

第四百條

○從參加人ノ上訴期間　從參加人ノ上訴期間ハ其ノ補助スル主タル當事者ニ原判決ノ送達セラレタル時期ヲ標準トシテ決定スヘキモノトス（大正一五・四・九）

○判決ノ送達ト同時ニ中斷シタル場合ト上訴期間ノ起算點　訴訟カ判決ノ送達ト同時ニ中斷シタル場合ニ於テ承繼人カ訴訟ノ受繼ヲ遲滯シタルトキハ相手方カ受繼ノ爲承繼人ノ呼出ヲ求メシ時ニ訴訟ハ受繼セラレ從テ訴訟ノ中斷ハ終了スルモノトス此ノ場合ニ於テ承繼人ノ上訴申立期間ハ裁判所カ承繼ノ爲承繼人ニ對シテ呼出狀ヲ送達シタル時ヨリ進行スルモノトス（大正一五・五・二五）

第四百一條

○控訴狀ノ誤記ト訂正時期　控訴狀ノ誤記ノ訂正ハ必スシモ控訴期間内ニ於テスルヲ要スルモノニアラス（明治四四・六・二二）

○主參加訴訟ノ控訴狀ト本訴訟ノ原被告中ノ一方ノミノ表示　主參加ノ訴ニ於テ對手トナリタル本訴訟ノ原告及被告中ノ一方ノミヲ表示シテ控訴狀ヲ差出シタルトキト雖裁判所ハ表示セラレサル他ノ一方ヲモ呼出シテ審判スヘキモノトス（大正五・四・七）

○原判決ニ對スル不服ノ程度及變更ノ申立ノ缺如ト控訴狀ノ要件　控訴狀ニハ控訴セラレタル判決ノ表示ト該判決ニ對シ如何ナル程度ニ於テ不服ナルヤ及該判決ニ付如何ナル變更ヲ爲スヘキヤノ申立ハ特ニ之ヲ揭ケサルモ不適式ノ控訴ト云フヲ得ス（大正二・一一・四）

○控訴狀ノ記載要件ノ表示方ト第一審裁判所ノ表示ノ欠缺　控訴狀ニ記載スヘキ要件タル控訴セラルル判決ノ表示ハ如何ナル判決タルコトヲ知リ得ル程度ニ於テ表示スルヲ以テ足リ必スシモ判決ノ全文ヲ揭クルヲ要セス而シテ朝鮮ニ於テハ控訴ノ提起ハ控訴狀ヲ第一審裁判所ニ差出シテ之ヲ爲スヘキ特別規定存スルヲ以テ第一審裁判所ノ記載ハ之ヲ缺如スルモ控訴セラルル判決ノ表示タル要件ヲ缺キタルモノト爲スニ足ラス（大正五・七・一〇）

○同　旨　控訴狀ニ記載スヘキ要件タル控訴セラルル判決ノ表示ハ如何ナル判決タルコトヲ知リ得ル程度ニ於テ表示スルヲ以テ足リ必スシモ判決ノ全文ヲ揭クルヲ要セス而シテ朝鮮ニ於テハ控訴ノ提起ハ控訴狀ヲ第一審裁判所ニ差出シテ之ヲ爲スヘキ特別規定存スルヲ以テ第一審裁判所ノ記載ハ之ヲ缺如スルモ控訴セラルル判決ノ表示タル要件ヲ缺キタルモノト爲スニ足ラス（大正五・七・二五）

○口頭申立ニ因ル控訴提起ノ效力　控訴ノ提起ハ控訴狀ノ提出其他一定ノ要件ヲ具備スルヲ要スルモノナレハ口頭申立ノ如キハ控訴ノ提起トシテ固ヨリ不適法タルヲ免レスト雖尚ホ上級裁判所ニ對シ覆審ヲ求ムル意思表示タルヲ失ハサル以上該申立ニ依リ爰ニ訴訟ハ形式上上級裁判所ニ繫屬スルニ至リタルモノト解セサルヲ得ス（大正八・四・二九）

卷	頁	
三	三九三	
五	九八四	
一五	九六	
一三	五六	
一三	一三三	
一	一三四	
三	四六五	
二	三五一	
三	六五三	
三	六七九	
六	二七八	

第四百二條

○期間經過後ニ起シタル控訴ト第二審ノ裁判　期間經過後ニ起シタル控訴ハ朝鮮民事令第四十七條ニ依リ第一審裁判所決定ヲ以テ之ヲ却下シ得ヘク若シ第一審裁判所ニ於テ右決定ヲ與ヘサリシトキハ民事訴訟法第四百二條ニ依リ第二審裁判所ノ裁判長ニ於テ却下ノ命令ヲ爲シ得ヘキモノトス　（大正一五・一二・一四）

第四百四條

○控訴棄却ノ申立ト書面ノ要否　民事訴訟法第二百二十二條ハ事物ノ請求ヲ爲シタル者ノ申立ニ適用スヘキモノニシテ請求ヲ受クル者ニ適用スヘキモノニ非ス從テ被控訴人ノ控訴棄却ノ申立ハ同條ノ規定ニ依ラサルモ違法ニ非ス　（大正二・三・四）

第四百十一條

○口頭ヲ以テ演述セサル控訴狀記載ノ事實關係ト判斷ノ資料　控訴狀ニ事實關係ヲ記載スルモ口頭辯論ノ際口頭ヲ以テ演述セサルトキハ其事實關係ニ付テハ主張ナカリシモノトス從テ相手方ノ主張事實ニ符合スル記載アルモ裁判上ノ自白アリト云フヲ得サルハ勿論相手方ニ於テ其書面ヲ利益ニ援用セサル限リハ裁判所ハ職權ヲ以テ之ヲ證據トシ事實判斷ノ資料ト爲スヲ得ス　（大正五・一二・一二）

第四百十三條

○契約締結ノ資格ニ關スル主張ノ變更ト訴ノ原因ノ變更　第一審ニテ契約ハ共有者ヲ代表シテ締結シタリト主張シ第二審ニ至リ一己ノ資格ニテ締結シタリトノ主張ニ變更スルモ斯ノ如キ變更ハ契約ノ既ニ解除セラレタルコトヲ原因トシテ其解除ノ確認ヲ請求シ且證書類ノ取戻ヲ請求スル事件ニ在リテハ訴ノ原因ヲ變更シタルモノト謂フヲ得ス　（明治四四・六・一九）

卷	頁
一三	四三七
二	一三五
三	九四五
一	三〇二

○賣買ノ無效ノ理由ヲ加フル場合ト訴ノ原因ノ變更　訴ノ原因カ賣買ノ無效ナルコトヲ主張スルニ有ルトキハ其無效ヲ來タスヘキ理由ハ數個ヲ合セテ主張スルヲ妨ケサルニ付第二審ニ於テ無效ノ理由ヲ加フルモ訴ノ原因ヲ變更スルモノトナラス　（大正五・一二・二二）

○第二審ニ於ケル請求ノ原因變更ト許否　民事訴訟法上請求ノ原因ノ變更ハ同法中訴ノ原因ノ變更又ハ訴ノ變更トアルニ包含セラレ第二審ニ於テハ同法第四百十三條ニ依リ絕對ニ許スヘカラサルモノトス　（大正六・三・一六）

○引換給付ノ申立訂正ト一定申立ノ變更　原告カ最初雙務契約ヲ原因トシ相手方ニ對シ單純ニ債務ノ履行ヲ爲スヘキ旨ノ判決ヲ求ムル旨ヲ申立テ爾後同一原因ニ基キ相手方ニ對シ原告ノ債務ノ履行ト引換ニ債務ノ履行ヲ爲スヘキ旨ノ判決ヲ求ムル旨ノ申立ニ改ムルモ原告ノ相手方ニ對シ請求スル事物ハ前後共ニ相手方ノ債務ノ履行ニシテ後ノ申立ニ因リテ差異ノ生シタル點ハ最初爲シタル單純請求ニ一種ノ制限ヲ加ヘ相手方ノ債務ノ履行ヲ自己ノ債務ノ履行ト交換的ナラシムルニ過キサルヲ以テ之ニ因リ訴ノ變更ヲ來スヘキ一定ノ申立ノ變更アリタルモノト謂フヲ得ス　（大正一一・二・二一）

第四百十六條

○第一審ニ於テ提出シ得ヘカリシ相殺抗辯ノ提出ト疏明　原告カ被告ニ對シ消費貸借ニ基ク債權アリト稱シ其辯濟ヲ求メタルニ對シ被告カ第一審ニ於テ代物辯濟ニ依リ其債務消滅シタル旨抗辯シ原告ニ於テ其代物辯濟ノ事實ヲ認メ單ニ其代物辯濟カ別途ノ貸金ニ對シ爲サレタルモノニシテ係爭債權ニ對シ爲サレタルモノニアラスト爭フニ過キサルトキハ代物辯濟ノ事實ハ當事者間爭ナキニ依リ被告ハ其代物辯濟ノ目的物ヲ原告カ不法ニ他ニ賣却シ被告ニ損害ヲ生セシメタリト主張シ其損害賠償ノ債權ト相殺スヘキ旨ノ抗辯ヲ提出スルコト能ハサルモノナレハ第二審ニ至リ原告カ第一審ニ於テ代物辯濟ヲ認メタルハ錯誤ニ基クモノナリトシ其自白ヲ取消シタル場合ニ被告ハ前示ノ如キ不法

卷	頁
三	九八一
四	一八六
九	五二

行爲ヲ主張シ相殺ノ抗辯ヲ提出シ得ヘキモ原告カ第一審ニ於テ其代物辨濟ノ事實ヲ否認セルトキハ被告ハ第一審ニ於テ原告ノ不法行爲ヲ主張シ相殺ノ抗辯ヲ提出シ得ヘキモノナルヲ以テ被告カ第一審ニ於テ其相殺ノ抗辯ヲ爲サス第二審ニ於テ該抗辯ヲ提出セントスルニハ過失ナクシテ第一審ニ於テ之ヲ提出シ得サリシコトヲ疏明セサルヘカラス（大正六・一二・一四）

○審級ヲ異ニシテ爲シタル相殺ノ意思表示ト新ナル請求　第二審ニ於テ新ニ相殺ノ意思表示ヲ爲シタリトスルモ其相殺ヲ以テ對抗スル債權カ曩ニ第一審ニ於テ爲シタル相殺ノ抗辯ニ依リ既ニ第一審ニ提出セラレタルモノナル以上ハ之ヲ以テ民事訴訟法第四百十六條ニ所謂新ナル請求ニ該當スルモノト謂フヲ得ス（大正一〇・一二・二三）

第四百十八條

○第一審ニ於ケル自白ト引用ノ要否　民事訴訟法第四百十八條ノ規定ニ依リ第一審ニ於ケル自白ヲ第二審ニ於テ效力アラシメントスルニハ第二審ニ於テ其ノ自白ヲ引用スルコトヲ要ス（大正四・一〇・八）

○同　旨　民事訴訟法第四百十八條ニ依リ第一審ニ於ケル自白ヲ第二審ニ於テ效力アラシメントスルニハ第二審ニ於テ當事者ヨリ其自白ヲ引用スルコトヲ要ス（大正五・一二・二八）

○正當ノ理由アリテ取消シタル第一審ニ於ケル自白ノ效力　第一審裁判所ニ於テ爲シタル當事者ノ自白ハ第二審裁判所ニ於テ之ヲ取消シタル場合ト雖正當ノ理由アリテ取消シタルニアラサル限リハ他ノ一方ノ當事者ニ於テ該自白ヲ引用シタルトキハ第二審裁判所ハ之ヲ事實判定ノ資料ト爲スヲ得（大正四・一二・二四）

第四百十九條

○他人名義ノ控訴狀ニ付テノ爭ト審判ノ範圍　控訴人甲カ乙名義ヲ以テ提出セラレタル控訴狀ヲ自己ノ控訴狀トシテ有效ナルコトヲ主張シ裁判所カ此點ニ付辯論ヲ制限シタルトキハ斯クノ如キ控訴狀ノ提出ハ控訴人甲ノ控訴トシテ適法ナルヤ否ヤヲ審理判斷シ其理由ニ基キ判決ヲ爲スヘキコト當然ノ筋合ニシテ該控訴狀ニ控訴人トシテ表示アル乙ノ控訴ノ適法ナルヤ否ヤノ判斷ノ如キハ右辯論ニ基キ言渡スヘキ判決ノ理由トハ全然沒交涉ナリト謂ハサルヘカラス（大正八・一二・九）

第四百二十條

○侵害行爲ノ分量ヲ異ニスル場合ト第一審判決ノ變更　侵害行爲禁止ノ請求訴訟ニ於テ第一審判決ニ認メタル侵害行爲ノ分量ト第二審判決ニ認メタル侵害行爲ノ分量ヲ異ニシ從テ第一審判決ニ於テハ侵害行爲禁止ノ請求全部ヲ認容シ第二審判決ニ於テハ其請求ノ一部ヲ認容スルニ止マルトキハ第二審ハ第一審判決ヲ變更セサルヘカラサルモノニシテ控訴棄却ノ判決ヲ爲スコトヲ得サルモノトス（大正七・六・二八）

第四百二十二條

○民刑訴訟期限規則適用ノ判決ト差戻ノ要否　第一審ニ於テ訴訟期限經過ノ有無ノミニ辯論ヲ制限シ期限經過ノ理由ヲ以テ原告ノ訴ヲ却下シタルトキハ第二審ニ於テ第一審判決ヲ取消スモ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻サスシテ原告ノ請求ヲ是認スルコトヲ得（明治四三・一二・二三）

○請求ノ原因ナシトセル原判決ノ廢棄ト差戻ノ要否　第一審裁判所カ辯論ヲ先ツ其ノ原因ニ制限シ原因ナキモノトシテ請求ヲ棄却シタル場合ニ於テモ數額ニ付審理判斷ヲ經サル點ニ於テハ其ノ原因ヲ正當ナリト裁判シタル場合ト異ナルコトナキカ故ニ控訴審ニ於テ其ノ原因ヲ正當トシ第一審判決ヲ廢棄シタルトキハ民事訴訟法第四百二十二條第四號ニ依リ數額ニ付辯論ヲ爲サシムル爲ニ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スヘキモノトス（大正一五・一〇・二九）

○差戻判決ト上告ノ許否　控訴審ニ於テ第一審ニ差戻シタル判決ハ中間判決ニシテ終局判決ニ非ス從テ該判決ニ對シテ上告ヲ爲スコトヲ得ス（大正五・一二・二六）

巻	頁
四	一〇四
八	五八二
三	二九一
三	一〇七
三	三六一
六	六三
五	五六八
一	一六二
一三	三五二
三	一〇一四

第四百二十三條

○第一審ニ於ケル無能力者ノ訴訟行爲ト第二審ニ於ケル法定代理人ノ追認　第二審ニ於テ正當ナル法定代理人カ追認シタルトキハ第一審ニ於ケル訴訟無能力者ノ爲シタル外觀ヲ存スル限度ニ於ケル訴訟行爲ハ有效ニ補正セラレ正當ナル法定代理人ニ依リテ爲サレタル效果ヲ生スルモノトス（大正四・一一・三〇）

○幼者ノ訴訟代理人カ爲シタル訴訟行爲ト第二審ニ於ケル法定代理人ノ追認　第二審ニ於テ幼者ノ法律上代理人カ幼者ノ訴訟代理人ノ爲シタル訴訟行爲ヲ追認シタルトキハ其訴訟代理人ノ爲シタル訴訟行爲ハ追完セラルルモノトス（大正五・一〇・二七）

○第一審ニ於ケル委任欠缺ノ訴訟行爲ト第二審ニ於ケル追認　第一審ニ於ケル委任欠缺ノ訴訟行爲ハ第二審ニ於ケル適法ナル委任ニ因ル訴訟行爲ニ因リテ追認セラルルモノトス（大正六・七・六）

聯　**○新ナル請求ト控訴又ハ附帶控訴ニ因ラサル第一審判決ノ變更**　民事訴訟法第四百十六條ノ規定ニ從ヒテ新ナル請求ヲ爲シ其請求ニシテ是認スヘキトキハ控訴又ハ附帶控訴ノ方法ヲ以テ變更ヲ申立タルニ非サルモ第一審判決ヲ相手方タル控訴人ノ不利益ニ變更スルコトヲ得ヘキモノトス（大正一一・六・二〇）

○反對　民事訴訟法第四百十六條ノ規定ニ從ヒテ爲シタル新ナル請求ト雖控訴又ハ附帶控訴ノ方法ヲ以テ第一審判決ニ對シテ不服ヲ主張スルトキニアラサレハ其新ナル請求ニ基キ第一審判決ヲ控訴人ノ不利益ニ變更スルヲ得ス（大正三・一二・二五）

○民事訴訟法第四百十六條ノ規定ニ從ヒテ爲シタル新ナル請求ト雖控訴又ハ附帶控訴ノ方法ヲ以テ第一審判決ニ對シ不服ヲ主張スルトキニ非サレハ其新ナル請求ニ基キ第一審判決ヲ控訴人ノ不利益ニ變更スルコトヲ許ササルモノト解スルヲ相當トス（大正八・四・一五）

	卷	頁
○相殺抗辯ト新ナル請求及疏明方法	三	七八九
○控訴ノ棄却ヲ言渡スヘクシテ言渡ササル違法ト破毀ノ理由	三	三三七
○新ナル請求ノ許否ト職權調査	四	六四八
○第一審判決ト理由ヲ異ニスル判決ト判示方	九	一〇九
○原判決ヲ廢棄スヘキ理由アルニ控訴ヲ棄却シタル判決ノ不當	二	五三五
○新ナル請求ト控訴又ハ附帶控訴ニ因ラサル第一審判決ノ變更	六	二三九

第四百二十四條

○相殺抗辯ト新ナル請求及疏明方法　相殺ノ抗辯ハ民事訴訟法第四百十六條ニ所謂請求ニ該當シ第二審ニ於テ新ニ之ヲ提出セムトスルニハ過失ナクシテ第一審ニ於テ之ヲ提出シ能ハサリシコトヲ疏明スルヲ要スルモノトス如上ノ場合ニ於テ相殺スヘキ反對債權ヲ得タル時期カ第一審ノ口頭辯論終結後ニ在ルコトヲ疏明スルヲ以テ足ルモノトス（大正一五・二・九）

○控訴ノ棄却ヲ言渡スヘクシテ言渡ササル違法ト破毀ノ理由　控訴裁判所ニ於テ請求却下ノ言渡ヲ爲シタル第一審判決ヲ相當ナリトスルニ拘ハラス再ヒ請求却下ノ言渡ヲ爲スハ妥當ナラスト雖破毀ノ原因タラサルモノトス（大正三・九・二一）

○第一審判決ト理由ヲ異ニスル判決ト判示方　民事判決ニ在リテハ第二審判決ノ理由ト第一審判決ノ理由トヲ互ニ相異スル所アリトスルモ其主文ニシテ同一ニ歸スル以上ハ第二審判決ニ於テハ第一審判決ヲ認可スヘキモノニシテ第一審判決理由ノ不當ナルコトノ如キハ特ニ之ヲ判文ニ明示スルヲ要セサルモノトス（大正七・一・二五）

○原判決ヲ廢棄スヘキ理由アルニ控訴ヲ棄却シタル判決ノ不當　第一審判決ノ主文カ第二審判決ノ理由トスル處ニ適合セス且ツ第二審判決ノ理由ニ基キ爲スヘキ裁判カ第一審判決ニ比シ控訴人ノ利益ニ歸スヘキ場合ニ第一審判決ヲ廢棄セスシテ控訴ヲ棄却シタル判決ハ不法ナリ（大正七・一一・二九）

第四百二十五條

聯　**○新ナル請求ト控訴又ハ附帶控訴ニ因ラサル第一審判決ノ變更**　民事訴訟法第四百十六條ノ規定ニ從ヒテ

新ナル請求ヲ爲シ其請求ニシテ是認スヘキトキハ控訴又ハ附帶控訴ノ方法ヲ以テ變更ヲ申立テタルニ非サルモ第一審判決ヲ相手方タル控訴人ノ不利益ニ變更スルコトヲ得ヘキモノトス（大正一一・六・二〇）

第四百三十一條

○控訴完結ノ際ニ於ケル判決原本ノ處置　民事訴訟法第四百三十一條ニ從ヒ第二審裁判所ノ書記カ認證シタル判決謄本ハ原本ニ代用セラルルモノナルヲ以テ一件記錄ニ斯ル認證アル謄本ノ添附シアル以上ハ必スシモ第二審判決ノ原本ヲ添附スルノ要ナシ（大正七・五・七）

第二章　上告

第四百三十二條

○當事者ニアラサル者ノ爲シタル上告　訴訟ノ當事者ニアラサル者ノ爲シタル上告ハ不適法トス（明治四四・四・一七）

聯

○訴訟費用ノ裁判ニ對スル上告ノ適否　訴訟費用ノ裁判ニ對スル不服申立ハ本案ノ裁判ニ對スル上告ノ理由アルトキニ非サレハ採用スヘカラサルモノトス（大正一一・一・三一）

○反對　費用ノ點ニ限リタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得サルモノナリト雖本案ノ裁判ニ對シ許スヘキ上訴ヲ提出シ且追行スルトキハ民事訴訟法第八十二條第一項後段ノ規定ニ依リ費用ノ點ニ付キ不服ヲ申立ツルコトヲ得ルモノナルカ故ニ縱令本案ノ裁判ニ對スル上告ノ理由相立タサルトキト雖既ニ適法ニ不服ヲ申立タル費用ノ點ニ付テハ別ニ其當否ヲ鑑査セサルヘカラサルモノトス（大正六・一・一九）

○差戻判決ト上告ノ許否　控訴審ニ於テ第一審ニ差戻シタル判決ハ中間判決ニシテ終局判決ニ非ス從テ該判決ニ對シテハ上告ヲ許サ

卷	頁
九	二〇九
五	三六五
一	三三八
九	一三
四	一二

シテハ上告ヲ爲スコトヲ得ス（大正五・一二・二六）

○同　旨　控訴審ニ於テ第一審ニ差戻シタル判決ハ中間判決ニシテ從局判決ニ非ス從テ該判決ニ對シテハ上告ヲ許ササルモノトス（大正八・三・一四）

○同　旨　控訴審カ爲シタル差戻判決ハ中間判決ニシテ終局判決ニ非ス該差戻判決ニ對シテハ獨立シテ上告ヲ爲スコトヲ許サス（大正九・一・一九）

第四百三十三條

○中止ヲ拒ム裁判ト不服ノ申立　中止ヲ拒ム裁判ハ民事訴訟法第百八十九條ニ依リ卽時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルヲ得ル裁判ナルヲ以テ斯ル終局判決前ノ裁判ニ對シテハ同法第四百三十三條但書ノ規定ニ依リ上告裁判所ノ判斷ヲ受クルヲ得サルモノトス（大正六・二・九）

第四百三十四條

○判決中ノ違算ト上告ノ理由　判決中ノ違算ノ如キハ其裁判ヲ爲シタル裁判所ニ於テ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ何時ニテモ之ヲ更正シ得ヘキモノナレハ其違算ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス（大正三・二・二四）

○控訴棄却ヲ言渡スヘクシテ言渡ササル違法ト破毀ノ理由　控訴裁判所ニ於テ請求却下ノ言渡ヲ爲シタル第一審判決ヲ相當ナリトスルニ拘ラス再ヒ請求却下ノ言渡ヲ爲スハ妥當ナラスト雖破毀ノ原因タラサルモノトス（大正三・九・二一）

○上告審ニ於ケル時效ノ援用　時效ノ完成セリヤ否ヤハ事實問題ニ屬スルニ依リ上告審ニ於テ始メテ時效ヲ援用スルモ審査スルニ由ナケレハ適法ノ上告理由トナラス（大正五・六・二三）

○證人ノ資格欠缺ニ對スル異議ト上告理由　證人ノ資格ニ欠クル所アレハ證人訊問ノ際若クハ遲クトモ之ニ接續

卷	頁
三	一〇一四
四	一二四
七	一
四	九三
二	三八六
刑二	三〇三
三	六一九

スル口頭辯論ニ於テ之ヲ主張シテ異議ヲ申立ツヘク其申立ヲ爲サスシテ上告審ニ至リ之ヲ理由トシテ同證人ノ證言ヲ採用セシ原判決ヲ非難スルヲ得ス（大正六・六・二二）

○證人申請留保ノ儘ノ結審ト上告ノ理由　證人申請ヲ留保シタル儘結審ヲ告ケタルニ對シ異議ヲ留メサルハ責問權ヲ喪失シタルモノナレハ後ニ至リ上告ノ理由トシテ爲スコトヲ得ス（大正七・五・一四）

○唯一ノ證據方法ニ關スル法則違背ト破毀ノ理由　爭點事實ニ對スル當事者ノ唯一ノ證據方法ヲ杜絶シ而カモ立證ナキノ故ヲ以テ其ノ主張事實ヲ否定シタルハ不法ナレトモ他ノ理由ニ依リ判決主文ヲ支持スルニ足ル以上ハ原判決破毀ノ理由トナラス（大正六・七・六）

○證人ノ宣誓ニ關スル手續違背ト上告ノ理由　裁判所カ訴訟ノ成績ニ直接ノ利害關係ヲ有スル者ヲ證人トシテ訊問スルニ當リテハ宣誓ヲ爲サシムヘキモノニ非スト雖若シ之ニ宣誓ヲ爲サシメタル場合ニ於テ當事者カ何等異議ヲ申立テサルトキハ自ラ責問權ヲ拋棄シタルモノナルヲ以テ後日ニ至リ其手續ノ違背ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス（大正八・五・一六）

○不適法ナル送達ト上告ノ理由　送達ハ書類ノ交付ヲ確實ナラシムル方法ニ過キサレハ送達ヲ受クヘキモノニ於テ其手續ノ違法ナルニ拘ハラス之ヲ受領シ該送達ノ不適法ナルコトヲ責問セス之ニ基キ訴訟行爲ヲ爲シ判決ヲ受ケタルトキハ後日其送達ノ無效ヲ主張シ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得サルモノトス（大正八・七・一〇）

○闕席判決ノ廢棄ヲ言渡ササリシ違法ト上告ノ理由　新判決カ闕席判決ト符合セサル場合ニ於テハ新判決ニ於テ闕席判決ヲ廢棄スト言渡ヲ爲ササルハ失當ナルモ新判決ニヨリ闕席判決カ自ラ廢棄セラレタルト同一ノ結果ヲ來タスモノナレハ原判決ヲ破毀スルノ理由トナラス（大正六・二・一三）

○僞證ノ確定判決ノ主張ト上告ノ理由　事實裁判所ノ援用シタル證人ノ證言カ僞證ト認メラレ有罪ノ刑事判決確

定シタル事實アリトスルモ再審ノ理由トナルニ過キスシテ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス（大正六・七・三）

○假定事實ノ說示ニ對スル上告ノ理由　原判決ノ假定ノ事實ニ基ク說示ノ當否ハ原判決主文ニ影響ナキヲ以テ之ヲ攻擊スル論旨ハ上告ノ理由トナラス（大正六・一一・一六）

○控訴審ニ於テ提出セサリシ事項ト上告ノ理由　裁判所カ職權上調査スヘキ事項ニ非サル限リハ當事者ハ控訴審ニ於テ提出セサル事項ニ付上告審ニ至リテ之ヲ基礎トシテ以テ控訴審ノ判決ヲ非難スルヲ得ス（大正七・一・二五）

○判決ノ遺脫ト相手方ノ上告ノ理由　請求ヲ受ケタル訴ニ付判決ヲ遺脫シタル不服ハ請求者タル原告ニ於テ之ヲ主張スルノ利益アルモノト認ムヘカラサルヲ以テ其上告ハ理由ナキニ歸ス（大正七・二・二六）

○事實及爭點ノ摘示ノ缺漏ト上告ノ理由　民事訴訟法第二百三十六條第二號ニ定メタル事實及爭點ノ摘示ニ缺漏アルモ絕對ニ上告ノ理由トナルモノニ非ス其欠缺カ判決主文ニ影響シタル場合ニ於テノミ上告理由タルヲ得ルモノトス（大正七・五・一四）

○當事者氏名ノ誤記ト判決破毀ノ理由　當事者氏名ノ表示上ノ誤記ハ民事訴訟法第二百四十一條ニ依リ何時ニテモ其更正ヲ求ムルコトヲ得ヘキモノナレハ其誤記ハ原判決破毀ノ理由トナラス（大正六・二・二〇）

○民法第五百四十一條ニ所謂相當期間ノ判斷ト上告理由　債權者ノ指定シタル期間ノ當否ヲ判斷スルニ當リ其判斷ノ濫據タルヘキ諸般ノ事情ノ存否如何ヲ認定スルハ事實裁判所ノ職權ニ屬スルコト論ヲ俟タサル所ナリト雖是等ノ事情カ正當ニ斟酌セラレタルヤ否ヤハ法律問題ニ屬シ上告裁判所ノ判斷ヲ受クヘキ事項ナリトス（大正一二・六・八）

○從參加人ニ對スル訴訟手續違背ト上告理由　第二審裁判所カ從參加人ヲ口頭辯論期日ニ呼出サスシテ訴訟ヲ進行シ且之ニ對シ判決ヲ爲ササルノ違法ハ當ニ從參加人ヲシテ其ノ權利ヲ行使スルノ機會ヲ喪失セシムルニ止ラス主

タル當事者ヲシテ從參加ニ因ル法律上ノ利益ヲ受クルコト能ハサラシムルモノナレハ從參加人ノ附隨シタル原告若ハ被告ハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ルモノトス（大正一二・一〇・一九）

○朝鮮民事令第三十三條ノ裁判長ノ注意權不行使ト上告ノ理由　朝鮮民事令第三十三條ニ規定セル裁判長ノ注意權ハ之ヲ行使スルト否ト一ニ裁判長ノ自由ニ屬シ裁判長カ之ヲ行使セサリシコトヲ理由トシ上告ノ理由ト爲スヲ得ス（大正一二・一一・九）

第四百三十六條

○記錄中訴訟委任ヲ證スヘキ書類ナキ場合ト訴訟手續ノ違背　訴訟委任ハ裁判所ノ記錄ニ備フヘキ書面委任ヲ以テ之ヲ證シ若クハ口頭辯論ノ期日ニ於テ口頭委任ヲ爲シ其陳述ヲ調書ニ記載セシムルコトヲ要ス從テ其書面若クハ調書ナキトキハ適法ニ代理セラレサル者ナルニ付之ニ對シテ爲シタル判決ハ訴訟手續ニ關スル規定ニ違背シタル不法アリテ訴訟手續ト共ニ破毀ヲ免レス（大正二・八・一）

○所謂裁判ニ理由ヲ付セサルトキノ意義　民事訴訟法第四百三十六條第七號ニ所謂「裁判ニ理由ヲ付セサルトキ」トハ判決ノ因テ生シタル理由ヲ付セサルトキヲ謂フモノニシテ相手方ノ證據排斥ニ關スル理由ヲ付セサル如キ場合ヲ謂フモノニ非ス（大正七・九・一〇）

○主文ニ影響ナキ證據判斷ノ遺脫ト破毀ノ理由　判決主文ニ何等ノ影響ヲモ及ホササルカ如キ證據ノ判斷ハ之ヲ遺脫シタリトスルモ之ヲ以テ原判決破毀ノ理由ト爲スヲ得ス（大正九・四・三〇）

○證據判斷ノ遺脫ト上告理由　裁判所當事者ノ申立ニ依リ證人訊問ノ決定ヲ爲シ其ノ證據調ヲ爲シタルニ拘ラス判決ニ之ヲ摘示セス且其ノ證據ニ對スル判斷ヲ示ササル場合ニ於テハ裁判所ハ當事者ノ提出シタル證據ヲ遺脫シ之ニ對スル判斷ヲ爲サスシテ事實ヲ確定シタル違法アルモノト爲スヘキモノトス（大正一二・一二・二一）

卷	頁
一〇	三一二
一〇	三三〇
二	三〇六
五	七〇七
七	一四二
一〇	三七六

○推理判斷ノ由來ノ不明ト理由不備　當事者ノ各立證及當事者ノ辯論ノ全趣旨ヲ綜合考覈シテ係爭事實ヲ認定スルニ足ルト說明シタルノミニテハ推理判斷ノ由來ヲ明ニセサルモノニシテ理由不備タルヲ免レス（大正一三・五・一三）

第四百三十七條

○郵便ヲ以テスル上告狀ノ提出ト上告期間　期間內ニ上告狀ヲ書留郵便ニ付スルモ裁判所ニ到達シタル日カ期間ノ經過後ニ係ルトキハ其上告ハ期間經過後ニ提出セラレタリト爲スヘキモノナリ（大正六・一・二二）

○上告期間ノ伸長ト里程算出ノ基準　上告期間ニ對スル里程伸長ノ期間ハ上告狀ヲ差出スヘキ原裁判所ノ所在地ト上告ヲ爲ス當事者ノ住所地トノ距離ノ割合ニ應シテ之ヲ定ムヘク其當事者ノ住所地ハ原判決送達當時ニ於ケル住所地ヲ以テ標準ト爲スヘキモノトス（大正九・七・二三）

第四百三十八條

○不服ノ理由ヲ明示セサル上告　上告ハ第二審判決ノ法令ニ違背シタルコトヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ許スモノナレハ上告申立人ハ必スヤ不服アリトスル趣旨ヲ明示セサルヘカラス（明治四四・六・二四）

第四百三十九條

○中斷中ニ爲シタル上告ト訴訟ノ受繼　訴訟ノ中斷中ニ爲シタル上告ハ民事訴訟法上無效ナルヲ以テ後ニ至リ訴訟ノ受繼アルモ其上告ハ棄却スヘキモノナリ（明治四四・三・一五）

○中斷中ニ爲シタル上告ト補正　訴訟手續中斷中ノ上告ト雖上告人カ口頭辯論前受繼ノ爲メ承繼人呼出ヲ申立テ補正ヲ爲シタルトキハ上告ハ此時ヲ以テ有效ニ成立シタルモノトス（大正七・四・一二）

○第二審判決ノ送達後ニ於ケル中斷ト上告申立　被控訴人カ第二審ニ於テ訴訟代理人ヲ以テ訴訟行爲ヲ爲シ訴訟カ第二審裁判所ニ繫屬中死亡スルモ其委任消滅ノ通知ヲ爲ササルトキハ其死亡後ニ於ケル當事者雙方ノ第二審ニ於

卷	頁
一二	一〇〇
四	一八
七	三四八
一	三一八
一	二一七
五	二六二

ケル訴訟行爲ハ勿論第二審判決ノ言渡ノ如キ何レモ訴訟手續中斷中ノ行爲ヲ以テ目スヘキモノニアラス

前項ノ場合ニ第二審判決ノ送達アリタル以後ニ於テハ訴訟手續ハ中斷セラルヘキモノナルヲ以テ上告期間ハ其進行ヲ爲ササルモノナレハ被控訴人ノ相續人カ訴訟手續ノ受繼ヲ爲ササルニ上告人（控訴人）カ直ニ上告ノ申立ヲ爲スモ訴訟手續中斷中ノ上告ニシテ其效力ナキモノトス（大正一〇・五・二七）　八　一七〇

○上告審ニ於テ併合審理シ同時ニ言渡ヲ爲スヘキ判決ト相互ノ拘束力　上告審ニ於テハ訴ノ一カ他ノ訴ノ判斷ノ基本タル關係ニ在ツテ而モ前者ニ付テノ判決カ後者ニ付テノ判斷ニ對シ既判力ヲ有スヘキモノナルトキハ兩訴ヲ併合シ同時ニ判決スルニ當リテハ前者ニ付テ言渡サントスル判決ハ後者ニ付テ言渡サントスル判決ヲ言渡前ニ於テ既ニ拘束スルモノト謂ハサルヘカラス（昭和三・一二・二一）　一五　三五二

第四百四十二條

○判決主文ノ脫漏ト附帶上告　判決理由中ニ爾餘ノ請求ヲ不當トスル旨說明シアルモ之カ判決主文ナキトキハ判決脫漏アルモノニ屬シ未タ判決ナキモノトス斯ル場合ニハ民事訴訟法第二百四十二條ノ規定ニ從ヒ追加裁判ヲ申立其裁判ニ對シ不服アラハ上告ヲ爲シ得ヘク判決主文ナキモノニ對シテ附帶上告ヲ爲スハ不適法ナリ（大正五・二・二六）　三　一〇一八

第四百四十六條

○第二審判決ノ後法令ノ發布ニ因ル請求權ノ免除ト上告　誓約書ノ返還ヲ請求スル事件ニ付其誓約書ニ記載スル債務カ第二審判決後ニ發布セラレタル朝鮮總督府制令三號ニ依リテ免除ノ結果ヲ生スルコトアルモ上告審ニ於テ新ニ其理由ヲ主張シテ原判決カ返還請求ヲ許容セサリシコトヲ違法ト爲スヲ得ス（明治四三・一一・二五）　一　一四六

第四百四十八條

○差戻後ノ辯論ト破毀セラレタル原判決ノ認定事實　上告裁判所カ原判決ヲ破毀シテ事件ヲ原裁判所ニ差戻シタルトキハ判決ノ基礎タル事實ニ關スル限リ原裁判所ヲ羈束スルコトナキモノトス（大正五・七・一〇）

○差戻後ノ新辯論ニ基ク證據判斷　上告審カ判決ニ依リ原判決ヲ破毀シテ事件ヲ原裁判所ニ差戻シタル場合ニ於テ其ノ差戻ヲ受ケタル控訴裁判所ハ新口頭辯論ニ基キ裁判ヲ爲スコトヲ要スルモノニシテ證據ノ採否判斷ノ如キモ更ニ自由ナル心證ヲ以テ之ヲ爲スヘク先ニ爲シタル自己ノ判斷ニ羈束セラルヘキモノニ非ス（昭和二・六・一〇）　一四　一八六

○差戻ノ前後ニ亘ル關席ト所謂再度ノ關席判決　控訴事件カ終局判決ニ因リ一旦其ノ審級ヲ離脫スルモ上告ノ結果其ノ判決ノ全部又ハ一部カ破毀セラレ事件カ原裁判所ニ差戻サレタルトキハ同一事件カ再ヒ同一審級ニ繫屬スルニ至ルモノナルヲ以テ其ノ差戻前關席判決ヲ受ケタル者ニ對シ差戻後又關席判決ヲ爲ストキハ是朝鮮民事令第三十五條ニ所謂再度ノ關席判決ニ該當スルモノトス（昭和二・一〇・二七）　一四　三五八

○他ノ部ニ差戻シタル場合ト前裁判ヲ爲シタル判事ノ關與　上告裁判所カ原判決ヲ破毀シ事件ヲ原裁判所ノ他ノ部ニ差戻シタル場合ニ於テ破毀セラレタル判決ニ關與シタル判事カ新ナル辯論及裁判ニ關與シタルトキハ其ノ訴訟手續及判決ハ違法ニシテ破毀スヘキモノトス（昭和二・一二・二〇）　一四　三七五

タルトキハ其差戻ヲ受ケタル裁判所ハ破毀セラレタル原判決ニ於テ認定シタル事實ニ羈束セラルルコトナキモノトス（大正五・七・一〇）　三　六八九

○差戻後ノ新辯論ニ基ク證據判斷　上告審カ判決ニ依リ原判決ヲ破毀シテ事件ヲ原裁判所ニ差戻シタル場合ニ於テ其ノ差戻ヲ受ケタル控訴裁判所ハ新口頭辯論ニ基キ裁判ヲ爲スコトヲ要スルモノニシテ證據ノ採否判斷ノ如キモ更ニ自由ナル心證ヲ以テ之ヲ爲スヘク先ニ爲シタル自己ノ判斷ニ羈束セラルヘキモノニ非ス（昭和二・六・一〇）　一四　一八六

○差戻ノ前後ニ亘ル關席ト所謂再度ノ關席判決　控訴事件カ終局判決ニ因リ一旦其ノ審級ヲ離脫スルモ上告ノ結果其ノ判決ノ全部又ハ一部カ破毀セラレ事件カ原裁判所ニ差戻サレタルトキハ同一事件カ再ヒ同一審級ニ繫屬スルニ至ルモノナルヲ以テ其ノ差戻前關席判決ヲ受ケタル者ニ對シ差戻後又關席判決ヲ爲ストキハ是朝鮮民事令第三十五條ニ所謂再度ノ關席判決ニ該當スルモノトス（昭和二・一〇・二七）　一四　三五八

○他ノ部ニ差戻シタル場合ト前裁判ヲ爲シタル判事ノ關與　上告裁判所カ原判決ヲ破毀シ事件ヲ原裁判所ノ他ノ部ニ差戻シタル場合ニ於テ破毀セラレタル判決ニ關與シタル判事カ新ナル辯論及裁判ニ關與シタルトキハ其ノ訴訟手續及判決ハ違法ニシテ破毀スヘキモノトス（昭和二・一二・二〇）　一四　三七五

第三章　抗告

第四百五十五條

○抗告事件ノ口頭辯論期日ノ懈怠ト民事令第二十九條　民事令第二十九條ハ抗告裁判所ノ命シタル口頭辯論期日ニハ其ノ適用ナキモノトス（大正一五・四・二八）　一三　一〇三

第四百五十五條

○再度不出頭ト期日指定申請却下ノ裁判ニ對スル抗告　當事者雙方引續キ再度出頭セサルニ拘ラス朝鮮民事令

第二十九條ニ該當セサルモノト思料シタルトキ當事者ハ口頭辯論期日指定ノ申請ヲ爲シ得ヘク裁判所ニ於テハ同條ニ該當セスト認メタルトキハ新ニ口頭辯論ノ期日ヲ指定シ當事者ヲ呼出シ又同條ニ該當スルモノト認メタルトキハ該申請ヲ却下スルヲ民事訴訟法規ノ趣旨ニ適合スルモノト解スヘキモノトス而シテ後ノ場合ニ於テハ當事者ハ民事訴訟法第四百五十五條ニ從ヒ抗告ノ申立ヲ爲シ得ヘキモノニシテ右法則ハ控訴審ニ於テモ其適用アルモノトス　（大正九・四・二四）

第四百五十六條

○破産宣告ヲ廢棄シタル抗告裁判所ノ決定ト新ナル抗告ノ理由　控訴院ニ於テ地方裁判所カ宣告シタル破産決定ヲ廢棄シテ債權者ノ破産申立ヲ却下シタルトキハ債權者カ該決定ニ對スル抗告裁判所ノ裁判ニ因リ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生シタルモノニ該當ス　（明治四四・八・二一）

○本條ニ所謂新ナル獨立ノ抗告理由ノ意義　民事訴訟法第四百五十六條第二項ニ所謂新ナル獨立ノ抗告理由トハ抗告裁判所カ不適法トシテ抗告ヲ棄却シタルカ下級裁判所ノ裁判ト反對ノ裁判ヲ爲シタルカ又ハ裁判所構成ノ規定若クハ重要ナル訴訟手續ニ違背シテ裁判ヲ爲シタル場合ヲ謂フ　（大正七・一・二二）

○抗告裁判所ノ決定ト再抗告ノ理由　抗告裁判所ノ決定カ原裁判所ノ決定ト其結果一ニ歸シタルトキハ裁判所構成ノ規定若クハ重要ナル訴訟手續ニ違背シタルカ如キ場合ニ非サレハ再抗告ヲ爲スコトヲ許ササルモノトス　（大正一一・三・一〇）

○競賣法ニ基ク決定ニ對スル再抗告ノ理由　競賣法ニ基ク競賣ニ關シ爲サレタル決定ニ對スル抗告ニ付テハ民事訴訟法第四百五十六條ノ準用アリ抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ再抗告ヲ爲スニハ其ノ裁判ニ依リ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生シタルトキナルコトヲ要ス　（大正一五・八・一六）

第四編　再審

第四百六十九條

○本條第一項第七號ニ所謂證書ノ意義　民事訴訟法第四百六十九條第一項第七號ニ所謂相手方若クハ第三者ノ所爲ニ依リ以前ニ提出スルコトヲ得サリシ證書トアルハ相手方若クハ第三者ノ故意ニ出テタル妨害ニ依リ前訴訟ニ於テ提出スル能ハサリシ證書ノ意義ニシテ相手方若クハ第三者ノ過失ニ依リ提出ヲ妨害セラレタル證書ヲ包含セサル趣旨ト解釋スルヲ相當トス　（大正三・二・六）

○僞證罪ヲ構成スヘキモノト思料シタル場合ノ控訴ニ於ケル不主張ト再審　判決ノ憑據ト爲リタル證人ノ供述ノ僞證ナルコトヲ原因トシテ再審ヲ求ムル場合ハ其證人ニ對スル僞證罪ノ判決確定シタルトキ又ハ證據欠缺外ナル理由ヲ以テ刑事訴訟手續ノ開始若クハ實行ヲ爲シ得サルトキニ限ルヘキモノナレハ單ニ僞證罪ヲ構成スヘキモノト思料シタルニ止マル場合ノ如キハ假令控訴ヲ以テ之ヲ主張セサルモ後日再審ヲ求ムルノ妨トナルモノニ非ス　（大正五・七・七）

○刑事判決ノ認定ニ反スル判斷ト再審ノ理由　民事ノ裁判ハ必スシモ刑事判決ノ確定セル事實ニ羈束セラルヘキモノニ非サルカ故ニ民事裁判所ハ證據ニ依リテ刑事判決ノ確定セル事實ト相反スル事實ヲ認定スルヲ得ヘク又刑事判決ニ於テ僞造變造ナルコトヲ確定セル證書若クハ僞證ナルコトヲ確定セル證人ノ供述ト雖民事裁判所ハ自由ナル心證ヲ以テ其證書ハ僞正ニ成立シタルヤ否ヤ又其供述ハ眞實ノ事實ニ適合スルヤ否ヤヲ判斷シ苟モ該證書ノ成立供述ノ內容ヲ眞實ナリトシテ信用シタル以上ハ之ヲ事實認定ノ資料ニ採用スルモ毫モ違法ナリト謂フヲ得ス又之ヲ採用シタルノ故ヲ以テ再審ノ理由ト爲スニ足ラサルモノトス　（大正七・九・三〇）

卷	頁
七	二三一
一	三四七
五	一
九	八七
一二	二一〇
二	三八三
三	六四二
五	七四六

○證書ノ提出ヲ妨ケラレタル事實ト主張及疏明ノ責任　民事訴訟法第四百六十九條第一項第七號ノ規定ハ再審原告カ前訴ニ於テ相手方又ハ第三者ノ爲ニ故意ヲ以テ再審原告ノ利益トナルヘキ證書ノ提出ヲ妨ケラレタル場合ニ限リ適用セラルヘキモノニシテ其證書ノ提出ヲ妨ケラレタル事實ハ再審原告ニ於テ主張シ且疏明セサルヘカラサルモノトス（大正七・七・九）

第四百七十九條

○再審ノ審理範圍　再審ヲ求ムル事實理由ハ再審ヲ求ムル者ニ於テ主張セサルヘカラサルモノニシテ裁判所ハ其主張以外ノ事實ニ基キ再審ノ許否ヲ決スヘキ職責ヲ有スルモノニアラス（大正七・七・九）

第六編　強制執行

第一章　總則

○強制執行ニ因リテ他人名義トナリタル土地所有權回復ノ方法　所有權ニ基キテ土地ノ返還ヲ求ムルカ如キ實體上ノ請求ハ強制執行ニ依リテ其土地ノ所有名義ノ他人ニ移轉シタルトキト雖民刑訴訟規則第百六條ニ規定セル異議申立ノ途ニ出テスシテ強制執行完結後ニ至ルモ別ニ其訴訟ヲ提起スルヲ得（明治四四・一・二八）

○競賣物件ノ眞ノ所有者ト強制執行後ノ救濟方法　眞實ノ所有者ハ強制執行完結後ト雖競賣物件ノ取戻ヲ求メ若シ他ニ移轉シテ利益ヲ受ケタル事實アルトキハ其利益ノ返還ヲ求メ又故意若クハ過失ニ因リテ其所有權ヲ侵害シタル事實アルトキハ損害賠償ヲ請求スル等裁判上之カ救濟ヲ求ムルコトヲ得ヘシ（明治四四・四・二七）

○確定判決ノ效力トシテ受ケタル利益ノ性質　確定判決ノ效力トシテ利益ヲ受クルコトアルモ法律上ノ原因ナ

クシテ利得シタルモノニ該當セス（大正五・四・一一）

第四百九十七條

○被相續人ニ對スル特定物給付判決ノ執行ト相續人カ相續以前ヨリ占有スル特有財産　相續開始後ト雖相續人カ相續以前ヨリ占有スル特有財産ニ對シテハ被相續人ニ對スル特定物給付判決ノ執行トシテ之カ强制執行ヲ爲スヲ得サルモノトス（大正三・四・一七）

○漁業權ノ强制競賣ニ對スル借受人ノ異議申立ノ當否　漁業令第八條ニ依レハ漁業權ハ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケルトキハ抵當又ハ讓渡ノ目的ト爲スヲ得ヘキニ依リ許可ヲ條件トシテ强制競賣ヲ爲スヲ妨クルモノニ非サルコト言ヲ俟タスト雖他ニ貸付許可ヲ受ケタル者アル場合ニ於テハ其借受人ハ借受期間內漁場ヲ使用シテ漁業ヲ爲スノ權利ヲ有シ該權利ハ別ニ何等ノ手續ヲ履踐スルヲ要セスシテ第三者ニ對シテモ之ヲ對抗スルコトヲ得ヘキニ依リ其貸付ヲ無視シ何等ノ負擔ナキ狀態ニ於ケル完全ナル漁業權トシテ競賣ヲ爲シ得ヘキモノニ非ス若シ斯ノ如キ場合ニ於テ完全ナル漁業權トシテ競賣ヲ爲ストキハ借受人ハ該强制執行ニ對シテ民事訴訟法第五百四十九條ノ規定ニ基キ異議ヲ主張スルヲ得ヘキモノトス（大正六・一〇・一六）

○株式會社ノ利益配當請求權ヲ目的物トスル强制執行ノ當否　株式會社ニ對スル利益配當請求權ハ（一）株主權（株式）ノ存立要素トシテ株主ニ專屬スル一種ノ權能ヲ指稱スル場合アリ（二）株主權ノ效果トシテ株主總會ノ決議ニ因リテ確定シ會社ニ對シ其支拂ヲ請求シ得ヘキ債權ヲ指稱スル場合アリ（三）株主權ノ效果トシテ後日ニ於ケル株主總會ノ決議ヲ條件トシ配當金ノ支拂ヲ受クヘキ權利ヲ指稱スル場合アリ前記（一）ノ意義ニ於ケル利益配當請求權ハ株主權ナル團體權ノ內容ヲ爲スモノニシテ株主權自體ニ外ナラサルカ故ニ株式ノ讓渡又ハ株式ニ對スル强制執行ノ方法ニ依ルノ外獨立シテ之ヲ讓渡シ又ハ强制執行ノ目的物ト爲スヲ得ス前記（二）ノ意義ニ於ケル利益配當請求權ハ株主タル

資格ヲ有スルコトニ因リテ生シタル債權ナリト雖其既ニ生シタル以上ハ純然タル債權ナルカ故ニ株主權ト其歸屬ヲ共ニスルコトヲ要セス獨立シテ之ヲ讓渡シ又ハ強制執行ノ目的物ト爲スヲ得ヘシ前記(三)ノ意義ニ於ケル利益配當請求權ハ純然タル債權ニアラスト雖將來ノ債權ノ性質ヲ具有スル權利ナルカ故ニ必スシモ株主權ト其歸屬ヲ共ニスルコトヲ要スルモノニアラス獨立シテ之ヲ讓渡シ又ハ強制執行上之ヲ差押フルコトヲ得サルニアラサルモ後日株主總會ノ決議ヲ經ルコト及定款ニ別段ノ定メアラサルトキハ其決議ノ當時株主タル資格ヲ有スルコトヲ條件トシテ存在スルモノニ外ナラサレハ(イ)株主總會ノ決議前其支拂ヲ爲スヲ得ス取立命令又ハ轉付命令ヲ發スルヲ得ス(ロ)株主カ其株式ヲ他ニ移轉シタルトキハ曩ニ爲シタル讓渡又ハ差押ハ其效力ヲ持續スルコト能ハサルニ至ルモノトス强制執行ハ國家ノ機關ニ由リテ行フ强制處分ナレトモ處分シ得サル權利ハ之ヲ以テ强制執行ノ目的物ト爲スヲ得ス　（大正六・一〇・一六）

第五百二十二條

○執行命令ノ無效ヲ理由トスル强制執行異議ノ方法　請求ニ關スル異議ノ訴ハ債務名義ノ形式上有效ニ存在スルコトヲ前提トシテ實質上執行ヲ受クヘカラサルコトヲ主張シテ執行ノ廢棄ヲ求ムル訴ナレハ債務名義タル執行命令ノ無效若ハ未送達ヲ理由トシテ債務名義其ノモノニ關スル形式上ノ異議ヲ主張シテ其ノ執行ノ許スヘカラサル旨ノ裁判ヲ求ムルニハ請求ニ關スル異議ノ訴ニ依リ爲スヘキモノニ非スシテ執行命令ノ無效ヲ理由トスル場合ニハ執行文附與ニ關スル異議ノ申立ニ依リ又債務名義ノ未送達ヲ理由トスルトキハ民事訴訟法第五百四十四條ニ依ル異議ノ申立ニ依ルヲ要スルモノトス　（大正一四・四・一四）

○本條第一項ノ裁判トロ頭辯論ノ要否　民事訴訟法第五百二十二條ニ所謂執行文付與ニ對スル異議ノ手續ハ訴ノ手續ニ非サルヲ以テ其ノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ爲スコトヲ得ヘク從テ此ノ裁判ニ對シテハ同法第五百五十八條ニ依リ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノトス　（昭和四・三・二六）

巻　頁
四　八二九
一三　一四三
一六　六七

○執行ニ關スル異議ノ訴ト執行文付與ニ對スル異議ノ申立　債務名義ノ有效ニ存在スルコトヲ前提トシテ實質上執行力ノ廢棄ヲ求ムルニハ請求ニ關スル異議ノ訴ニ依ルヘク債務名義ノ無效ヲ理由トシテ債務名義其ノモノニ關スル形式上ノ欠缺ヲ主張シ執行文ノ取消ヲ求ムルニハ執行文付與ニ對スル異議ノ申立ニ依ルヘキモノトス　（昭和四・三・二六）

第五百二十三條

○本條ニ所謂「支拂其ノ他ノ給付ヲ受取リ」ノ意義及執達吏ノ代物辨濟受領權限ノ有無　民事訴訟法第五百三十三條ニ所謂支拂其他ノ給付ヲ受取リトアルハ執達吏ハ執行力アル正本ニ表示シタル債務ノ本旨ニ從ヒタル支拂其他ノ給付ヲ受取ルノ意義ニ解スヘキモノニシテ代物辨濟ヲ受領スルヲ得サルモノトス　（大正七・六・一一）

第五百四十四條

○債務名義ノ未送達ヲ理由トスル强制執行異議ノ方法　請求ニ關スル異議ノ訴ハ債務名義ノ形式上有效ニ存在スルコトヲ前提トシテ實質上執行ヲ受クヘカラサルコトヲ主張シテ執行ノ廢棄ヲ求ムルニハ請求ニ關スル異議ノ訴ニ依リ爲スヘキモノニ非スシテ執行命令ノ無效ヲ理由トスル場合ニハ執行文付與ニ關スル異議ノ申立ニ依リ又債務名義ノ未送達ヲ理由トスルトキハ民事訴訟法第五百四十四條ニ依ル異議ノ申立ニ依ルヲ要スルモノトス　（大正一四・四・一四）

○强制執行ヲ爲ササル旨ノ契約及之ニ因ル執行排除方法　訴訟ノ當事者間ニ原告勝訴ノ判決確定スルモ强制執行ヲ爲ササルヘキ旨ヲ約シタルニ拘ラス之ニ違反シテ强制執行ヲ爲スハ不當ニシテ相手方ハ之ヲ拒否スルノ權利ヲ有

巻　頁
一六　六七
五　五一三
一三　一四三

スルモノトス

右約旨ニ因ル異議ハ判決ニ因リ確定シタル請求其ノモノニ關スルコトナキカ故ニ民事訴訟法第五百四十五條ニ依ル所謂請求ニ關スル異議ノ訴ノ事由タルヘキモノニ非ス須ク同法第五百四十四條ニ依リ所謂執行ノ方法ニ關スル異議ノ手續ニ依ルヘキモノトス（昭和二・一・二五）

第五百四十五條

○競賣法ニ依ル競賣ニ關スル異議ノ訴及其ノ異議ノ原因發生時期　競賣法ニ依ル競賣ニ在リテモ債務者ハ民事訴訟法第五百四十五條ヲ準用シテ債務ニ關スル異議ノ訴ヲ起スコトヲ得此ノ場合ニ於テ其ノ異議ノ原因ハ契約ノ當初ニ存スルト其ノ後ニ生シタルトヲ問ハサルモノトス（大正一四・一〇・六）

○債務者ノ異議ト法律行爲ノ取消ノ時期　債務者ノ異議ハ遲クモ異議ヲ主張スルコトヲ要スル最後ノ口頭辯論ノ終結後ニ其ノ原因ノ生シタルコトヲ要シ法律行爲ノ取消ニ付テハ取消ノ原因タル詐欺强迫カ最後ノ口頭辯論ノ終結前ニ存スルトキハ取消ノ意思表示ヲ爲シタル時期カ其ノ終結後ナルトキト雖異議ノ理由トナスヲ得サルモノトス（大正一五・九・二八）

○執行命令ニ對スル請求ニ關スル異議　請求ニ關スル異議ハ執行命令ノ送達後ニ生シタル原因ニ基クトキニ限リ許サルヘキモノニシテ執行命令ハ其ノ確定ニ因リ此ノ範圍ニ於テ又既判力ヲ有ス（大正一五・一〇・五）

○執行命令送達前ニ於ケル主債務者ノ辨濟ト保證債務消滅ノ主張　故ニ執行命令送達前ニ於ケル主債務者ノ辨濟ヲ理由トシテ執行命令ニ依リテ確定シタル保證債務ノ消滅ヲ主張スルコトヲ得サルモノトス（大正一五・一〇・五）

○强制執行ヲ爲ササル旨ノ契約及之ニ因ル執行排除方法　訴訟ノ當事者間ニ原告勝訴ノ判決確定スルモ强制執行ヲ爲ササルヘキ旨ヲ約シタルニ拘ハラス之ニ違反シテ强制執行ヲ爲スハ不當ニシテ相手方ハ之ヲ拒否スルノ權利ヲ有スルモノトス

右約旨ニ因ル異議ハ判決ニ因リ確定シタル請求其ノモノニ關スルコトナキカ故ニ民事訴訟法第五百四十五條ニ依ル所謂請求ニ關スル異議ノ訴ノ事由タルヘキモノニ非ス須ク同法第五百四十四條ニ依リ所謂執行ノ方法ニ關スル異議ノ手續ニ依ルヘキモノトス（昭和二・一・二五）

第五百四十六條

○他人ノ强制執行ニ對シ異議ノ訴ヲ提起シテ執行ヲ遲延セシメタル第三者ノ責任　債權者カ債務者所有ノ不動產ニ對シテ强制執行ヲ開始シタルニ當リ第三者カ該不動產ニ付所有權ヲ有スト詐稱シテ異議ノ訴ヲ提起シ其執行ヲ遲延セシメ因リテ債權者ニ損害ヲ生セシメタルトキハ不法行爲ニ因リテ他人ノ權利ヲ侵害シタルモノナレハ其損害ヲ賠償スル責ニ任スヘキモノトス（大正四・四・一三）

○他人ノ强制執行ニ對シ異議ノ訴ヲ提起シテ執行ヲ遲延セシメタル場合ニ於ケル起訴者ノ責任　所有權アリト信シテ他人ノ强制執行ニ對シテ異議ノ訴ヲ提起シ執行ヲ遲延セシメタル場合ニ於テ其起訴者カ所有權ヲ有セサルノ故ヲ以テ敗訴シタルトキハ所有權アリト信スルニ付相當ノ理由アルコトヲ證明セサル限リハ過失アリト認ムルヲ相當トス（大正五・五・二六）

○漁業權ノ强制競賣ニ對スル借受人ノ異議申立ノ當否　漁業令第八條ニ依レハ漁業權ハ朝鮮總督ノ許可ヲ受

卷	頁
一四	一一
一三	三四一
一三	二六九
一三	三〇三
一三	三〇二
一四	一二
一六	六七
三	一二五
三	六〇四

クルトキハ抵當又ハ讓渡ノ目的ト爲スヲ得ヘキニ依リ許可ヲ條件トシテ强制競賣ヲ爲スヲ妨クルモノニ非サルコト言ヲ俟タスト雖他ニ貸付許可ヲ受ケタル者アル場合ニ於テハ其借受人ハ借受期間內漁場ヲ使用シテ漁業ヲ爲スノ權利ヲ有シ該權利ハ別ニ何等ノ手續ヲ履踐スルヲ要セスシテ第三者ニ對シテモ之ヲ對抗スルコトヲ得ヘキニ依リ其貸付ヲ無視シ何等ノ負擔ナキ狀態ニ於ケル完全ナル漁業權トシテ競賣ヲ爲シ得ヘキモノニ非ス若シ斯ノ如キ場合ニ於テ完全ナル漁業權トシテ競賣ヲ爲ストキハ借受人ハ該强制執行ニ對シテ民事訴訟法第五百四十九條ノ規定ニ基キ異議ヲ主張スルヲ得ヘキモノトス（大正六・一〇・一六）

○債權ニ對スル强制執行ト第三者ノ異議ノ訴　民事訴訟法第五百四十九條ノ異議ノ訴ハ明文上第三者カ有體物ノ讓渡或ハ引渡ヲ要スル强制執行ノミニ關シ自己ノ權利ヲ主張スル場合ノミニ限ルカ如キ觀ナキニ非スト雖同法ノ用語上同條ノ目的物トアルヲ必スシモ目的タル有體物ト解セサルヘカラサル理由ナキノミナラス同條カ强制執行ノ總則中ニ置カレタル點ト第三者ノ財產ニ對スル違法ノ强制執行ヲ排除スルノ必要カ財產ノ種類ニ依リ差異ヲ設クル何等ノ理由ナキ點ヨリ推考スルトキハ同條ノ異議ニハ各種ノ强制執行ニ於テ其目的ニ關シ債務者ノ讓渡若クハ引渡ヲ妨クルコトヲ得ヘキ各種ノ權利ニ基キ爲ス異議ヲ包含スルコト疑ナク從テ第三者カ强制執行ノ目的物ニ付讓渡ヲ妨クル權利ヲ主張スルモノナレハ異議ノ訴ヲ起シ得ルモノトス（大正八・一〇・一四）

○債務者ニ屬セサル債權ノ差押ト眞ノ債權者　差押債權カ債務者ニ屬セサル場合ニ於テ差押債權者カ取立命令若クハ轉付命令ヲ以テ債權ノ取立ヲ爲ス爲第三債務者カ之ニ應シ支拂ヲ爲シ眞ノ債權者タル第三者ニ對スル支拂ヲ拒絕シ或ハ第三債務者カ差押債權者ノ取立ノ爲其第三者ニ對シ辨濟ヲ爲ス能ハサルニ至ルトキハ第三者ハ自己ノ債權ヲ實行スルニ付事實上ノ障害ヲ受クヘク又差押債權者カ第三債務者ニ對シ債權ノ一部ノ取立ヲ爲シタル場合ニハ準占有者ニ對スル辨濟ハ效力カ開始セラルヘキヲ以テ第三債務者カ善意ニテ取立ニ應シタルトキハ準占有者ニ對スル辨濟ナルヲ以テ其辨濟ハ效力

卷	頁
四	八二〇
六	五〇九

ヲ生シ第三者ニ對スル支拂ヲ免ルルカ故ニ第三者ハ自己ノ債權ヲ妨害セラルルニ至ルモノトス（大正八・一〇・一四）

○第三者ノ異議ノ訴ト判斷ノ前提　第三者ノ異議ノ訴ハ既ニ開始セラレタル强制執行行爲ヲ許ササル旨ノ宣言ヲ求ムル民事訴訟法上ノ訴ニシテ民法上ノ訴ニ非スト雖該訴訟タル執行ノ目的物ニ付實體上ノ權利ヲ主張スルモノナルカ故ニ先ツ其權利ノ存否ヲ確定スルニ非サレハ請求ノ當否ヲ判斷スルコトヲ得サルモノトス（大正九・一二・二四）

○競賣ニ對スル第三者ノ異議ノ訴　競賣法ニ依ル競賣ニ關シテモ債務者以外ノ者カ競賣ノ目的ニ付實體上ノ權利ヲ主張シテ競賣手續ニ依ル權利ノ侵害ヲ排除セムトスル場合ニ於テハ民事訴訟法第五百四十九條ノ規定ニ準據シ競賣ノ廢除ヲ求ムル訴ヲ提起スルコトヲ得ルモノトス（大正一五・二・二三）

○占有權者ト執行異議　民事訴訟法第五百四十九條ニ所謂物ノ引渡ヲ妨クル權利ニハ占有權ヲ包含ス（昭和四・三・一二）

第五百五十八條

○本法第五百二十二條第一項ノ裁判ト卽時抗告　民事訴訟法第五百二十二條ニ所謂執行文付與ニ對スル異議ノ手續ハ訴ノ手續ニ非サルヲ以テ其ノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ爲スコトヲ得ヘク從テ此ノ裁判ニ對シテハ同法第五百五十八條ニ依リ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノトス（昭和四・三・二六）

卷	頁
六	五〇九
七	五〇八
一三	一三
一六	五〇
一六	六七

第二章　金錢ノ債權ニ付テノ强制執行

第一節　動產ニ對スル强制執行

第一款　通則

○子ニ對スル債務名義ヲ以テ爲シタル父ノ財產差押ノ適否　子ニ對スル債務名義ヲ以テ其父ノ財產ニ對シテ

差押ヲ爲スハ違法ナリ（明治四三・一一・二八）

○數人居住ノ一家内ニ存スル財産ト所有者ノ認定方　一ノ住家ニ家籍ヲ異ニスル數人ノ者カ共ニ居住スル場合ニ於テ其住家内ニ存在スル財産ニ付何レノ所有ニ屬スルヤ不明ナルトキハ其場所ニ戸主トシテ家籍ヲ有スル者ノ所有ニ屬スト推定シタル法規存スルコトナキニ依リ其執レノ所有ニ屬スルヤハ專ラ證據ニ依リテ定ムヘキモノトス（大正八・三・一一）

第二款　有體動産ニ對スル强制執行

第五百六十六條

○差押方法ノ明記ヲ欠ケル差押調書ト執行行爲ノ效力　民事訴訟法第五百六十六條第二項ハ其第一項ニ規定セルカ如ク債務者ノ占有中ニ在ル有體動産ハ執達吏其物ヲ占有シテ之ヲ爲スヲ原則トスルモ其差押ノ目的物ハ債權者ノ承諾アルカ又ハ其運搬ヲ爲スニ付重大ナル困難アルトキハ執達吏ニ於テ一旦占有ヲ爲シタル後之ヲ債務者ノ保管ニ任スヘク此場合ニ於テハ封印其他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニスルトキニ限リ其效力ヲ生スル旨ヲ規定シタルモノニシテ卽チ苟モ右差押手續ニシテ完全ニ履踐セラレンカ同條第二項ニ依ル差押ハ有效ニシテ差押調書ニ差押方法ニ關スル事實ヲ明記セサレハトテ毫モ執行行爲ノ效力ニ消長ヲ齎ラスヘキモノニ非ス（大正一〇・七・二八）

○第三者所有ノ動産差押ト債權者ノ責任　執達吏カ債權者ノ委任ニ基キ債務者ノ有體動産ニ對シ差押ヲ實行スルニ當リテハ其職權ヲ以テ爲スヘク敢テ債權者ノ指示ヲ受クヘキモノニ非サルヲ以テ執達吏カ誤テ第三者所有ノ有體動産ヲ差押ヘタル場合ニ債權者ニ不法行爲ノ責任アリト爲スニハ債權者ノ故意又ハ過失ニ因リ執達吏ヲシテ斯ル差押ヲ實行セシメタル事實存在セサルヘカラス（大正一一・一・二七）

第五百六十八條

○土地ヨリ分離セサル果實ニ對スル執行規定ノ法意　民事訴訟法第五百六十八條ノ法意ハ成熟前一箇月内ニ於テ未タ土地ヨリ分離セサル果實ハ執行法上之ヲ動產ト同樣强制執行又ハ假差押ノ目的ト爲シ得ヘキコトヲ規定シタルニ止リ實體法上ニ於テモ之ヲ動產ト爲スノ趣旨ニアラス（大正一五・一〇・二六）

第五百七十一條

○假差押動產物保存ノ爲特別處分ヲ必要トスル場合ト其ノ保管ヲ託セラレタル者ノ報告ノ要否　差押動產物保存ノ爲特別ノ處分ヲ必要トスルトキハ執達吏ハ民事訴訟法第五百七十一條ノ規定ニ從ヒ適當ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘキモノナレハ執達吏ヨリ假差押動產物ノ保管ヲ託セラレタル者ハ斯ル特別處分ヲ必要トスル事故ノ生シタルトキ之ヲ執達吏ニ報知シテ其ノ處分ヲ促スヲ相當トスルモ執達吏ニ於テ已ニ了知セル事故ハ之ヲ報告スルコトヲ要セサルモノトス（昭和三・二・一七）

○不法ナル假差押ニ因ル損害額決定ト被害者ノ過失　貯藏ニ付不相應ナル費用ヲ生シ又ハ永ク貯藏スルニ適セサル假差押物ニ付テハ債務者ヨリモ執行裁判所ニ申立テテ之ヲ換價セシメ損害ノ發生ヲ防止スルコトヲ得ルモノナレハ假差押物ノ保管ヲ託セラレタル債務者カ此ノ種假差押ノ換價ニ關シ適當ナル處置ヲ爲ササリシコトニ付過失アリトキハ當該假差押處分カ不法行爲ノ成立ヲ來ス場合ニ於テ裁判所ハ其ノ腐敗滅失ニ因ル損害ノ賠償額ヲ定ムルニ付テモ債務者ノ過失ヲ斟酌スルコトヲ得ルモノトス（昭和三・二・一七）

○營業用物件ノ不法ナル假差押ト廢業ニ因ル損害賠償請求權ノ有無　漁業用ノ漁網漁舟等カ假差押處分ヲ受ケタル場合ニ於テモ債務者ハ必スシモ其ノ業ヲ廢止セサルヘカラサルモノニアラス從テ其ノ假差押處分カ不法ノモノナルトキハ當該假差押處分カ不法行爲ノ成立ヲ來ス場合ニ於テ裁判所ハ其ノ腐敗滅失ニ因ル損害ノ賠償額ヲ定ムルニ付テハ債務者ノ過失ヲ斟酌スルコトヲ得ルモノトス（昭和三・二・一七）

ナルトキニ於テモ單ニ其ノ事由ノミヲ以テハ廢業ニ因ル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス　（昭和三・二・一七）

第三款　債權及ヒ他ノ財產權ニ對スル强制執行

第五百九十四條

○數額未確定ノ債權ニ對スル差押命令　債權ノ差押命令ハ差押債權者ノ權利ノ實行ヲ確保スル爲債務者ノ有スル債權ノ處分ヲ禁止スルコトヲ目的トスルモノニシテ數額未確定ノ債權ト雖豫メ差押命令ヲ發スルノ必要アルノミナラス民事訴訟法ニ於テ條件附債權又ハ期限附債權ニ對シ差押命令ヲ發スルコトヲ許容シタル趣旨ニ鑑ミ數額未確定ノ債權ニ對シテモ差押命令ヲ發シ得ルモノト解スルヲ妥當トス　（大正一三・一〇・二四）

○差押債權讓渡ノ效力　債權ノ差押命令ハ差押債權者ノ利益ノ爲ニ爲スモノナルカ故ニ債務者カ此ノ命令ニ違背シ差押債權ヲ第三者ニ讓渡シタル場合ニ於テ該讓渡ハ差押債權者ニ對シテハ效力ヲ有セサルモ其ノ以外ノ者ニ對シテハ效力アリ　（大正一三・一〇・二四）

第五百九十八條

○債權轉付ノ對人的效力　轉付命令カ債權者及第三債務者ニ送達セラレルトキハ債權ノ轉付ハ債權ノ存スル限リ何人ニ對シテモ當然其ノ效力ヲ生スルモノトス　（大正一四・一二・一五）

第六百條

○數額未確定ノ債權ト轉付命令　債權ノ轉付命令ハ支拂ニ換ヘ券面額ニテ差押債權者ニ債權ヲ轉付スルモノニシテ同命令ハ債務者及第三債務者ニ送達スルニ因リ債權ノ辨濟ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ生スヘキモノナルカ故ニ數額未確定ノ債權ニ對シテハ轉付命令ヲ發スルコトヲ得ス　（大正一三・一〇・二四）

第六百一條

○債權轉付ノ對人的效力　轉付命令カ債權者及第三債務者ニ送達セラレタルトキハ債權ノ轉付ハ債權ノ存スル限リ何人ニ對シテモ當然其ノ效力ヲ生スルモノトス　（大正一四・一二・一五）

第二節　不動產ニ對スル强制執行

第一款　通則

○任意賣買ニ依リ土地ト家屋トカ各別異ノ所有者ニ屬スルニ至リタル場合ニ於ケル兩者ノ權利關係、土地所有者ノ家屋撤去請求權ノ有無及家屋所有者ノ地上權取得　同一人ノ所有ニ屬スル土地及家屋カ任意賣買ニ依リ各其ノ所有者ヲ異ニスルニ至ル場合ニ其ノ家屋ノ賣買ニ付特ニ家屋ヲ取毀チ之ヲ撤去スヘキ合意ノ見ルヘキモノナキ限リ家屋ノ所有者ハ其土地ノ上ニ地上權ヲ取得シ土地ノ所有者ハ其權利ニ基キ家屋ノ所有者ニ對シテ其ノ撤去ヲ强要スルヲ得サルコトハ朝鮮ニ於ケル一般ノ慣習ナリ

如上ノ場合ニ地上權ノ期限及地代等ニ付テハ先ツ家屋ノ所有者ト土地ノ所有者トノ協議ニ依リ之ヲ定ムヘク其協議整ハサル場合ニ於テ始メテ裁判所ニ出訴シ之カ確定ヲ求メ得ヘキコト是亦朝鮮ニ於ケル一般ノ慣習トス

敍上朝鮮ニ於ケル一般慣習ハ强制競賣ニ依リ從來同一所有者ニ屬スル土地及家屋カ各別異ノ所有者ニ屬スルニ至ル場合ニモ其ノ適用アリ　（大正五・九・九）

卷	頁
一五	二〇
一一	一九〇
一一	一九〇
二三	四七七
一三	一九〇
一三	四七七

第六百四十一條

○不動產ノ强制執行ニ付テ管轄ノ指定ヲ爲スヘキ場合　執行ノ目的タル不動產カ法律上若クハ經濟上一個ノ不動產ニシテ事實上數箇ノ裁判所ノ管轄區域內ニ散在スルトキニ限リ管轄ノ指定ヲナスヘキモノトス　（大正一四・一二・二四）

第二款　强制競賣

第六百四十四條

○公賣ノ果實ニ及ホス效力　國稅徵收法第十八條ニ依レハ不動產ノ差押ノ效力ハ差押物ヨリ生スル天然及法定ノ果實ニ及フカ故ニ差押物ノ公賣ニ因リ果實亦當然買受人ニ移轉シ特ニ果實ニ對スル公賣手續アルヲ要セス　（昭和四・九・二七）

第六百四十九條

○典當權ヲ無視シテ爲シタル競賣ノ當否　證明官吏ノ錯誤ニ依リ土地ニ對シ有效ニ存スル典當權ヲ無視セラレタル結果土地ニ付テ何等負擔ナキモノトシテ競賣セラレタル場合ニハ民事訴訟法第六百四十九條第二項ノ適用ナシ　（大正七・三・五）

第六百五十九條

○公告ト競賣期日ノ期間　民事訴訟法第六百五十九條ニ所謂公告ノ日ヨリ十四日ノ後タルヘシトハ公告ノ日ノ翌日ヨリ起算シ十四日ヲ經過シタル後タルコトヲ要ストノ意義ナリ　（大正一三・五・一五）

第六百七十二條

○競落許可ニ付テノ異議ニ對スル決定ト抗告ノ許否　不動產競落ノ許可ニ付テノ異議申立ニ對スル決定ハ抗告ヲ許ス可キモノニ非ス　（大正六・九・二五）

○競落許可ニ付テノ異議申立ノ性質　該異議ハ競落期日ニ出頭シタル利害關係人カ民事訴訟法第六百七十二條ノ規定ニ從ヒ自己ノ權利ニ關スル實體上若クハ形式上ノ理由ニ基キ競落許可ヲ妨クル爲メ競落期日ノ終ニ至ルマテニ提出スル反對主張ニ止リ裁判ヲ求ムル申立ニ非ス　（大正六・九・二五）

○談合入札ニ關スル利害關係人ノ不服申立ノ方法　入札拂ノ方法ニ因ル不動產ノ執行ニ於テ入札者カ入札價格ヲ談合シテ入札シタルモノナルトキハ利害關係人ハ競落期日ノ終リニ至ル迄民事訴訟法第六百七十二條第三號ニ基キ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘク又執行裁判所カ其談合入札ニ基キ競落許可決定ヲ爲シタルトキハ同法第六百八十條ノ規定ニ基キ其決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトス　（大正七・三・一二）

○不服ナクシテ完了シタル場合ト强制執行ノ效力　談合シテ入札シタルトキハ執行ノ手續タル入札カ不正ニ行ハレタルニ過キサルモノナレハ利害關係人ニ於テ之ヲ攻擊スルコトナク執行完了シタルトキハ其强制執行ヲ全然無效ト爲ス謂ハレナシ　（大正七・三・一二）

第六百八十條

○談合入札ニ基ク競落許可決定ト即時抗告　入札拂ノ方法ニ因ル不動產ノ執行ニ於テ入札者カ入札價格ヲ談合シテ入札シタルモノナルトキハ利害關係人ハ競落期日ノ終リニ至ル迄民事訴訟法第六百七十二條第三號ニ基キ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘク又執行裁判所カ其談合入札ニ基キ競落許可決定ヲ爲シタルトキハ同法第六百八十條ノ規定ニ基キ其決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトス　（大正七・三・一二）

第六百八十六條

○他人ノ物ノ競賣ノ效力　被競賣者ノ所有トシテ競賣スルモ他人ノ所有ニ屬スルトキハ其所有權ヲ取得スルコトナシ（明治四四・八・三〇）

○債務者ノ所有ニ非サル不動產ノ強制競賣ト效力ノ有無　債務者ニ對スル強制執行ニ付強制競賣ノ結果競落人ハ債務者ノ所有ニアラサル不動產ニ付テハ其所有權ヲ取得スルコトナシ（大正七・五・一七）

○競賣ニ因ル不動產所有權移轉登記ノ欠缺ト舊所有者　不動產ノ所有權ハ競落許可決定ニ因リ直ニ競落人ニ移轉スルモノトス右ノ場合ニ之ニ基ク登記ヲ經由セサルトキハ不動產ノ舊所有者ハ所有權ノ喪失ヲ以テ其ノ登記ノ欠缺ヲ主張スルニ付正當ノ利害關係ア ル第三者ニ對抗スルコトヲ得ス（大正一五・九・二八）

第六百八十八條

○本條第五項ノ趣旨　民事訴訟法第六百八十八條第五項ノ前ノ競落人ヲシテ不足額及費用ヲ負擔セシムル規定ハ執行ニ干與スルモノニシテ競落代金ノ減少ニ因リ不利益ヲ蒙ムル者ニ前ノ競落人ヨリ其損失ノ補償ヲ得シムルノ趣旨ニ出テタルモノトス

前項ノ不利益ヲ蒙ムル者獨リ第一抵當債權者ノミナルトキハ同債權者ハ前ノ競落人ニ對シ右規定ニ依リテ不足額及費用ノ支拂ヲ請求スル權利アリ（大正一〇・一二・二〇）

○代金支拂ノ義務不履行ノ競落人ト新競賣ニ於ケル競落代價ノ不足額負擔　競落人カ代金支拂ノ義務ヲ履行セサルニ因リ再競賣ヲ施行スル場合ニ於テ競買申出人ナカリシ結果競買却條件中最低競賣價額ヲ低減シテ新競賣ヲ施行シタルトキト雖其新競賣ニ於ケル競落代價ハ民事訴訟法第六百八十八條第五項ニ所謂再度ノ競落代價ニ該當スト解スヘキモノトス（大正一一・九・二六）

巻	頁
一	三五三
五	四二一
一三	二八七
八	五五八
九	三七四

○再競賣ニ於ケル前ノ競落人ノ補償責任ト其ノ請求權者　民事訴訟法第六百八十八條ニ依ル前ノ競落人ノ補償ノ責任ハ競落代價ノ減少ニ因リ辨濟ヲ受クルコト能ハサリシ債權者ニ對シテ負擔スル若補償額ニ剩餘アルトキハ其ノ限度ニ於テ債務者ニ對シテ亦負擔スルモノトス（大正一五・五・二八）

第六百九十五條

○假差押債權者ノ配當要求ヲ爲シ得ヘキ債權額　假差押カ強制執行ニ轉化シ競賣ノ結果賣得金ヲ配當スルニ當リテハ假差押債權者ハ其ノ有スル全債權ヲ以テ配當要求ヲ爲スコトヲ得ヘク假差押命令ヲ申請スルニ當リ保全スヘキ債權トシテ表示シタル債權額ニ局限セラルヘキモノニ非ス（昭和二・七・一五）

○第三取得者ニ對スル債權者ノ配當要求　假差押アリタル不動產カ第三者ニ移轉シタル後競賣セラレタル場合ニ於テハ第三取得者ニ對スル債權者ハ假差押債權者ノ債權ヲ滿足セシメタル後剩餘ニ付配當ヲ受クヘキ權利ヲ有ス（昭和二・七・五）

第六百九十七條

○假差押後ニ設定シタル抵當權ノ行使ト假差押債權者ノ配當要求　假差押ヲ爲シタル不動產ニ對シ其ノ後ニ設定シタル抵當權ノ行使トシテ競賣ヲ爲ス場合ニ於テハ民事訴訟法ニ準據シ假差押債權者ハ當然配當要求ヲ爲シタルモノトシテ其ノ債權ニ對スル配當額ヲ供託スヘキモノトス（大正一五・七・二三）

第七百二條

○不動產ノ強制執行上談合入札ノ效力ノ有無　執行裁判所カ不動產ニ對スル強制執行ニ於テ民事訴訟法第七百二條ニ依リ競賣ニ換ヘテ入札拂ヲ命シタルトキハ入札者ハ各自互ニ競爭シ各其所見ニ從ヒ獨立自由ナル入札價格ノ申出ヲ爲スヘキモノニシテ入札價格ヲ談合シテ入札ヲ爲スヘキコトノ合意ハ公ノ秩序ニ反スル事項ヲ目的トスル無效ノ

合意ナリトス（大正七・三・一二）

○談合入札ニ依ル權利移轉ノ委託契約ノ無效ナル場合　當事者カ談合シテ入札スヘキコトヲ合意シタル爲當事者ノ一方カ相手方ニ對シ其名義ヲ以テ入札ニ加入シ最高價入札人トナリ不動產ノ所有權ヲ取得シタル場合ニ自己ニ其權利ヲ移轉スヘキコトヲ約シタル委託契約カ公ノ秩序ニ反スル事項ヲ目的トスル法律行爲トシテ無效トナルニハ其談合入札ノ合意カ委託契約ノ內容ヲ爲シタル場合ナルヲ要ス（大正七・三・一二）

第三章　金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行

第七百三十六條

○意思ノ陳述ヲ要求スル權利關係ト假處分　本案訴訟ニ於ケル判決ニ依リテ定マルヘキ權利關係カ當事者ノ一方ヨリ相手方ノ意思ノ陳述ヲ要求スルモノニ係ルトキハ強制執行保全ノ方法タル假處分ヲ爲スニ適セサルモノトス（大正一三・四・二五）

第四章　假差押及ヒ假處分

第七百三十七條

○假差押ノ效力　債權者カ債務者所有ノ不動產ニ對シ假差押ヲ爲シタルトキハ爾後ニ於ケル債務者ノ處分行爲ハ假差押債權者ニ對シテハ無效ナリ（昭和二・七・一五）

○假差押債權者ノ配當要求ヲ爲シ得ヘキ債權額　假差押カ強制執行ニ轉化シ競賣ノ結果賣得金ヲ配當スルニ當リテハ假差押債權者ハ其ノ有スル全債權ヲ以テ配當要求ヲ爲スコトヲ得ヘク假差押債權者カ假差押命令ヲ申請スルニ當リ保全スヘキ債權トシテ表示シタル債權額ニ局限セラルヘキモノニ非ス（昭和二・七・一五）

假差押アリタル不動產カ第三者ニ移轉シタル後競賣セラレタル場合ニ於テハ第三取得者ニ對スル債權者ハ假差押債權者ノ債權ヲ滿足セシメタル後剩餘ニ付配當ヲ受クヘキ權利ヲ有ス（昭和二・七・一五）

第七百四十八條

○土地ヨリ分離セサル果實ニ對スル執行規定ノ法意　民事訴訟法第五百六十八條及之ヲ假差押ニ準用スル同法第七百四十八條ノ法意ハ成熟前一箇月內ニ於テ未タ土地ヨリ分離セサル果實ハ執行法上之ヲ動產ト同樣強制執行又ハ假差押ノ目的ト爲シ得ヘキコトヲ規定シタルニ止リ實體法上ニ於テモ之ヲ動產ト爲スノ趣旨ニアラス（大正一五・一〇・二六）

第七百五十條

○倉荷證券發行ノ寄託物ト假差押ノ執行方法　倉荷證券ノ發行アル寄託物ニ付假差押ヲ執行スルニハ執行機關ヲシテ其倉荷證券ヲ占有セシムルニ非サレハ假差押ノ效力ヲ生セサルモノトス（大正一〇・四・一二）

第七百五十五條

○假處分中ノ係爭物ニ對スル讓渡其ノ他ノ行爲ノ效力ノ有無　係爭物ニ關スル假處分ノ效力ハ絕對的ニ非スシテ關係的タリ其假處分ニ因リテ保全セラレタル假處分申請者ノ權利實行ヲ妨ケサル範圍ニ於ケル讓渡其他ノ行爲ハ之ヲ無效トスヘキモノニアラス（大正六・四・二四）

○假處分中ノ係爭物ノ讓渡其他ノ行爲ト假處分申請者ノ權利　假處分申請者ノ權利實行ト相容レサル假處

分中ニ爲サレタル係爭物ノ讓渡其他ノ行爲ハ債務者ノ自働的ニ出タルト將又他働的ニ執行機關ニ依リタルトヲ問ハス假處分申請者ノ勝訴判決確定シタルトキハ申請者ノ保全セラレタル權利實行ヲ妨クルコトヲ得ス（大正六・四・二四）

○假處分命令ノ登記ト之ニ反スル處分行爲ノ效果　不動產ニ付債務者ノ處分行爲ヲ禁止スル假處分命令ノ登記アリタルトキハ爾後ニ於ケル該禁止ニ反スル處分行爲ハ假處分權利者ニ對シテ無效ナリ（大正一一・一・一七）

○不動產物權ノ移轉登記ト處分行爲　處分行爲タル不動產物權ノ移轉ヲ第三者ニ對抗スルコトヲ得セシムル爲登記ヲ爲スハ處分行爲ヲ完成スルモノニ外ナラス

如上ノ登記行爲ハ假處分ノ效力ニ對スル關係ニ於テハ處分行爲ト同一視スヘキモノニシテ其登記ハ假處分權利者ニ對シテハ無效ナリ（大正一一・一・一七）

第七百五十六條

○假處分裁判所ノ命令ニ依ル債權者起訴ノ時期　本案繫屬前假處分決定アリタル場合ニ於テ債權者カ縱令假處分ノ裁判所ノ定メタル起訴期間ヲ徒過シタル後ト雖債務者ノ該決定取消ノ申立ニ關スル判決ニ接著スル口頭辯論ノ終結迄ニ本案ノ訴ヲ提起シタルトキハ假處分裁判所ノ命令ニ依ル起訴トシテ有效ナルモノト解スルヲ妥當トス（昭和三・一〇・二三）

第七百五十八條

○假處分命令ノ登記ト之ニ反スル處分行爲ノ效果　不動產ニ付債務者ノ處分行爲ヲ禁止スル假處分命令ノ登記アリタルトキハ爾後ニ於ケル該禁止ニ反スル處分行爲ハ假處分權利者ニ對シテ無效ナリ（大正一一・一・一七）

○不動產物權ノ移轉登記ト處分行爲　處分行爲タル不動產物權ノ移轉ヲ第三者ニ對抗スルコトヲ得セシムル爲登記ヲ爲スハ處分行爲ヲ完成スルモノニ外ナラス如上ノ登記行爲ハ假處分ノ效力ニ對スル關係ニ於テハ處分行爲ト同一視スヘキモノニシテ其登記ハ假處分權利者ニ對シテハ無效ナリ（大正一一・一・一七）

○處分行爲禁止ノ假處分命令登記ノ效力及移轉登記行爲ト處分行爲ノ完成　不動產ニ付債務者ノ處分行爲ヲ禁止スル旨ノ假處分命令ノ登記アリタルトキハ爾後ニ於ケル該禁止ニ反スル處分行爲ハ假處分權利者ニ對シ無效ナリ而シテ不動產物權ノ得喪變更ハ之ヲ登記スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルニ依リ處分行爲タル不動產物件ノ移轉ヲ第三者ニ對抗スルコトヲ得セシムル爲登記ヲ爲スハ處分行爲ヲ完成スルモノニ外ナラス從テ斯ノ如キ登記行爲ハ假處分權利者ニ對スル關係ニ於テハ處分行爲ト看做スヘキモノナルカ故ニ該登記ハ假處分權利者ニ對シテハ無效ナリトス（大正一二・三・一三）

○假處分ニ依ル損害賠償ト注意ノ程度　賣主カ買主ニ對シ賣買ノ目的物タル動產ノ引取方ヲ通知セシヨリ買主カ賣主ト豫メ期日ヲ打合セ之カ引渡ヲ受クル爲代理人ヲ派遣シタルニ同代理人カ買主ニ對シ無事引渡ヲ受ケタル旨報告ヲ爲シタルカ如キ場合ニ在リテハ買主ハ一應其言ヲ信シ右賣買ノ目的物ニ付完全ニ權利ヲ取得シタルモノト確信スルニ於テ間然スル所ナシトスルモ他ニ同一賣主ヨリ同一目的物ヲ買受ケ其引渡ヲ受ケタリトシ自己ノ權利ト相容レサル權利ヲ主張スル者顯ハレタルトキハ斯ル場合ニハ更ニ相當ノ手段方法ニ依リ其代理人ノ引渡ヲ受ケタリトノ報告カ眞實ナリヤ否ヤニ付相當ノ調査ヲ爲シタル後訴ヲ提起シ假處分命令ノ申請ヲ爲スヲ以テ通常人ノ用フル注意ヲ施シタルモノト爲スヘク代理人ノ當初ノ報告ノミニ信賴シ直ニ訴ヲ提起シ假處分ノ申請ヲ爲スカ如キハ其注意ニ缺クル所アルモノト謂ハサルヘカラス（大正一二・六・五）

○假處分命令登記ト之ニ反スル處分行爲ノ效果　不動產ニ付債務者ノ處分行爲ヲ禁止スル旨ノ假處分命令ノ登記アリタルトキハ爾後ニ於ケル該禁止ニ反スル處分行爲ハ對絕ニ無效ナルニ非スシテ唯假處分權利者ニ對スル關係ニ於テノミ無效ナルニ依リ右不動產ニ付所有權ヲ取得シタル第三者ハ所有權移轉ノ登記ヲ爲スコトヲ得ヘク唯該登記ヲ

以テ假處分權利者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス（昭和二・八・五）

○不動產ニ付債務者ノ處分行爲ヲ禁止スル旨ノ假處分命令登記ノ抹消ト右不動產ニ付所有權ヲ取得シタル第三者ノ假處分權利者タリシ者ニ對スル關係　假處分命令ノ登記カ假處分權利者ヨリ假處分申請ノ取下アリタルニ依リ抹消セラレタルトキハ當初ヨリ假處分ナカリシト同一狀態ニ歸スルカ故ニ右第三者ハ假處分權利者タリシ者ニ對シテモ所有權移轉ノ效力ヲ對抗スルコトヲ得ヘシ（昭和二・八・五）

第七百五十九條

○本條第二所謂特別ノ事情　民事訴訟法第七百五十九條ニ所謂特別ノ事情トハ債權者カ假處分命令ノ取消ニ因リテ蒙ルヘキ損害ヲ金錢ニテ補塡スルコトヲ得尙且之カ爲ニ假處分ノ目的ヲ沒却セラルルコトナキ場合ニ於ケル事情ナリトス（大正一一・五・三〇）

○假處分ノ異議ト取消ノ差異　假處分ノ異議ハ假處分申請ヲ認可スヘカラサル場合ニ之ヲ爲シタルコトヲ攻擊スル方法ナレトモ民事訴訟法第七百五十九條所定假處分ノ取消ハ適法ニ成立セル假處分命令ヲ攻擊スル方法ナルコト明ナルヲ以テ單ニ假處分ノ基本タル請求竝假處分ヲ必要トスル理由カ本來存セサリシ事由ノ如キハ該條ニ所謂特別ノ事情ナルモノニ該當セサルモノトス（大正一一・五・三〇）

○本條ニ所謂特別ノ事情　假處分ニ依リ保全セラルル給付ニ代フルニ金錢ヲ以テスルモ申請人ヲ滿足セシムルコトヲ得ル事情ノ存スル場合又ハ假處分ノ爲被申請人カ普通ニ受クル損害ニ比シ多大ノ損害ヲ被ルヘキ場合ノ如キハ民事訴訟法第七百五十九條ニ所謂特別ノ事情ニ屬スルモノトス（大正一三・一一・七）

第七百六十條

○假ノ地位ヲ定ムル假處分ニ於ケル係爭權利關係　爭アル權利關係ニ付假ノ地位ヲ定ムル爲ニスル假處分ハ

卷	頁
一四	二三五
一四	二三五
九	一八七
九	一八七
一一	二〇一

他日判決ニ依リ確定シタル權利ノ執行ヲシテ容易ニ其ノ目的ヲ達セシメムトスル强制執行保全ノ方法トシテ認メラレタルモノニシテ殊ニ繼續スル權利關係即チ係爭ノ權利關係カ數回ノ行爲ヲ目的トシ又ハ占有ノ狀態ヲ維持スルカ如キ其ノ性質ニ於テ繼續スルモノナルトキニ限リ許サルヘキモノトス（大正一三・四・二五）

○相手方ノ意思ノ陳述ヲ要求スルモノニ係ル權利關係ト假處分　本案訴訟ニ於ケル判決ニ依リテ定マルヘキ權利關係カ當事者ノ一方ヨリ相手方ノ意思ノ陳述ヲ要求スルモノニ係ルトキハ强制執行保全ノ方法タル假處分ヲ爲スニ適セサルモノトス（大正一三・四・二五）

卷	頁
一一	七九
一一	七九

朝鮮民事令

（第十條、第十一條、第十二條乃至第十四條ニ付テハ民法中各關係條文ノ部ニ收ム）

第十一條ノ三

○縁組ノ無效ト戸籍訂正ノ手續　大正十二年七月一日ヨリ施行セラレタル朝鮮民事令第十一條竝第十一條ノ三ノ改正規定及朝鮮戸籍令ノ規定ニ從ヘハ養子縁組ノ如キ届出ニ因リ效力ヲ生スヘキ行爲ノ無效ナルコトヲ發見シタル場合ニ於テ之ヲ訂正スルニ付當事者雙方異議ナキトキハ當事者ヨリ管轄地方法院ノ許可ヲ得テ戸籍ノ訂正ヲ申請スヘク又當事者間ニ縁組ノ無效ナルコトニ爭アリテ戸籍ノ訂正ニ異議アルトキハ判決ニ因リテ其ノ行爲ノ無效ナルコトヲ確定シ然ル後訴ヲ提起シタル者ニ於テ判決確定ノ日ヨリ一月以内ニ當該戸籍ヲ管掌スル府尹又ハ面長ニ戸籍訂正ノ申請ヲ爲スヘキモノトス（大正一二・七・一〇）

○確定判決ト戸籍訂正申請義務者　右ノ場合ニ於ケル戸籍訂正申請ノ義務ハ當該訴訟ヲ提起シタル者ニ屬シ相手方ハ之カ申請ヲ爲ス義務ナキモノナレハ訴ニ依リテ相手方ニ戸籍訂正ノ申請ヲ爲スヘキコトヲ要求スルコトヲ得サルモノトス（大正一二・七・一〇）

第二十一條

○訴訟代理ノ許可ト審級　朝鮮民事令第二十一條ニ依ル訴訟代理人ノ許可ハ各審級毎ニ之ヲ受クヘキモノナレハ其訴訟代理人ノ許可ナキ爲メ代理ノ欠缺ヲ理由トシテ裁判セラレタルトキハ縱令上級審ニ於テ訴訟代理人ヲ許可シタリトスルモ下級審ニ於ケル代理ノ欠缺ヲ追完スルニ由ナキモノトス（大正四・三・九）

○辯護士ニ非サル訴訟代理人ト訴訟控訴上告ノ提起　辯護士ニ非サル訴訟代理人カ當事者本人ヨリノ訴訟代理ノ許可申請書ト共ニ其代理人名義ノ訴狀控訴狀若クハ上告狀ヲ提出シタル場合ニ裁判所カ其訴訟代理人ヲ許可シタルトキハ其訴訟控訴若クハ上告ノ提起ハ適法ニ爲サレタルモノト看做スヘキモノトス（大正四・六・一八）

○控訴ノ提起ト訴訟代理許否ノ管轄裁判所　控訴狀ト共ニ訴訟代理ノ許可申請書ヲ第一審裁判所ニ提出スルモ其代理ノ許否ハ控訴裁判所ニ於テ爲スヘキモノトス（大正四・六・一八）

第二十六條

○當事者ト期日出頭受書　當事者雙方カ口頭辯論期日ニ出頭スヘキ受書ヲ提出シタルトキハ朝鮮民事令第二十六條ニ依リ該期日ハ當事者雙方ニ對シ適法ノ呼出アリタルト同一ノ效力ヲ生スルモノトス（大正五・二・一五）

第二十九條

○再度ノ不出頭ト期日指定申請及其ノ裁判　當事者雙方引續キ再度出頭セサルニ拘ラス朝鮮民事令第二十九條ニ該當セサルモノト思料シタルトキ當事者ハ口頭辯論期日指定ノ申請ヲ爲シ得ヘク裁判所ニ於テハ同條ニ該當セストシ認メタルトキハ新ニ口頭辯論ノ期日ヲ指定シ當事者ヲ呼出シ又同條ニ該當スルモノト認メタルトキハ該申請ヲ却下スルヲ民事訴訟法規ノ趣旨ニ適合スルモノト解スヘキモノトス而シテ後ノ場合ニ於テハ當事者ハ民事訴訟法第四百五十五條ニ從ヒ抗告ノ申立ヲ爲シ得ヘキモノニシテ右法則ハ控訴審ニ於テモ其適用アルモノトス（大正九・四・二四）

○本條第二項ノ新期日ノ意義　朝鮮民事令第二十九條第二項ニ所謂新期日トハ同條第一項ノ規定ニ依リ新ニ指定セラレ且最初ニ開廷セラレタル期日ヲ指稱ス（大正一一・一〇・一三）

○抗告事件ノ口頭辯論期日懈怠ト本條　民事令第二十九條ハ抗告裁判所ノ命シタル口頭辯論期日ニハ其ノ適用ナキモノトス（大正一五・四・二八）

○本條第二項ニ所謂其ノ後ノ期日　朝鮮民事令第二十九條第二項ニ所謂其ノ後ノ期日ノ意義ハ同一審級ニ於ケル

巻	頁
三	一九九
三	一九九
三	三九三
七	一三一
九	三九五
一三	一〇二
一〇	二〇六
一〇	二〇六
三	九〇

裁判長カ之ヲ行使セサリシコトヲ理由トシ上告ノ理由トシ得ス（大正二・一一・九）

第三十五條

（舊法）

○差戻後ノ再度ノ闕席判決ハ改正前ノ朝鮮民事令第三十五條ニ該當ス

炫訴事件カ終局判決ニ因リ一旦其ノ效力ヲ有スル判決ニ對シ更ニ爲ス再度ノ闕席判決ハ一事件カ再ヒ同一審級ニ繫屬スルニ至ルモノナルヲ以テ其ノ差戻前闕席判決ヲ受ケタル原裁判所カ原判決ノ全部又ハ一部カ破毀セラレ事件カ原裁判所ニ差戻サレタルトキハ同一且其ノ兼效ヲ離脫スル上告ノ結果其ノ判決ノ效力ヲ失ヒ又ハ變更セラレタルトキハ同一且其ノ兼效ヲ離脫スル上告ノ結果其ノ判決ノ效力ヲ失ヒ又ハ變更セラレタルトキハ同一事件カ再ヒ同一審級ニ繫屬スルニ至ルモノナルヲ以テ其ノ差戻前闕席判決ヲ受ケタル原裁判所カ原判決ノ全部又ハ一部カ破毀セラレ事件カ原裁判所ニ差戻サレタルトキハ同一且其ノ兼效ヲ離脫スル上告ノ結果其ノ判決ノ效力ヲ失ヒ又ハ變更セラレタルトキハ同

爲ストキハ再ヒ朝鮮民事令第三十五條（改正前）ニ所謂再度ノ闕席判決ニ該當スル（昭和二・一〇・二七）

第三十九條

（舊法）

○證據決定ノ取消

朝鮮民事令第三十九條（改正前）ハ注意的規定ニ過キサルニ依リ之ニ依據シテ證據決定ヲ取消スヲ得サルモノトス（大正一〇・六・一七）

第四十四條

訐サルヘキ本則ノ存スルコトヲ推論セントスルハ共當ヲ得サルモノトス（大正一〇・六・一七）

第四十四條

○本條上訴ノ制限ト併合訴訟

數個ノ請求ニ付爲サレタル判決ニ對シ數個ノ請求ニ關シ一ツノ控訴ヲ爲ス場合ニハ其ノ價額ヲ合算シテ之カ許否ヲ決スヘキモノニシテ其ノ數個ノ請求カ同一人ニ對スルモノナルト別異ノ人ニ對スルトヲ問ハサルモノトス（昭和七・一・二六）

本條ニ所謂控訴ニ因リテ受クヘキ利金ノ價額ト訴訟費用

朝鮮民事令第四十四條ニ所謂控訴ニ因リテ受クヘキ利金ノ價額中ニハ當該訴訟費用ヲ包含セサルモノトス（昭和七・一〇・一八）

本條ニ所謂控訴ニ因リテ受クヘキ利金ノ價額ト取引價格

朝鮮民事令第四十四條ニ所謂控訴ニ因リテ受クヘキ利金ノ價格ハ當該訴訟ニ於ケル標的ノ對象タル訴訟物ノ取引價格ニ他ナラス（昭和一〇・九・三〇）

水流地返還訴訟ノ訴訟價額算定ノ標準

水流地返還訴訟物カ水流地ナルトキハ之ヲ原告ニ引渡スヘキ旨ノ判決ヲ爲スヘキモノニシテ其ノ訴訟物カ水流地ナルトキハ之ヲ原告ニ引渡スヘキ旨ノ判決ヲ爲スヘキモノニシテ其ノ訴訟物カ水流地ナルトキハ之ヲ原告ニ引渡スヘキ旨ノ判決ヲ爲スヘキモノニシテ其ノ訴訟物カ水流地ナルトキハ之ヲ原告ニ引渡スヘキ旨ノ判決ヲ爲スヘキモノニシテ其ノ訴訟物カ水流地ナルトキハ之ヲ原告ニ引渡スヘキ旨ノ判決ヲ爲スヘキモノニシテ其ノ訴訟物カ水流地ナルトキハ之ヲ原告ニ引渡スヘキ旨ノ判決ヲ爲スヘキモノニシテ其ノ訴訟物カ水流地ナルトキハ之ヲ原告ニ引渡スヘキ旨ノ判決ヲ爲スヘキモノニシテ其ノ訴訟物カ水流地ナルトキハ之ヲ原告ニ引渡スヘキ旨ノ判決ヲ爲スヘキモノニシテ

朝鮮民事令

（舊法）

第三十五條

（舊法）

裁判長カ之ヲ行使セサリシコトヲ理由トシ上告ノ理由トシ得ス（大正二・一一・九）

第三十九條

（舊法）

○證據決定ノ取消

朝鮮民事令第三十九條（改正前）ハ注意的規定ニ過キサルニ依リ之ニ依據シテ證據決定ヲ取消スヲ得サルモノトス（大正一〇・六・一七）

第四十四條

訐サルヘキ本則ノ存スルコトヲ推論セントスルハ共當ヲ得サルモノトス（大正一〇・六・一七）

第四十四條

○本條上訴ノ制限ト併合訴訟

數個ノ請求ニ付爲サレタル判決ニ對シ數個ノ請求ニ關シ一ツノ控訴ヲ爲ス場合ニハ其ノ價額ヲ合算シテ之カ許否ヲ決スヘキモノニシテ其ノ數個ノ請求カ同一人ニ對スルモノナルト別異ノ人ニ對スルトヲ問ハサルモノトス（昭和七・一・二六）

本條ニ所謂控訴ニ因リテ受クヘキ利金ノ價額ト訴訟費用

朝鮮民事令第四十四條ニ所謂控訴ニ因リテ受クヘキ利金ノ價額中ニハ當該訴訟費用ヲ包含セサルモノトス（昭和七・一〇・一八）

本條ニ所謂控訴ニ因リテ受クヘキ利金ノ價額ト取引價格

朝鮮民事令第四十四條ニ所謂控訴ニ因リテ受クヘキ利金ノ價格ハ當該訴訟ニ於ケル標的ノ對象タル訴訟物ノ取引價格ニ他ナラス（昭和一〇・九・三〇）

水流地返還訴訟ノ訴訟價額算定ノ標準

水流地返還訴訟物カ水流地ナルトキハ之ヲ原告ニ引渡スヘキ旨ノ判決ヲ爲スヘキモノニシテ

朝鮮民事令

第三五條ノ一第四四條

（舊）

六九五

第三五條

（舊法）

○同上

訴訟行爲ヲ爲ス代理人ニ依リテモ爲シ得ヘキモノトス（昭和七・一・二六）

赤之ヲ爲スニ由ナカリシ如キ事情ニ依リテハ其ノ責ニ歸スヘカラサル事由存シタルモノト認ムルヲ要セサルモノトス（昭和一〇・八・一五）

ノ故ノミヲ以テハ未タ以テ其ノ責ニ歸スヘカラサル事由存シタルモノト認ムルヲ要セサルモノトス（昭和一〇・八・一五）

第三十二條

（舊法）

○裁判長ノ注意權行使

朝鮮民事令第三十二條（改正前）ニ規定スル注意權ヲ行使スルト否トハ裁判長ノ權能ニ屬スル（大正七・五・一七）

ヲ以テ之ヲ行使セサリシトテ違法トナスヘカラサルヤ勿論ナリ（大正七・五・一七）

○同旨

朝鮮民事令第三十二條（改正前）ニ規定セル裁判長ノ注意權ハ之ヲ行使スルト否トハ一ニ裁判長ノ自由ニ屬シ

同種ノ期日ヲ即日口頭辯論ノ各期日又ハ準備手續ノ各期日ヲ指揮トシテ之ヲ定ムヘキ當事者雙方カ兩種ノ期日ヲ通シテ二回ニ亘リ正當ノ理由ナクシテ出頭セサル場合ニハ同條ヲ適用スヘキモノトス（昭和七・六・一四）

本條第三項ニ所謂實ニ訴訟ヘカラサル事由

朝鮮民事令第二十九條第三項ニ所謂實ニ訴訟ヘカラサル事由トハ必スシモ不可抗力ニ限ラス當事者カ通常爲スヘキ注意ヲ盡シ尚且避クルコトヲ得サリシ事由ヲ汎稱スルモノニシテ其ノ原因カ當事者ノ一身ニ存シタルト將又外部ニ存シタルトハ之ヲ問ハサルモノトス（昭和一〇・八・一五）

本條第三項ニ該當セサル事例

當事者カ口頭辯論期日變更申請ヲ提出シタル際其ノ結果ノ確ムルコトナク漫然希望ノ日ニ變更セラレヘキ旨ノ辯論ノ準備ヲ怠リタルトキハ各期日ヲ經過シタルトキハ敗訴ノ原因ト出頭ハ孰レモ朝鮮民事令第二十九條第三項ニ所謂實ニ訴訟ヘカラサル事由ニ該當セス（昭和一〇・八・一五）

第二九條ノ一第三三條

（舊）

六九四

在ルトキハ控訴ニ因リテ受クヘキ利益ノ價格ハ係爭土地所有權ノ取引價格以上ヲ出ツルコトナキモノトス（昭和一〇・九・三〇）

第四十六條

○判決送達後ノ受繼ト申立裁判所　終局判決ノ送達後訴訟手續ノ中斷シタル場合ニ受繼ニ關スル書面ハ朝鮮民事令第四十六條第四十七條第五十一條ノ規定ニ徴シ原裁判所ニ提出スルヲ妨ケスト解スルヲ相當トス（昭和三・八・三）

第四十七條

○期間經過後提起ノ控訴ト其ノ却下　期間經過後ニ起シタル控訴ハ朝鮮民事令第四十七條（改正前）ニ依リ第一審裁判所決定ヲ以テ之ヲ却下シ得ヘク若シ第一審裁判所ニ於テ右決定ヲ與ヘサリシトキハ民事訴訟法第四百二條ニ依リ第二審裁判所ノ裁判長ニ於テ却下ノ命令ヲ爲シ得ヘキモノトス（大正一五・一二・一四）

○補正命令ニ對スル抗告ノ許否　朝鮮民事令第四十七條ニ基キ爲サレタル補正命令ニ對シテハ抗告ヲ許ササルモノトス（昭和八・四・一四）

第七十三條

○朝鮮人ノ外關係者ナキ離婚事件ノ訴訟手續　朝鮮人ノ外關係者ナキ離婚事件ニ付テハ朝鮮民事令第七十三條（改正前）ノ規定ニ則リ通常ノ訴訟手續ニ依リ審判スヘク此場合ニ於テ控訴人ニ對シテ爲ス闕席判決ニ關スル民事訴訟法第四百二十八條ノ適用ヲ除外セルモノナシ（大正二・一〇・二八）

巻頁
二三　四一四
一五　二三四
二三　四三七
二〇　一六九
二三　三四九

附則

第七十九條

○本令施行前ノ判決ト施行後ノ上告期間　朝鮮人間ノ訴訟ニシテ朝鮮民事令施行前ニ於テ言渡アリタル判決ニ對スル上告期間ハ判決言渡ノ日ヨリ始マルコトハ其當時ノ法律タル民刑訴訟規則ノ規定ニ徴シテ明ナルモ同令施行ノ日マテニ上告期間ヲ經過セスシテ其施行後ニ至リ上告スルモノニ在リテハ同令第一條ニ依リテ適用スヘキ民事訴訟法第四百三十七條ノ規定ニ則リ其上告期間ハ判決送達ノ日ヨリ計算シ而モ判決送達前ニ於テ爲シタル上告ハ之ヲ無效トスヘキモノトス（明治四五・七・一九）

○民刑訴訟規則ニ因ル判決謄本ノ送達ト本令施行後ノ效力　民刑訴訟規則ニ依リテ送達セラレタル判決謄本ハ民事訴訟法ニ依リ送達サルヘキ判決正本ニ該當スルモノナレハ朝鮮民事令第七十九條ノ規定ニ依リ判決正本ノ送達アリタルト同一ノ效力ヲ有スト看做スヘキモノナリ（明治四五・七・三〇）

第八十一條

○本令施行後一年內ニ於ケル未登記物權ノ對抗力　朝鮮民事令第八十一條ニ依リ準用スヘキ民法施行法第三十七條ニ依レハ從來登記又ハ證明ナクシテ第三者ニ對抗スルヲ得ヘカリシ權利ト雖朝鮮民事令ノ規定ニ依リ登記又ハ證明ヲ受クヘキモノナルトキハ第三者ニ對抗スルカ爲メニハ同令施行ノ日ヨリ一年內ニ登記又ハ證明ヲ受クルコトヲ要スルモ同令施行後一年ヲ經過セサル間ハ登記又ハ證明ヲ受ケサルモ第三者ニ對抗スルヲ得（大正元・一〇・一五）

一　四九五
一　五〇三
二　四〇

市場規則

第一條

○大邱穀物商組合市場ニ於ケル總解合ト商慣習　大邱穀物商組合市場ニ於テ賣方買方間ニ總解合ヲ爲シタル場合ニハ右總解合ノ決議ニ加ハラサル委託者ト雖其ノ決議ニ服從スヘキ商慣習ノ存在スルコトハ之ヲ認メ得ヘキモ此慣習ハ事實タル慣習ニシテ法タル效力ヲ有スル慣習ニ非ス（大正一二・二・二七）

○市場取引ニ於ケル商慣習ト當事者ノ意思　取引市場ニ於テ行ハルル商慣習ハ反對ノ意思ノ認メ得サル限リ普通其慣習ヲ知リ之ニ依ルノ意思ヲ有スルモノト認ムルヲ相當トス（大正一二・二・二七）

○米穀ノ定期取引ニ於ケル轉賣買戻　米穀ノ定期取引ニ付テ行ハルル轉賣買戻ハ賣買當事者ノ一方カ相手方ニ通知スルコトナク又其ノ承諾ヲ受クルコトナクシテ市場ニ於テ前取引ト反對ノ賣買ヲ爲スニ因リテ自己ノ賣約ト買約トヲ相殺シ全然其契約關係ヨリ脫離スルコトヲ謂ヒ多クノ場合ニ於テハ契約當事者一方ノ賣約若ハ買約ト買戻約若ハ轉賣約トヲ差引消合スルモノニシテ其ノ行爲ハ定期取引ニ關スル商慣習ニ依リテ認メラルル一種特別ノモノトス（大正一二・八・七）

○米穀ノ定期取引ニ於ケル解合　俗ニ解合ト稱スルモノハ市場變調ヲ呈シ賣方買方雙方死力ヲ盡シテ相爭ヒ一方倒ルレハ假令違約處分ヲ爲スモ相手方亦多少ノ損害ヲ免レサルカ如キ場合ニ於テ賣方買方合議ノ上所謂解合直段ヲ協定シ其ノ直段ヲ以テ轉賣買戻ノ形式ニ依リ總賣買ノ差引消合ヲ爲スヲ謂フモノナレハ其ノ行爲ノ性質ハ轉賣買戻ノ行爲ニ於ケルト全ク同一ニシテ畢竟解合ハ之ヲ其ノ賣方又ハ買方ノ一方ヨリ個々ノ契約ニ付テ觀察スレハ卽チ轉賣買戻ニ外ナラサルモノトス（大正一二・八・七）

○バイカイ附出類似ノ取引ト商慣習　朝鮮ニ於テ米穀ノ延取引ヲ行フ所ノ組合其ノ他ノ市場ニ於テハ一般ノ取引所ニ於テ行ハルル所謂バイカイ附出ノ方法ニ類似スル取引ノ行ハルル慣習アリ（大正一四・二・二〇）

○右慣習ノ效力　朝鮮ニ於テ米穀仲買業者ハ委託ヲ受ケタル米穀ノ延取引ニ付所屬ノ市場ニ立會ヒ取引物件ニ付或値段ヲ唱ヘテ賣リ又ハ買ハムトスルモ他ノ仲買中之ニ應スル者ナキ爲自ラ其ノ賣買ノ相手方ト爲リテ取引ヲ爲サムト欲シ且市場ノ監督者及立會者ノ仲買人之ニ異議ヲ唱ヘサルトキ自ラ其ノ賣買ノ相手方ト爲リテ取引ヲ成立セシムルコトヲ得ルハ從來行ハレタル慣習ニシテ其ハ法タル效力ヲ有スルモノトス（大正一四・二・二〇）

第八條

○許可ニ反スル市場外ノ賣買ト其ノ效力　市場規則第十九條ニ於ケル同規則第八條ノ許可ヲ受ケタル營業者カ營業所トシテ許可ヲ受ケタル市場外ニ於テ其營業ヲ爲シタルトキハ之ヲ處罰スル規定ハ許可ヲ受ケタル營業者ノ水產物ノ販賣其モノヲ禁止スル趣旨ニアラス專ラ行政上斯ル營業上ノ取締ヲ爲ス必要ノ爲メ該營業者カ水產物ノ販賣ヲ營業所トシテ許可ヲ受ケタル市場外ニ於テ競賣ノ方法ニヨリ營業的ニ爲スコトヲ禁止スルモノニシテ則チ水產物販賣ノ一定ノ手段ヲ禁止スルノ趣旨ト解スヘキモノナレハ營業者カ右禁止規定ニ反シテ爲シタル水產物ノ賣買ハ無效ニアラス（大正八・七・三一）

○本條競賣ノ方法　市場規則第八條ニ所謂競賣トハ競賣物件ニ對スル多數ノ購買希望者ヲシテ價格ノ競爭ヲ爲サシメ最高價ノ申出ヲ爲シタル者ニ競落スル賣却方法ヲ汎稱スルモノトス（昭和三・一一・二二）

第十九條

○本條第三號違反ノ賣買ノ效力　市場規則第十九條ニ於ケル舊規則第八條ノ許可ヲ受ケタル營業者カ營業トシテ

卷	頁
一〇	三三五
一〇	三三五
一〇	四四九
一〇	四四九
一三	七
一三	七
六	四六九
一五	二〇

許可ヲ受ケタル市場外ニ於テ其ノ營業ヲ爲シタルトキハ之ヲ處罰スル規定ハ許可ヲ受ケタル營業者ノ水產物ノ販賣其モノヲ禁止スル趣旨ニアラス專ラ行政上斯ル營業上ノ取締ヲ爲ス必要ノ爲メ該營業者カ水產物ノ販賣ヲ營業所トシテ許可ヲ受ケタル市場外ニ於テ競賣ノ方法ニヨリ營業的ニ爲スコトヲ禁止スルモノニシテ則チ水產物販賣ノ一定ノ手段ヲ禁止スルノ趣旨ト解スヘキモノナレハ營業者カ右禁止規定ニ反シテ爲シタル水產物ノ賣買ハ無效ニアラス（大正八・七・三一）

驛屯土特別處分令施行規則

○本規則第三條認許證裏面ノ國有小作人心得五ノ四ノ解釋　驛屯土特別處分令施行規則ニ依ル國有地小作人心得ノ四ニ所謂「特別ノ事由アルトキ」トハ必スシモ其一乃至三ニ例示セラレタル如キ重大ナル事由ノミヲ指示シタルモノト解セサルヘカラサルモノニ非スシテ如何ナル事由ヲ以テ之ニ該當スルモノト認ムルヤハ專ラ行政官廳ノ主觀的判斷ニ依リテ之ヲ定メ得ヘキモノトスル趣旨ナルハ勿論其特別ノ事由カ契約締結後ニ發生シタルコトヲ要スルモノニ非スシテ契約締結當時既ニ存シタルモノト雖尙之ヲ以テ特別ノ事由ト謂フヲ妨ケサル趣旨ナリト解スルヲ相當トス（大正一〇・一二・二三）

○賣拂契約ニ因ル權利ト共ニスル借地權ノ讓渡　大正元年朝鮮總督府令第四〇號驛屯土特別處分令施行規則第九條カ大正九年朝鮮總督府令第一一〇號ニ依リ賣拂契約ヲ爲シタル借受人ニ限リ唯轉貸ヲ許シテ借地權ヲ禁止シタルハ賣拂契約ニ因ル權利ト引離シテ借地權ノミヲ讓渡スルコトヲ禁止セルモノニシテ則チ賣拂契約ニ因ル權利ヲ讓渡スルニ當リ之ト共ニ借地權ヲ讓渡スルコトヲ禁止セルモノニ非ス（大正一五・九・二八）

卷 六 四六九
頁 八 五九二

タルハ賣拂契約ニ因ル權利ト引離シテ借地權ノミヲ讓渡スルコトヲ禁止スル趣旨ニシテ許可ヲ得テ賣拂契約ニ因ル權利ヲ讓渡スルニ當リ之ト共ニ借地權ヲ讓渡スルコトヲ禁止セルモノニ非ス（大正一五・九・二八）

一三 二八二

驛屯土賣拂處分ニ關スル件

○賣拂契約ニ因ル權利ト共ニスル借地權ノ讓渡　大正元年朝鮮總督府令第四〇號驛屯土特別處分令施行規則第九條カ大正九年朝鮮總督府令第一一〇號ニ依リ賣拂契約ヲ爲シタル借受人ニ限リ唯轉貸ヲ許シテ借地權ヲ禁止シタルハ賣拂契約ニ因ル權利ト引離シテ借地權ノミヲ讓渡スルコトヲ禁止スル趣旨ニシテ許可ヲ得テ賣拂契約ニ因ル權利ヲ讓渡スルニ當リ之ト共ニ借地權ヲ讓渡スルコトヲ禁止セルモノニ非ス（大正一五・九・二八）

一三 二八三

○驛屯土賣拂處分ニ因ル權利ノ許可ヲ條件トスル讓渡契約ノ效力　驛屯土賣拂處分ニ因ル權利ニ付許可ヲ受クル條件ヲ以テ之カ讓渡契約ヲ爲シ讓渡人ニ於テ許可申請ヲ爲スヘキコトヲ約スルハ有效ニシテ讓渡人ハ讓受人ニ對シ當該許可申請ヲ爲スヘキ義務ヲ負フモノトス（昭和三・一・三一）

一五 一三

明治四十四年官通牒第三百號（永年禁養ノ實否ニ關スル件）

○本通牒ト裁判所カ國有私有ヲ認定スル標準　明治四十四年官通牒第三百號（永年禁養ノ實否ニ關スル件）ハ行政官廳ノ執務便宜ノ爲メ國有私有ノ區分標準ヲ示シタルニ過キス裁判所ハ事實ニ依リ何人ノ所有ニ屬スルヤヲ決スヘク單ニ該通牒ニ列擧セル標準ニ依リ國有私有ヲ決スヘキモノニ非ス從テ同通牒ニ所謂「舊森林法施行前全部又ハ一部ノ播種又ハ植樹ヲ行ヒタルモノ又ハ播種ヲ行ハス單ニ禁養シタルモノニシテ森林令施行前平均樹齡十年以上ニ達シタルモノ等ヲ以テ永年禁養ノモノト認ムヘキ旨」ノ記載モ亦當然裁判所ヲ羈束スルモノニ非サルノミナラス同通牒ニ列擧スルモノヲ以テ永年禁養ノモノト認メサルヘカラストスル慣習ハ之ヲ認メス（大正一二・四・一〇）

大正二年官通牒第四十六號（永年禁養ノ認定ニ關スル件）

○本通牒ト裁判所カ國有私有ヲ認定スル標準　明治四十四年官通牒第三百號大正二年官通牒第四十六號ハ行政官廳ノ執務便宜ノ爲メ國有私有ノ區分標準ヲ示シタルニ過キス裁判所ハ事實ニ依リ何人ノ所有ニ屬スルヤヲ決スヘク單ニ該通牒ニ列擧セル標準ニ依リ國有私有ヲ決スヘキモノニ非ス從テ同通牒ニ所謂「舊森林法施行前全部ノ播種又ハ植樹ヲ行ヒタルモノ又ハ播種ヲ行ハス單ニ禁養シタルモノニシテ森林令施行前平均樹齡十年以上ニ達シタルモノ等ヲ以テ永年禁養ノモノト認ムヘキ旨」ノ記載モ亦當然裁判所ヲ羈束スルモノニ非サルノミナラス同通牒ニ列擧スルモノヲ以テ永年禁養ノモノト認メサルヘカラストスル慣習ハ之ヲ認メス（大正一二・四・一〇）

關稅法

○關稅逋脫者ノ稅關貨物取扱名義人ニ對スル不法行爲　甲カ稅關貨物取扱人タル乙ノ名義ヲ用ヰ其業務ニ從事中關稅逋脫ヲ圖リタルトキハ乙ハ朝鮮關稅令竝關稅法第八十二條ノ規定ニ從ヒ其責ニ任セサルヘカラス從テ甲カ關稅逋脫ヲ圖ル際若シ官ニ發覺スル場合ニハ貨物取扱名義人タル乙カ其責ニ任スヘキモノナリトノ事ハ當初ヨリ豫見セラレ且當然生スヘキ結果ナルヲ以テ甲ノ關稅逋脫ノ不法行爲ハ直接ニ關稅徵收權ヲ侵害スルト同時ニ間接ニ貨物取扱名義人タル乙ノ財產權ヲ侵害スルモノニシテ其不法行爲ト財產權ニ因ル損害トノ間ニハ因果ノ關係アリ其不法行爲者ハ損害賠償ノ責ニ任スヘキモノトス（大正五・一〇・六）

明治四十二年勅令第二百三十八號（韓國人ニ係ル司法ニ關スル件）

○第二條ニ所謂日本法規ノ意義　明治四十二年勅令第二百三十八號第二條中日本法規トハ訴訟手續ニ關スル法規ノミヲ指シ實體法ヲ包含セスト解スヘキモノトス（明治四五・三・二八）

韓佛修好通商條約

○韓佛修好通商條約第四款第四ノ範圍ヲ越ヘテ取得シタル佛國人ノ土地所有權　韓佛修好通商條約第四款第四ニ若法人欲行永租或暫租地段賃購房屋在租界以外者聽惟相離租界不逾十里（朝鮮里）云々ノ約款アリテ佛國人ハ居留地一里以外ニ於テ土地ノ所有權ヲ取得スルコトヲ禁止セラレタルモノナルモ舊韓國政府ノ默認ニ依リ明治二十五年舊二月頃ニハ既ニ佛國人ハ適法且有效ニ居留地一里以外ニ於テモ土地所有權ヲ取得シ得タルモノトス（大正元・一一・一五）

巻頁
一四五五
三六八

會社令

○朝鮮會社令ニ關スル訴訟ト適用法規　朝鮮會社令ニ依ル會社ニ係ル訴訟ニハ朝鮮法規ヲ適用セスシテ日本法規ヲ適用スヘキモノナリ（明治四四・五・一二）

開國五百三年六月二十八日議案（寡女再嫁無論貴賤）

（寡女ノ再嫁ヲ自由ナラシムル件）

○不再嫁ヲ條件トスル法律行爲ノ效力　舊韓國開國五百三年六月二十八日ノ議案ニ於テ寡女ノ再嫁ヲ其自由ニ任セタルハ再嫁ノ禁止ヲ解キタルニ過キスシテ再嫁セサルヘカラスト爲シタルニアラス從テ再嫁セサルコトヲ條件トシテ法律行爲ヲ爲スモ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スルモノニ非ス（明治四四・一二・二五）

○妾ト妻ノ身分取得　舊韓國開國五百三年六月議案ハ寡婦再嫁ノ禁ヲ解キタルニ過キスシテ從來寡婦ニシテ他人ノ妾トナリ同棲シタルニ過キサル者カ同議案ノ發布ニ依リ當然ノ身分ヲ取得スヘキコトヲ規定シタル趣旨ニアラス（大正六・五・三一）

寡女ノ再嫁ヲ自由トナラシムル件

一二六〇
一四一五
四四五一

漁業令

第一條

○共同漁業經營契約ノ趣旨　漁業權者カ自己ノ有スル漁業權ニ基キ他人ト共同シテ漁業ヲ經營スヘキ旨ノ契約ト漁業權者カ自己ノ有スル漁業權ヲ他人トノ共有ト爲スヘキ旨ノ約旨トハ彼此其ノ內容ヲ異ニシテ前者ノ約旨中ニハ當然後者ノ約旨ヲ包含スルモノト爲スヲ得ス故ニ單ニ前者ノ契約ヲ主張シ漁業權者ニ對シ其ノ漁業權ノ共有ニ付テノ許可申請手續ヲ請求スルハ其ノ請求自體ニ於テ失當タルヲ免レサルモノトス　（大正一四・五・一九）

第二條

○海苔養殖業ト免許　沿海部落民カ其ノ地先海面ニ於テ營利ノ目的ヲ以テ海苔ヲ養殖採取スル業ハ第二種免許漁業ニ屬シ漁業令第二條ノ規定ニ依リ朝鮮總督ノ免許ヲ受クルニ因リテ之ヲ爲スノ權利ヲ取得スルモノニシテ其ノ免許ヲ受クルニ非サレハ何人モ之ヲ爲スコトヲ得サルモノトス　（大正一五・七・二三）

○海苔養殖採取業ト慣行ニ因ル權利取得　前項ノ海苔養殖採取業ハ從來ノ慣行ニ因リテハ之ヲ爲スノ權利ヲ取得スルコトナシ　（大正一五・七・二三）

第三條

○入漁權ト漁業權　入漁權ハ漁業令第三條ニ依リ免許ヲ受ケ漁業權ヲ得タル者アル場合他人カ其ノ免許ノ目的トナリタル漁場ニ於テ從來ノ慣行ニ基キ入會漁業ヲ爲ス權利ヲ指稱シ常ニ漁業權ノ存在繼續ノ前提トスルモノナレハ既ニ漁業權ノ消滅シタル後ニ於テハ入漁權ヲ主張スルヲ得ヘキニ非ス　（大正一四・五・五）

卷	頁
一三	一八九
一三	一九四
一三	二〇三
一三	一九四
一三	一八九

第六條

○漁業權ノ期間滿了ニヨル消滅ト更新　漁業權ニ付定メラレタル存續期間ハ其ノ期間滿了ヨリ少クトモ三箇月前免許ノ申請ヲ爲シテ之ヲ更新シ得ヘキモノナルモ該申請ニ對スル許否ノ決裁未了ノ儘期間滿了シタルトキハ漁業權ハ該期間ノ滿了ト同時ニ當然消滅ニ歸スヘキモノニシテ右更新ノ免許申請ヲ爲シタルカ爲期間滿了後モ其ノ決裁アルマテハ尙存續スルモノト解スヘキ根據ナシ　（大正一四・五・五）

第八條

○漁業權讓渡契約ト總督許可前ノ效力　漁業權讓渡ノ契約ハ朝鮮總督ノ許可ニ依リ始メテ權利移轉ノ效力ヲ生スルモノニシテ其許可以前ニ在リテハ單ニ當事者間ニ權利ヲ移轉スヘキ債權的權利義務ヲ生スルニ止マルモノトス　（大正六・一一・九）

○漁業權讓渡許可前ニ於ケル讓受人ノ漁業行爲　漁業權讓渡ノ契約アリタルモ未タ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケスシテ漁業權ノ移轉セサルニ先タチ其漁場ニ於テ利益ノ收得ヲ爲シタル讓受人ノ行爲ハ讓渡人ノ漁業權ヲ侵害シタルモノニ外ナラス　（大正六・一一・九）

○漁業權ノ强制執行ト借受人ノ異議　漁業令第八條ニ依レハ漁業權ハ朝鮮總督ノ許可ヲ受クルトキハ抵當又ハ讓渡ノ目的ト爲スヲ得ヘキニ依リ許可ヲ條件トシテ强制競賣ヲ爲スヲ妨クルモノニ非サルコト言ヲ俟タスト雖他ニ貸付許可ヲ受ケタル者アル場合ニ於テハ其借受人ハ借受期間內漁場ヲ使用シテ漁業ヲ爲スノ權利ヲ有シ該權利ハ別ニ何等ノ手續ヲ履踐スルヲ要セスシテ第三者ニ對シテモ之ヲ對抗スルコトヲ得ヘキニ依リ其貸付ヲ無視シ何等ノ負擔ナキ狀態ニ於ケル完全ナル漁業權トシテ競賣ヲ爲シ得ヘキモノニ非ス若シ斯ノ如キ場合ニ於テ完全ナル漁業權トシテ競賣ヲ爲ストキハ借受人ハ該强制執行ニ對シテ民事訴訟法第五百四十九條ノ規定ニ基キ異議ヲ主張スルヲ得ヘキモノトス

卷	頁
四	九四二
四	九四三
四	一八九

（大正六・一〇・一六）

第十七條

○漁業組合員相互間ニ於ケル入漁契約ノ效力　漁業組合ノ有スル漁業權ニ付一部ノ組合員カ組合規約ニ依リ一定ノ地先海面ニ於テ特定ノ漁業ヲ爲ス權利ヲ有スル場合ニ於テ組合規約ニ別段ノ定ナキ限リ該組合員ハ其ノ權利ヲ有セサル他ノ組合員ニ對シ其ノ地先海面ニ於テ一定ノ期間同種ノ漁業ヲ爲スコトヲ認容スル趣旨ノ契約ヲ爲スコトヲ妨ケス斯ル契約ハ一ノ債權契約トシテ有效ナリトス　（大正一三・九・二六）

一一　一四一

朝鮮漁業組合規則

第七條

○起債ノ意義　朝鮮漁業組合規則第七條ニ所謂起債ハ汎ク金錢ノ借入ヲ意味シ長期ノ償還ヲ約シテ多額ノ金額ヲ借入レ又ハ公募ノ形式ヲ採ルモノニ限ルコトナシ　（昭和九・三・六）

二一　六三

供託ニ關スル件　（大正元年制令第一號）

○指定供託所ト所管區域　大正元年制令第一號但書ノ規定及朝鮮總督ノ右規定ニ依ル供託所ノ指定ハ朝鮮ノ各道ニ數箇ノ供託所ヲ配置シ其ノ所在道ノ區劃ヲ以テ其ノ所管區域ト爲シ之ヲシテ其ノ地ニ於テ爲スヘキ一切ノ供託事務ヲ取扱ハシムル趣旨ニ出テタルモノト解スルヲ相當トス　（大正一四・三・三）

一二　三二

○供託所ノ選定　所管區域ヲ一ニセル數箇ノ供託所存在スルトキ何レノ供託所ニ供託スヘキカハ供託原因ノ如何其ノ他各種供託ノ性質ニ從ヒテ之ヲ選定スヘキモノト解スルヲ妥當トス　（大正一四・三・三）

一二　三二

金融組合令

○組合使用人ノ昇進ト身元保證ノ效力　金融組合ノ使用人カ臨時雇ヨリ書記見習ニ次テ書記ニ昇進シタルトキト雖同一雇傭契約ノ繼續ニ過キサル限リ身元保證ハ階級ノ變更ニ依リテ消滅スルモノニ非ス　（大正一五・四・一六）

一三　五八

第三十五條

○金融組合ノ代表　金融組合令第三十五條ニ依レハ組合長ハ理事ト共同シテ組合ヲ代表スト規定セルニ依リ金融組合カ外部關係ニ於テ組合ノ意思ヲ表示シ之カ爲ニ行爲ヲ爲ス場合ニハ組合長ト理事ト共同スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス　（大正一五・一一・一九）

一三　四〇六

○金融組合ノ共同代表規定ニ反スル慣習　該規定ハ金融組合ノ確實ヲ期スルカ爲ニ設ケタル强行規定ニ外ナラス

供託ニ關スル件
金融組合令

而シテ事實タル慣習ハ強行規定ニ反セサル場合ニ限リ認メラルヘキモノナルヲ以テ右規定ニ反シ共同代表ニ依ラサルモ可ナリトスル慣習ノ如キハ到底之ヲ認容スルコトヲ得ス（大正一五・一一・一九）　一三　四〇六

○小切手ノ振出ト組合ノ代表者　金融組合カ銀行ト當座預金契約ヲ締結シ小切手ニ因リ預金ヲ引出ス場合ニハ組合長及理事兩名ニテ之ヲ振出スニ非サレハ全然無效ニシテ銀行ハ之ニ對シ支拂ヲ爲スノ義務ナシ（大正一五・一一・一九）　一三　四一六

○金融組合ノ業務執行ト代表　業務ノ執行トハ對內關係ニ於テ組合ノ事業ニ關スル法律上又ハ事實上ノ業務ヲ執行スルコトヲ謂フモノニシテ組合ノ代表トハ全然別個ノ觀念ニ屬ス（大正一五・一一・一九）　一三　四〇六

第三十六條

○理事ノ監督怠慢ト共同不法行爲　金融組合理事ノ使用人ニ對スル監督ノ怠慢カ使用人ノ犯行ニ機會ヲ與ヘタリトスルモ之ヲ以テ直ニ使用人ノ犯行ト共同不法行爲ノ關係ニ立ツモノト謂フヲ得ス（大正一五・四・一六）　一三　五八

○金融組合ノ業務執行ト代表　業務ノ執行トハ對內關係ニ於テ組合ノ事業ニ關スル法律上又ハ事實上ノ業務ヲ執行スルコトヲ謂フモノニシテ組合ノ代表トハ全然別個ノ觀念ニ屬ス（大正一五・一一・一九）　一三　四〇六

開國五百三年六月二十八日議案（許婚年齢ヲ定ムル件）

（一男女早婚亟宣嚴禁男子二十歳女子十六歳以後始許嫁事奏）　別　一六一

○朝鮮人ノ婚姻年齢　朝鮮人間ニ在リテハ當事者ノ年齢ノ如何ニ拘ハラス其婚姻ハ有效ナリトス（明治四四・八・二一）　一三　四〇六

競賣法

○競賣法ニ因ル競賣ト民事訴訟法ノ準用　競賣法ニ因ル競賣ニ關シテハ同法中特ニ民事訴訟法ノ規定ヲ準用スヘキ旨ノ規定アル場合ハ勿論特ニ其旨ヲ規定セサル場合ト雖競賣法中反對ノ規定ナキトキハ其性質ノ許ス限リハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用スヘキモノトス（大正三・三・一三）　一三　四一二

○競賣手續ニ於ケル決定ト再抗告ノ理由　競賣法ニ基ク競賣ニ關シ爲サレタル決定ニ對スル抗告ニ付テハ民事訴訟法第四百五十六條ノ準用アリ抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ再抗告ヲ爲スニハ其ノ裁判ニ依リ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生シタルトキナルコトヲ要ス（大正一五・八・一六）　一三　二一〇

○競賣法ニ依ル競賣ト請求異議ノ訴　競賣法ニ依ル競賣ニ在リテモ債務者ハ民事訴訟法第五百四十五條ヲ準用シテ債務ニ關スル異議ノ訴ヲ起スコトヲ得此ノ場合ニ於テ其ノ異議ノ原因ハ契約ノ當初ニ存スルト其ノ後ニ生シタルトヲ問ハサルモノトス（大正一四・一〇・六）　一三　三四一

○競賣法ニ依ル競賣ト第三者異議ノ訴　競賣法ニ依ル競賣ニ關シテモ債務者以外ノ者カ競賣ノ目的ニ付實體上ノ權利ヲ主張シテ競賣手續ニ依ル權利ノ侵害ヲ排除セムトスル場合ニ於テハ民事訴訟法第五百四十九條ノ規定ニ準據シ競賣ノ廢除ヲ求ムル訴ヲ提起スルコトヲ得ルモノトス（大正一五・二・二三）　一三　一三

第二條

○競落人ハ債務者ノ所有物ニ限リ所有權ヲ取得ス　競落許可決定ニ依リ競落人カ所有權ヲ取得スルニハ目的物カ債正ニ債務者ノ所有ニ屬セシモノタルヲ要ス（大正六・五・一八）　四　四一三

○無效ノ抵當權ニ基ク競賣ト所有權ノ移轉　競賣ノ基本タル抵當權ノ設定カ元來無效ナル場合ニハ競賣ニ因リ

テ實體上所有權移轉ノ效力ヲ生スヘキモノニ非ス（大正七・五・三）

○同　旨　競賣ノ基本タル抵當權ノ設定カ元來無效ナル場合ニハ競賣ニ因リテ實體上所有權移轉ノ效力ヲ生スヘキモノニアラス（大正七・九・二〇）

○實質上消滅セル抵當權ニ基ク競落ノ效力　競賣ノ基本タル抵當權カ有效ニ設定セラレ其登記又ハ證明ヲ經タル場合ニハ抵當權消滅シタリトスルモ其抵當權抹消ノ登記又ハ證明ヲ受クルニ非サレハ所有者ハ抵當權消滅セリトノ理由ヲ以テ競落人其他ノ第三者ニ對抗スルヲ得ス（大正七・五・三）

○登記ナカリシ抵當權消滅後ノ實行ニ因ル競落人ノ權利　競賣ノ基本タル抵當權カ有效ニ設定セラレタルモ其登記又ハ證明ヲ經サリシ場合ニハ抵當權消滅シタリトスルモ競賣完結後ニ於テ所有者ハ抵當權消滅シタリトノ理由ヲ以テ競落人ニ對シ所有權ヲ主張スルヲ得サルモノトス（大正七・五・三）

○證明ニ基ク典當權實行ト之カ競落ノ效果　債權者カ債務者ノ所有トシテ現實ニ證明簿ニ證明シアル土地ニ對シ典當權ヲ實行スル爲メ競賣ノ申立ヲ爲スニハ其申立書ニ證明簿上ノ現所有者ヲ記載スルヲ以テ競賣法第二十四條第二項第一號ニ規定スル所有者ヲ記載スヘキ要件ヲ具備スルモノト爲スヘク從テ其競賣申立ニ基キ競賣手續ヲ完了シタルハ相當ナルヲ以テ其當時他ニ證明簿上ニ證明シアラサル所有者アリトスルモ右競賣ニ因ル競落ハ有效ニシテ競落人ハ競賣ノ目的タル土地ニ付所有權ヲ取得シ典當權ハ競賣法第二條第二項ニ依リ消滅ニ歸スルモノトス（大正八・五・六）

○土地調査前設定シタル典當權ノ實行ト競落ノ效力　土地所有者ニ於テ其土地ノ上ニ有效ニ典當權ヲ設定シ典當權設定ノ證明又ハ登記ヲ經タルトキハ爾後該土地ノ所有者ヨリ權利ノ移轉ヲ受ケ土地調査ノ結果査定名義人ト爲リタルモノアルトキト雖査定名義人ノ所有權ハ典當權設定者タル前所有者ノ權利ヲ承繼シタルモノニ過キスシテ査定ニ依リ前所有者ノ權利ト牴觸ヲ來スヘキモノニアラサルヲ以テ典當權ハ消滅スヘキ理由ナク典當權者ハ査定名義人ニ對

卷	頁
五	三五五
五	七三七
五	三五五
五	三五五
六	三二二

シ之ヲ對抗シ得ヘキモノナレハ査定申告ノ日以後該典當權ノ實行ニ依リ其土地ノ競落人ト爲リタルモノハ完全ニ所有權ヲ取得スヘキモノトス（大正一〇・六・三）

○證明又ハ登記アル典當權ノ實行ニ因ル競落人ト朝鮮民事令第十三條　土地ノ上ニ典當權設定ノ證明又ハ登記ヲ受ケタルモノハ其後該土地ノ所有權ヲ承繼シタルモノニ對シ當然對抗シ得ルモノナレハ典當權ノ實行ニ因リ該土地ノ所有權ヲ競落シタル者ハ未タ競落ニ因ル所有權取得ノ證明又ハ登記ヲ受ケサルトキト雖典當權設定ノ證明又ハ登記後ニ於テ該土地ノ所有權ヲ承繼シタルモノニ對シ亦當然對抗シ得ヘキモノト謂ハサルヘカラサルヲ以テ右承繼人ハ朝鮮民事令第十三條ニ所謂第三者ニ該當セス（大正一〇・六・三）

○競落代金ノ不交付ト抵當權ノ消滅　競賣法ニ因ル競賣ニ於テ其ノ目的土地ニ存スル抵當權ハ競賣ニ因テ當然消滅スヘク競落代金ノ交付ヲ得タルト否トニ拘ルコトナシ（昭和九・一二・七）

第十七條

○執達吏ノ違法處分ト競賣ノ效力　競賣法ニ依ル競賣ニ於テ其ノ手續ニ關スル執達吏ノ處分ニ違法ノ點アリタリトスルモ其ノ競賣ハ當然無效ナルモノニアラスシテ唯利害關係人ハ競賣ノ完結前ニ所轄地方法院ニ異議ノ申立ヲ爲シ得ルニ止リ一旦競賣ニシテ完結シタル後ハ斯ル異議ノ申立ヲ爲シ得サルハ勿論他ノ訴訟ニ於テモ該處分ノ違法ヲ理由トシテ競賣ノ效力ヲ爭フヲ得サルモノトス（大正一二・六・八）

○手續上ノ瑕疵ト競賣ノ效力　競賣法第八條ニ違背シテ競賣ノ場所及日時ヲ利害關係人ニ通知セス又ハ同法第九條ニ違背シテ公告ト競賣トノ間ニ五日以上ノ期間ヲ存セシメサル等ノ事由ハ單ニ異議ノ原因タルニ過キサルモノニシテ斯ル手續上ノ瑕疵アルモ異議ノ申立ナクシテ競賣手續ノ完結シタルトキハ其ノ競賣ハ有效ニシテ何人モ右ノ事由ヲ

卷	頁
八	二〇〇
八	二〇〇
二一	四五九
一〇	一七二

以テ之ヲ無效ナリト主張スルコトヲ得サルモノトス從テ右ノ事由ハ會社カ株式讓渡人ニ對シ株金拂込不足額ノ辨濟ヲ請求スルノ妨トナラサルモノトス（大正一五・一一・一九）

○同　旨　競賣手續ヲ實行シタル權利カ實體上存在セサルモノニ非サル限リ縱令其ノ手續ニ於テ瑕疵存スルモノアリトスルモ苟モ競落許可決定ノ確定シタル以上ハ該競賣ヲ無效トシテ競落ノ效果ヲ否定スヘキモノニ非ス（昭和二・二・四）

第二十三條

○最高價競買申込人ノ同意ナキ競賣申立取下ノ效力　最高價競買申込人ノ同意ナキ競賣申立ノ取下ハ無效ナリ（昭和二・九・一二）

第二十五條

○任意競賣ノ開始決定ト抵當債權時效中斷ノ效力　債務者カ自己所有ノ不動產ヲ以テ債務履行ノ擔保ニ供シ之カ抵當權ヲ設定セル場合ニ於テ債權者カ該抵當權ノ實行トシテ任意競賣ヲ申立テ之カ競賣開始決定アリタルトキハ民法第百四十七條第二號ノ所謂差押アリタルニ該リ之ニ依リ其ノ當時抵當權ニヨリテ擔保セラレタル債權ハ時效中斷ノ效力ヲ生スルモノトス（昭和七・一一・二五）

○不動產競賣開始決定ニ對スル不服申立ノ方法　競賣法ニ因ル不動產競賣開始決定ニ對シテハ民事訴訟法第五百四十四條ヲ準用シテ異議ノ申立ヲ爲シ得ヘク其申立ニ關スル裁判ニ對シテハ同法第五百五十八條ヲ準用シテ卽時抗告ヲ爲シ得ヘク右競賣開始決定ニ對シテ直ニ抗告ヲ爲シ得ヘキモノニアラス（大正三・三・一三）

○不動產競賣開始決定ニ關スル再抗告理由　競賣法ニ依ル不動產競賣開始決定ニ對スル異議ノ裁判ニ關スル抗告ニ付テハ民事訴訟法第四百五十六條ヲ準用スヘキモノトス（大正一一・三・一〇）

卷	頁
一三	四一二
一三	五三
一四	三一五
一九	三五一
二	四一一

第二十七條

○假登記權利者ト利害關係人　假登記ヲ爲シタルニ止リ未タ本登記ヲ爲ササル第三取得者ハ抵當權者ニ對シ第三取得者トシテ其ノ權利ノ取得ヲ對抗シ得サルカ故ニ抵當權ヲ滌除スル權利ヲ有セサルモノニシテ民法第三百八十一條ニ所謂第三取得者ニ該當セス從テ又競賣手續ニ於ケル利害關係人ニアラサルモノトス（大正一五・八・九）

○登記名義人ニアラサル眞ノ所有者ト利害關係人　競賣ニシテ其ノ債務者カ他人ノ所有地ヲ冒認シテ擅ニ自己名義ニ所有權取得ノ登記ヲ受ケ之ニ設定シタル抵當權ノ實行ノ爲ニスルモノナル場合ニ於テハ眞ノ所有者ナル他人ハ競法第二十七條第三項ニ所謂利害關係人ニアラスシテ第三者ナリ（昭和二・七・一八）

○競賣期日ノ不通知ト異議理由　競賣法ニ因ル不動產競賣事件ニ於テ同法第二十七條所定競賣期日ノ通知ナキ限リ爾後ノ手續ヲ續行スルヲ得サルモノトス（昭和九・一一・一六）

第三十二條

○競落許可ニ付テノ異議ノ決定ニ對スル抗告ノ當否　不動產競落ノ許可ニ付テノ異議申立ニ對スル決定ハ抗告ヲ許ス可キモノニ非ス（大正六・九・二五）

○競落許可決定確定後ニ於ケル競賣手續ノ取消　競賣法ニ依ル競賣手續ニ在リテモ民事訴訟法第六百七十二條第一號ハ競落期日ニ於ケル異議又ハ競落許可決定ニ對スル抗告ノ理由タリ得ルニ止ルヲ以テ既ニ競落許可決定ノ確定後ニ於テハ之ヲ理由トシテ競賣手續ノ取消ヲ求メ得ヘキモノニ非ス（昭和五・二・一三）

○手續上ノ瑕疵ト競落ノ效果　競賣手續ヲ實行シタル權利カ實體上存在セサルモノニ非サル限リ縱令其ノ手續ニ於テ瑕疵ノ存スルモノアリトスルモ苟モ競落許可決定ノ確定シタル以上ハ該競賣ヲ無效トシテ競落ノ效果ヲ否定スヘキモノニ非ス（昭和二・二・四）

卷	頁
九	八四
一三	三〇三
一四	三三四
二	四三五
四	七六七
一七	三八

キモノニ非ス（昭和一一・二・四）

第三十三條

○假差押後ニ設定シタル抵當權ノ實行ト競賣代金ノ供託　假差押ヲ爲シタル不動產ニ對シ其ノ後ニ設定シタル抵當權ノ行使トシテ競賣法ニ依リテ競賣ヲ爲ス場合ニ於テハ民事訴訟法ニ準據シ假差押債權者ハ當然配當要求ヲ爲シタルモノトシテ其ノ債權ニ對スル配當額ヲ供託スヘキモノトス（大正一五・七・二三）

○競落代金ノ不交付ト抵當權ノ消滅　競賣法ニ因ル競賣ニ於テ其ノ目的土地ニ存スル抵當權ハ競賣ニ因テ當然消滅スヘク競落代金ノ交付ヲ得タルト否トニ拘ルコトナシ（昭和九・一二・七）

第四十條

○前後二回ノ增價競賣ノ請求ト增價競賣申立期間　第一回ノ增價競賣ノ請求カ爾後三日內ニ裁判所ニ增價競賣申立ヲ爲ササリシ爲其ノ效力ヲ失ヒタリトスルモ第二回ノ增價競賣ノ請求ニシテ滌除ノ通知アリタルトキヨリ一箇月ノ期間內ニ爲サレタルモノナルトキハ爾後三日內ニ爲サレタル增價競賣ノ申立ハ適法ナリ（昭和三・二・二〇）

卷	頁
一五	四
一三	一八三
二一	四五九
一五	四五

刑法大全

第一編　法例

第一章　用法範圍

第五節　期限通規

第十六條

○墳墓掘移ト聽訟期限　墳墓ハ遺骸又ハ遺骨ヲ安置スル爲地上ニ設ケラレタル一ノ設備ニシテ必ス土地ニ定著スヘキモノナルモ其基地タル土地ト墳墓ノ設備トハ必スシモ常ニ同一所有者ニ屬セサルヘカラサルモノニアラスシテ他人ノ所有地上ニ墳墓ヲ設ケ之ヲ所有スルコトヲ得ルハ往々見ル所ノ事例ナルヲ以テ墳墓設備ノ所有權ト其基地タル土地ノ所有權トハ之ヲ別個ニ觀察スルヲ妨ケス從テ其基地カ墳墓所在山坂ノ一部タル場合ニハ聽訟期限ニ關シテハ基地ハ寧ロ山坂ト其運命ヲ共ニシ墳墓ノ設備自體ハ必スシモ之ヲ山坂ト同一ニ論スルヲ得サルモノトス（大正五・一一・七）

○聽訟期限ニ關スル舊刑法大全第十六條適用ノ範圍　舊刑法大全第十六條ニ所謂聽訟スル期間ハ民事詞訟ハ二十年以內ニ在ルモノト定ムル旨ノ規定ハ民事ノ訴訟ハ訴訟ヲ提起シ得ヘキ時ヨリ起算シ二十年ヲ經過セルトキハ同法

卷	頁
三	八〇五

施行ノ前後ヲ問ハス總テ聽訟ノ限ニアラストスル趣旨ナレハ縱令同法施行以前ニ行ハレタル大典會通ニ聽訟期限ノ定メナカリシ墳墓設備ニ關スル訴訟ノ如キモノト雖其施行後ニ於テハ其適用ヲ受クヘキモノトス（大正五・一一・七）

○聽訟期限ノ性質及舊刑法大全第十六條適用ノ範圍　右聽訟期限ノ規定ハ實體上ノ權利ノ得喪ニ關スル規定ニ非スシテ訴權ノ消滅ニ關スル訴訟法上ノ規定ト目スヘキモノナリ（大正一一・九・一）

○聽訟期限ノ意義　舊刑法大全第十六條ノ規定ハ民事ノ訴訟ハ訴訟ヲ提起シ得ヘキ時ヨリ起算シ二十年ヲ經過セルトキハ同法施行ノ前後ヲ問ハス總テ聽訟ノ限リニアラサル趣旨ナリトス（大正八・二・二八）

○同　旨　舊刑法大全第十六條ニ所謂聽訟期限ハ民事訴訟ハ二十年以内ニ在ルモノト定ムトノ規定ハ民事訴訟ヲ提起シ得ルトキヨリ起算シ二十年ヲ經過セルトキハ同法施行ノ前後ヲ問ハス總テ聽訟ノ限ニアラサル趣旨ナリトス（大正一〇・五・二〇）

○聽訟期限ニ服スヘキ訴訟ノ種類　舊刑法大全第十六條ノ民事訴訟ニハ債權關係タルト將タ物權關係身分關係タルトヲ問ハス總テ之ヲ包含スルモノト解スルヲ相當トス（大正一〇・五・二〇）

○同　旨　舊刑法大全第十六條ニ聽訟期限ハ民事訴訟ハ二十年以内ニ在ルモノト定ムトノ規定アリテ右ニ所謂民事訴訟トハ債權關係竝ニ物權關係ノ民事訴訟ヲ包含スル趣旨ナリトス（大正一一・九・一）

○同　旨　親子關係ハ事實關係ナルト同時ニ身分ナル法律關係ニシテ斯カル法律關係ノ確認ヲ求ムル訴卽親子關係存在確認ノ訴ハ身分關係ノ民事訴訟ニ屬スルコト明白ナルカ故ニ聽訟期限ノ適用ヲ受クヘキモノトス（大正一一・九・一）

○聽訟期限經過ノ效力　聽訟期限ノ經過ニ因リ權利者カ法律關係ノ存在ヲ主張シ國家ノ救濟ヲ請求スルコト能ハサルニ至リタルトキハ爾後其者ハ勿論其後代承繼人ニ於テモ同一ノ法律關係ニ付再ヒ權利侵害ヲ理由トシテ權利保護ノ請求ヲ爲シ得ヘキニ非ス（大正一〇・五・二〇）

○墳墓ノ基地ニ付テノ聽訟期限經過ト墳墓掘移ノ請求權　土地所有者ノ承諾ヲ得スシテ侵害シテ墳墓ヲ設ケ其基地ヲモ占有シタルモノアル場合ニ於テ土地所有者カ基地ニ付聽訟期限ヲ經過シタルカ爲メ侵害排除ヲ請求スルノ訴權ヲ喪失シタルトキハ其地上ニ設ケラレタル墳墓ノ掘移ヲ請求スルノ訴權モ亦隨伴シテ喪失シタルモノト爲スヲ當然トス（大正一〇・一二・一六）

○聽訟期限經過ニ關スル裁判所ノ認定　訴訟カ舊韓國刑法大全第十六條ノ聽訟期限ヲ經過セルヤ否ヤハ必スシモ原告カ請求原因トシテ主張セル事實自體ヲ基礎トシテ判斷セサルヘカラサルモノニアラス原告カ一定ノ時期ニ權利侵害發生シタリト主張シ其主張ニ從ヘハ聽訟期限ヲ經過セストスルモ被告カ其權利侵害ハ原告ノ主張セル時期以前ニ發生シ爾後其侵害繼續シタルモノニシテ原告カ訴ヲ提起シ得ヘキ時期ハ原告ノ主張セル以前ニ在ルコトヲ抗爭セルトキハ事實裁判所ハ固ヨリ其何レノ主張カ眞實ナリヤヲ審理判斷シ聽訟期限ヲ經過セルヤ否ヤヲ決スヘキモノトス（大正一一・六・二〇）

○聽訟期限ノ起算點　聽訟期限ハ訴訟ヲ提起シ得ヘキトキヨリ起算スルモノニシテ訴訟ヲ提期シ得ヘキトキハ訴權ヲ行使シ得ヘキ客觀的事情ノ發生シタルトキヲ指稱シ請求權者カ該事情ノ發生ヲ了知シタルト否トヲ問ハス（大正一一・九・一）

第六節　界限通規

○自己所有地內ノ埋葬ト界限歩數　所有者カ所有地內ニ埋葬スル場合ニハ墳墓界限制ノ歩數ヲ遵守スルヲ要セス（隆熙三「明治四二」九・二一）

○他人所有土地ト墳墓界限規定ノ適用　墳墓界限ニ關スル規定ハ土地カ他人ノ所有ニ屬スル場合ニハ適用ナシ從テ入葬地カ他人ノ所有ニ屬スルトキハ界限侵犯ノ理由トシテ掘移ヲ請求スルヲ得ス（明治四四・九・二七）

○陵ノ內外垓字ト其ノ法規慣習　陵ニハ內垓字外垓字アルモ其內外垓字ノ區域ヲ一定セル法規慣習之ナシ（大正元・一一・二二）

第三十二條

○本條ト歩數減少　刑法大全第三十二條第三項勅任官ハ六品ニ一十歩ヲ減ストハ同條第一項ノ五十歩ヨリ一十歩ヲ減スルノ旨意ナリ（明治四三・九・二三）

巻	頁
一	四四
一	三六九
二	七一
一	一〇九

第四編　律例上

第八章　喪葬及墳墓所干律

第三節　墳墓侵害律

○所爲者不明ノ暗葬死屍ノ掘移　自己ノ所有地內ニ暗葬シタル者アル場合ニ於テ何人ノ所爲ナルヤヲ知ルコト能ハサルトキハ警察處分ヲ求メ公告ノ上其死屍ヲ掘移スルハ不當ニ非ス（明治四四・六・一七）

○墳墓ノ掘移ト官廳ノ許可　現時朝鮮ニ於テ墳墓ヲ掘移スルニ付官廳ノ許可ヲ要スル法規ナシ（大正二・八・一九）

巻	頁
一	二九四
二	三一三
一	三四四

第五編　律例下

第十三章　財產所干律

第六節　典賣有違律

第六百三十六條

○土地家屋二重處分ノ效力　朝鮮人間ニ於テ一旦典當ニ供シ又ハ賣却シタルトキハ刑法大全第六百三十六條ニ違背シ其典當又ハ賣却ハ法律上無效トス（明治四四・八・二一）

○本條施行前ニ於ケル土地家屋ニ重處分ノ效力　舊刑法大全施行當時ニ於テ朝鮮人カ一旦典當ニ供シタル土地家屋ヲ其典當權存續中更ニ他人ノ爲ニ典當ニ供シタルトキハ同法第六百三十六條ニ違背スルヲ以テ其典當權ハ無效ナリトス而シテ此法意ハ同法施行前ト雖其當時施行ノ舊韓國法典ニ於テ夙ニ採用セラレアリシモノトス　（大正五・一一・二四）

○朝鮮刑事令施行以前ニ於ケル土地家屋ニ重處分ノ效力　朝鮮刑事令施行（明治四十五年四月一日）前ニ在リテハ刑法大全第六百三十六條ニ基キ一旦土地家屋ヲ典當ニ供シ又ハ賣却スルコトヲ得ス犯ス者ハ處罰セラレ其所得シタル價錢ハ追徵シテ後ニ典執シ又ハ買受ケタル者ニ還付シ其典賣シタル土地家屋ハ先ニ典執シ又買受ケタル者ニ歸シ其賣買又ハ典執ハ當然無效タリシモノトス而シテ刑法大全ハ光武九年（明治三十八年）四月二十九日ニ頒布セラレタルモ其以前ト雖右ト同趣旨ノ法規行ハレタルモノトス　（大正五・一二・二八）

○同　旨　明治四十五年四月一日朝鮮刑事令施行以前ニ於テハ朝鮮人間ニ於テ一旦典當ニ供シ又ハ賣却シタル土地家屋ヲ他人ニ再ヒ典當ニ供シ又ハ賣却スルトキハ刑法大全第六百三十六條ノ規定ニ該當シ後ノ典當又ハ賣買ハ法律上全然無效ニシテ其後ノ典當若クハ賣買カ先ニ典執セシ債權者ノ承諾ヲ得タルモノニアラサルトキハ先ノ典執債權者ニ對スル債務ヲ辨濟スル目的ニ出テタリトスルモ全然之ヲ無效トスヘキモノトス　（大正六・一二・一四）

巻	頁
三	八五六
三	二〇三七
四	二〇九七

結數連名簿規則

○門中協議ニ基ク一人名義ノ結數連名簿ノ登錄ト信託關係　一門共有ノ土地ニ付一門協議ノ上結數連名簿ニ共有者ノ一人ノ所有名義ヲ以テ登錄シタル事實存スルトキハ之ニ依リテ共有者カ其一人ニ對シ權利ヲ信託讓渡シタルモノト認定スルコトヲ得ヘキモノトス　（大正六・五・八）

○結數連名簿上ノ納稅者ト所有者ノ認定　結數連名簿ニシテ納稅管理人ノ住所氏名及納稅者ノ住所氏名ヲ記載シアルモノニ付テハ納稅者ハ卽チ土地所有者ニシテ該簿記載ノ土地ハ納稅者ノ所有ナリト認メサルヘカラサルモノニ非ス　（大正七・三・八）

巻	頁
四	三七五
五	一六七
五	九四九

朝鮮公證令

○公證囑託數人アル場合ノ契印方　朝鮮公證令ヲ以テ之ニ依ルコトヲ定メタル公證人法第六十條ニ於テハ同第三十九條第五項及第六項ノ規定ヲ私署證書ニ認證ヲ與フル場合ニ準用セリ數人ノ囑託人カ其規定ニ依リ契印ヲ爲スニ當リテハ其中ノ一人ニ於テ契印ヲ爲スヲ以テ足レリトス　（大正七・一二・六）

公證人法

第一條

○公證ノ目的ノ範圍外ニ屬スル記載事項ト之カ信否　公正證書ノ記載事項ハ其ノ公正ノ目的ノ範圍內ニ於テハ完全ナル證據力ヲ有スルモ其カ公證ノ目的ノ範圍外ノモノナルトキハ縱令其ノ成立ヲ認ムヘキ場合ニ於テモ之ヲ措信シテ事實認定ノ資料ニ供スルト否トハ事實承審官ノ自由ナル心證ニ基キテ決スルコトヲ得ヘキモノトス　（大正一四・一二・一五）

○過去ニ成立セシ法律行爲ノ聽取記載ト公證ノ目的ノ範圍　公正證書ニ記載セル事項カ過去ニ成立セシ法律行爲ニ付當事者ヨリ聽取リタル陳述ヲ錄取セルニ過キサルモノナルトキハ當該法律行爲ノ成立ノ眞否ハ公證ノ目的ノ範圍ニ屬セサルモノトス　（大正一四・一二・一五）

○既ニ成立セル法律關係ニ付テノ公正證書　當事者若クハ其ノ代理人カ現ニ存スル法律關係ニ付テ公正證書ヲ作成セシメタルトキハ假令其ノ法律關係カ過去ノ法律事實ニ基クトキト雖公正證書ハ尙ホ正規ノ方式ニ依テ作成セラレタルモノト謂フヲ妨ケス　（昭和九・二・一六）

第六十條

○公證囑託數人アル場合ノ契印方　朝鮮公證令ヲ以テ之ニ依ルコトヲ定メタル公證人法第六十條ニ於テハ同第三十九條第五項及第六項ノ規定ヲ私署證書ニ認證ヲ與フル場合ニ準用セリ數人ノ囑託人カ其規定ニ依リ契印ヲ爲スニ當リテハ其中ノ一人ニ於テ契印ヲ爲スヲ以テ足レリトス　（大正七・一二・六）

卷	頁
一三	四八七
一三	四八七
一三	三三
五	九四九

朝鮮戶籍令

第八十七條

○屆出ナキ婚姻ト協議上ノ離婚屆　朝鮮民事令第十一條第二項協議上ノ離婚ハ之ヲ府尹又ハ面長ニ屆出ツルニ因リテ其ノ效力ヲ生スト雖モ當該婚姻ノ成立カ同法施行ノ前ナルト後ナルトヲ問ハス同法施行ノ前ナルト將又其ノ婚姻カ戶籍簿ニ記載セラレアルト否トヲ問ハス同法施行後ニ爲ス協議上ノ離婚ニ適用アルモノトス　（昭和四・五・三）

第百二十六條

○緣組ノ無效ト戶籍訂正ノ手續　大正十二年七月一日ヨリ施行セラレタル朝鮮民事令第十一條竝第十一條ノ三ノ改正規定及朝鮮戶籍令ノ規定ニ從ヘハ養子緣組ノ如キ屆出ニ因リ效力ヲ生スヘキ行爲ニ付戶籍ノ記載ヲ爲シタル後其ノ行爲ノ無效ナルコトヲ發見シタル場合ニ於テ之ヲ訂正スルニ付當事者雙方異議ナキトキハ當事者ヨリ管轄地方法院ノ許可ヲ得テ戶籍ノ訂正ヲ申請スヘク又當事者間ニ緣組ノ無效ナルコトニ爭アリテ戶籍ノ訂正ニ異議アルトキハ判決ニ因リテ其ノ行爲ノ無效ナルコトヲ確定シ然ル後訴ヲ提起シタル者ニ於テ判決確定ノ日ヨリ一月以內ニ當該戶籍ヲ管掌スル府尹又ハ面長ニ戶籍訂正ノ申請ヲ爲スヘキモノトス　（大正一二・七・一〇）

○確定判決ト戶籍訂正申請義務者　右ノ場合ニ於ケル戶籍訂正申請ノ義務ハ當該訴訟ヲ提起シタル者ニ屬シ相手方ハ之カ申請ヲ爲ス義務ナキモノナレハ訴ニ依リテ相手方ニ戶籍訂正ノ申請ヲ爲スヘキコトヲ要求スルコトヲ得サルモノトス　（大正一二・七・一〇）

朝鮮鑛業令

第十七條

○他人ノ管理ノ下ニ採鑛セシムルコトヲ內容トスル採鑛契約ハ無效　大正四年制令第八號朝鮮鑛業令施行後ト雖舊法タル鑛業法及同施行細則施行時代ト同シク鑛業權ヲ目的トシ他人ノ管理ニ於テ採鑛セシムルコトハ之ヲ許サス從テ其採鑛契約ハ無效タルヘキモノトス　（大正五・四・二八）

○同　旨　タングステン（重石）朝鮮鑛業令施行前ニハ鑛業法ノ適用ヲ受クヘキ鑛物ニ非サリシト雖同令施行後ハ同令ノ適用ヲ受クヘキ鑛物ナレハ其鑛業權ヲ目的トシ他人ノ管理ニ於テ採鑛セシムルコトヲ許ササルモノトス　（大正五・四・二八）

○鑛業權移轉登錄前ノ採鑛契約ノ效力　鑛業權ノ讓渡ハ之ヲ鑛業原簿ニ登錄スルニ非サレハ其效力ヲ生セサルモノナルカ故ニ鑛業權讓渡契約ニ因リテ生シタル讓受人ノ此權利ハ其登錄ヲ經サル間ハ當事者間ニ債權的效力アルニ過キス從テ其讓受人ハ未タ鑛業權者ニ非ス而シテ鑛業權ヲ有セスシテ鑛物ヲ採掘シタル者ハ刑罰ニ處セラルルコト朝鮮鑛業令第四十四條第一項ノ規定スル所ナルヲ以テ鑛業權ノ讓渡人カ其登錄前ニ於テ其讓受人ニ對シ鑛物ノ採掘權ヲ許與スル契約ノ如キハ法令ノ許容セサル所ナリ　（大正九・一一・一九）

○移轉登錄前ノ採鑛契約ト不法原因　朝鮮鑛業令ハ鑛業權ノ讓渡ハ之ヲ鑛業原簿ニ登錄スルニ非サレハ其效力ヲ生セサルコトヲ規定スルヲ以テ登錄前讓受人ニ於テ鑛物ヲ採掘シタルトキハ鑛業權ヲ有セスシテ採掘シタルモノトナリ刑罰ニ處セラルルヲ免レス從テ登錄前ニ讓渡ノ效力ヲ生セシメ讓受人ニ鑛物ヲ採掘スルノ權ヲ許與シ其代償金ヲ定

卷	頁
三	五四七
三	五四七
七	四三五

ムルモ其契約ハ公益規定ニ反シ不法ノ原因ヲ帶有スルニ依リ無效ニ歸スルトトモニ授受シタル代償金ハ不法ノ原因ノ爲メニ給付シタルモノニシテ之カ返還ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス　（大正一一・六・三〇）

第十八條

○鑛業權ノ持分ニ對スル强制執行　鑛業權ノ持分ニ對スル强制執行ハ民事訴訟法第六百八十九條ニ依ルヘキモノトス　（昭和九・一〇・一二）

第二十條

○登錄前ニ於ケル鑛業權讓渡契約ノ效果　鑛業權ノ讓渡ハ法規ニ從ヒ登錄ヲ受クルニアラサレハ其效力ヲ生セス從テ讓渡ノ契約成立スルモ登錄ヲ受ケサル以上ハ鑛業權名義人ヲ以テ其鑛業權者ト認ムヘキモノトス　（大正五・一二・一九）

○同　旨　鑛業權ノ讓渡ハ之ヲ鑛業原簿ニ登錄スルニ非サレハ其效力ヲ生セサルモノナルカ故ニ鑛業權讓渡契約ニ因リテ生シタル讓受人ノ權利ハ其登錄ヲ經サル間ハ當事者間ニ債權的效力アルニ過キス從テ其讓受人ハ未タ鑛業權者ニ非ス而シテ鑛業權ヲ有セスシテ鑛物ヲ採掘シタル者ハ刑罰ニ處セラルルコト朝鮮鑛業令第四十四條第一項ノ規定スル所ナルヲ以テ鑛業權ノ讓渡人カ其登錄前ニ於テ其讓受人ニ對シ鑛物ノ採掘權ヲ許與スル契約ノ如キハ法令ノ許容セサルモノナルコト明瞭ナリ　（大正九・一一・一九）

第四十四條

○鑛業權移轉登錄前ノ採掘ト本條　鑛業權ノ讓渡ハ之ヲ鑛業原簿ニ登錄スルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セサルモノナルカ故ニ鑛業權讓渡契約ニ因リテ生シタル讓受人ノ權利ハ其登錄ヲ經サル間ハ當事者間ニ債權的效力アルニ過キス從テ其讓受人ハ未タ鑛業權者ニ非ス而シテ鑛業權ヲ有セスシテ鑛物ヲ採掘シタル者ハ刑罰ニ處セラルルコト朝鮮鑛業令

卷	頁
九	二三一
二	三七四
三	九七五
七	四三五

第四十四條第一項ノ規定スル所ナルヲ以テ鑛業權ノ讓渡人カ其ノ登錄前ニ於テ其讓受人ニ對シ鑛物ノ採掘權ヲ許與スル契約ノ如キハ法令ノ許容セサルモノナルコト明瞭ナリ（大正九・一一・一九）

○同旨　朝鮮鑛業令ハ鑛業權ノ讓渡ハ鑛業原簿ニ登錄ヲ爲スニ非サレハ其效力ヲ生セサルコトヲ規定スルヲ以テ登錄前讓受人ニ於テ鑛物ヲ採掘シタルトキハ鑛業權ヲ有セスシテ採掘シタルモノトナリ刑罰ニ處セラルルヲ免レス從テ登錄前ニ讓渡ノ效力ヲ生セシメ讓受人ニ鑛物ヲ採掘スルノ權ヲ許與シ其代償金ヲ定ムルモ其契約ハ公益規定ニ反シ不法ノ原因ヲ帶有スルニ依リ無效ニ歸スルトトモニ授受シタル代償金ハ不法ノ原因ノ爲メニ給付シタルモノニシテ之カ返還ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス（大正一一・六・三〇）

鑛業法

○鑛物採掘契約ノ效力　鑛業權者ハ自身ニ又ハ自己ノ責任ニ於テ鑛業代理人ヲ以テ鑛業ヲ管理シ鑛物ノ採掘ヲ爲スコトヲ要スルモノニシテ其鑛業權ヲ目的トシ鑛業權者ニアラサル他人ニ採掘ノ權利ヲ授與シ之ニ鑛業ノ管理經營ヲ一任シ鑛物ノ採掘收益ヲ爲サシムルカ如キ契約ハ無效ナリトス（大正五・一一・三〇）

○鑛業權ト鑛物採掘權　舊韓國光武十年法律第三號鑛業法ニハ鑛業權ノ定義ヲ揭ケサルモ鑛業權トハ卽チ鑛區內ニ於テ鑛物ヲ採掘シ及取得スル權利ヲ謂フモノト解シ得ヘキニ依リ鑛業權ト鑛物採掘權トハ必スシモ別異ノモノト謂フ

卷　頁
七　四三五
三　九〇〇
九　三三一
三　九〇〇

ヲ得ス（大正五・一一・三〇）

○鑛業權者ノ監督ヲ條件トスル鑛物採取契約ノ效力　鑛業權者ニ非サル他人ニ採掘ノ權利ヲ授與シ之ニ鑛業ノ管理經營ヲ一任スルニ非スシテ鑛業權者カ他ノ者ト契約シ鑛業權者自ラ手ヲ下シテ採取ヲ爲サス其者ヲシテ鑛業權者ノ監督ノ下ニ其從業者トシテ鑛物ノ採取ニ從事セシメ採取シタル鑛物ニ對スル權利ハ採取ト同時ニ鑛業權者ヨリ採取者ニ移轉セシムルカ如キハ鑛業權者自カラ鑛業ノ管理經營ヲ爲スモノニ外ナラサレハ如上ノ契約ハ無效ニ非ス（大正六・一一・二七）

○採取者ヲシテ採鑛ノ所有權ヲ得セシムル契約ノ效力　鑛業權者カ自己ノ經營スル鑛山ニ於テ其監督ノ下ニ採取者ヲシテ鑛物ヲ採取セシムル場合ニ於テモ鑛物ノ所有權ハ先ツ鑛業權者ニ歸スヘキハ當然ナレトモ鑛業權者ト採取者トノ間ニ於ケル契約ヲ以テ採取者カ採取シタル鑛物カ鑛業權者ノ所有ニ歸スルト共ニ卽時ニ該所有權ヲ採取者ニ移轉スヘキ旨ヲ定ムルハ契約當事者ノ自由ニシテ之ヲ禁止スヘキ理由ナシ（大正六・一一・二七）

○鑛滓ノ意義　舊韓國光武十年法律第三號鑛業法第二條ニ於テ國ノ所有トスル鑛滓トハ鑛業權者ノ所有ニ屬セサルモノニシテ鑛滓存在ノ狀態カ之ヲ取ルニ更ニ鑛業法ニ依ラシムル必要アル程度ニ在ルモノヲ指稱スル法意ナリト解スヘキモノトス（大正八・三・三一）

三　九〇〇
四　一〇一
四　一〇一
六　一五一

國有未墾地利用法

○荒蕪地開墾ニ因ル所有權取得ノ慣習　朝鮮ニ於テ國有未墾地利用法施行以前ハ民有ニ非サル荒蕪地ニ對シテハ何人ト雖之ヲ開墾終了スルニ因リテ所有權ヲ取得シタル慣習アリ　（大正五・三・一〇）

○本法ト遡及效　國有未墾地利用法ハ其施行以前ニ於テ既ニ終了シタル事實ニ對シテハ其效力ヲ遡及スルコトナシ　（大正五・三・一〇）

○本法ト緣故權　國有未墾地利用法ニ於テハ緣故權ナルモノノ存在ヲ認メス　（大正一四・二・二〇）

第四條

○貸付出願ヲ爲ササルコトヲ約スル契約ノ效力　曾テ國有未墾地ノ貸下ヲ受ケタル者ハ未タ貸下ヲ受ケタルコトナキ者ニ比シ有利ノ地位ニ在リトセハ即前者カ後者ト同時ニ貸下出願ヲ爲シタル場合ニ當該官廳ハ事實上前者ニ對シ許可スル方法ヲ採リ若ハ後者ノミ出願シタル場合ニ前者ノ同意書ヲ添附セサレハ許可セサル方針ヲ採リ其ノ他之ニ類スル事實アリトセハ前者ハ後者ノ出願スルニ際シ自ラ出願ヲ爲ササル不作爲ノ義務ヲ負擔スルカ或ハ同意書ヲ添附スルカ如キ共力行爲ヲ爲ス義務ヲ負擔スルト同時ニ後者ハ其ノ報酬トシテ金錢ヲ給付スル契約ヲ締結シタルトキハ該契約ハ法律上有效ナリ　（大正一四・二・二〇）

第六條

○國有未墾地利用權ノ行使ト不法行爲　國有未墾地利用法ニ依リ貸付許可ヲ受ケタル者カ許可ニ基キ土地ニ對シ堤防ノ設置開墾ニ著手スル行爲ハ行政處分ニアラスシテ一ノ私法上ノ行爲ニ外ナラサルモノトス斯ノ如キ行爲ニシテ他人ノ權利ヲ侵害スルトキハ不法ニ他人ノ權利ヲ侵害スルモノナルカ故ニ被害者カ加害者ヲ對手トシテ其權利ノ救濟ヲ求メ其權利確認及侵害ノ排除ヲ請求シ得ヘキモノトス斯カル場合ニ於テ司法裁判所カ其私法上ノ爭ヲ判決スルニ際シ自ラ行政官廳ノ處分ノ當否ニ渉リテ說明スル所アルモ這ハ行政處分其モノヲ取消シ又ハ變更スルヲ直接ノ目的ト爲スモノニアラサレハ司法權ヲ以テ行政權ノ權域ヲ侵スモノト謂フヲ得ス　（大正六・一二・一一）

○國有未墾地利用權者ノ死亡ト民法組合ノ規定　國有未墾地利用法第六條二項ノ規定ハ國有未墾地利用權カ相續ノ目的タルヲ得ル趣旨ヲ明ニシ同法施行規則第二十條第二項ノ規定ハ相續ニ因リ同利用權ヲ取得シタルモノハ所定ノ屆出ヲ爲スヘキコトヲ命シタルニ過キスシテ之ヲ以テ民法組合ニ關スル規定ノ適用ヲ排除スルノ律意ニアラス　（大正八・五・六）

○許可ナキ國有未墾地利用權讓渡ノ效力　國有未墾地ノ貸付ヲ受ケタル者カ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケスシテ其權利ヲ他人ニ讓渡スルモ其讓渡ニ依リ直ニ國有未墾地利用權ノ移轉ノ效果ヲ生スルモノニ非スト雖該讓渡行爲ハ必スシモ全然無效ナルニ非スシテ當事者間ニハ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケ權利ヲ移轉スヘキ債權債務ノ關係發生スルモノトス　（大正一〇・二・一八）

○同旨　數人カ共同シテ國有未墾地ノ貸付許可ヲ受ケ其共有者ノ一人死亡シ其持分カ他ノ共有者ニ歸屬スルニ至リタル場合ニ共有者ノ一人甲カ他ノ共有者乙ヨリ死亡セル共有者ノ持分ノ讓渡ヲ受ケ更ニ之ヲ丙ニ讓渡スヘキ契約ヲ爲シタルトキハ甲ハ丙ニ對シ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケ乙ヨリ其持分ヲ讓受ケ更ニ之ヲ丙ニ移轉スヘキ債務アルモノナレハ甲カ丙ニ對シ斯ル債務ノ存スルコトヲ爭フ場合ニハ縱シ甲ハ乙ト係爭持分ノ讓渡ヲ受クル契約ヲ爲シタルニ止リ未タ朝鮮總督ノ許可ナクシテ甲カ其持分ヲ取得スルニ至ラサルモ丙ハ甲ニ對シ甲丙間ノ讓渡契約ニ基キ甲ニ前示ノ如キ義務アルコトノ確認ヲ求メ得ヘキモノトス　（大正一〇・二・一八）

國稅徵收令

○白露ト公賣處分　白露ノ前後ニ依リ土地ノ秋收カ買主ニ移轉シ若ハ移轉セスト爲スハ畓ノ賣買ニ關スル慣習ニシテ當事者ノ契約ノ內容ヲ解釋スルニ當リテノ規準ニ過キス競賣法及民事訴訟法ニ依ル强制競賣竝國稅徵收令ニ依ル公賣ニ在リテハ競落ニ因リテ競落人若ハ買受人ニ移轉スル權利ノ內容ハ法律ノ規定ニ依テ定マリ當事者ノ意思ヲ解釋スル餘地ナク從テ白露ノ前後ニ依リ區別アルコトナシ　（昭和四・九・二七）

國稅徵收法

○國稅徵收法ニ基ク公賣ト民法第五百六十八條　國家機關カ國稅徵收法ニ基キテ納稅義務者ノ財產ニ對シテ爲ス競賣モ亦民第五百六十八條ニ所謂强制競賣ナリ　（大正一四・一〇・九）

○所有權移轉ノ假登記アル不動產ニ對スル滯納處分ノ效果　滯納處分カ既ニ第三者ニ對スル所有權移轉ノ假登記ヲ經タル不動產ニ付テ爲サレタルトキト雖國稅ノ徵收ハ假登記アル不動產ノ公賣代金ヲ限度トシテ他ノ公課及債權ニ優先スルニ止リ第三者タル假登記權利者ノ權利ヲ左右スルモノニ非ス　（昭和一〇・四・一九）

○所有權取得ノ假登記名義人ト公賣買受人ノ權利　國稅徵收法第十九條ハ裁判上ノ假差押假處分ヲ受ケタル物件ニ付テモ滯納處分ノ執行ヲ爲シ得ヘキコトヲ定メタルニ止リ之ニ因リテ假登記ノ效力消滅スル旨規定セルニ非ス故

卷	頁
一六	二三〇
一二	三四九
二三	一一〇

ニ假登記權利者ハ公賣ニ因テ斯ル不動產ノ所有權移轉登記ヲ受ケタル者ニ對シ尙一般ノ規定ニ依リ該登記ノ抹消ヲ求メ得ルモノトス　（昭和一〇・四・一九）

第十四條

○第三者ノ物ニ對スル公賣處分　國稅徵收法第十四條ハ收稅官吏ニ對スル取戾請求權ヲ認メタルニ止リ差押物件ニ對スル第三者ノ所有權ハ所定期間ノ經過ニ因リ當然消滅スルモノニ非サルカ故ニ其ノ所有者ハ收稅官吏ニ對スル請求權ノ消滅後ト雖公賣ニ因リテ所有權移轉登記ヲ受ケタル者ニ對シ所有權ノ主張ヲ爲スヲ妨ケラルルモノニ非ス　（昭和一〇・四・一九）

第十八條

○公賣ノ果實ニ及ホス效力　國稅徵收法第十八條ニ依レハ不動產ノ差押ノ效力ハ差押物ヨリ生スル天然及法定ノ果實ニ及フカ故ニ差押物ノ公賣ニ因リ果實亦當然買受人ニ移轉シ特ニ果實ニ對スル公賣手續アルヲ要セス　（昭和四・九・二七）

第十九條

○本條ノ意義　國稅徵收法第十九條ハ裁判上ノ假差押假處分ヲ受ケタル物件ニ付テモ滯納處分ノ執行ヲ爲シ得ヘキコトヲ定メタルニ止リ之ニ因リテ假登記ノ效力消滅スル旨規定セルニ非ス故ニ假登記權利者ハ公賣ニ因テ斯ル不動產ノ所有權移轉登記ヲ受ケタル者ニ對シ尙一般ノ規定ニ依リ該登記ノ抹消ヲ求メ得ルモノトス　（昭和一〇・四・一九）

卷	頁
二三	一一〇
二三	一一〇
一六	二三〇
二三	一一〇

朝鮮總督府裁判所令

○起墾許可ニ基ク工事ノ侵害排除ト司法裁判所ノ管轄　農商工部ノ起墾許可ハ行政處分ナルモ之ニ基キテ爲ス工事ハ私法上ノ行爲ニ外ナラサルヲ以テ行爲ニシテ他人ノ權利ヲ侵害スルトキハ司法裁判所ハ其侵害行爲ヲ爲スヘカラサルコトヲ命スルモ行政處分其モノヲ取消シ又ハ變更スルヲ直接ノ目的ト爲スモノニアラサルカ故ニ違法ニアラス（隆熙三「明治四二」・一・二〇）　一　一

○韓國ノ併合ト領事裁判權ノ撤廢　明治四十三年八月二十九日帝國カ韓國ヲ併合シタル結果韓國ニ對シテ從來保有シタル各國ノ領事裁判權ハ玆ニ撤廢ニ歸シタルモノトス（明治四四・四・一七）　一　九二

○觀察使ニ對スル先納金ノ請求ト司法裁判所ノ管轄權　舊韓國宮內府ニ先納シタル稅金ノ取立ニ關シテ觀察使タリシ者ニ對シ其稅金支拂ヲ請求スル訴訟ハ公法的關係ニ屬シ私法上ノ請求ニアラサレハ司法裁判所ノ管轄ニ屬セス（明治四四・一〇・二〇）　一　三九五

○訴訟手續ニ關スル公正記錄ト朝鮮文　朝鮮ニ在ル裁判所ノ訴訟手續ニ關シテ作成スヘキ公正記錄ハ朝鮮文ヲ用キテ作成スルモ違法ト爲スヲ得ス（明治四四・一二・二七）　二　四一八

○下給處分ノ土地ニ對スル所有權ノ爭ト司法裁判所ノ管轄　舊韓國臨時帝室有及國有財產調查局カ或土地ニ對シ帝室有ニ非ス國有ニ非ス民有ナリト決定シテ下給處分ヲ爲シタル場合ニ個人相互ノ間ニ於テ其土地ノ所有權ヲ爭ヒ司法裁判所ニ出訴シタルトキハ裁判所ハ下給處分ノ如何ニ拘ラス所有權ノ所在ヲ認定スルコトヲ得（大正四・三・三）　三　一五

○賣買契約ノ履行ノ能否判斷ト總督ノ埋築許可ニ對スル判示　朝鮮總督ニ於テ埋築許可出願ヲ許容スルモノト認ムヘキ事實ナルヤ否ヤヲ判示スルコトカ當事者間ニ於ケル賣買契約履行ノ能否ヲ判斷スル上ニ於テ必要ナルト

キハ之ヲ判示セサルヘカラサルモノニシテ縱令之カ判示ヲ爲シタリトスルモ同總督ノ許否ノ權限ニ何等ノ消長ヲ及ホスコトナキモノナレハ之ヲ判示シタルノ故ヲ以テ同總督ノ權限ニ容喙シタル不法アリト謂フヲ得サルモノトス（大正七・七・二）　五　五五一

○查定又ハ裁決ト司法裁判所ノ裁判　土地調查令ニ依ル查定又ハ裁決ト司法裁判所ノ裁判トハ各自獨立シテ私權關係ヲ確定スルモノトス（大正四・七・六）　三　二四七

○查定又ハ裁決ト判決トノ牴觸ニ因リ權利ヲ害セラレタル場合ノ救濟方　同一土地ノ所有權ニ關シ土地調查令ニ依ル查定又ハ裁決ト司法裁判所ノ確定判決トノ間ニ互ニ牴觸シテ相容ルルコト能ハサル結果ヲ生シタルトキト雖二者全然其系統ヲ異ニスル國家機關ノ行爲ニシテ各獨立シテ其效力ヲ有スルモノナルヲ以テ斯ル場合ニハ一方ヲシテ查定又ハ裁決ニ因リテ確定シタル權利ヲ主張スルヲ得セシメ其當事者間ニ在リテハ兩々相對立シタル當時ノ現在ノ狀態ヲ維持シ互ニ他ノ一方ノ權利ヲ侵害スルコトナクシテ其權利ヲ行使スルヲ得ヘキモノト爲スヲ妥當トス從テ若シ他ノ一方ノ現狀ニ變更ヲ加ヘ其權利ヲ侵害シテ目的物件ヲ奪取スルカ如キ行爲ヲ爲スニ於テハ侵奪者ヲ相手取リ之カ囘復ヲ請求スルヲ得ヘキモノトス（大正八・三・一四）　六　九六

○流水使用權侵害ノ救濟ト司法裁判所ノ管轄　下流ニ於ケル田地灌漑ノ爲ニスル流水使用權者カ其上流ニ設置セラレタル堤防ノ障害ニ因リ田地灌漑上必要ナル水量ヲ得ルコト能ハサルニ至リタルトキハ其權利ヲ侵害セラレタルモノニ外ナラサルヲ以テ必シモ行政權ノ作用ニ俟ツヲ要セス司法裁判所ニ出訴シテ該堤防ノ取除ヲ請求シ得ルモノトス（大正七・七・一〇）　五　六四七

○臨時財產整理局ノ還給處分ト裁判所ノ認定權　臨時財產整理局ノ處分ハ單ニ國有財產ナリヤ否ヤヲ確定ス

ル效力アルニ過キサレハ或不動産ヲ民有トシテ還給處分ヲ爲スコトアルモ其國有ニ非サルコト確定スルニ止マリ人民相互間ノ權利ヲ確定スル效力ナキハ勿論還給處分ハ國有財産ヲ人民ニ附與スルモノニ非サレハ還給處分ヲ受ケタレハトテ當然其所有者ト爲ルモノニ非ス從テ眞ノ所有者ハ還給處分ヲ受ケタルモノニ對シ其所有權ヲ主張スルコトヲ得ヘク裁判所モ亦還給處分ノ如何ニ拘ラス所有權ノ所在ヲ認定スルコトヲ得ルモノトス（大正八・四・一五）

○水利組合ノ堤防ノ撤去及築堤工事ノ禁止請求ト司法裁判所ノ管轄　不法ノ行政處分ニ因リテ權利ヲ侵害セラレタル者カ其ノ廢止變更ヲ求ムル訴ハ民事事件ニ非ス水利組合ノ貯水池築造ハ行政處分ニシテ之ニ必要ナル堤防ノ撤去及築堤工事ノ禁止ヲ命スルコトハ當然ニ行政處分ノ廢止變更ヲ伴フモノナルカ故ニ其ノ請求ハ司法裁判所ノ管轄ニ屬セス（昭和四・五・一〇）

第一條

○朝鮮總督裁判所ノ地位　朝鮮總督府裁判所第一條ニ朝鮮總督府裁判所ハ朝鮮總督ニ直屬シ云々ト規定セルハ裁判所構成法第百三十五條ニ司法行政監督權ノ施行ニ關シ「司法大臣ハ各裁判所ヲ監督ス」ト規定シアルニ對應スルモノニシテ其ノ旨意ハ朝鮮總督府裁判所ハ司法行政ノ監督上朝鮮總督ニ直屬スト雖モ朝鮮總督府裁判所亦憲法ニ謂フ所ノ裁判所ニシテ　天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ司法權ヲ行フモノトス（昭和二・九・七）

	卷	頁
舊韓國裁判所構成法	六	二四四
舊韓國平理院ト下級裁判所判決ノ變更	一六	二一二
上疏ニ關シテ與ヘタル罷養取消相續回復命令ノ效力	一四	三〇七

舊韓國裁判所構成法

○基址返還ヲ命シタル確定判決アル場合ニ於ケル墳墓ノ掘移墻垣ノ撤去請求ト田宅訟出訴期限　墳墓ノ掘移及墻垣ノ撤去ヲ請求セラレタル場合ニ於テ既ニ其基地ニ付之ヲ返還スヘシトノ確定判決存スルトキハ右請求ニ對シテハ田宅訟ニ關スル出訴期限法ヲ適用スルヲ得ス（明治四四・一・四）

○舊韓國平理院ト下級裁判所判決ノ變更　舊韓國平理院ハ下級裁判所ノ爲シタル判決ノ不當ヲ認知スルトキハ其裁判所ニ訓令ヲ發シ該判決全部ノ取消若クハ幾部ノ更正ヲ命シ得ヘキ權能ヲ有セシモノトス（大正二・九・二三）

○上疏ニ關シテ與ヘタル罷養取消相續回復命令ノ效力　上疏ニ關シテ與ヘタル命令ハ判決ト同視スヘキモノニアラサルハ勿論舊韓國時代ニ於テモ之ヲ判決ト同視シタル慣習ナシ（大正三・七・二四）

舊商法破産編

第三編　破産

第一章　破産宣告

○日ヲ同シクスル抵當登記ト支拂停止ノ前後ハ證明ニ依リ決定ス　抵當權登記ノ日ト支拂停止ノ日ト同日

舊韓國裁判所構成法　舊商法破産編　破産　破産宣告

ナルトキハ其何レカ先ナルカハ一ニ立證責任者ノ證明ニ依リテ決スルノ外ナシ（明治四四・二・二七）

○破産宣告ヲ廢棄シタル決定ト新タナル抗告理由　控訴院ニ於テ地方裁判所カ宣告シタル破産決定ヲ廢棄シテ債權者ノ破産申立ヲ却下シタルトキハ債權者カ該決定ニ對スル抗告ハ抗告裁判所ノ裁判ニ因リ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生シタルモノニ該當ス（明治四四・八・二一）

○工事請負資金債務ノ支拂停止ト破産理由　工事請負營業ノ資金トシテ金員ヲ借受ケ其返濟ノ請求ヲ受ケタルニ當リ資力缺乏ノ爲メニ支拂ヲ停止シタルトキハ破産ヲ宣告セラルヘキ理由アリ（明治四四・八・二一）

人事訴訟手續法

第十八條

○養子緣組ノ成立又ハ不成立ヲ確認シタル判決ノ效力　養子緣組ノ當事者間若ハ第三者ヨリ其當事者雙方ヲ相手取リタル訴訟ニ於テ養子緣組ノ成立又ハ不成立ヲ確定シタル判決ハ人事訴訟手續法第二十六條第十八條第一項ノ規定ニ準據シ第三者ニ對シテモ其既判力ヲ及スモノトス（昭和三・六・二二）

○養子緣組無效確認事件ノ敗訴ノ判決ト對世的確定力　養子緣組ノ有效無效ノ確認ヲ求ムル訴訟ハ其ノ性質上人事訴訟ニ屬シ其ノ效力ノ有無ヲ確認セル判決ハ人事訴訟手續法第二十六條第十八條第一項ニ依リテ所謂對世的效力ヲ生スルモノナルカ故ニ養子緣組ノ不存在從テ其ノ無效ナルコトヲ主張スル原告ノ訴求ヲ棄却シタル判決ハ有效ナル

養子緣組ノ法律關係存在ノ事實ニ付對世的確定力ヲ有スルモノトス（昭和七・六・二八）

第二十六條

養子緣組事件ノ當事者

○第三者提起ノ朝鮮人ノ養子緣組無效ノ訴ニ於ケル相手方　朝鮮人ノ養子緣組無效ノ訴ニ於テハ養父ノ生存スル場合ニハ養父及養子ヲ以テ訴訟ノ相手方ト爲スヘク養父ノ死亡シタル後ハ養母ヲ以テ緣組ノ當事者ニ準シ訴訟ノ相手方ト爲スコトヲ要スト解スルヲ妥當トス（大正一三・一一・二五）

○養子提起ノ養子確認訴訟ノ相手方　養子タルコトヲ主張スル者ヨリ提起スル養子確認ノ訴ハ人事訴訟手續法第二十六條第二條ノ規定ニ準據シ養父ヲ以テ相手方トスヘク死後養子ナル場合又ハ養父死亡後ニ在リテハ朝鮮ニ於テ緣組ノ相手方ニ準セラルヘキ養母ヲ以テ相手方トスヘク養母カ死亡シタル後ハ檢事ヲ以テ相手方ト爲スヘキモノトス（大正一四・七・一〇）

○死後養子ヨリ提起スル養子確認訴訟ノ相手方　死後養子ヨリ提起スル養子確認ノ訴ハ養母カ既ニ他家ニ改嫁シ養家ニ在ラサル場合ニ於テハ養母ノ死亡シタル場合ト同樣ニ檢事ヲ以テ相手方トスヘキモノトス（大正一五・二・二六）

○婚家ヲ去リタル養母ノ養子緣組無效ノ訴ニ於ケル當事者能力　寡婦タル養母ハ婚家ヲ去リテ實家ニ復籍シタル後ト雖婚家ニ其ノ實子ノ存スルニ於テハ實子トノ血族關係ニ基ク扶養ノ義務其ノ他ノ權利義務ニ付重大ナル關係ヲ有スルヲ以テ婚家ニ在ル養子ニ對シ養子緣組無效ヲ主張スルニ付正當ナル當事者トシテノ適格ヲ有スルモノトス（大正一五・九・二八）

○第三者ヨリ提起スル緣組無效ノ訴ノ相手方ト相續回復ノ訴ノ相手方ノ異同　朝鮮人ノ養子緣組無效ノ訴ニ於テハ養父及養子ヲ以テ訴訟ノ相手方ト爲スヘク養父ノ死亡シタル後ハ養母及養子ヲ以テ相手方ト爲スモノナリト

雖相續回復ノ訴ニ於テハ縱令其ノ內容ニ於テ緣組ノ當否カ審理セラルル場合ナリトスルモ僧稱相續人ヲ相手方ト爲スヲ以テ足ル（昭和二・八・九）

○第三者提起ノ養子緣組無效ノ訴ニ於ケル相手方　第三者ヨリ提起スル養子緣組無效ノ訴ニ於テハ緣組ノ當事者ヲ以テ訴訟ノ相手方ト爲スヘク當事者ノ一人カ死亡シタル場合ニハ生存者ヲ以テ相手方ト爲スヘキモノトス（大正一三・一一・二五）

○緣組無效ノ訴ニ於ケル未成年者ノ法定代理人　緣組無效ノ訴ハ當事者間ニ養親子關係ノ存セサルコトヲ前提トスルモノナルヲ以テ同訴ニ於ケル未成年者ノ法定代理人ハ養親子關係ノ存在ヲ前提トシテ之ヲ定ムヘキモノニアラス緣組ナキ場合ヲ想定シテ之ヲ定ムヘキモノトス從テ同訴ニ於ケル未成年者ノ訴訟行爲ハ行爲能力者トシテ自ラ之ヲ爲シ得ル場合ノ外緣組ナキ場合ニ於テ法定代理人タルヘキ者ニ依リテ代理セラルルコトヲ要ス（昭和五・八・二）

○意思無能力者タル養子ヲ當事者トスル養子緣組確認訴訟ノ法定代理權　養子緣組ノ成否ニ關スル訴訟ハ公益ニ關スルモノナルカ故ニ斯ル確認ノ訴ハ緣組ノ無效又ハ其ノ取消宣言ヲ求ムル訴ト同一ノ手續ニ依ラシムヘキヲ條理上正當ト爲スヘキヲ以テ意思無能力者ナル原告（養子）カ提起スル養親子關係存在確認ノ訴ニ於テハ原告實方ノ父ニ於テ之カ法定代理權ヲ有スルモノトス（昭和六・一・二三）

養子緣組ニ關スル判決ノ效力

○養子緣組ノ成立又ハ不成立ヲ確認シタル判決ノ效力　養子緣組ノ當事者間若クハ第三者ヨリ其當事者雙方ヲ相手取リタル訴訟ニ於テ養子緣組ノ成立又ハ不成立ヲ確定シタル判決ハ人事訴訟手續法第二十六條第十八條第一項ノ規定ニ準據シ第三者ニ對シテモ其既判力ヲ及スモノトス（昭和三・六・二二）

○養子緣組無效確認事件ノ敗訴ノ判決ト對世的確定力　養子緣組ノ有效無效ノ確認ヲ求ムル訴訟ハ其ノ性質上人事訴訟ニ屬シ其ノ效力ノ有無ヲ確認セル判決ハ人事訴訟手續法第二十六條第十八條第一項ニ依リテ所謂對世的效力ヲ生スルモノナルカ故ニ養子緣組ノ不存在從テ其ノ無效ナルコトヲ主張スル原告ノ訴求ヲ棄却シタル判決ハ有效ナル養子緣組ノ法律關係存在ノ事實ニ付對世的確定力ヲ有スルモノトス（昭和七・六・二八）

卷	頁
一四	二四三
一二	二二三
一七	一七
一八	四
一五	一八五
一九	一七九
九	三六七
三三	一二九

明治三十三年法律第十七號（商法中署名スヘキ場合ニ關スル件）

○拇印ハ本法ノ捺印ニ該當セス　明治三十三年法律第十七號商法中署名スヘキ場合ニ關スル所謂捺印トハ記名者ノ印章ヲ押捺スルヲ謂フモノニシテ拇印ノ如キハ之ニ該當セス（大正一一・九・二二）

信託法

第十一條

○訴訟行爲ヲ爲サシムルコトヲ主タル目的トスル信託行爲ト當事者主張ノ要否　當該信託行爲カ信託法第十一條ニ該當シ法律上無效ナリトノコトハ當事者ニ於テ主張セルコトナシトスルモ裁判所之カ判斷ヲ爲スヘキモノトス（昭和一二・三・二七）

商法中署名スヘキ場合ニ關スル件
信託法

森林令

第二十九條

○立木アル國有山坂ノ永年禁養　舊韓國森林法第十九條ニ依リ所定ノ期間内ニ地籍報告ヲ爲サスシテ國有ニ歸シタルモノト看做サレタル山坂ト雖立木アリテ數十年來禁養セル事實アルトキハ該山坂ハ明治四十四年六月制令第十號森林令第二十九條ニ所謂國有森林ニ該當スルハ勿論數十年來禁養ノ事實ハ同條ニ所謂永年禁養ニ該當スルニ依リ同條所定ノ要件具備セル事實ヲ認メテ貸付ヲ受ケタルモノト看做サレタリト判定スルハ濫法ニ非ス　（大正二・七・一五）

○本條ト所有權ノ取得　森林令第二十九條ニ依リ國有森林ニ付貸付ヲ爲シタルモノト看做サレタルトキト雖特ニ其森林ノ讓與ヲ受クルニ非サレハ所有權ヲ取得スルコトナキモノトス　（大正五・五・二六）

○十年間ノ禁養ハ本條永年禁養ニ該當ス　約十年間禁養セラレタルモノナル以上ハ森林令第二十九條ニ所謂永年禁養シタル森林ニ該當ス　（大正六・一一・六）

○貸付後栽植シタル樹木ノ所有權　國有森林ノ貸付ヲ受ケタル者ハ貸付契約ニ從ヒ森林ノ產物ヲ取得スルノ權利ヲ有スルモ其貸付ニヨリテ森林ノ立木ノ所有權ヲ常ニ取得スルモノニ非サルコトハ森林令第七條森林令施行規則第十三條同第十四條等ノ規定ニ徵シ自ラ明カナレハ森林令第二十九條ニ依リ永年禁養シタル國有林ノ貸付ヲ受ケタル者ト看做サレタル者モ亦其法律上ノ推定ノミニ因リテ直ニ立木ノ所有權ヲ取得スヘキモノニ非ラス然レトモ貸付ヲ受ケタルモノト看做サレタル者カ其貸付ヲ受ケタル後ニ栽植シタル樹木ハ權原ニ因リテ附屬セシメタルモノナルヲ以テ其權利ハ民法第二百四十二條ノ規定ニ從ヒ之ヲ妨ケラルルコトナキヲ以テ貸付ヲ受ケタル者ノ所有ニ屬ス　（大正七・一一・二九）

卷	頁
二	二九四
三	六〇二
四	九二〇
五	八九六

○本條ト行政官廳ノ許可　森林令施行前永年禁養シタル事實ノ存スル以上ハ該禁養者ニ於テ森林令施行ト同時ニ當然其國有林ノ貸付ヲ受ケタル者ト看做サルヘク別ニ行政官廳ノ許可ヲ必要トスルモノニアラス（大正七・一〇・二五）

○本條ト第三者ニ對スル讓與　森林令第二十九條ニ依リ永年禁養シタル國有森林ノ貸付ヲ受ケタルモノト看做サレタル者ハ朝鮮總督ヨリ國有森林ノ讓與ヲ受クルニアラサレハ所有權ヲ取得スルモノニアラス故ニ其讓與ヲ受ケサル間ニ他人ニ之ヲ讓與セルトキハ其讓與ヲ受ケタル者ニ於テ所有權ヲ取得スヘキモノトス　（大正一二・二・六）

○永年禁養ノ認定　明治四十四年官通牒第三〇〇號大正二年官通牒第四十六號ハ行政官廳ノ執務便宜ノ爲メ國有私有ノ區分標準ヲ示シタルニ過キス裁判所ハ事實ニ依リ何人ノ所有ニ屬スルヤヲ決スヘク單ニ該通牒ニ列擧セル標準ニ依リ國有私有ヲ決スヘキモノニ非ス從テ同通牒ニ所謂「舊森林法施行前全部又ハ一部ノ播種又ハ植樹ヲ行ヒタルモノ又ハ播種ヲ行ハス單ニ禁養シタルモノニシテ森林令施行前平均樹齡十年以上ニ達シタルモノ等ヲ以テ永年禁養ノモノト認ムヘキ旨」ノ記載モ亦當然裁判所ヲ羈束スルモノニ非サルノミナラス同通牒ニ列擧スルモノヲ以テ永年禁養ノモノト認メサルヘカラストスル慣習ハ之ヲ認メス　（大正一二・四・一〇）

卷	頁
五	七八三
一〇	一四
一〇	九七

森林令施行規則

第三十一條

○本條違反ノ處分行爲ノ效力　隨意契約ニ依リテ國有森林ノ產物ヲ買受ケシ者カ朝鮮總督又ハ地方長官ノ許可ヲ

受クルコト無クシテ搬出若ハ採取未濟ノ產物又ハ年期賣却契約ニ依リテ生シタル權利ヲ讓渡シ又ハ擔保ニ供シタルトキト雖夫等ノ處分ハ當然無效ニ非スシテ唯當該官憲ニ於テ賣却行爲ヲ解除スルノ一事由タルニ過キサルモノトス（大正一五・四・二七）

森林法

第十三條

○本法ノ施行ト墳墓設置ノ慣習　舊森林法第十三條ニハ所有者ノ許諾ヲ受クルニ非サレハ森林山野ニ墳墓ヲ設クルコトヲ得スト規定シ同法第十七條ハ之ニ違背シタル場合ノ處罰規定ヲ設クルヲ以テ同法施行後ハ所有者ノ許諾ヲ受クルニ非サレハ森林山野ニ墳墓ヲ設置スルヲ得ス從テ隨意ニ國有森林山野ニ墳墓ヲ設置シ得タル從來ノ慣例ハ同法施行後行ハルルコト能ハサルニ至リタルモノトス（大正四・三・一六）

○同　旨　隨意ニ國有森林山野ニ墳墓ヲ設クルコトヲ得タル從來ノ慣習ハ舊韓國森林法第十三條ノ實施ニ依リ廢止セラレタルモノトス（大正六・一二・一八）

○强行法規ノ施行ニ依リ廢止セラレタル慣習カ該法規ノ廢止後ニ於テ復活スルコトノ有無　從來ノ慣習カ新ニ發布セラレタル强行法規ニ反シ廢止セラレタルトキハ縱令後日其强行法規カ廢止セラルルモ從前ノ慣習カ當然效力ヲ復活スルコトナシ（大正六・一二・一八）

卷	頁
一三	九七
三	九七
四	一一三三
四	一一三三

○本條ノ所有者　舊韓國森林法第十三條ノ所有者トアル中ニハ私人ハ勿論國家ヲモ包含ス（大正六・一二・一八）

第十九條

○森林山野所有者ノ不申告ト所有權ノ喪失　森林山野ノ所有者カ隆熙二年法律第一號森林法第十九條ニ依リ申告ヲ爲ササルトキハ當然其所有ヲ失ヒ國有ト看做サルヘキモノトス（明治四四・六・一七）

○同　旨　舊森林法第十九條ノ所有者トハ森林山野ニ對スル眞實ノ所有權者ヲ指稱ス從テ其所有者ニシテ屆出ヲ爲ササル以上ハ該森林山野ハ當然國庫ニ歸屬シ同時ニ其所有者ハ之ニ對スル所有權ヲ喪失ス（大正二・七・一一）

○本條地籍報告ノ目的物　森林法第十九條ニ依リ地籍報告ヲ爲スヘキ土地ハ森林山野ニ限ルモノトス（大正二・三・一八）

○本條ト森林令第二十九條　舊韓國森林法第十九條ニ依リ所定ノ期間內ニ地籍報告ヲ爲サスシテ國有ニ歸シタルモノト看做サレタル山坂ト雖立木アリテ數十年來禁養セル事實アルトキハ該山坂ハ明治四十四年六月制令第十號森林令第二十九條ニ所謂國有森林ニ該當スルハ勿論數十年來禁養ノ事實ハ同條ニ所謂永年禁養ニ該當スルニ依リ同條所定ノ要件具備セル事實ヲ認メテ貸付ヲ受ケタルモノト看做サレタリト判定スルハ違法ニ非ス（大正二・七・一五）

○本條不申告ト其ノ事由　舊韓國森林法第十九條ノ屆出期間ハ屆出ヲ爲ス能ハサリシ原因事情ノ如何ヲ問ハサルモノトス（大正二・八・五）

○本條申告ト職權調査事項　森林法所定ノ期間內ニ地籍申告ヲ爲シタリヤ否ヤノ事實ハ裁判所カ職權ヲ以テ調査スヘキ事項ニ屬セス（大正二・一一・二一）

○同　旨　舊韓國森林法ニ依ル地籍報告ノ有無ハ職權調査事項ニ非サルヲ以テ當事者ヨリ之ヲ主張スルニ非サレハ裁判所ニ於テハ其事實ノ有無ヲ調査セサルヘカラサルモノニアラス（大正六・一二・二七）

卷	頁
四	一一三三
一	二九八
二	二七二
二	一七六
二	二九四
二	三〇九
二	三六三
四	一一九九

○本條ノ申告ト共有者　森林山野ノ共有者ノ一人カ隆熙二年法律第一號森林法第十九條所定ノ期間内ニ地籍届出ヲ爲シタルトキハ他ノ共有者ヲ代表スルコトナク又其共有タルコトヲ明示セサルトキト雖國有ト看做サルルコトナシ從テ他ノ共有者モ該森林山野ノ共有權ヲ失ハス（大正二・一二・一六）

○同　旨　森林山野ノ共有者ノ一人カ舊森林法所定ノ期間内ニ地籍申告ヲ爲シタルトキハ他ノ共有者ヲ代表スルコトナク又其共有タルコトヲ明示セサルトキト雖國有ト看做サルルコトナシ從テ他ノ共有者モ該森林山野ノ共有權ヲ失ハス（大正八・三・二八）

○本條適用ノ效果　民有森林山野ニシテ地籍報告ヲ怠リタル結果國有ト看做サルル場合ニ在リテハ森林山野ノ基地ハ勿論其基地上ニ生立セル樹木ノ所有權モ共ニ國有ニ歸スヘキモノトス（大正六・七・二七）

○本條申告權者　舊韓國森林法第十九條ニ依ル届出ハ森林山野ノ所有者ヨリ之ヲ爲スヘク然ラサレハ總テ國有ト看做サルヘキモノナレハ所有者ニアラサル者ヨリ其届出ヲ爲シタリトスルモ其者カ所有權ヲ取得スヘキ謂ハレナキモノトス（大正六・一〇・一六）

○同　旨　舊森林法第十九條ノ所有者トハ森林山野ニ對スル眞實ノ所有權ヲ指稱スルモノナレハ眞實ノ所有者ニアラサル者ノ届出ハ何等ノ效力ヲ生セス（大正七・二・八）

○本條申告ト到達主義　凡ソ法令ニ於テ一定ノ期間内ニ届出ヲ爲スヘキ旨ヲ規定シタルトキハ特別ノ規定アラサル限リ届出ヲ受理裁斷スル職責ヲ有スル官憲ニ到達スルコト其期間内ニ在ルコトヲ要スルヲ通例トス然レトモ舊韓國森林法第十九條ニ依ル地籍届ハ同條所定ノ期限内ニ必スシモ農商工部大臣（日韓併合後ハ朝鮮總督府）ニ到達スルコトヲ要セス其期限内ニ其下級官廳タル府郡廳ニ提出セラレタル事實アル以上ハ尚之ヲ有效ト解スルヲ相當トス（大正七・四・二）

巻	頁
二	三六六
六	一四三
四	七三二
四	八五〇
五	八二
五	二一三

森林山野及未墾土地國有私有區分標準

○國有私有ヲ認定スル標準　明治四十五年朝鮮總督府訓令第四號ハ行政官廳ノ執務便宜ノ爲メ國有私有ノ區分標準ヲ示シタルニ過キス裁判所ハ事實ニ依リ何人ノ所有ニ屬スルヤヲ決スヘク單ニ該訓令ニ列擧セル標準ニ依リ國有私有ヲ決スヘキモノニアラサルコトハ從來ニ於テモ亦然リシ所トス（大正三・一二・一一）

寺刹令

第四條

○寺院ニ於ケル房主ノ意義　寺院ニ於ケル房主トハ尼ノ專稱ニアラス一般的ニハ山内ノ主僧ヲ房主ト稱スルモ平安南道及黃海道地方ニ在テハ小寺ノ住持ヲモ房主ト稱スルモノトス（大正三・九・二九）

第五條

○下賜ニ係ル寺刹財產處分禁止ノ慣習　朝鮮ニ於テハ皇室若クハ官廳ヨリ寺院ニ下賜シタル田地山林ハ縱令衆僧ノ決議アルモ絕對ニ處分スルコトヲ得サルヲ從來ノ慣習トス（明治四四・四・一〇）

○右慣習ト公法關係　寺刹令施行以前舊韓國時代ニ於テ皇室若クハ官廳ヨリ寺院ニ下賜シタル田畓山林ハ衆僧ノ決議アルモ絕對ニ之ヲ處分スルコトヲ得ストノ慣習ハ寺院カ私法上ノ法律行爲ニ依リ之ヲ處分スル場合ニ適用アルニ止リ公法關係ニ於テハ何等ノ效力ヲ有セサルモノトス（大正三・一一・二）

止マリ公法上ノ關係ニ因リ寺有ノ田畓若クハ山林カ國庫若クハ其他ニ歸屬スルコトヲ妨クルモノニアラス（大正五・一〇・一三）

○寺刹令施行前ノ寺刹財産ノ處分　寺刹令施行前ニ於テ房主一人ノ在住スル場合ニ該寺ニ屬スル田土ヲ處分スル必要アルトキハ慣習上本山寺院ノ承認ヲ經ルコトヲ要スルモ本山寺院ヲ有セサル寺院ニ在テハ房主一人ニテ之カ處分ヲ爲シ得ヘキ慣習ナリトス（大正三・九・二九）

○本條許可ヲ條件トスル處分行爲ノ效力　寺刹令第五條ニ規定セル寺刹ニ屬スル財産處分ノ許可ヲ條件トシテ其處分ヲ爲スヘキ債務ヲ負擔スル行爲ハ寺刹令第五條ニ所謂處分ノ行爲中ニ包含セス（大正八・一一・二一）

○本條許可ナキ寺刹財産處分ノ效力　明治四十四年六月制令第七號寺刹令第五條ハ寺刹ノ財産ヲ保護スル爲住持等ニ於テ任意ニ寺刹所有ノ土地建物等ノ貴重品ヲ處分スルコトヲ禁止シ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケシテ爲シタル一切ノ處分行爲ヲ無效トスル旨趣ノ規定ナリトス（昭和二・二・一五）

○寺刹財産ト寺刹令施行規則第七條　明治四十四年七月朝鮮總督府令第八十四號寺刹令施行規則第七條ハ行政監督上ノ取締規定タルニ過キスシテ寺刹令第五條ノ適用ヲ受クヘキ寺刹所有ノ土地建物等貴重品ノ範圍ヲ限定シ又ハ之カ所有權取得ノ公示方法ヲ定メタル趣旨ニ非ス（昭和三・八・三一）

○寺刹財産ニ對スル強制執行ト競落ニ因ル所有權ノ取得　朝鮮總督ノ許可ヲ得テ處分シ得ヘキ寺刹財産ニ對スル強制執行ハ違法ニシテ競落許可決定ニ基キ競落人ト爲リタル者ト雖其ノ執行ノ目的タル不動産ノ所有權ヲ取得スルコトナシ

如上ノ理ハ寺刹カ債務負擔行爲ニ付朝鮮總督ノ許可ヲ要セスト爲シタル改正前ノ寺刹令施行當時タルト又許可ヲ要スト爲シタル同令改正後ノ現在タルトニヨリ異ルコトナシ（昭和一〇・五・一七）

卷	頁
三	七七〇
二	四六三
六	五六九
一四	三八
一五	二四二
三	一三三

寺刹令施行規則

第七條

○本條ト寺刹令第五條ノ寺刹財産　明治四十四年七月朝鮮總督府令第八十四號寺刹令施行規則第七條ハ行政監督上ノ取締規定タルニ過キスシテ寺刹令第五條ノ適用ヲ受クヘキ寺刹所有ノ土地建物等貴重品ノ範圍ヲ限定シ又ハ之カ所有權取得ノ公示方法ヲ定メタル趣旨ニ非ス（昭和三・八・三一）

一五	二四二

酒稅令

○納稅擔保物ニ對スル國ノ權利ノ性質　酒稅令竝其ノ施行規則ニ規定スル納稅擔保物ニ對スル國ノ權利ハ其ノ不動產ノ上ニ爾後ニ設定セラルヘキ私法上ノ物權ニ優先シ登記ノ順位ニ從ヒ抵當權者ト同一ノ地位ヲ保持スルコトヲ以テ內容トスルモノニシテ私法上ノ抵當權ニ外ナラス（昭和二・四・一二）

○酒稅代納者ノ代位ト納稅擔保物　納稅擔保物ノ上ニ國ノ有シタル抵當權ハ代納者ノ納稅義務者ニ對シテ有スル求償權ノ擔保ノ爲メニ代位辨濟ノ規定ニ準シ代納者ニ移轉ス（昭和二・四・一二）

一四	九〇
一四	九〇

朝鮮殖産銀行令

第二十三條

○年賦償還期限ノ利益喪失ノ定ト登記　朝鮮殖産銀行令第二十三條ノ適用アル貸借ニ於テ年賦償還期限ノ利益喪失ノ定ノ如キ不動産登記法第百十七條ニ依リ之ヲ登記セサルモ第三者ニ對抗スルヲ得ヘキモノトス　（昭和八・一一七）

○本條ノ法意　朝鮮殖産銀行令第二十三條ハ債務者カ年賦金ノ拂込ヲ遲延スルトキハ期限ノ利益ヲ失フヘキ旨ヲ規定シタルモノトス　（昭和八・一一・七）

私法上ノ金錢債務ノ支拂延期及手形等ノ權利保存行爲ノ期間延長ニ關スル件

○辨濟期既到來ノ債務ト本令ノ適用　支拂猶豫令第一條ハ昭和二年四月二十二日以前ニ辨濟期ノ到來シタル債務ニ適用セラルヘキモノニ非ス從テ右債務ニ對シテ同月二十二日ヨリ五月十二日迄ノ間モ尚遲延利息ヲ附スヘキモノトス　（昭和三・三・九）

巻　頁
三〇　四一〇
三〇　四一〇
一五　八三

開國五百三年七月十五日議案（守宰等ノ强估勒買シタル場合ニ關スル件）

抄　軍國機務處啓曰諸議員　臣本日議案各條謹具清單恭呈　乙覽簑允施之意敢啓

一　十年以內田地山林家屋等產爲蓄棡守宰及豪右所强估與減價勒買者由本主所實呈草于軍國機務處該呈單內要有證人二名以上及土在官衆所共知明確證據則查實推還原主倘有假冒代辨者構捏虛無者數爻相證者亦照律嚴懲事

○强估又ハ減價勒買ト出訴期限　强估又ハ減價勒買ヲ理由トスル田宅訟ニシテ開國五百三年七月十五日議案發布ノ當時未タ五年ヲ經過セサルモノハ該議案ノ規定ニ依リ十年ノ出訴期限ヲ有ス　（隆熙三「明治四二」・一一・三〇）

○本議案ノ施行期間ト刑法大全　開國五百三年七月十五日議案モ亦刑法大全施行ニ至ル迄適用セラレタルモノトス　（明治四三・九・二三）

○本議案ト强占ヲ理由トスル山坂返還及墳墓掘移請求ノ出訴期限　甲ヨリ所有ノ山坂ニ乙カ其父ヲ勒葬シ該山坂全部ヲ强占シタリト主張シテ山坂ノ返還ト墳墓ノ掘移トヲ請求スルトキハ甲ハ其强占ノ日ヨリ起算シテ十箇年內ニ起訴スルニアラスンハ舊韓國開國五百三年ノ議案ニ依リ山坂ノ返還ヲ求ムル權利ヲ喪失スルハ勿論其地上ニ存スル墳墓ノ掘移ヲ請求スル權利モ亦之ニ伴フテ喪失スヘキモノトス　（明治四四・九・三〇）

一　五四
一　一〇五
一　二七七

朝鮮水利組合令

○水利組合ニ關スル郡守ノ職務ト收賄罪　郡守ハ水利組合ニ對スル第一次ノ監督官廳トシテ組合費ノ不當ナル賦課ニ付更正ノ手續ヲ執ルコトヲ得ヘキ職務ヲ有スルカ故ニ其ノ職務ニ關シ金品ヲ收受シタルトキハ收賄罪ヲ構成ス（昭和四・七・一八）

對敵取引禁止令施行ニ關スル件

○敵國人ノ家賃請求ト賃貸ニ付テノ許可　當事者カ敵國人ニシテ家賃債權ニ付先取特權アリト主張スルトキハ大正六年五月五日朝鮮總督府令第二十六號（對敵取引禁止令施行ニ關スル件）ニ依リ其敵國人カ朝鮮總督ヨリ家屋賃貸ノ許可ヲ受ケタルヤ否ヤヲ調査スルコトヲ要ス（大正七・七・一〇）

代書業取締規則

○代書業者ト債權ノ讓受　代書業者カ債權ノ讓渡ヲ受クルコトヲ禁止シタル法規存スルコトナシ（大正五・一二・二二）

頁	卷	
三九九三	五	六四一
二五	第一六	

○舊韓國時代ト封爵從夫職庶孼及再嫁者勿論云々ノ規定ノ適用　大典會通吏典外命婦條「封爵從夫職庶孼及再嫁者勿論云々」ノ規定ハ舊韓國時代ニ正當ニ適用セラレタルモノニ非ス（大正六・四・二七）

卷之二　戶典諸田

○舊韓國王室ト其公主ニ對スル土地賜與　舊韓國王室ハ其公主ニ對シテ王室ニ屬スル土地其ノモノヲ賜與シタル事アリトス（大正元・一二・二〇）

○賜牌ト民有地　舊韓國時代ニ於テ區域ヲ定メテ土地ヲ賜牌シタル場合ニ其區域内ニ民有地ナキトキハ全部賜牌ヲ受ケタル者ノ所有ニ歸スルモ若シ民有地ヲ包含スルトキハ其部分ハ賜牌ヲ受ケタル者ノ所有ニ移ラサル慣習ナリトス（大正三・一二・一）

○結數賜牌ニ關スル法律規定ニ反スル事例　舊韓國時代ニ於テ結數賜牌ニ關スル法律規定ニ反スル事例ノ行ハレタルハ顯著ノ事實ナリ（大正三・一二・二五）

○結數賜牌ト定式收稅　定式收稅ハ結數賜牌ノ場合ニ於テ本則トシテ戶曹ヨリ受牌者ニ給與スヘキ稅穀一結二十三斗ヲ徵收スルヲ謂フモ例外トシテ受牌者ヲシテ一定ノ土地ノ耕作者ヨリ直接定式收稅ヲ爲サシムルコトアリ（大正三・一二・二五）

頁	卷	
四	二	三四八
二	二	八七
二	二	五三一
二	二	五四八
二	二	五四八

外命婦
戶典諸田
更典
大典會通

○結數賜牌ト四代ニ限ラサリシ事例　結數賜牌ハ四代ニ限ラサル事例行ハレタルモノトス（大正三・一二・二五）　二　五四八

○田土賜牌ト結數賜牌　昔時朝鮮ニ於テ皇室ヨリ宮家ニ對シ王牌ヲ以テ賜與スル場合ニ田土賜牌ト結數賜牌トノ區別アリ前者ハ土地ノ賜牌若クハ有土賜牌ト稱シ田土ヲ賜與シ後者ハ結ノ賜牌若クハ無土賜牌ト稱シ單ニ田土ノ結數ノミヲ賜與シタルモノトス（大正五・六・三〇）　三　六二九

○田土賜牌ト徵稅　田土賜牌ノ場合ニ於テ賜與セラレタル土地ニ對シテハ免稅セラレ賜牌ヲ受ケタル者カ其資格ヲ失ヒタルトキハ爾後租稅ハ還收セラルルモ土地其モノハ還收セラレサリシ慣例ナリ（大正五・六・三〇）　三　六二九

○代盡還收處分ノ行ハルル場合　代盡還收ノ處分ハ結數賜牌ノ場合ニノミ行ハルルモノトス（大正五・六・三〇）　三　六二九

田宅

○田宅ニ關スル聽訟期限　大典會通戶典田宅條ニ「凡訟田過五年勿聽盜賣者云々不限年」トアルハ盜賣者以下四種ニ限リ何時ニテモ出訴スルコトヲ許シ其他ノ田宅訟ハ凡テ五年ヲ過クレハ出訴スルヲ得サルノ趣旨ナリトス（隆熙二「明治四二」・一・三〇）　一　五四

○善意ノ盜品買取人ニ對スル聽訟期限　大典會通中盜賣者不限年トノ規定ハ盜賣ノ事實ヲ知ラスシテ買取リタル者ニモ適用セラルルモノトス（明治四三・七・二七）　一　九八

○雀地山地ト聽訟期限　田宅訟五年ヲ過クルトキハ出訴ヲ許サストノ制ハ刑法大全施行前迄適用セラレタルモノニシテ田トアル中ニハ雷地山地ヲ包含スルモノトス（明治四三・九・二三）　一　一〇五

○田宅塡補賠償請求ト聽訟期限　大典會通戶典田宅條ニ「凡訟田宅過五年者則勿聽」トアルハ其目的物件ノ返還ニ代ヘテ價格賠償ヲ求ムル場合ニモ亦適用アリ（明治四三・一二・二六）　一　一六九

○基址返還ノ確定判決アル場合ニ於ケル墳墓掘移墻垣撤去ノ請求ト聽訟期限　墳墓ノ掘移及墻垣ノ撤去ヲ請求セラレタル場合ニ於テ既ニ其基地ニ付之ヲ返還スヘシトノ確定判決存スルトキハ右請求ニ對シテハ田宅訟ニ關スル出訴期限法ヲ適用スルヲ得ス（明治四四・一・四）　一　一七三

○他人ノ物トシテ田宅ヲ占有スル者ニ對スル聽訟期限　他人ノ所有物トシテ田宅ヲ保有スル者ニ對シテハ大典會通田宅條ニ賃居永執者不限年トアルニ準據シ幾年ヲ經過スルモ取戻ヲ請求シ得ヘシ（明治四四・三・三一）　一　一三四

○田宅侵害ノ損害賠償請求ト聽訟期限　大典會通戶典田宅條ニ「凡訟田宅過五年者則勿聽」トアルハ田宅ノ返還又ハ之ニ代ルヘキ損害賠償ノ請求ノミナラス其地上ニ存スル草木ノ伐採ニ因ル價格賠償ヲ求ムル場合ニモ適用スヘキモノナルヲ以テ占有開始後五年ヲ經過シタルトキハ其經過前ノ伐採ニ係ルト其後ノ伐採ニ因ルトヲ問ハス其價格ヲ訴求スルヲ得ス（大正元・一〇・四）　二　一九

○父ノ田宅合執者ニ對スル聽訟期限　父ノ田宅ヲ合執スル者ニ對スル訴ハ不限年ニ提起スルヲ得（大正二・七・二）　二　二七三

○墓直ハ因拜耕永執者ニ該當ス　墓直トシテ單ニ他人ノ所有地ヲ耕作シ收益スル者ハ大典會通戶典田宅條ノ賃居永執者ニ該當セスシテ因拜耕永執者ニ該當スルモノトス（大正三・五・二二）　二　四二四

○委託耕作者ニ對スル聽訟期限　他人ノ委託ニ因リテ土地ヲ占有スル者ニ對スル聽訟期間ハ戶典田宅條因拜耕永執者不限年ノ規定ヲ準用スヘキモノトス（大正三・一〇・九）　二　四八一

○出訴期限經過ノ抗辯ト舊民事訴訟法無訴權ノ抗辯　出訴期限ノ經過ヲ理由トシテ訴ノ却下ヲ求ムル抗辯ハ民事訴訟法第二百六條第一項第一號ニ所謂無訴權ノ抗辯ニ該當セス（大正六・二・二三）　四　一三二

○相手方ノ異動ト聽訟期限ノ起算點　物權ヲ主張シテ救濟ヲ求ムル訴權ニ付聽訟期限ヲ計算スルニハ相手方ト

爲ルヘキ者ニ異動アルト否トニ區別ナク其訴權ノ行使シ得ヘキ時ヨリ起算スヘキモノトス（大正六・二・二三）

○出訴期限經過ト職權調査　出訴期限ヲ經過シタル訴ハ裁判所職權ヲ以テモ調査シテ其訴ヲ却下スヘキモノトス（大正六・二・二三）

○同　旨　聽訟期限ヲ經過シタルヤ否ヤハ裁判所ニ於テ職權ヲ以テ調査スヘキ事項ナリ（昭和二・一・一八）

○聽訟期限ト職權調査ノ範圍　戸典田宅條ニ凡訟田宅過五年勿聽ノ規定アリテ刑法大全施行ニ至ル迄適用セラレタルモノニシテ裁判所ニ於テ出訴期限ヲ經過シタルト否トニ依リ訴ノ適否ヲ決スルハ職權調査事項ニ屬シ當事者ノ主張ニ俟ツヘキモノニ非スト雖モ該期限ノ經過ニ關スル基礎タル事實ニ付テハ當事者ノ申立中其事實ノ現ハレサルニ於テハ裁判所ハ其訴ニ付期限經過ノ事實無シトシテ之ヲ適法ナリト認ムヘキモノトス（大正六・四・六）

○承繼人又ハ管理人ト出訴期限經過ノ抗辯　土地所有權ノ確認及土地引渡ノ請求ヲ受ケタル場合ニ右土地ニ關スル出訴期限經過ノ抗辯ヲ提出シ得ル者ハ必スシモ一般承繼人トシテ其土地ヲ取得シタルモノニ限局セラルヘキモノニ非ス特別承繼人トシテ之カ取得ヲ爲シタル者ト雖其前主カ所有スル當時ニ於テ經過シタル期限ヲ以テ對抗シ得ヘク又他人所有ノ土地ヲ管理スルモノハ所有者ノ有セシ出訴期限經過ノ抗辯ヲ以テ對抗シ得ルモノトス（大正六・四・二〇）

○聽訟期限ノ意義　聽訟期限ノ規定ハ訴權ヲ行使シ得ル者カ其訴權ヲ行使シ得ル一定ノ期間ヲ定メタルモノニシテ卽チ權利ノ侵害ヲ受ケタル者カ權利侵害者ニ對シ訴權ヲ行使シ得ヘキニ拘ハラス之ヲ行使セスシテ一定ノ期間ヲ徒過シタルトキハ權利侵害者ニ對スル訴權ヲ喪失セシムトノ規定ナリ故ニ聽訟期限ノ規定ハ權利ノ被侵害者ト侵害者トノ間ニ於ケル訴權行使ノ期間ニ關スルモノト謂フヘク權利ノ侵害ヲ受ケタル者アレハ其者ニ對シテハ侵害者以外ノ者ト雖モ總テ右權利侵害ノ行ハレタル時ヨリ起算シテ聽訟期限ノ規定ノ適用ヲ受クヘキモノト謂フヲ得ス（大正六・四・二〇）

卷	頁
四	一三一
四	一三一
一四	一
四	二六一
四	三一四
四	三一四

○聽訟期限ノ相對性　大典會通及刑法大全ニ所謂聽訟期限ノ規定ハ權利侵害者ト被侵害者間ニ於ケル訴權行使ノ期限ヲ定メ相對的ニ訴權ヲ消滅セシムル規定ニシテ絕對的ニ訴權ヲ喪失セシムル規定ニ非ス（大正一二・四・一〇）

○侵奪後數百年經過ト聽訟期限　大正二年二月頃ニ至リ當事者ノ一方カ他ノ一方ノ占有ヲ侵奪シタルニ對スル回復訴訟ニ於テハ數百年以前ナル壬辰年中ニ侵奪行爲アリテ其以後五年ヲ過クルニ依リテ五年ノ聽訟期限ヲ經過セリトシテ右訴ヲ排斥シ得ヘキモノニ非ス（大正六・七・一七）

○續田ノ意義　續田トハ舊韓國ニ於テ稅制不完全ナル時代專ラ徵稅ノ便宜ノ爲メニ田ノ品質ニ從ヒ等級ヲ立テタルモノノ一種ニ屬シ或ハ耕シ或ハ耕ササルコトアル田ヲ指稱スル爲メニ用ヰタルモノナレハ證人ノ證言中某字田ハ續田ナル旨ノ供述ニ所謂續田ノ意義モ亦反證ナキ限リ之ニ外ナラサルモノト認ムルヲ相當トス（大正七・一二・六）

○墳墓掘移ノ訴ト聽訟期限　墳墓掘移ノ訴ハ大典會通ニ所謂五年ノ聽訟期限ヲ經過セルトキハ出訴スルコトヲ得サルモノトス（昭和二・一・一八）

○聽訟期限ニ關スル規定ノ性質ト査定　聽訟期限ノ規定ハ實體上ノ權利ノ得喪ニ關スル規定ニ非スシテ訴權ノ消滅ニ關スル訴訟法上ノ規定ナルニ依リ墳墓掘移ノ訴ハ聽訟期限ノ經過ニ依リ許スヘキモノニ非スト解スルモ査定ト牴觸スルモノニ非ス（昭和二・一・一八）

徵　債

○不正行爲ニ因ル債權ト聽訟期限　私債一年ヲ過クレハ聽訟ヲ許サストノ制ハ大限小限ノ規定ノ爲メニ自ラ廢止セラレタルモノト解スヘク而シテ不正行爲ニ因ル債權ニハ其適用ナカリシモノトス（明治四三・三・二八）

○凡徵債勿論公私過什二者杖八十徒二年ノ意義ト其適用　大典會通戸典徵債條中凡徵債勿論公私過什二者杖

卷	頁
一〇	九七
四	七〇一
五	九四九
一四	一
一四	一
一	七三

八十徒二年トアルハ元本額ニ對スル契約上ノ年利ヲ十分ノ二即チ二割以下ノ利息ニ制限シタル意義ナルモ實際ニ適用ナカリシモノナリ（明治四三・一〇・七）　一　二一六

○具證私債ニ對スル聽訟期限ノ適用　大典會通戶典徵債條ニ凡負私債有具證筆文記者許徵過一年不告官者勿聽トアル規定ハ從來其適用ナシ（明治四四・七・一一）　一　三三一

○同　旨　大典會通ニ存セシ凡負私債有具證筆文記者許徵過一年不告官者勿聽ノ規定ハ刑法大全施行ノ直前ニ於テ行ハレタル法規ニアラス（大正六・九・二五）　四　七八一

卷之三　禮典　立後

○庶子アル場合ノ養子縁組ノ慣習　大典會通禮典立後條ニ嫡妻倶無子者告官立同宗支子爲後トアリ又其補文ニ私自立後者論罪云々トアルモ右規定ハ實際ニ行ハレス而シテ嫡子ナキ場合ニ庶子アルモ禮斜ヲ受ケシテ養子ヲ爲スニ妨ナキコトハ庶人タルト宗親國戚タルトヲ問ハス朝鮮一般ノ慣習ナリ（大正二・五・二〇）　三　三〇〇

卷之六　工典　雜令

○大君六十間云々ノ制ト其適用　大典會通工典雜令中大君六十間云々ノ制ハ發布ノ當時ヨリ實施セラレタルモノニアラス假令實施セラレタリトスルモ建築者ニ於テ該制限以上ノ家屋ノ所有權ヲ失フコトナシ（明治四四・九・三〇）　一　三八一

地稅令施行規則

○結數連名簿ノ所有名義抹消申告ヲ目的トスル訴訟ノ適否　郡守ハ地稅令施行規則ニ依リ證明官吏ノ通知ニ因ルニアラサレハ結數連名簿上ニ於ケル所有名義ヲ抹消スルコト能ハサルヲ以テ其抹消申告ヲ爲スヘキコトヲ請求スルハ不必要ノ行爲ヲ求ムルモノニシテ其請求ハ之ヲ棄却スヘキモノトス（大正四・一・二）　三　六

明治四十三年制令第三號（地稅等特別免除ニ關スル件）

○本令第一條第三號ト第三者ノ納入スヘキ欠逋金　明治四十三年朝鮮總督府制令第三號第一條第三號ニ依ル欠逋金納入義務ノ免除ハ第三者ノ納入スヘキ欠逋金ヲ包含ス（明治四四・六・一三）　一　二八四

電話規則

第十六條

○電話加入權ノ讓渡　所謂電話加入權ノ讓渡ハ加入者名義ノ變更ニ依リテ爲サルルモノナルカ故ニ當事者間ニ讓渡ノ合意成立スルモ加入者名義ノ變更ナキトキハ加入權ノ移轉ヲ認ムルヲ得ス然レトモ讓受人ハ讓渡ノ合意ニ因リテ讓渡人ニ對シ名義變更ノ手續履行請求權ヲ取得スヘク該請求權ハ一般ノ法則ニ遵ヒ讓渡ノ目的タリ得ルモノトス（昭和八・一〇・一〇）

手形條例

○本條例第三十五條ト於音ノ效力　手形條例第三十五條ハ手形條例頒布以前ニ係ル於音ヲ當然無效ニ歸セシメタルニアラスシテ之ヲ以テ實物ノ請求ヲ行フコトヲ得セシメタルモノナリ（隆熙三「明治四二」六・三）

○於音ノ讓渡性　於音ハ流通禁止ノ特約ナキトキハ振出人ノ承諾ナキモ受取人ニ於テ任意ニ之ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得ヘシ（隆熙三「明治四二」九・九）

○數人共同振出手形ノ效力　手形條例ニハ振出人ヲ一紙一人ニ限リタル規定ナキヲ以テ數人ノ振出人アル手形ハ手形トシテ有效ナリ（明治四四・一・二七）

卷	頁
二〇	三五五
一	一八
一	四〇
一	一七九

○共同振出人ト連帶義務　振出人數人アルトキハ其間ニ連帶義務ヲ發生ス（明治四四・一・二七）

○手形支撥處所ノ記載　支撥處所ト支撥地トハ地域ニ廣狹ノ差アルモ支撥處所トシテ何道何郡何ト記載アル以上ハ洞以下ヲ省略スルモ支撥處所ノ記載トシテ有效トス（明治四四・一・二七）

○手形債務ト利率　手形條例ニ依リテ發行シタル手形債務ニ付テハ其利率ハ利息規例ノ法定利率ニ依ルヘキヲ正當トス（明治四四・一・二七）

○日附ノ記載ナキ記名裏書ノ效力　記名裏書ニ付其裏書ノ年月日ヲ記載セサルトキハ手形條例上裏書讓渡ノ手形上ノ效力ヲ生セス（明治四四・七・二四）

○約束手形ト支撥處所ノ記載　約束手形ニ記載スヘキ支撥處所ハ手形中ニ支撥處所ト認ムヘキ記載アルヲ以テ足ル（明治四四・九・二九）

○約束手形ノ振出人ニ對スル請求ト手形呈示　約束手形ノ振出人ニ對シテハ支拂ヲ請求スル爲メニ手形ヲ呈示スルヲ要セス（明治四四・一〇・一三）

○本條例施行ト於音　於音ハ舊韓國光武十年十一月勅令第七十一號手形條例施行後ハ流通證券トシテ發行與授スルコトヲ得スト雖單ニ債務負擔ノ證左トシテ當事者間ニ有效ニ作成交付スルコトヲ得タル慣習アルモノトス（大正三・一二・一）

○本條例施行ト票ニ關スル慣習　光武十一年（明治三十九年）十一月舊韓國勅令第七十一號手形條例附則第三十五條ニヨリ於音ニ類似スル者ノ發行與授ヲ禁止シタル以後朝鮮ニ於テ票（金錢支拂ノ約束及債務者ノ署名捺印ノミアリ債權者ノ宛名ナキ證書）ハ引渡ニヨリ轉轉流通シ其取得者ハ其所持人タル一事ニヨリ債務者ニ對シ其支拂ヲ求メ得ヘシトスル慣習ハ廢止セラレタルモノトス（大正六・一二・二七）

卷	頁
一	一七九
一	一七九
一	一七九
一	二四一
一	二七三
一	二八六
二	五一七
四	一八五

朝鮮土地改良令

第四十七條

○土地改良ニ關スル債務ト競落人ニ對スル效力　組合員カ水利組合ニ對シテ負擔スル組合費、督促手數料、延滯金、滯納處分費等ノ債務ハ朝鮮土地改良令第四十七條ニ所謂土地改良ニ關スル義務ニ屬シ蒙利地カ公ノ競賣手續ニ依リ競賣セラレタル場合ニ於テハ水利組合カ其ノ有スル債權ニ付現實ニ配當ヲ受ケタルト否トヲ問ハス競落人タル新所有者ハ前主カ水利組合ニ對シ負擔セル土地改良ニ關スル債務ヲ承繼スルコトナキモノトス（昭和九・七・六）

○水利組合ノ滯納處分ト不當利得　競賣法ニ依ル競賣ニ因リ蒙利地ノ所有者トナリタル者ハ前主ノ水利組合ニ對スル組合費納入義務ヲ承繼スルコトナク同組合ヨリ其ノ義務アルモノトシテ滯納處分ヲ受ケタル爲止ムコトヲ得スシテ金員ノ支拂ヲ爲シタルトキハ不當利得ニ關スル民法ノ規定ニ依リ其ノ返還請求ヲ爲シ得ルモノトス（昭和一一・一・二一）

土地改良事業補助規則

第六條

○土地改良事業補助金請求權ノ性質　朝鮮總督カ土地改良事業補助規則ノ定ムル所ニ依リ土地改良事業ヲ行フ者ノ申請ニ付査定ノ上一定ノ補助金額ヲ定メ申請者ニ交付スヘキ旨指令書ヲ交付シタルトキハ國ト申請者トノ間ニ當該金額ノ給付ヲ目的トスル債權債務ノ關係成立スヘク該債權ハ一般ノ原則ニ從ヒ讓渡、差押、轉付ノ目的タリ得ルモノトス（昭和八・四・二一）

摘要	頁
○土地改良ニ關スル債務ト競落人ニ對スル效力	二六九
○水利組合ノ滯納處分ト不當利得	三一五
○土地改良事業補助金請求權ノ性質	一八五

土地調査令

○査定ト職權調査事項　査定又ハ裁決ノ確定シタル事實ハ當事者ヨリ之ヲ主張スルニアラサレハ司法裁判所ニ於テ其事實ノ有無ヲ調査スヘキ義務ナキモノトス（大正四・七・六）

○爭アル査定名義人ノ認定ト證據　査定名義人ノ何人ナリヤハ一應査定名義人トシテ表示セラレタル所ニヨリ之ヲ定ムヘキモノナリト雖査定名義人ノ何人ナリヤニ付爭アリ其表示ノミニ依リ之ヲ定ムルコトヲ得サル如キ場合ニハ他ノ證據ニ依リ土地調査局ニ於テ眞實其所有ト査定シタルモノノ何人ナリヤヲ認メ之ヲ以テ査定名義人ト爲スヘキモノトス（大正八・五・九）

○査定ト大典會通ニ所謂聽訟期限　聽訟期限ノ規定ハ實體上ノ權利ノ得喪ニ關スル規定ニ非スシテ訴權ノ消滅ニ關スル訴訟法上ノ規定ナルニ依リ墳墓掘移ノ訴ハ聽訟期限ノ經過ニ依リ許スヘキモノニ非スト解スルモ査定ト牴觸スルモノニ非ス（昭和二・一・八）

○査定後ニ於ケル土地申告前ノ所有者ノ調査　土地申告前ニ於ケル該土地ノ所有者カ果シテ甲者ナリシヤ否ヤノ事實ヲ調査スルコトハ査定ノ確定若クハ裁決アリタル後ト雖事實不能ノ事ニアラス故ニ當事者カ調査ノ上或土地ノ査定前其土地ノ所有者カ果シテ甲者ナルトキハ契約ヲ追認スヘシトノ意思表示ヲ爲シタルトキハ追認ニ不能ノ停止條件ヲ附シタルモノニアラスシテ過去ノ事實ヲ以テ停止條件ト爲シタルモノトス（大正六・三・三一）

第一條

○査定漏ノ土地ニ對スル權利歸屬ノ裁判　土地カ繼續シテ所有權ノ目的ヲナシタルヤ否ヤハ裁判所之ヲ判定スルヲ要シ査定ノ行ハルヘクシテ行ハレサリシ土地ニ付テハ裁判所ハ證據ニ依リ當事者ノ權利ノ歸屬ヲ判定スヘキモノ

摘要	頁
○査定ト職權調査事項	三四七
○爭アル査定名義人ノ認定ト證據	六三五五
○査定ト大典會通ニ所謂聽訟期限	一四一
○査定後ニ於ケル土地申告前ノ所有者ノ調査	四二五一
第一條	
○査定漏ノ土地ニ對スル權利歸屬ノ裁判	

トス（昭和七・五・二四）

第十條

○査定ノ所有權確定時期　土地調査令ニ依ル査定ハ調査申告當日ノ現在ニ付之ヲ爲シ査定當日ニ於ケル現在ニ付之ヲ爲スモノニ非ス（大正四・一二・二四）

○査定ノ所有權確定時期竝其ノ效力及確定判決前ニ申告シタリトノ主張ノ意義　土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ハ土地申告又ハ通知當日ノ現在ニ依リ所有權ヲ確定スルモノニシテ其效力タル認定的效力アルニ過キス査定名義人ニ所有權ヲ附與スル效力ナキモノナルヲ以テ確定判決前ニ土地申告ヲ爲シ其後査定確定シタリト主張スルハ確定判決以前ニ土地ノ所有者タリシコトヲ主張スルモノニシテ其判決後ニ新ニ所有權ヲ取得シタルコトヲ主張スルモノニアラス（大正七・七・九）

○査定ノ所有權確定時期及申告後ノ所有權移轉證明トノ牴觸　査定ハ申告日ニ於ケル土地所有權ヲ確定スルモノナレハ申告日以後其査定名義人タル者ヨリ所有權ヲ取得シタル者カ所有權ニ付證明ヲ受ケタルトキハ其證明ハ査定ト牴觸スルモノニ非ス（大正八・八・二六）

○査定ニ對スル不服申立ト所有權確定ノ時期　査定ニ對シ不服申立アリタルト否トヲ問ハス又不服申立人ノ所有ト裁決セラレタルト否トヲ問ハス申告當日ノ現在ニ依リ確定セラルルモノトス（大正一〇・三・二五）

○査定前ノ典當權ト査定ノ效力　土地所有者ニ於テ其土地ノ上ニ有效ニ典當權ヲ設定シ典當權設定ノ證明又ハ登記ヲ經タルトキハ爾後該土地ノ所有者ヨリ權利ノ移轉ヲ受ケ土地調査ノ結果査定名義人ト爲リタルモノアルトキト雖査定名義人ノ所有權ハ典當權設定者タル前所有者ノ權利ヲ承繼シタルモノニ過キスシテ査定ニ依リ前所有者ノ權利ト牴觸ヲ來スヘキモノニ非サルヲ以テ典當權ハ消滅スヘキ理由ナク典當權者ハ査定名義人ニ對シ之ヲ對抗シ得ヘキモノナレハ査定申告ノ日以後該典當權ノ實行ニ依リ其土地ノ競落人ト爲リタルモノハ完全ニ所有權ヲ取得スヘキモノトス（大正一〇・六・三）

巻	頁
一九	一一四
三	三六一
五	五八九
六	四八五
八	八九
八	二〇〇
六	六〇三
五	八七三
三	五八〇

第十一條

○査定ニ對スル不服申立ト所有權確認訴訟ノ竝立　大正元年八月制令第二號土地調査令ニハ舊韓國隆熙四年法律第七號土地調査法第八條第二項ノ如キ規定ナキヲ以テ同土地調査令施行後ニ在リテハ査定ニ對シ不服アル者ハ同調査令第十一條ニ依リ高等土地調査委員會ニ不服ヲ申立テ裁決ヲ求ムルト同時ニ其査定名義人ト爲リタル者ニ於テ其所有權ヲ爭ヒ若クハ同權利ニ對シ其他ノ侵害ヲ爲ストキハ司法裁判所ニ對シ所有權確認等ノ訴訟ヲ提起シ其保護ヲ求メ得ヘキモノトス（大正八・一一・二九）

第十五條

査定ノ效力

○査定ハ所有者ノミヲ確定ス　査定ハ所有者ノ所有權カ完全ナリヤ不完全ナリヤ即其土地ハ他人ノ權利ノ目的トナレルモノナリヤ否ヤノ如キコトヲ調査決定スルモノニ非ラス單ニ土地所有者ヲ確定スル效力アルニ過キス（大正七・一一・一九）

○査定ノ效力　土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ハ土地ノ所有者ノ權利ヲ確定スルモノナルヲ以テ同令第十六條ニ規定スル再審ノ申立ニ因リ變更セラレサル限リハ其査定名義者ハ從來所有權ヲ有シタルト否トニ拘ラス絶對ニ其土地ノ所有者ト確定セラルヘキモノトス（大正五・五・一六）

○同　旨　土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ハ一ノ行政處分ナレトモ其査定又ハ裁決確定シタルトキハ同令第十五條ニ依リ土地所有者ノ權利ハ之ニ因テ確定セラレ同令第十六條ニ規定スル再審ノ申立ニ因リ變更セラレサル限リハ其査定又

ハ裁決名義人ハ從來所有權ヲ有シタルト否トニ係ラス絕對ニ其土地ノ所有者ト確定セラルルモノトス（大正六・三・二七）

○査定ノ認定的效力ト其ノ確定時期　土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ハ土地申告又ハ通知當日ノ現在ニ依リ所有權ヲ確定スルモノニシテ其ノ效力タル認定的效力アルニ過キス査定名義人ニ所有權ヲ附與スル效力ナキモノナルヲ以テ確定判決前ニ土地申告ヲ爲シ其ノ後査定確定シタリト主張スルハ確定判決以前ニ土地ノ所有者タリシコトヲ主張スルモノニシテ其判決後ニ新ニ所有權ヲ取得シタルコトヲ主張スルモノニ非ス（大正七・七・九）

○合有土地ト一人又ハ數人名義ノ査定確定ノ效力及信託關係　一族一門ノ合有ニ係ル土地ニ付或一人又ハ數人ノ所有トシテ査定處分ノ確定シタルトキハ其ノ所有申告ヲ爲シタル者ノ心意如何ヲ問ハス絕對ニ査定名義者ノ所有ト確定シ其ノ前ニ存セシ合有權ハ當然消滅ニ歸スヘク唯合有權者ト査定名義人トノ間ニ其ノ所有權ニ付信託契約ノ締結シアリタル場合ニ限リ査定確定ト同時ニ其ノ内部關係ニ於ケル所有權カ信託者タル合有權者ニ復歸スルコトアルニ過キサルモノトス（昭和五・二・二八）

○相續財産ヲ第三者ノ所有トスル査定ノ效力　相續財産ニ屬スル土地カ僭稱相續人其ノ他ノ第三者ノ所有トスル査定ノ確定スルニ至リタルトキハ從前ノ所有者ハ其ノ權利ヲ喪失シ當該土地所有權ニ關スル限リ正當ノ相續人又ハ其ノ一般承繼人ニ於テ相續ヲ理由トシテ之ヲ回復スルニ由ナキモノトス（昭和六・一二・八）

○信託者名義ノ査定ト受託者ノ權利消滅　査定前眞ノ所有者ヨリ土地ノ信託譲渡ヲ爲シタルニ拘ラス信託者カ其信託譲渡契約ヲ解除スルコトナク恣ニ自己ノ所有トシテ土地申告ヲ爲シ査定確定セルトキハ信託者ノ査定ニ依ル所有權ト受託者ノ信託譲渡契約ニ依リ取得セル所有權トハ互ニ牴觸ヲ來シ爾後受託者ハ其所有權ヲ主張シ得サルニ至ルニヨリ斯ル場合ニハ査定ハ信託關係ニ影響ヲ及ホスモノトス（大正七・一一・一九）

卷	頁
四	二〇七
五	五八九
一七	六八
一八	二三三
五	八七三

○贈與者名義ノ査定ト受贈者ノ權利消滅　贈與契約ノ履行ニ因リ目的タル土地ノ所有權カ受贈者ニ移轉シタルモ未タ登記竝ニ引渡ノ義務ノ履行ヲ了セサル中途ニ於テ土地カ査定ニ依リ贈與者ノ所有ト確定シタルトキハ贈與者カ所有權ヲ取得スルト同時ニ受贈者ハ所有權ヲ喪失スルヲ以テ爾後新ナル物權變動ノ發生ト共ニ贈與契約ニ準據スヘキ特別ノ事情ナキ限リ受贈者ハ贈與契約ニ依リ登記竝ニ引渡ノ義務履行ヲ請求スル權利ナシ卽チ如上ノ義務ハ査定確定ノ日ニ受贈者ノ所有權ノ喪失スルト同時ニ自然消滅ニ歸スヘキモノトス（大正八・四・一五）

○賣主名義ノ査定ト買主ノ權利　賣主カ土地賣買契約成立後未タ所有權移轉ノ登記義務ヲ履行セサル前ニ於テ賣主名義ヲ以テ土地調査令ニ依ル所有申告ヲ爲シタルトキハ所有權ノ既ニ買主ニ移轉シタルニ拘ラス恣ニ冒認シテ所有申告ヲ爲シタリト解センヨリハ寧ロ賣主トシテ所有權移轉ノ登記義務ヲ履行スル便宜上之カ所有申告ヲ爲シタルニ外ナラサルト共ニ買主ニ於テモ其旨趣ヲ諒シ賣主名義ヲ以テ所有申告ヲ爲スコトヲ容認シタルモノト認ムルハ取引ノ通念ニ適スルモノト爲スヘク斯ル場合ニ在テハ其當事者間ニハ明示又ハ默示ノ合意ニ依リ一種ノ信託關係發生シ買主ハ内部關係ニ於テ所有權ヲ保留シ賣主ハ外部關係ニ於テ所有者トナリテ査定又ハ裁決ヲ受ケ賣主名義ニ所有權確定シタルトキハ之ト同時ニ別段ノ意思表示ヲ要セスシテ當然其所有權ハ買主ニ移轉シ賣主ハ賣買名義ニ因ル所有權移轉ノ登記ヲ爲スコトヲ約シタルモノト解スルヲ妥當トス（大正一〇・一一・八）

○査定ニ牴觸セル抵當權ノ消滅　土地調査令ニ依ル土地ノ査定ハ土地ノ所有者ヲ確定スルコトヲ目的トスルモノニシテ査定ニ依リ所有者ト確定セラレタルモノハ査定前所有權ヲ有セシト否トニ拘ラス絕對ニ其土地ノ所有者トナリ何人ニ對シテモ其所有權ヲ主張シ得ヘク反之査定前ニ適法ニ所有權ヲ取得シタルモノト雖査定ヲ受ケタルトキハ爾後其所有權ヲ主張スルコトヲ得サルモノニシテ斯ル所有權ハ査定ニ依リ消滅ニ歸シ從テ査定ニ牴觸セル所有權ニ基キ設

卷	頁
六	二一〇
八	二九〇

定セラレタル抵當權ノ如キモ其基本タル所有權ノ消滅スルト同時ニ是亦消滅スルモノトス（大正七・一一・一九）

○査定ニ牴觸セサル抵當權ノ效力　對抗スルコトヲ得ヘキ典當權（抵當權）ハ其對抗ヲ受クヘキ所有者カ土地調査令ニ基キ所有申告ヲ爲シテ査定名義人ト爲ルモ其査定名義人ノ權利ト牴觸シテ相容レサルニ非サルヲ以テ其對抗力ヲ失フコトナシ（大正八・五・六）

○査定ニ牴觸セサル典當權ニ基ク競落人名義ノ證明　土地調査令ニ基キ所有申告ヲ爲シテ査定名義人ト爲ルモ典當權ノ對抗ヲ受クヘキモノナルトキハ其當然ノ結果トシテ典當權ノ實行ニ因リ競落人ノ取得シタル所有權ノ證明ニ對シ大正三年五月制令第十六號ニ依リ査定名義人ノ權利ニ牴觸スルモノトシテ其證明ヲ抹消セシムルノ權利ナシ（大正八・五・六）

○典當土地ヲ讓受ケタル査定名義人ト典當權　土地ノ所有者ニ於テ其土地ノ上ニ有效ニ典當權ヲ設定シ典當權者ニ於テ典當權設定ノ證明又ハ登記ヲ經タルトキハ爾後該土地ノ所有權者ヨリ權利ノ移轉ヲ受ケ土地調査ノ結果査定名義人トナリタルモノアルトキト雖査定名義人ノ所有權ハ典當權設定者タル前所有者ノ權利ヲ承繼シタルモノニ過キスシテ査定ニ依リ前所有者ノ權利ト牴觸ヲ來スヘキモノニ非サルヲ以テ典當權ハ消滅スヘキ理ナク典當權者ハ査定名義人ニ對シ之ヲ對抗シ得ヘキモノトス（大正八・八・二六）

○査定前ノ典當權ト査定ノ效力　土地所有者ニ於テ其土地ノ上ニ有效ニ典當權ヲ設定シ典當權設定ノ證明又ハ登記ヲ經タルトキハ爾後該土地ノ所有者ヨリ權利ノ移轉ヲ受ケ土地調査ノ結果査定名義人ト爲リタルモノアルトキト雖査定名義人ノ所有權ハ典當權設定者タル前所有者ノ權利ヲ承繼シタルモノニ過キスシテ査定ニ依リ前所有者ノ權利ト牴觸ヲ來スヘキモノニ非サルヲ以テ典當權ハ消滅スヘキ理由ナク典當權者ハ査定名義人ニ對シ之ヲ對抗シ得ヘキモノナレハ査定申告ノ日以後該典當權ノ實行ニ依リ其土地ノ競落人ト爲リタルモノハ完全ニ所有權ヲ取得スヘキモノトス（大正一〇・六・三）

○申告日以後ニ於ケル査定ニ牴觸セサル典當權ノ實行ト競落人ノ所有權　土地所有者ニ於テ其土地ノ上ニ有效ニ典當權ヲ設定シ典當權設定ノ證明又ハ登記ヲ經タルトキハ爾後該土地ノ所有者ヨリ權利ノ移轉ヲ受ケ土地調査ノ結果査定名義人ト爲リタルモノアルトキト雖査定名義人ノ所有權ハ典當權設定者タル前所有者ノ權利ヲ承繼シタルモノニ過キスシテ査定ニ依リ前所有者ノ權利ト牴觸ヲ來スヘキモノニ非サルヲ以テ典當權ハ消滅スヘキ理由ナク典當權者ハ査定名義人ニ對シ之ヲ對抗シ得ヘキモノナレハ査定申告ノ日以後該典當權ノ實行ニ依リ其土地ノ競落人ト爲リタルモノハ完全ニ所有權ヲ取得スヘキモノトス（大正一〇・六・三）

○査定ト對抗力　土地調査令ニ基キ査定ノ確定又ハ裁決ニ依リテ土地所有者ノ權利カ確定シタルトキハ再審ノ申立ニ因リテ變更セラレサル限リハ其査定名義人ハ從來所有權ヲ有シタルト否トニ拘ラス絶對ニ其土地ノ所有者ト確定スヘキヲ以テ假令以前ニ爲サレタル賣買ニ付朝鮮民事令第十三條民法施行法第三十七條朝鮮不動產證明令第一條ノ規定ニ依リ朝鮮民事令施行後一年內ニ證明ヲ受ケサリシトスルモ査定名義人ハ何人ニ對シテモ査定ノ確定ニ依リテ確定シタル土地所有者タル權利ヲ主張スルヲ得ヘキモノトス（大正七・五・一七）

○査定ノ確定力　司法裁判所ニ於テハ係爭地ニ對シ曩ニ査定又ハ裁決ノ確定シタル事實ヲ認ムル以上ハ其後ニ於ケル所有權移轉變更等ノ事實ナキ限リ査定又ハ裁決名義人ノ爲ニ其所有權ヲ認メサルヘカラス（大正六・三・二七）

○査定ニ反スル所有者認定ノ違法　査定ニ依リ土地ノ所有者ナリト確定セラレタルモノアル事實ヲ認メナカラ他ノ一方ニ於テ其土地ニ付テハ他ニ眞正ナル所有者アル旨ノ認定ヲ爲スハ失當ナリ（大正七・三・二二）

○査定以前ノ事由ニ基ク査定ニ反スル主張　土地所有者ノ權利ニシテ査定若クハ裁決ニ因リテ確定シタル以上ハ其以後ニ生シタル事由ニ基キテ司法裁判所ニ出訴シタル場合ハ格別其以前ニ於ケル事由ニ基キテ同一土地ノ所有權

卷	頁
五	八七二
六	三二二
六	三二二
六	四九八
八	二〇〇
八	二〇〇
五	四二一
四	二〇八
五	二〇六

ニ關シ司法裁判所ニ對シ査定若クハ裁決ニ反スル判決ヲ求メントスル請求ハ認容スヘキモノニ非ス（大正六・七・九）

○虚僞ノ意思表示ニ因ル讓渡ニ基ク査定ノ效力ト民法第九十四條ノ適用　當事者カ虚僞ノ意思表示ニ依リ土地ヲ讓渡シ其讓受人（乙）ニ於テ査定ヲ受ケタルトキハ讓渡人（甲）カ査定後乙ヨリ更ニ其權利ノ移轉ヲ受ケタルコトヲ主張スルハ格別苟モ其主張ニシテ單ニ査定前ノ事由タル虚僞ノ意思表示ハ無效ナルカ故ニ同土地ノ所有權ハ依然自己ニ存スルモノナリトシ査定前其所有者タリシコトニ基キ請求ヲ爲スモノナルトキハ査定ト相容レサル權利ヲ主張シ請求ヲ爲スモノニ外ナラサレハ其請求ハ之ヲ排斥スヘキモノニシテ斯ル場合ニハ査定ノ結果民法第九十四條ノ規定ハ其適用ヲ排除セラルルモノトス（大正七・一二・一七）

○虚僞ノ讓渡ニ因ル査定後ノ處分ト民法第九十四條ノ適用　甲カ乙ニ對シ虚僞ノ意思表示ニ依リ土地ヲ讓渡シ乙自ラ其土地ニ付査定ヲ受ケ之ヲ第三者ニ讓渡シタルトキハ其第三者ハ甲乙間ニ該土地カ虚僞ノ意思表示ニ依リ讓渡セラレタルコトヲ知ルト否トニ拘ラス完全ニ所有權ヲ取得シ甲ハ第三者ニ對シ虚僞ノ意思表示ノ無效ナルコト及第三者カ惡意ナルコトヲ主張シ第三者ノ權利ヲ否定スルヲ得サレハ斯ル場合ニハ査定確定ノ結果民法第九十四條第二項ノ規定ハ其適用ヲ排除セラルルモノトス（大正七・一二・一七）

○査定ト時效中斷　査定ハ其ノ公告ノトキニ於テ時效中斷ノ效力ヲ生ス査定公告ノトキニ於テ未タ取得時效ノ完成セサル所有權ニ付テハ其ノ確定後新ニ全時效期間ヲ經過スルニ非レハ權利ヲ取得セス（昭和二・四・一六）

聯　**○共有財産タルコトヲ竝記シタル一人名義ノ査定ノ效力**　土地調査局ニ於テ土地ノ査定ヲ爲スニ際リ共有者ノ一人ノ氏名及宗中共有財産タルコトヲ竝記シ査定ヲ爲シタルトキハ共有者ノ一人ハ他ノ共有者全員トノ信託契約ニ因リ外部關係ニ於テ完全ナル所有權ヲ取得シタルモノトシ一人ノ所有ト査定シタルモノト解スヘク宗中共有財産タルコトノ記載ハ單ニ共有者ノ一人タル査定名義人ト他ノ共有者全員トノ内部關係ニ於テ共有者ノ所有タルコトヲ表明シタルニ過キスシテ固ヨリ土地調査令ニ依ル査定トシテ所有權ヲ確定スル效力ヲ有セサルモノト解セサルヘカラス（大正一三・一二・二六）

○反對　法人ニアラサル書院所屬ノ土地カ書院ニ奉祀セラルル先賢子孫ノ共有タル場合ニ其共有者協議ノ上共有者ノ一人若ハ共有者以外ノ者ヲ以テ申告名義人ト定メ土地ノ申告ヲ爲シ査定ヲ求ムルニ當リ當該官廳カ書院所屬財産タルコト及申告名義人ノ氏名ヲ竝記シ査定シタルトキハ名義人ハ共有者全員トノ信託契約ニヨリ外部關係ニ於テ完全ナル所有權ヲ取得セルモノトシ其所有ト査定シタルモノト解スヘキモノニシテ其書院所屬財産タルコトノ記載ハ固ヨリ土地調査令ニ依ル査定トシテ所有權確定スル效力ナク單ニ査定名義人ト共有者全員トノ内部關係ニ於テ共有者ノ所有タルコトヲ表明セルモノト解スルノ外ナキモノトス（大正七・四・一六）

○共有者カ共有者ノ一人ニ對シ土地ヲ信託讓渡スルコトナクシテ共有者團體ノ共有名義ヲ以テ申告ヲ爲スヘキコトヲ依頼シ同共有者ノ一人カ其依頼ニ基キ團體員ノ共有トシテ申告ヲ爲シ土地調査局ニ於テ共有者ノ一人ノ氏名及團體有財産タルコトヲ竝記シ査定ヲ爲シタルトキハ共有者全員カ協議ノ上其共有者ノ一人ヲ以テ申告名義人ト定メ土地ノ申告ヲ爲サシメ査定ヲ受ケタル場合ト異ナリ共有者ノ一人ト他ノ共有者全員トノ間ニハ信託關係ナク申告ハ團體員ノ共有トシテ爲サレタルヲ以テ土地調査局カ其共有者ノ一人及團體有財産タルコトヲ表示シ査定セルハ即同共有者ノ一人外幾人ノ共有トシテ査定セルト毫モ擇フ所ナキカ故ニ斯ル場合ニハ同共有者ノ一人及團體員タル他ノ共有者全員カ査定名義人ト爲リタルモノト解スルヲ相當トス（大正八・五・九）

○管理行爲ト査定　他人ノ爲メ管理行爲トシテ自己名義ニテ査定ヲ受ケタリトスルモ其所有權ハ査定ノ確定ニ依リ

査定名義人ノ所有ト確定スヘキモノトス（大正六・五・一八）　四巻四〇七頁

○事務管理ニ因ル査定名義人ノ義務ト返還契約ノ趣旨　民法第七百一條第六百四十六條ニ依レハ事務管理ニ於ケル管理者ハ本人ノ爲メニ自己ノ名ヲ以テ取得シタル權利ハ之ヲ本人ニ移轉スル義務アルヲ以テ他人ノ土地ニ付事務管理トシテ管理人カ自己ノ名義ヲ以テ所有申告ヲ爲シ自己名義ニ査定シタルトキハ其所有權ハ本人ノ爲メニ自己名義ヲ以テ取得シタル權利ハ之ヲ本人ニ移轉スル義務アルハ勿論ニシテ其申告ヲ爲シタル後右管理者及本人間ニ於テ何時ニテモ本人ニ所有名義移轉登記手續ヲ爲スヘク約シタルトキハ管理者カ事務管理上ノ權利移轉義務ヲ認メテ所有權移轉登記手續ヲ爲スヘキコトヲ約シタルモノニシテ本人ノ請求次第當然所有權ハ本人ニ移轉シ直ニ登記手續ヲ爲スヘキコトヲ約シタル趣旨ト解スルヲ妥當トスルカ故ニ斯ル契約ニハ債權契約ト物權契約ト併存スルモノト解スルハ當然ナリ（大正九・六・四）　四巻四二五頁

信託ト査定

○査定ノ爲ノ信託契約ト公序良俗　土地ノ所有者タリシ者カ一應其權利ヲ信託的ニ他人ニ讓渡シ其他人ヲシテ土地ノ査定ヲ受ケシメ該査定確定後更ニ其權利ノ移轉ヲ受クルコトヲ約スルハ何等公ノ秩序善良ノ風俗ニ反スルモノニアラス（大正六・三・三一）　四巻四二六頁

○受託者名義ノ所有申告ト其ノ性質　信託ニ因リ公簿上土地所有名義ヲ有スル者カ其ノ名ヲ以テ土地調査令ニ依ル所有申告ヲ爲シタル場合ニ於テハ一應受託者カ信託契約ノ趣旨ニ從ヒ信託ノ目的タル土地ノ所有權ヲ保存セムカ爲ニ之ヲ爲シタルモノト觀ルヲ相當トス（昭和四・一一・二九）　一六巻二六九頁

○受託者名義ノ査定ト當事者ノ意思　土地ノ信託讓渡ノ存スル場合ニ於テ受信者カ其讓渡ノ土地ニ付土地調査令ニ基キ自己名義ヲ以テ査定若クハ裁決ヲ受クルコトハ普通信託契約ノ約旨中ニ包含スルモノト解スルヲ以テ最モ當

事者ノ意思ニ適合シタルモノトス（大正七・一二・二八）　五巻一〇六〇頁

○受託者名義ノ査定ト内部關係ニ於ケル信託者ノ權利　關係ニ於テハ尚信託者ハ受信者ニ對シ其所有權ヲ主張シ得ヘキモノナレハ此ノ一事ヲ以テ直ニ信託者ノ所有權ヲ否定スヘキモノニアラス（大正七・一二・二八）　五巻一〇六〇頁

○同　旨　土地ノ信託讓渡ヲ受ケタル受信者カ其讓渡ノ土地ニ付土地調査令ニ基キ自己名義ヲ以テ査定若クハ裁決ヲ受クルコトハ普通信託契約ノ約旨中ニ包含セルモノト解スルヲ以テ最モ當事者ノ意思ニ適合シタルモノナルカ故ニ査定若クハ裁決カ受信者名義ニ確定スルモ内部關係ニ於テハ尚信託者ハ受信者ニ對シ其所有權ヲ主張シ得ヘキモノニシテ此一事ヲ以テ直ニ信託者ノ所有權ヲ否定スヘキモノニアラサルコトハ當院ノ判例（大正七年民上第三三九號同年十二月二十八日判決參照）トシテ示ス所ニシテ右判決ハ信託行爲タル賣渡抵當ニ付表示セル意見ナリト雖外部關係ニ於テ所有權移轉ノ效力ヲ生セシメサル他ノ信託讓渡ノ場合ニ於テモ其法理ヲ異ニスル理由ナシ（大正八・三・三一）　六巻一七八頁

○同　旨　土地所有權ニ關シテ信託契約ヲ締結シ之ニ基キ受信者カ土地調査令ニ依リテ所有申告ヲ爲シタルトキハ假令受信者名義ニ査定確定シタルトキト雖モ特約アラサル限リハ受信者ハ信託者ニ對シテ信託者ノ所有權ヲ否定スルコトヲ得サルモノトス（大正九・二・一三）　七巻四五頁

○受託者名義ノ査定ト所有權ノ歸屬　内部關係ニ於テ所有權カ依然トシテ信託者ニ存セリト爲スヘキ場合ニ在リテ受信者名義ニ査定確定シタルトキハ信託者カ受信者ニ對シ内部關係ニ於テ主張スルコトヲ得ヘキ所有權ハ其信託ノ關係上査定ノ確定スルト同時ニ別段ノ意思表示ヲ要スルコトナク當然受信者ヨリ信託者ニ移轉セラレタルモノト見ルヘキモノトス（大正九・二・一三）　七巻四五頁

○信託ニ因ル査定ト受託者死亡ニ因ル相續人ノ承繼　信託契約カ當事者ノ一方ノ死亡ニ因リ當然消滅スルコトナキヤ否ヤハ信託契約ノ内容ニ依リ決スヘキモノトス而シテ土地所有權ノ信託的讓渡ノ場合ニ於テ受信者カ信託契約ニ基キ自己名義ヲ以テ所有申告ヲ爲シ査定確定シタル後死亡スルモ信託契約ハ之ニ因リ當然消滅スルコトナク其相續人ニ於テ承繼スヘキモノトス（大正六・五・六）

合有ト査定

○合有土地ニ對スル査定ノ效力　一族一門ノ合有ニ係ル土地ニ付或一人又ハ數人ノ所有トシテ査定處分ノ確定シタルトキハ其ノ所有申告ヲ爲シタル者ノ心意如何ヲ問ハス絶對ニ査定名義者ノ所有ト確定シ其ノ前ニ存セシ合有權ハ當然消滅ニ歸スヘク唯合有權者ト査定名義人トノ間ニ其ノ所有權ニ付信託契約ノ締結シアリタル場合ニ限リ査定確定ト同時ニ其ノ内部關係ニ於ケル所有權カ信託者タル合有權者ニ復歸スルコトアルニ過キサルモノトス（昭和五・二・二八）

共有ト査定

○共有者一人名義ノ査定ノ效力　共有ノ土地ニ付共有者ノ一人カ他ノ共有者ノ爲ニスルコトヲ示サス擅ニ自己一人ノ名義ヲ以テ單獨所有トシテ土地ノ申告ヲ爲シ該申告ニ基キ査定又ハ裁決アリタルトキハ査定又ハ裁決ノ效力トシテ該土地ハ全然其名義人ノ所有ト確定セラルルモノトス（大正七・七・二三）

○共有土地ニ對スル單獨名義ノ査定　共有者カ共有者中ノ一人ヲシテ單獨名義ヲ以テ査定又ハ裁決ヲ受ケシメタルトキハ其共有者ハ右査定名義者ニ對シテハ共有權ヲ主張シ得ヘキモ第三者ニ對シテ共有權ヲ主張スルヲ得ス（大正五・五・一六）

○全員協議ニ因ル一人名義ノ査定ト他ノ共有者ノ權利　從來共有ノ土地ヲ共有者全員協議ノ上共有者ノ一人ヲシテ其單獨名義ヲ以テ査定又ハ裁決ヲ受ケシメタル場合ニ於テ査定名義者タラサル共有者ハ査定名義者ニ對シ該契約ニ基キ共有權ヲ主張シ得ヘキモノトス（大正七・一一・一二）

査定ト不法行爲

○虚僞ノ所有申告ト不法行爲　土地調査令ニ依リ所有申告ヲ爲スニ當リ申告者カ從來所有權ヲ有セサルニ拘ラス自己名義ノ査定ヲ得ンコトヲ企圖シテ虚僞ノ申告ヲ爲シ偶々申告者ノ所有ト査定セラルルコトアルモ之ヲ以テ直ニ不法行爲ニ因リ眞實ノ所有者ノ權利ヲ侵害シタルモノト爲スヘキニ非ス只査定カ申告者ノ不法行爲ニ原因スルコト判然タル場合ニ於テノミ査定ト不法行爲トノ間ニ因果關係ヲ惹起シ眞實ノ所有者ノ權利ヲ侵害シタリトシ其ノ不法行爲ニ因ル損害賠償ノ責任ヲ負フヘキモノト爲スヲ妥當トス（大正一二・八・二八）

聯○判決ニ牴觸スル査定名義人ノ權利讓渡ト不法行爲　土地所有權ノ確定ニ付土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ト司法裁判所ノ確定判決トカ互ニ牴觸シ相容レサル結果ヲ生シタル場合ニ於テ査定名義人又ハ裁決名義人及確定判決ノ勝訴者ハ各其ノ權利ヲ主張スルコトヲ得ヘシト雖其ノ兩者ノ間ニ在リテハ兩々對立シタル當時ノ狀態ヲ維持シ互ニ他方ノ權利ヲ侵害スルコトヲ得サルモノナルヲ以ラ査定名義人又ハ裁決名義人カ其ノ權利ヲ第三者ニ讓渡シ其ノ者ヲシテ當該土地ニ付完全ナル所有權ヲ取得セシメ確定判決ノ勝訴者ヲシテ全然其ノ權利ヲ喪失セシメタルトキハ査定名義人又ハ裁決名義人ハ確定判決ノ勝訴者ニ對シテ不法行爲ノ責ニ任スヘキモノトス（大正一四・一二・二六）

聯○判決ニ牴觸スル査定名義人ノ權利讓渡ニ因ル損害賠償額ノ算定　前項ノ不法行爲ニ因ル損害賠償額ハ確定

巻	頁
六	三四三
一七	六八
五	六五六
三	五八〇
四	八六二
五	八六三
一〇	二四九
一三	五一五

判決ノ勝訴者カ査定名義人又ハ裁決名義人トノ關係ニ於テ有セシ權利狀態ヲ基本トシ目的タル土地ノ上ニ現實ニ及ホセシ支配關係ノ範圍態樣ヲ參酌シテ之ヲ判定スヘキモノトス　（大正一四・一二・二六）

査定ト判決

○査定ト判決トノ竝立　土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ト司法裁判所ノ裁判トハ各自獨立シテ私權關係ヲ確定スルモノトス　（大正四・七・六）

○査定ト判決トノ效力ノ差異　土地調査令ニ基キ爲シタル査定ノ確定又ハ裁決モ司法裁判所ノ爲シタル判決モ共ニ土地所有者ノ權利ヲ査定スルモノナリ唯其效力範圍ニ廣狹ノ差アリ前者ハ一般的ニ羈束力ヲ生シ後者ハ當事者間ニ羈束力ヲ生ス　（大正六・三・二三）

○互ニ牴觸セル査定ト判決トノ效力　確定セル査定ト判決ト其結果ニ於テ互ニ牴觸シ相容レサルトキト雖二者其系統ヲ異ニスル國家機關ノ行爲ナルヲ以テ之ヲ調和スヘキ法規ノ存セサル現行法制ノ下ニ於テハ兩々相對シテ互ニ相侵スコトヲ得ス單ニ其行爲ノ前後ノミニ依リ二者ノ間其效力ニ優劣ヲ付スヘキモノニ非ス　（大正六・三・二三）

○同　旨　査定又ハ裁決カ判決ト其結果ニ於テ相牴觸スルコトアルモ此ノ兩者ハ全然其系統ヲ異ニセル國家機關ノ行爲ニ依リ各自獨立シテ其所有權ヲ確定シ兩々相對立シ互ニ相侵スコトヲ許ササルモノナレハ査定又ハ裁決ノ效力ハ確定判決ニ對シ何等影響ナキト同時ニ確定判決ノ效力モ亦査定又ハ裁決ニ對シ何等影響ヲ及ホスモノニアラス　（大正七・七・九）

○査定ニ牴觸スル判決ニ因ル保存登記ノ效力　甲カ嚮ニ土地申告ヲ爲シ其後同一土地ニ付乙ト所有權ヲ爭ヒ訴訟ノ結果甲ノ所有ニアラスシテ乙ノ所有ナリトスル判決確定シ爾後更ニ甲ノ申告ニ基キ甲ヲ同土地ノ所有者ナリトスル査定又ハ裁決アリタルトキハ乙ハ甲ニ對シ確定判決ニ基キ所有權ヲ主張スルコトヲ得ルト同時ニ甲モ亦其査定又ハ裁決ニ基キ所有權ヲ主張スルコトヲ得ヘク而シテ其間優劣ヲ付スヘカラサルモノナレハ乙カ同土地ニ所有權保存登記ヲ爲スモ其ハ其所有權ニ基ク正當ノ行爲ニシテ甲ハ之カ爲其所有權ヲ侵害セラルヘキモ自己ノ權利ヲ主張シ其抹消ヲ求ムルヲ得ス　（大正七・七・九）

聯

○牴觸セル査定及判決ニ基ク各權利行使ノ限界ト權利侵害　同一土地ノ所有權ニ關シ土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ト司法裁判所ノ確定判決トノ間ニ互ニ牴觸シテ相容ルルコト能ハサル結果ヲ生シタルトキト雖二者全然其系統ヲ異ニスル國家機關ノ行爲ニシテ各獨立シテ其效力ヲ有スルモノナルヲ以テ斯ル場合ニハ一方ヲシテ査定又ハ裁決ニ因リテ確定シタル權利ヲ主張スルヲ得セシムルト共ニ又他ノ一方ヲシテ判決ニ因リテ確定シタル權利ヲ主張スルヲ得セシメ其當事者間ニ在リテハ兩々相對立シタル當時ノ現在ノ狀態ヲ維持シ互ニ他ノ一方ノ權利ヲ侵害スルコトナクシテ其權利ヲ行使スルヲ得ヘキモノト爲スヲ妥當トス從テ若シ他ノ一方ノ現狀ニ變更ヲ加ヘ其權利ヲ侵害シテ目的物件ヲ奪取スルカ如キ行爲ヲ爲スニ於テハ侵害セラレタルモノハ侵奪者ヲ相手取リ之カ回復ヲ請求スルヲ得ヘキモノトス　（大正八・三・一四）

聯

○牴觸セル査定及判決ニ基ク各權利行使ノ限界　土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ニ因リ土地所有者ノ權利確定シタルトキハ再審ノ申立ニ依リ變更セラレサル限リハ絶對的效力ヲ生スルヲ以テ査定名義人又ハ裁決名義人ハ何人ニ對シテモ其權利ヲ主張スルコトヲ得ヘク又司法裁判所カ土地所有權ノ有無ニ關シテ判決ヲ爲シ其判決確定シタルトキハ其當事者間ニ在リテハ羈束力ヲ生スルニ依リ其一方ハ他ノ一方ニ對シ判決ニ因リテ定マリタル所有權ノ有無ニ付之ヲ主張スルヲ得ヘシ從テ若シ同一土地ノ所有權ニ關シ査定又ハ裁決ト確定判決トノ間ニ互ニ牴觸シテ相容ルルコト能ハサル結果ヲ生シタルトキト雖二者全然其系統ヲ異ニスル國家機關ノ行爲ニシテ各獨立シテ其效力ヲ有スルモノナレハ其行爲ノ前後ニ依リテ其效力ニ優劣ヲ付スヘカラサルハ勿論斯ル場合ニ於テ之ヲ調和スヘキ法規ノ存セサル現

行法制ノ下ニ在リテハ兩々相對立シテ其效力ヲ有スルモノト認メサルヘカラス故ニ斯ル場合ニ於テハ一方ヲシテ査定又ハ裁決ニ因リテ確定シタル權利ヲ主張スルヲ得セシムルト同時ニ又他ノ一方ヲシテ確定判決ニ因リテ確定シタル權利ヲ主張スルヲ得セシメ當事者間ニ在リテハ兩々相對立シタル當時ノ現在ノ狀態ヲ維持シ互ニ他ノ一方ノ權利ヲ侵害スルコトナクシテ其權利ヲ行使スルヲ得ヘキモノトナスヲ妥當トスルコトハ當院ノ判例トスル所ニシテ之ヲ變更スルノ理由アルヲ認メス（大正一〇・一二・二三）

聯

○牴觸セル判決又ハ査定名義人ノ特定承繼人ト確定判決ノ既判力　確定判決ノ勝訴者ハ査定名義人又ハ裁決名義人ヨリ其權利ヲ讓受ケタル第三者ニ對シテ既判力ヲ主張スルヲ得ス之ニ反シテ第三者ハ其讓受ニ因リ何人ニ對シテモ査定又ハ裁決ノ效力ヲ主張シ得ヘキヲ以テ第三者ハ右ノ確定判決ニ依リテハ何等ノ制限ヲ受クルコトナク其所有權ヲ主張スルヲ得ルモノト謂ハサルヲ得ス之ト同シク査定名義人又ハ裁決名義人カ確定判決ノ勝訴者ヨリ權利ノ讓渡ヲ受ケタル特定承繼人ト所有權ヲ爭フ場合ニ於テモ該特定承繼人ハ既判力ヲ主張スルヲ得サルヲ以テ査定名義人又ハ裁決名義人ハ完全ニ其所有權ヲ主張シ得ヘシ（大正一一・一〇・一三）

聯

○同　旨　甲乙間ニ於テ同一土地ノ所有權ニ付爭ヲ生シ一方ニハ訴訟ノ結果甲ノ所有ト確定スル旨ノ査定ヲ他方ニハ土地調査令ニ依ル審査ノ結果乙ノ所有ト確定スル旨ノ査定又ハ裁決トハ兩々相對立シ其效力ニ優劣ナキモノニシテ互ニ他ノ一方ノ權利ヲ侵害スルコトナクシテ其權利ヲ行使シ得ヘキモノナリトスルコトハ當院ノ判例トスル所ナリ是即査定又ハ裁決ハ其效力トシテ廣ク第三者ヲ羈束スルト同時ニ勝訴ノ確定判決ヲ得タル者ハ敗訴者ニ對シ既判力ヲ以テ對抗シ得ルカ爲メナリ然レトモ確定判決ノ既判力ハ訴訟當事者及其一般承繼人ノ間ニ限リ其效力ヲ及ホスヘキモノニシテ其以外ノ第三者ニ對シテハ纔令同一土地ヲ讓受ケ其權利ヲ承繼シタルモノト雖其效力ヲ及ホスヘキモノニ非サルヲ以テ確定判決ノ勝訴者タル甲ハ査定名義人又ハ裁決名義人タル乙ヨリ

土地所有權ノ讓渡ヲ受ケタル丙ニ對シ確定判決ニ基ク所有權ヲ主張シ丙ヲシテ其所有權ヲ認メシムルコトヲ得サルモノニシテ之ニ反シ丙ハ乙ノ所有權ヲ讓受ケタルコトヲ理由トシテ甲ニ對シ其所有權取得ヲ主張スルコトヲ得ルモノトス之ト同シク甲ヨリ所有權ノ讓渡ヲ受ケタル丁ハ既判力ヲ理由トシテ乙ニ對シ其所有權ヲ主張スルコトヲ得サルモノニシテ寧ロ乙ヨリ丁ニ對シ其所有權ヲ主張スルコトヲ得ルモノトス（大正一一・一一・一七）

聯

○判決ニ牴觸スル査定ニ基ク登記ノ效力　大正三年制令第十六號ニ依リ抹消セラルヘキ登記又ハ證明中ニハ確定判決ニ依リ爲サレタル所有權ノ登記又ハ證明ハ之ヲ包含セサルニ依リ甲カ乙トノ間ノ確定判決ニ基キ所有權移轉ノ證明ヲ受ケタル後土地調査令ニ依リ乙ノ所有ナリトノ査定又ハ裁決アリタリトスルモ其査定又ハ裁決ニ基キ前ニ甲爲シタル移轉證明ヲ目シテ査定又ハ裁決ニ牴觸スル證明ナリトシテ之カ抹消ヲ申請スルコトヲ得ス從テ乙ノ申請ニ基キ登記官吏カ右抹消ヲ爲シ更ニ乙名義ノ所有權保存登記ヲ爲シタルトキハ該抹消及保存登記ハ不法ナリト雖該土地ノ所有權カ乙ヨリ丙ニ讓渡セラレ所有權移轉登記ヲ經由シタルトキハ甲ハ最早既判力ヲ理由トシテ其所有權ヲ丙ニ對シ主張スルコトヲ得サルニ依リ丙ニ對シ其所有權移轉登記ノ抹消ヲ請求スルコトヲ得ス敍上ノ如ク丙ノ爲シタル所有權移轉登記ノ抹消ヲ求ムヘカラサル以上ハ其前ニ乙ノ爲シタル所有權保存登記ノミヲ分離シテ抹消スルコトヲ得サルニ依リ此抹消モ亦之ヲ求ムルコトヲ得サルモノトス（大正一一・一一・一七）

○反對　甲カ國ニ土地申告ヲ爲シ其後同一土地ニ付乙ト所有權ヲ爭ヒ訴訟ノ結果甲ノ所有ニアラスシテ乙ノ所有ナリトスル判決確定シ爾後吏ニ甲ノ申告ニ基キ甲ヲ同土地ノ所有者ナリトスル査定又ハ裁決アリタルトキハ乙ハ甲ニ對シ確定判決ニ基キ所有權ヲ主張スルコトヲ得ルト同時ニ甲モ亦其査定又ハ裁決ニ基キ所有權ヲ主張スルコトヲ得ヘク而シテ其間優劣ヲ付スヘカラサルモノナレハ乙カ同土地ニ所有權保存登記ヲ爲スモ其ハ其所有權ニ基ク正當ノ行爲ニシテ甲ハ之カ爲其所有權ヲ侵害セラルヘキモ自己ノ權利ヲ主張シ其抹消ヲ求ムルヲ得ス此ノ場合乙ハ土地ノ所有

者ナルヲ以テ任意之ヲ處分スルコトヲ得ヘク故ニ乙カ之ヲ丙ニ讓渡シタルトキハ丙ハ之ニ依リ完全ニ其所有權ヲ取得スルモノニシテ甲カ乙ノ特定承繼人タル丙ト所有權ヲ爭フ場合ニ於テモ甲ハ査定又ハ裁決アリタル事由ノミヲ以テ確定判決ヲ受ケタル乙ノ權利ヲ否定スルコトヲ得ス　（大正七・七・九）

○査定名義人ノ承繼人ト確定判決ノ既判力　舊法ノ下ニ於ケル確定判決モ新法施行後ニ在リテハ民事訴訟法第二百一條所定ノ既判力ヲ有スルヲ以テ裁決（又ハ査定）名義人ヨリ其ノ權利ヲ承繼シタル者カ同法條ノ所謂口頭辯論終結後ノ承繼人ニ該當スルトキハ敍上確定判決ノ既判力ノ對抗ヲ受ケ其ノ效果ニ服スヘキ關係ニ在ルモノナルカ故ニ大正三年制令第十六號ニ基キ該裁決（又ハ査定）ノ效果ヲ援用シテ同確定判決ニ因リ爲サレタル登記又ハ證明ノ抹消ヲ爲シ得サルモノトス　（昭和五・七・八）

第十六條

○再審ト査定ノ效力　土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ハ土地ノ所有者ノ權利ヲ確定スルモノナルヲ以テ同令第十六條ニ規定スル再審ノ申立ニ因リ變更セラレサル限リハ其査定名義者ハ從來所有權ヲ有シタルト否トニ拘ラス絶對ニ其土地ノ所有者ト確定セラルヘキモノトス　（大正五・五・一六）

○同　旨　土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ハ一ノ行政處分ナレトモ其査定又ハ裁決確定シタルトキハ同令第十五條ニ依リ土地所有者ノ權利ハ之ニ因テ確定セラレ同令第十六條ニ規定スル再審ノ申立ニ因リ變更セラレサル限リハ其査定又ハ裁決名義人ハ從來所有權ヲ有シタルト否トニ係ラス絶對ニ其土地ノ所有者ト確定セラルルモノトス　（大正六・三・二七）

○同　旨　土地調査令ニ基キ査定ノ確定又ハ裁決ニ依リテ土地所有者ノ權利カ確定シタルトキハ再審ノ申立ニ因リテ變更セラレサル限リハ其査定名義人ハ從來所有權ヲ有シタルト否トニ拘ラス絶對ニ其土地ノ所有者ト確定スヘキヲ

以テ假令以前ニ爲サレタル賣買ニ付朝鮮民事令第十三條民法施行法第三十七條朝鮮不動產證明令第一條ノ規定ニ依リ朝鮮民事令施行後一年內ニ證明ヲ受ケサリシトスルモ査定名義人ハ何人ニ對シテモ査定ノ確定ニ依リテ確定シタル土地所有者タル權利ヲ主張スルヲ得ヘキモノトス　（大正七・五・一七）

土地調査令ニ依リ査定又ハ裁決ヲ經タル土地ノ登記又ハ證明ニ關スル件

第一條

○大正三年制令第十六號第一條第三項ノ意義　大正三年五月制令第十六號土地調査令ニ依リ査定又ハ裁決ヲ經タル土地ノ登記又ハ證明ニ關スル件第一條第三項ノ規定ハ登記又ハ證明ヲ經タル所有權以外ノ權利中ニハ査定名義人自身ニ於テ設定セサルモ査定ニ依リ確定セラレタル所有權ト牴觸セサル權利ニ基キ設定セラレ査定名義人ト雖之ニ服從セサルヘカラサルモノアルヘキヲ以テ一應登記又ハ證明ヲ經タル所有權以外ノ權利者ノ權利ヲ尊重シ同規定ノ條件ヲ具備スルニアラサレハ之ヲ抹消スルヲ得ストスルモノニ過キス　（大正七・一一・一九）

○對抗力アル典當權ト査定　對抗スルコトヲ得ヘキ典當權「抵當權」ハ其對抗ヲ受クヘキ所有者カ土地調査令ニ基キ所有申告ヲ爲シテ査定名義人トナルモ其査定名義人ノ權利ト牴觸シテ相容レサルニ非サルヲ以テ其對抗力ヲ失フコトナシ　（大正八・五・六）

土地調査令ニ依リ査定又ハ裁決ヲ經タル土地ノ登記又ハ證明ニ關スル件　（第一條）　七八一

○證明ニ基ク典當權實行ト之カ競賣ノ效果　債權者カ債務者ノ所有トシテ現實ニ證明簿ニ證明シアル土地ニ對シ典當權ヲ實行スル爲メ競賣ノ申立ヲ爲スニハ其申立書ニ證明簿上ノ現所有者ヲ記載スルヲ以テ競賣法第二十四條第二項第一號ニ規定スル所有者ヲ記載スヘキ要件ヲ具備スルモノト爲スヘク從テ其競賣申立ニ基キ競賣手續ヲ完了シタルハ相當ナルヲ以テ其當時他ニ證明簿上ニ證明シアラサル所有者アリトスルモ右競賣ニ因ル競落ハ有效ニシテ競落人ハ競賣ノ目的物タル土地ニ付所有權ヲ取得シ典當權ハ競賣法第二條第二項ニ依リ消滅ニ歸スルモノトス　（大正八・五・六）

○典當權ノ對抗ヲ受クヘキ査定名義人ト競落證明抹消請求權ノ有無　土地調査令ニ基キ所有申告ヲ爲シテ査定名義人トナルモ典當權ノ對抗ヲ受クヘキモノナルトキハ其當然ノ結果トシテ典當權ノ實行ニ因リ競落人ノ取得シタル所有權ノ證明ニ對シ大正三年五月制令第十六號ニ依リ査定名義人ノ權利ニ牴觸スルモノトシテ其證明ヲ抹消セシムルノ權利ナシ　（大正八・五・六）

○査定申告後ノ所有權移轉證明ト査定ノ牴觸　査定ハ申告日ニ於ケル土地所有權ヲ確定スルモノナレハ申告日以後其査定名義人タル者ヨリ所有權ヲ取得シタル者カ所有權ニ付證明ヲ受ケタルトキハ其證明ハ査定ト牴觸スルモノニ非ス　（大正八・八・二六）

聯

○査定ニ牴觸セルモ確定判決ニ依ル登記ハ抹消スルヲ許サス　大正三年制令第十六號ニ依リ抹消セラルヘキ登記又ハ證明中ニハ査定又ハ裁決ニ依リ確定セラレタル所有權ト牴觸スルモ確定判決ニ因リテ其ノ效力ヲ保有セラタル所有權ノ登記又ハ證明ハ之ヲ包含セサルモノト解スルヲ相當トス　（大正一〇・一二・二三）

○同　旨　大正三年制令第十六號第一條ニ土地所有權カ土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ヲ經テ確定シタル場合ニ之ト牴觸スル登記又ハ證明ノ抹消申請ヲ許スコトヲ規定シタルハ單ニ査定又ハ裁決ノ效力ヲ確保スルノ趣旨ニ出テタルモノナレハ其抹消セラルヘキ登記又ハ證明カ査定又ハ裁決ノ效力ニ對抗スルヲ得スシテ之カ爲メニ排除セラルヘキモノタルヲ要シ確定判決ト査定又ハ裁決ト其結果ヲ異ニスルモ兩立シテ其效力互ニ相侵スヘカラサル場合ニハ該確定判決ニ基キ爲シタル登記ハ同條ニ所謂牴觸スル登記トシテ抹消スルヲ得ス　（大正一〇・二・三）

聯

○大正三年制令第十六號ト査定又ハ裁決ニ因リ得タル權利ノ讓受人ニ對スル既判力ノ效果　大正三年制令第十六號ニ依リ抹消セラルヘキ登記又ハ證明中ニハ確定判決ニ依リ爲サレタル所有權ノ登記又ハ證明ハ之ヲ包含セサルニ依リ甲カ乙トノ間ノ確定判決ニ基キ所有權移轉ノ證明ヲ受ケタル後土地調査令ニ依リ乙ノ所有ナリトノ査定又ハ裁決アリタリトスルモ其査定又ハ裁決ニ基キ前ニ甲ノ爲シタル移轉證明ヲ目シテ査定又ハ裁決ニ牴觸スル證明ナリトシテ之カ抹消ヲ申請スルコトヲ得ス從テ乙ノ申請ニ基キ登記官吏カ右抹消ヲ爲シ更ニ乙名義ニ所有權保存登記ヲ爲シタルトキハ該抹消及保存登記ハ不法ナリト雖該土地ノ所有權カ乙ヨリ丙ニ讓渡セラレ所有權移轉登記ヲ經由シタルトキハ甲ハ最早既判力ヲ理由トシテ其所有權ヲ丙ニ對シ主張スルコトヲ得サルニ依リ丙ニ對シ其所有權移轉登記ノ抹消ヲ請求スルコトヲ得ス敍上ノ如ク丙ノ爲シタル所有權移轉登記ノ抹消ヲ求ムヘカラサル以上ハ其前ニ乙ノ爲シタル所有權保存登記ノミヲ分離シテ抹消スルコトヲ得サルニ依リ此抹消モ亦之ヲ求ムルコトヲ得サルモノトス　（大正一一・一一・一七）

○受託者名義ノ査定ト信託者名義ノ登記　甲カ自己所有ノ土地ニ付所有權保存ノ證明又ハ登記ヲ經由シタル後乙ニ信託シテ土地調査令ニ依ル所有申告ヲ爲シタル結果乙名義ニ査定アリタルトキハ甲名義ノ證明又ハ登記ハ大正三年制令第十六號第一條ニ依リ右査定ニ牴觸スルモノトシテ當然抹消セラルヘキ運命ニ在ルモノトス從テ其ノ後甲カ乙ニ對スル信託ヲ解除シ其ノ所有權ヲ囘復シタリトスルモ曩ニ爲シタル證明又ハ登記ト同一視スルコトヲ得サルニ依リ更ニ乙ヨリ甲ニ對スル所有權移轉ノ證明又ハ登記ヲ受クルニ非サルヨリ甲ハ乙ニ對シ所有權ヲ主張スルコトヲ得ス

八	六	一四
八	六	四八五
八	六	五六三
九	六	三三
九	六	四七四

レハ其ノ所有權ヲ以テ査定名義人タル乙ヨリ其ノ所有權ヲ讓受ケタル第三者丙ニ對抗スルコトヲ得サルハ勿論甲ヨリ其ノ所有權ヲ讓受ケタル第三者丁モ亦丙ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス（大正一四・三・一〇）

○査定ニ牴觸スル登記抹消請求訴訟　林野ノ所有權カ土地調査令又ハ朝鮮林野調査令ニ依ル査定又ハ裁決ヲ經テ確定シタル場合ニ於テ之ト牴觸スル登記アルトキハ林野ノ所有者ハ大正三年制令第十六號第一條又ハ第十條ノ規定ニ依リ登記名義人ノ關與ヲ要セスシテ自ラ其ノ登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得ルモノナレハ之カ爲ニ登記名義人ニ對シ特ニ訴訟ヲ提起スル如キハ全ク無用ノコトニ屬シ之ニ付何等法律上ノ利益ヲ有セサルモノトス（大正一四・五・一五）

○裁決（又ハ査定）名義人ヨリ權利ヲ承繼シタル者ト確定判決ノ既判力　舊法ノ下ニ於ケル確定判決モ新法施行後ニ在リテハ民事訴訟法第二百一條所定ノ既判力ヲ有スルヲ以テ裁決（又ハ査定）名義人ヨリ其ノ權利ヲ承繼シタル者カ同法條ノ所謂口頭辯論終結後ノ承繼人ニ該當スルトキハ敗上確定判決ノ既判力ノ對抗ヲ受ケ其ノ效果ニ服スヘキ關係ニ在ルモノナルカ故ニ大正三年制令第十六號ニ基キ該裁決（又ハ査定）ノ效果ヲ援用シテ同確定判決ニ因リ爲サレタル登記又ハ證明ノ抹消ヲ爲シ得サルモノトス（昭和五・七・八）

○形式上査定ト牴觸スル證明ノ抹消ト其ノ回復　査定ト證明トカ形式上牴觸セルカ故ニ大正三年制令第十六號ニ依リ證明ヲ抹消シ査定名義人ノ所有權保存登記ヲ爲シタル場合ニ於テモ査定名義人ノ所有申告後査定前ニ所有權カ證明簿上ノ所有名義人ニ移轉シタルモノニシテ實體上査定ト證明トノ間ニ牴觸ナキトキハ其ノ保存登記ヲ抹消シ抹消セラレタル證明ノ回復ヲ請求シ得サルヘカラス（大正一五・三・一二）

○抹消セラレタル査定ト牴觸ナキ證明ノ回復登記ノ記載方法　之カ回復ハ朝鮮不動產登記令第八條ニ依リ登記簿ニ回復スヘキ抹消證明ヲ轉載シ回復登記ヲ爲スヘキモノトス（大正一五・三・一二）

巻　頁
一三　一九六
一七　一四六
一三　三一
一三　三一

土地臺帳規則

○土地臺帳名義書換請求訴訟　土地臺帳名義書換ノ請求ハ許容スヘキモノニ非ス（大正六・七・九）

○保存登記ノ抹消通知ト土地臺帳ノ整理　登記所カ所有權保存登記ヲ抹消シタルトキハ登記所ハ不動產登記法第十一條ノ趣旨ニ則リ之ヲ土地臺帳所管廳ニ通知スヘク其ノ通知ヲ受ケタル土地臺帳所管廳ハ土地臺帳規則第二條ノ趣旨ニ則リ土地臺帳ヲ整理スヘキモノトス（大正一〇・六・三）

朝鮮登錄稅令

○虛僞ノ登記原因ト本令違反　當事者間契約ノ內容タル法律行爲ヲ以テ登記原因ト爲サスシテ當事者ノ合意ニ基ク他ノ法律行爲ヲ以テ登記原因ト爲シタレハトテ朝鮮登錄稅令ノ規定ニ違反スルモノニ非ス又刑法第百五十七條ノ犯罪ヲ構成スルモノニモ非ス（大正七・三・五）

土地臺帳規則　四　六八五
朝鮮登錄稅令　八　三〇〇
五　一三七

渡船營業取締規則

○渡船營業權讓渡ノ效力　渡船營業ヲ爲スニ付官廳ノ許可ヲ受クルモ爲メニ渡船營業權ナル一ノ財產權ヲ生スルモノニアラサレハ渡船營業權ナルモノヲ以テ讓渡ノ目的ト爲スモ其讓渡ハ無效ナリ（大正四・六・八）

土地家屋證明規則

○典當證明ノ效力　土地家屋典當證明ハ契約書ニ基キ執行スルニ關シテ完全ノ效力ヲ有スルニ過キスシテ典當ノ要件ニアラス又第三者ニ對抗スル效力アルモノニアラス（隆熙三「明治四二」・一〇・二八）

○畓田賣買ノ成立ト證明　畓田賣買ハ土地家屋證明規則ニ依ル公證ノ有無ニ關セス各自ノ自由ナル意思表示ニ因リテ成立ス（明治四四・七・四）

○本規則ノ證明アル典當土地ト證明令ニ所謂既證明不動產　舊韓國土地家屋證明規則ニ依リ典當ノ證明ヲ經タルモノハ朝鮮不動產證明令第二十一條ニ所謂未證明ノ不動產ニ非スシテ既證明ノ不動產ナリトス（大正七・三・五）

○舊土地家屋證明規則ニ依ル典當證明ト所有權保存證明　舊證明規則ニ依リ既ニ典當證明ヲ經テ新證明令施行後ニ涉リテ存續スルモノニ對シ新證明令第四十條ヲ適用スルニ當リテハ舊證明規則ニ基キ典當證明ヲ經タル土地ニ對シ新證明令施行後自カラ所有權保存證明ヲモ包含スルモノト解スヘキモノトス（大正七・三・五）

○舊證明規則ニ基ク證明ト新證明簿ヘノ移記　舊證明規則ニ基キ典當證明ヲ經タル土地ニ對シ新證明令施行後更ニ證明ヲ爲スヘキ事由ノ生シタル場合ニハ新タニ保存證明ヲ爲スヘキモノニ非スシテ先ツ新證明令第四十五條ノ規定ニ從ヒ舊證明簿ヨリ新證明簿ニ移記ノ手續ヲ終了シタル後新證明事項ノ記入ヲ爲スヘキモノトス（大正七・三・五）

頁	卷
三一八七	
一四七	
一三二	
五一四九	

開國五百三年六月二十八日議案（奴婢ノ與ヲ革罷スルノ件）

（一公私奴婢之與一切革罷禁販賣人口事）

○人身賣買ノ禁止ト雇傭契約　舊韓國開國五百三年六月二十八日ノ「公私奴婢之與一切革罷禁販賣人口事」トノ議案ハ人身ヲ賣買シテ奴婢ト爲スコトヲ禁止シタルモノニシテ自由意思ヲ以テ普通ニ奉公人ト稱シ下男下女トシテ勞務ニ服スルノ契約ヲ爲スコトヲ禁止スルモノニアラス而シテ斯ノ如キ自由意思ニ出テタル契約ニ依ル奉公人ト雖之ヲ表示スルニ當リ奴ナル稱呼ヲ以テスルコト往々ニシテ之アリトス（大正七・一〇・一一）

頁	卷
五一四九	
五一四九	
五七七六	

農工銀行條例

○農工銀行カ締結シタル流典當契約ノ效力　農工銀行條例ニハ流典當契約ヲ締結スルコトヲ禁止シタル旨趣ヲ認ムヘキ規定ナキニ依リ農工銀行カ締結シタル流典當契約ハ有效ナリトス（大正八・一〇・二四）

破産法

第一編　實體規定

第四章　財團債權

第六十八條

○破産ノ宣告ト管理權ノ喪失　破産ノ宣告ハ夫自體親權者ニ對スル管理權喪失宣告ノ事由タルモノトス（昭和一〇・二・八）

巻	頁
六	五四二
三	三五

第六章　否認權

第七十一條

○債務辨濟ノ爲ニスル不動産ノ賣却處分ト否認權ノ目的　債務者カ履行期ニ在ル債務ノ辨濟資金ヲ得ムカ爲其ノ所有不動産ヲ相當代金ニテ賣却處分スルハ義務履行ニ必要ナル行爲ヲ爲シタルモノト謂フヘク因テ得タル代金ヲ以テ一部債權者ニ辨濟ヲ爲シタルコトカ債權者間ノ公平ヲ失スルニモセヨ當該債務者ノ行爲ハ破産法ニ於ケル否認權ノ目的トナルハ格別民法第四百二十四條ニ定ムル取消ノ目的ト爲ルヘキモノニ非ス（昭和六・一・二三）

第七十二條

○破産者ノ和解ト否認　係爭物カ破産財團ニ屬スヘキモノナルコトヲ確定シタル後ニ非サレハ無償行爲ト同視スヘキ和解トシテ破産法第七十二條第五號ヲ適用スヘキモノニ非ス有償行爲ト認ムヘキ和解ナルトキハ係爭物カ自己ノ所有ナルコトヲ破産者ニ於テ認識シタル場合ニ非サレハ詐害ノ意思アリト謂フヲ得ス（昭和八・二・二八）

**○再審ノ訴ノ繫屬中裁判外ニ於テ和解シ相手方ハ再審ノ訴ノ取下ニ依リ破産者ノ所有トシテ曩ノ判決ハ既判力ヲ有スト雖和解當時ノ係爭關係ヲ判斷スル妨トナルコトナシ（昭和八・二・二八）

巻	頁
一八	一二
二〇	一三五
二〇	一三五
三三	七七

第七章　取戻權

第八十七條

○取戻權ト第三者ニ對スル追及權　取戻權者ハ破産財團ニ對シテ主張スルコトナクシテ破産管財人ノ處分ノ相手方ニ對シ所有權ニ基キ追及シ得ヘキモノトス（昭和一〇・七・二三）

第二編　手續規定

第二章　破産宣告

○合名會社社員ノ責任　商法第六十三條ニ所謂會社財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ完濟スルコト能ハサルトキトハ會社ノ債務額カ其ノ財産ノ額ニ超過スル場合ヲ指稱スルモノニシテ苟モ斯ル場合ニ該當スル限リ債務超過ノ如何ヲ問フコトナク各社員ハ會社債務ノ全額ニ付辨濟ノ責ニ任スヘキモノトス　（昭和一〇・一二・二四）

第六章　破産財團ノ管理及換價

第百九十九條

○破産法第百九十九條ノ意義　破産者カ清算中ノ株式會社ナル場合ニ於テモ破産者ニ該當スル者ハ取締役ニシテ清算人ニ非ス

破産管財人カ訴ヲ提起スルニ當リ取締役ノ意見ヲ聽カサリシコトハ本案ノ判決ヲ爲ス妨トナルモノニ非ス　（昭和七・一二・一六）

第七章　破産債權ノ屆出及調査

第二百四十四條

○債務者ノ破産ニ因ル督促手續ノ中斷ト受繼　債務者カ支拂命令ノ送達ヲ受ケタル後破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ督促手續ハ破産法ニ依リテ受繼アル迄中斷ス

破産債權ハ支拂命令ノ既ニ發セラレタル後ト雖破産法ニ依リテ其ノ債權ノ屆出ヲ爲スコトヲ要シ督促手續受繼ハ債權調査期日ニ於テ破産債權者破産管財人若クハ破産者ノ異議ヲ述ヘタル時ニ限リ異議者ヲ相手方トシテ爲スヲ要スルモノニシテ必スシモ常ニ破産管財人ヨリ若クハ之ヲ相手方トシテ爲スヘキモノニ非ス　（昭和七・一・一九）

巻　頁
三　五八五
一九　二七〇
一九　一
一五　四〇

非訟事件手續法

第二十條

○親族會招集申請却下決定ニ對スル抗告人　親族會招集決定ヲ爲シタル裁判カ前決定ヲ取消シ申請ヲ却下スル裁判ヲ爲シタルトキハ此ノ裁判ハ非訟事件手續法第二十條第二項ニ所謂申立ヲ却下シタル裁判ニ該當スルニ依リ申立人ニ非サレハ之カ抗告ヲ爲スコトヲ得サルモノトス　（昭和三・二・二〇）

第二十一條

○親族會員選定決定取消ノ效力　親族會員選定決定ハ該決定アルト同時ニ執行力ヲ生シ後日其ノ裁判カ取消サルルニ至ルモ該決定ニ依リ選定セラレタル親族會員ノ既ニ爲シタル行爲ノ效力ニ何等ノ影響ナキモノトス

（昭和八・五・一二）

第九十四條

○家督相續人選定許可申請ト親族會ノ決議　民法第九百八十五條ニ依リ家督相續人選定ノ許可申請ヲ爲スニ付テハ親族會ノ決議ヲ要スルモノトス（昭和九・九・一八）

○同許可申請ト申請者　右許可申請ハ親族會ノ決議カ會員ノ過半數ヲ以テ爲サレタルトキハ其ノ決議ニ同意シタル會員ヨリ之ヲ爲シ得ヘキモノトス（昭和九・九・一八）

第九十五條

○家督相續人選定ノ親族會決議ノ瑕疵ト許可ニ對スル抗告事由　親族會ノ決議カ民法第九百五十一條ニ依リ取消サルヘキ瑕疵ノ存スルニ過キサルトキハ其ノ違法ハ許可ノ裁判ニ影響ナク從テ之ヲ以テ許可ニ對スル抗告事由ト爲スヲ得サルモノトス（昭和九・九・一八）

第百一條

○親族會員選定決定ニ對スル抗告事由　親族會員選定ノ決定ニ對シテハ親族會員タルコトヲ得サル者ノ選任ニ對シテノミ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘク其ノ他ノ理由ヲ以テ抗告ヲ爲スヲ得ス（昭和五・一〇・二一）

○親族會員選定決定ニ對スル抗告事由　親族會員ニ不正ノ行爲又ハ著シキ不行跡アリタル場合裁判所ニ之カ免黜ノ訴ヲ提起スルハ格別抗告ノ方法ニ依リテ之カ免黜ヲ爲スヲ得サルモノトス（昭和五・一〇・二一）

○親族會員選定決定取消ノ效力　親族會員選定決定ハ該決定アルト同時ニ執行力ヲ生シ後日其ノ裁判カ取消サルルニ至ルモ該決定ニ依リ選定セラレタル親族會員ノ既ニ爲シタル行爲ノ效力ニ何等ノ影響ナキモノトス（昭和八・五・一二）

卷	頁
二〇	二三一
二一	三二五
二一	三二五
二一	三二五
一七	二一〇
一七	二一〇
二〇	二三一

第百八十條

○合名會社變更登記申請ノ訴ノ相手方　非訟事件手續法第百八十條ノ登記ニ在リテモ申請人ハ會社ニシテ代表社員ニ非ス同條第一項ハ登記申請ニ關スル代表者ノ權限ニ付テノ特別規定ナリ故ニ同條所定ノ登記申請ヲ請求スル訴ノ相手方トシテハ合名會社ヲ被告トスヘキモノニ非ス（昭和八・六・六）

非訴訟事件手續法第百八十條所定ノ登記申請ヲ請求シ判決ヲ以テ意思表示ニ代ヘントスルニハ被告會社ハ代表社員ノ全員ニ依ツテ代表セラルルコトヲ要スルモノトス（昭和八・六・六）

朝鮮不動產登記令

○證明ト民法施行法第三十七條ノ適用　朝鮮不動產登記令又ハ朝鮮不動產證明令ニ於テ登記又ハ證明ノ規定ヲ設ケタル權利ニ付テハ民法施行法第三十七條ノ適用上證明ハ之ヲ登記ト同一ナリト解スヘキモノトス（大正六・二・二三）

○朝鮮民事令施行前ノ所有權ノ取得ト對抗要件　朝鮮民事令施行以前ニ不動產ノ所有權ヲ取得シタルモノハ朝鮮民事令施行後一年內ニ其所有權取得ノ證明（又ハ登記）ヲ受クルニ非ラサレハ民事令施行後一年ヲ經過シタルニ後ニ權利ヲ取得シタル第三者ニ對抗スルコトヲ得ス（大正六・六・一九）

二〇	二六四
二〇	二六四
四	一一五
四	五三二

附　則

第七條

○登記ト證明トノ差異　朝鮮不動產登記令第七條ノ趣旨タルヤ證明令ニ依ル證明ニ付スルニ登記ノ效力ヲ以テシタルニ過キスシテ之ヲ以テ登記證明ノ二者全然同一ニ看做スノ法意ナリト解スヘキモノニ非ス（大正六・一二・二八）

第八條

○移記ニ因ル登記ト移記以前ニ於ケル證明トノ關係　朝鮮不動產登記令第八條ニ依リ證明簿上ノ或不動產ニ關スル記載事項カ登記簿上ニ移記セラレタル場合ニ於テモ其內容ニ於テ同一ノ點アリト云フニ過キスシテ移記以前ニ於ケル證明ト移記以後ニ於ケル登記トハ其形式ヲ異ニスル別個ノ事物ニシテ同一ニ論スルヲ得サルモノトス（大正六・一二・二八）

○朝鮮不動產證明令ニ依リ爲シタル證明ト之レニ牴觸セル登記ノ效力　朝鮮不動產登記令施行前朝鮮不動產證明令ニ依リ爲シタル證明ハ朝鮮不動產登記令ニ依リ爲シタル登記ト看做サルヘキコト同登記令第七條ノ規定スル所ニシテ之ヲ登記簿ニ移記スル手續ハ同登記令第八條ノ規定スル所ナレハ證明ニ牴觸スル登記ハ同登記令第八條ノ二ニ規定スル假登記ノ方法ニ依ル外之ヲ許ササルモノニシテ縱令證明ニ係ル權利カ事實ニ符合セサル不適法ノモノナリトスルモ將又大正三年制令第十六號ニ所謂査定又ハ裁決ヲ經テ確定シタル所有權ニ牴觸スルモノトシテ抹消セラルヘキモノトスルモ其實質上ノ效力如何ニ拘ラス其未タ抹消セラレサル間ハ之ト牴觸スル本登記ハ朝鮮不動產登記令及其依據スル不動產登記法ノ解釋上常ニ之ヲ爲スコトヲ得サルモノトス（大正一〇・一一・一八）

○實體上査定ト牴觸ナキ證明ノ抹消ト其ノ回復　査定ト證明トカ形式上牴觸セルカ故ニ大正三年制令第十六號ニ依リ證明ヲ抹消シ査定名義人ノ所有權保存登記ヲ爲シタル場合ニ於テモ査定名義人ノ所有申告後査定前ニ所有權カ證明簿上ノ所有名義人ニ移轉シタルモノニシテ實體上査定ト證明トノ間牴觸ナキトキハ其ノ保存登記ヲ抹消シ抹消セラレタル證明ノ回復ヲ請求シ得サルヘカラス之カ回復ハ朝鮮不動產登記令第八條ニ依リ登記簿ニ回復スヘキ抹消證明ヲ轉載シ回復登記ヲ爲スヘキモノトス（大正一五・三・一二）

卷	頁
四	二二六
四	二二六
八	四三〇

不動產登記法

第一章　總　則

第一條

○重複保存證明又ハ登記ヲ基本トスル差押登記ノ效力　所有權保存ノ證明若クハ登記ヲ經タル不動產ニ對シ再ヒ所有權保存ノ證明若クハ登記ヲ經タル場合ニ在テハ後ノ保存ノ證明若クハ登記ハ當然無效ナルヲ以テ從テ之ニ基キ爲シタル假差押命令及競賣申立ノ記入ハ勿論競落ニ因ル所有權取得ノ證明若クハ登記モ亦無效ナリトス（大正四・一二・二四）

○重複證明ニ基ク爾後ノ移轉證明又ハ登記ノ效力　證明官吏ニシテ舊證明ノ存續スルコトヲ知ラスシテ同一

卷	頁
三	三六一
一三	三一

土地ニ付新ニ保存證明ヲ爲シタルトキハ其保存證明ノ無效ナルハ勿論之ニ基ク爾後ノ所有權移轉ノ證明又ハ登記モ總テ無效ナリ（大正七・三・五）

○契約解除ト抹消登記ノ原因　不動產登記法ニ於ケル登記ノ抹消ハ單ニ登記原因ノ無效又ハ取消ノ場合ノミニ限ラルルコトナク土地賣買契約ノ解除ニ因リ土地所有權移轉ノ登記ヲ原狀ニ復スル場合ニ於テモ亦之ヲ許スヘキモノトス（大正八・四・一五）

○登記スヘカラサル登記ノ存在ト其ノ效力　登記カ登記スヘカラサルモノナルトキト雖抹消セラルル迄ハ登記名義人ハ形式上其登記ノ利益ヲ有スルニ依リ登記若クハ證明ナクシテ其登記名義人ニ對抗スルコトヲ得サル取得者ハ之カ登記ノ抹消ヲ請求スルヲ得ス（大正八・四・二二）

○單獨登記名義ノ共有土地ト共有名義ノ登記方　甲乙共有ノ不動產ニ付甲ハ自己單獨名義ノ所有權ノ登記又ハ證明アルニ乘シ自己ノ單獨所有權ヲ主張スル場合ニ於テ乙カ登記簿上自己ノ共有權ヲ確定センカ爲メニハ不動產登記令ノ規定ニ從ヒ權利更正登記ノ手續ニ依リ甲乙ヲ共有者トシテ更正登記手續ヲ爲サシムル如キ一方法タルヲ失ハスト雖必スシモ此方法ニ依ルヲ要スルモノニ非ス乙ハ先ツ甲ヲシテ其所有權登記抹消ノ手續ヲ爲サシメ然ル後係爭地ニ關スル甲乙共有關係ノ登記手續ヲ求ムルノ擧ニ出ツルモ敢テ不法ナリト爲スヘキモノニ非ス（大正九・六・二二）

○賣買契約解除ト所有名義回復ノ登記手續　土地賣買契約ヲ解除シタル場合ニ於テ現ニ登記簿上ニ存スル所有權移轉登記ニ關シ之ヲ原狀ニ復セシムルカ爲メニハ必スシモ抹消登記ニ因リ現在ノ所有者名義ノ登記ヲ抹消シテ原所有者名義ノ登記ニ復セシムル方法ノミヲ以テ適法ト爲ササルヘカラサルモノニ非ス登記簿上ノ所有名義人ナル回復義務者ヲシテ更ニ回復權利者ニ對シ所有權移轉ノ登記手續ヲ爲サシメ之ニ因リテ原狀ニ復セシムルコトヲ得ヘキモノトス（大正一〇・二・八）

參　五　一四九
六　三三九
六　三六九
七　三七三
八　二四

○假處分命令ノ登記ト之ニ反スル處分行爲ノ效果　不動產ニ付債務者ノ處分行爲ヲ禁止スル假處分命令ノ登記アリタルトキハ爾後ニ於ケル該禁止ニ反スル處分行爲ハ假處分權利者ニ對シテ無效ナリ（大正一一・一・一七）

○移轉登記ト假處分權利者ニ對抗シ得サル處分行爲　處分行爲タル不動產物權ノ移轉ヲ第三者ニ對抗スルコトヲ得セシムル爲登記ヲ完成スルモノニ外ナラス如上ノ登記行爲ハ假處分ノ效力ニ對スル關係ニ於テハ處分行爲ト同一視スヘキモノニシテ其登記ハ假處分權利者ニ對シテハ無效ナリ（大正一一・一・一七）

○同　旨　不動產ニ付債務者ノ處分行爲ヲ禁止スル旨ノ假處分命令ノ登記アリタルトキハ爾後ニ於ケル該禁止ニ反スル處分行爲ハ假處分權利者ニ對シ無效ナリ而シテ不動產物權ノ得喪變更ハ之ヲ登記スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルニ依リ處分行爲タル不動產物件ノ移轉ヲ第三者ニ對抗スルコトヲ得セシムル爲登記ヲ爲スハ處分行爲ヲ完成スルモノニ外ナラス從テ斯ノ如キ登記行爲ハ假處分權利者ニ對スル關係ニ於テハ處分行爲ト看做スヘキモノナルカ故ニ該登記ハ假處分權利者ニ對シテハ無效ナリトス（大正一一・三・一三）

○受贈者カ贈與者ノ相續人ニ對スル未登記土地ノ登記請求ト登記手續　未登記ノ土地ヲ他人ニ贈與シタル者カ其所有權移轉登記ヲ爲スニ至ラスシテ死亡シタル場合ニ於テ(一)受贈者カ其所有權移轉登記ヲ受ケントスルニ當リ既ニ相續人カ相續ニ因リ其所有權ヲ承繼シタリトシ自己名義ノ所有權保存登記ヲ爲シ居ルトキハ受贈者ハ相續人ニ對シ其保存登記ノ抹消ヲ請求スヘキモノニ非スシテ却テ之ヲ尊重シ以テ直チニ所有權移轉登記手續ヲ爲スヘク請求スヘキモノトス(二)受贈者カ其所有權移轉登記ヲ受クルコトヲ要セサルモノトシ單ニ自己名義ノ所有權保存登記ヲ爲サントスルニ當リ既ニ相續人カ相續ニ因リ其所有權ヲ承繼シタリトシ自己名義ノ所有權保存登記ヲ爲シ居ルトキハ受贈者ハ相續人ニ對シ其保存登記ノ抹消ヲ請求シ其抹消セラレタル後相續人ニ對スル判決ニ因リ自己ノ所有權ヲ證シテ保

九　一
九　一
一〇　六〇

存登記ヲ申請スヘキモノトス

如上二ツノ方法中其何レヲ選擇スヘキヤハ固ヨリ受贈者ノ隨意ナレトモ(一)ノ方法ハ所有權移轉ノ關係ヲ登記簿上明白ニスルコトヲ得ルノミナラス其移轉ノ事實ニ付對抗力ヲ生スルヲ以テ受贈者ハ(二)ノ方法ニ依ルヨリモ(一)ノ方法ヲ採ルヲ通例トス

如上ノ場合ニ於テ受贈者ヨリ更ニ該土地ノ所有權ヲ取得シタル者カ受贈者ニ對シ其所有權移轉登記手續ヲ訴求シタル以上ハ其訴訟ニ於テ該取得者ヨリ相續人ニ對シテ爲シタル保存登記抹消ノ請求ハ之ヲ棄却セサルヘカラス　（大正一一・一一・八）

○中間省略登記ノ效力　甲者ヨリ乙者ニ乙者ヨリ丙者ニ所有權ヲ移轉シ何レモ登記ヲ經サル場合ニ當事者協議ノ上甲者ヨリ直接丙者ニ所有權移轉ノ登記ヲ爲スヲ妨ケス　（大正七・三・五）

○同　旨　數人カ順次ニ不動產ノ所有權ヲ移轉シ何レモ登記ヲ經サル場合ニ當事者協議上最初ノ讓渡人ヨリ直接ニ最後ノ讓受人ニ所有權移轉ノ登記ヲナスコトヲ得　（大正八・八・二六）

○同　旨　甲者ヨリ乙者ニ乙者ヨリ丙者ニ所有權ヲ移轉シ何レモ登記ヲ經サル場合ニ當事者合意上甲者ヨリ直接丙者ニ所有權移轉ノ登記ヲ爲スヲ妨ケス何トナレハ斯ル登記ハ新名義人カ所有權ヲ取得シタル事實ニ符合スルニ因リ之ヲ公示スル效用アリト爲スハ登記ノ目的ニ背反スル所ナケレハナリ　（大正一〇・五・一〇）

○同　旨　土地所有權カ甲ヨリ順次乙、丙ニ移轉シタル場合ニ當事者ニ於テ便宜中間ノ登記ヲ省略シ前所有者タル甲ヨリ直チニ丙ニ所有權移轉登記ヲ爲スモ其登記ハ有效ニシテ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルヲ得ヘシ　（大正一〇・六・三）

○同　旨　數人カ順次ニ不動產所有權ヲ移轉シ何レモ登記ヲ經サル場合ニ於テ當事者協議上最初ノ讓渡人ヨリ直接ニ最後ノ讓受人ニ所有權移轉ノ登記ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトス　（大正一一・二・三）

○同　旨　數人カ順次不動產ノ所有權ヲ移轉シ何レモ未タ登記ヲ經由セサル場合ニ於テ當事者協議ノ上最初ノ讓渡人ヨリ直接最後ノ讓受人ニ所有權移轉登記ヲ爲スヘキ旨ノ契約ヲ締結シタルトキ該契約ハ有效ナリトス蓋シ斯ル登記ハ新名義人カ所有權ヲ取得シタル事實ニ符合スルニ因リ之ヲ公示スル效用アリト爲スハ登記ノ目的ニ背反スル所ナケレハナリ　（大正一二・一・三〇）

○中間省略登記ト中間者ノ干與セサル登記ノ效力　土地所有權カ甲ヨリ順次乙、丙ニ移轉シタル場合ニ直接前主タル乙ノ干與ナク唯甲丙兩者間ノ協議ヲ以テ移轉登記ヲ爲スモ該登記ハ事實ニ吻合セサルヲ以テ無效ナリトス　（大正一〇・六・三）

○同　旨　數人ノ間ニ順次賣買アリタル場合ニ於テ當初ノ賣主ナル登記名義人ヨリ最後ノ買主ニ對シテ直接ニ所有權移轉ノ登記ヲ爲シ中間ニ於ケル移轉登記ヲ省略スルモ其登記ヲ以テ有效ト爲スハ其各賣買當事者全員カ合意ノ上之ヲ爲シタルトキニ限ル故ニ其合意ナクシテ爲シタル省略登記ハ之ヲ無效トスヘク從テ其合意ナキ場合ニ於テ當事者ノ一方ハ他ノ一方ニ對シテ省略登記ヲ强要スルコトヲ得サルモノトス　（大正一一・三・二四）

○同　旨　中間省略登記ヲ爲スヘキコトヲ約スルハ順次賣買ヲ爲シタル當事者間ニ順次其登記ヲ經由スルコトノ煩累ヲ避クル目的ニ出ツルモノナルヲ以テ最後ノ讓受人ハ先ツ中間省略登記ヲ請求スヘク若シ最初ノ讓渡人ニ於テ其義務ヲ履行セサルトキニ初メテ賣買ノ順序ニ從ヒ順次登記ヲ爲スヘキコトヲ請求シ得ヘキ約旨ト解スルハ當事者ノ意思ニ合致スルモノトス　（大正一二・一・三〇）

○中間登記省略ノ合意ノ趣旨　甲乙丙間ニ順次ニ不動產ノ所有權ヲ移轉シタル場合ニ之等累次ノ所有權移轉登記ニ付關係者協議ノ上甲ヨリ直接丙ニ其手續履行ヲ爲スヘキコトヲ契約シタルトキハ反對ノ意思アリシト認メ得サル限リ之ニ依リテ乙ハ當然其登記義務ヲ免ルル約旨ナリシト解スヘキニ非スシテ甲ノ丙ニ對スル登記手續ノ履行完了ヲ俟